

「マリヤとマルタを教えるキリスト」アントン・ドルフ画

救い主は「ある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた。」(ルカ10:38-39)

リアホナ

2 第178回半期総大会の概要

●土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 簡素に行わせなさい
十二使徒定員会 L・トム・ベリー長老
- 10 それゆえに、あなたがたは行って
中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド
- 13 あなたは十分に知っています
七十人会長会
ニール・L・アンダーセン長老
- 15 父がモルモン書を読んだおかげで
七十人 マルコス・A・アيدカイティス長老
- 17 聖餐^{せいさん}と聖餐
十二使徒定員会 ダリン・H・オクス長老
- 21 希望という無限の力
大管長第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

●土曜午後の部会

- 25 教会役員の支持
大管長第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
- 26 どんな出来事も愛しなさい
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
- 29 天使の務め
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
- 32 子供さえも理解できる
七十人 ジェラルド・コセー長老
- 34 道
七十人 ローレンス・E・コーブリッジ長老
- 37 シオンに来たれよ
十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老
- 41 常に祈りなさい
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老

●神権部会

- 44 神権を尊び、十分に活用する
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
- 47 人を保護する御腕^{みうで}
七十人会長会 ジェイ・E・ジェンセン長老
- 50 悪との戦いに勝つ
七十人 ジェームズ・J・ハムラ長老
- 53 自分の立っている場所で持ち上げる
大管長第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

57 おお、神の務めに出て立とうとする人々よ
大管長第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

60 学び、行い、人格を築く
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午前の部会

- 68 一つに結ばれた心
大管長第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
- 72 クリスマンらしい勇気
——弟子としての犠牲
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 75 神は御自身のすべての子供たちを愛し、
助けられる
管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリン ビショップ
- 78 徳に立ち返る
中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン
- 81 神の真理は出て立ち
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
- 84 人生の旅路に喜びを見いだす
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午後の部会

- 88 試し
十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長
- 92 日の栄えの結婚
十二使徒定員会
ラッセル・M・
ネルソン長老

95 福音を教えること——最も大切な召し
中央日曜学校会長会第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

98 我が家に戻る
七十人 エドアルド・ガバレット長老

100 証^{あかし}を積み重ねる
七十人 カルロス・A・ゴドイ長老

102 「あのね、大変だったんだよ」
十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老

106 また会う日まで
トーマス・S・モンソン大管長

●中央扶助協会集會

- 108 扶助協会の目的を達成する
中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック
- 112 聖なる神殿、神聖な聖約
中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド
- 114 さあ、喜びましょう
中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンプソン
- 117 幸福、わたしたちの受け継ぎ
大管長第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

64 末日聖徒イエス・キリスト
教会中央幹部

- 121 わたしたちの時代
のための教え
- 122 指導者の言葉
- 125 チャーチ・
ニュース
- 128 中央補助組織
会長会



第178回半期総大会の概要

2008年10月4日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——シェーン・M・ボーエン長老。閉会の祈り——クレグ・A・カードン長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、エド・トンプソン;オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、アンドリュー・アンズワース。「山の上に」『賛美歌』2番;「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番、ウィルバーク編曲、ヒンショー刊;“Oh, May My Soul Commune with Thee,” *Hymns*, 123番;「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番;「正しかれ」『賛美歌』151番、ウィルバーク編曲、未刊;“O Thou Kind and Gracious Father,” *Hymns*, 150番;「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番、ウィルバーク編曲、未刊

2008年10月4日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ジェームズ・M・ダン長老。閉会の祈り——ドン・R・クラーク長老。音楽——ユタ州ケイズビルおよびフルーツハイツの初等協会による聖歌隊;指揮——コリーン・パドック;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ;「神の子です」『子供の歌集』2-3, ウォルフオード/マーゲッツ編曲, 未刊;「神の光受け」『賛美歌』191番;「光の中進もう」『賛美歌』194番;「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99;「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ワトキンス編曲, 未刊

2008年10月4日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——デビッド・S・バクスター長老。閉会の祈り——キース・R・エドワーズ長老。音楽——プロボ宣教師訓練センターの神権者による聖歌隊;指揮——ダグラス・ブレンチリー;オルガニスト——クレア・クリスチャンセン;「われらは天の王に」『賛美歌』157番、ブース編曲、ニュービジョンミュージック刊;「われ主を愛して」『賛美歌』134番、デイリー編曲、ジャックマン刊;「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番;「天よりの声聞け」『賛美歌』166番、イブソン編曲, 未刊

2008年10月5日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——アール・C・ティンギー長老。閉会の祈り——ダニエル・L・ジョンソン長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク;オルガニスト——アンドリュー・アンズワース、クレア・クリスチャンセン;「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5

番;「主は生けりと知る」『賛美歌』75番;「われら天にまた会うとき」『賛美歌』179番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊;「喜べ、主を」『賛美歌』32番;「救い主の愛」『子供の歌集』42-43, カードン編曲, 未刊;「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番、ウィルバーク編曲, 未刊

2008年10月5日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ポール・B・パイパー長老。閉会の祈り——マーク・B・ナッシュ長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、エド・トンプソン;オルガニスト——ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ;「導きたまえよ」『賛美歌』41番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊;「信じ、進まん」K・ニューエル・デイリー、デイリー編曲、ジャックマン刊;「主のみ言葉は」『賛美歌』46番;“We Ever Pray for Thee,” *Hymns*, 23番、ウィルバーク編曲, 未刊

2008年9月27日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ジュリー・B・ベック。開会の祈り——アン・W・ファーンズワース。閉会の祈り——ジャン・P・ステープルス。音楽——ユタ州アルパインとハイランドステークの扶助協会の姉妹による聖歌隊;指揮——メリリー・ウェブ;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ;「来ませ、王の王」『賛美歌』29番、イブソン編曲, 未刊;「われ主を愛して」『賛美歌』134番、ウェブ編曲, 未刊;「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番;「喜べ、主を」『賛美歌』32番、カセン編曲, 未刊

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したものは、[http://](http://www.lds.org)

www.lds.org にアクセスすれば、多くの言語で聞くことができます。CDとDVDは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に入手できるようになります。

インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスできます。<http://www.lds.org> にアクセスし、「Gospel Library」「General Conference」の順にクリックし、言語を選択してください。(訳注——<http://www.ldschurch.jp>からもアクセスできます。「福音ライブラリ」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブラリ」「リアホナ」の順にクリックし、2008年11月号のアイコンをクリックしてください。)

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙の説明

表紙——写真/マシュー・ライアー

裏表紙——写真/クリスティーナ・スミス

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、レス・ニルソン、スコット・デービス、リンゼー・ブリッグズ、ロッド・ボーム、アルファ・スムート、コーディー・ベル、マーク・ウエインバーク。アルゼンチン——ハビエル・コロナーティ、マリア・ガブリエラ・イガルザバル。ブラジル——イスラエル・アントゥネス、ラウレニア・アデマール・フォチェット。イタリア——ジェイソン・コール、タイソン・ローリンズ。モルドバ——デーン・リグドン。ナイジェリア——ジョン・オル・ファオセケ。ウクライナ——マリナ・ルカチ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, デイター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファソン

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐: スーザン・プレット

編集スタッフ: クリステイ・バンス, リンダ・ステール・クーバー, デビッド・A・エドワーズ, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マデー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オテカーク, ジュディ・M・パーラー, ビビアン・ポルセン, ジョシュア・J・パーキー, キンバリー・リード, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サール, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワートル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェン・アン・ヒーターズ

デザイン/制作スタッフ: カリ・R・アロウ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンセン, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン, ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-0-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み/配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出ている言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。
アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリシヤ語, キリリス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, ス페인語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タルギ語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, ビスマラ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
「リアホナ」は、教会のホームページ——www.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

November 2008 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. [Canada Post Information: Publication Agreement #40017431]

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイドカイトス, マルコス・A, 15
アイリング, ヘンリー・B, ……25, 57, 68
アンダーセン, ニール・L, ……13
ウークトドルフ, デイター・F, ……21, 53, 117
オークス, ダリン・H, ……17
オールレッド, シルビア・H, ……10, 112
オズワルド, ウィリアム・D, ……95
ガバレット, エドアルド, ……98
クック, クエンティン・L, ……102
クリストファソン, D・トッド, ……37
コーブリッジ, ローレンス・E, 34
コセー, ジェラルド, ……32
ゴドイ, カルロス・A, ……100
ジェンセン, ジェイ・E, ……47
スコット, リチャード・G, ……44
ダルトン, イレイン・S, ……78
トンブソン, バーバラ, ……114
ネルソン, ラッセル・M, ……92
パッカー, ボイド・K, ……88
ハムラ, ジェームズ・J, ……50
バラード, M・ラッセル, ……81
ヘイルズ, ロバート・D, ……72
ベック, ジュリー・B, ……108
ベドナー, デビッド・A, ……41
ベリー, L・トム, ……7
ホランド, ジェフリー・R, ……29
マクマリン, キース・B, ……75
モンソン, トーマス・S, ……4, 60, 84, 106
ワースリン, ジョセフ・B, ……26

哀れみ ……117
安全 ……47
イエス・キリスト ……34, 75, 84, 106
一致 ……37, 68
祈り ……41, 50, 68, 75
永遠の命 ……106
教える ……95, 114
終わりの時 ……50
か改宗, 改心 ……10, 15
学習 ……60
家族 ……92, 108
活発化 ……98
家庭 ……98
神の御言葉 ……32
簡潔さ ……7, 32
感謝 ……41, 84
観点 ……26
義 ……102
希望 ……21
義務 ……60
教会の発展 ……4, 81
教会の歴史 ……81, 88
聖さ ……37
バラード, M・ラッセル, ……17
啓示 ……68, 88
結婚 ……44, 92
謙遜 ……68
幸福 ……26, 92, 117
子供 ……32
さ慈愛 ……21, 37
シオン ……37
従順 ……34, 50
熟考 ……95
祝福 ……75
昇栄 ……92
愛 ……95
愛国心 ……88
証 ……13, 15, 100
贖い ……47

神殿 ……4, 78, 92, 112
信頼 ……26
聖餐 ……17, 47
聖餐会 ……17, 47
聖文 ……95
聖約 ……112
聖霊 ……34, 50, 100
創造力 ……117
総大会 ……106
備え ……7
た断食 ……75
知恵の言葉 ……7
知識 ……32
償い ……26
慎み深さ ……7
弟子の務め ……72
天使 ……29, 57
伝道活動 ……10, 81, 98
徳 ……78
な慰め ……29, 102
は励まし ……53
福祉 ……75
負債 ……7
ふさわしさ ……44, 112
扶助協会 ……108, 114
変化 ……84
奉仕 ……53, 57, 75, 98, 106, 108, 114
ままじめ ……50
守り ……29, 78
召し ……53
模範 ……60, 72, 114
モルモン書 ……10, 15
や優しさ ……68
勇気 ……72
喜び ……68, 84
5落胆 ……117
楽観主義 ……102
靈感 ……72
わ笑い ……26

大会へようこそ

トーマス・S・モンソン大管長

天の御父はわたしたち一人一人の必要を心に留めておられます。この……大会で語られる言葉に耳を傾けることにより、わたしたちが主の御霊に満たされますように。



愛する兄弟姉妹の皆さん、前回の大会でお会いしてから6か月があつという間に過ぎ去ったように思います。あれから多くのことが起きましたが、主の業はとどまることなく前進してきました。

恵まれて、二人の顧問、そのほかの中央幹部に同行してもらい、3つの神殿を奉献しました。ブラジルのクリティーバ、パナマのパナマシティー、そしてアイダホ州のツインフォールズの神殿です。これで現在儀式が執行されている神殿は世界中で128となりました。

それぞれの神殿が奉献される前夜には、すばらしい文化的な催しが開かれました。ブラジルのクリティーバでは、神殿地区から集った4,330人の会員が、1,700

人の聖歌隊とともに、歌と踊り、映像による霊的なプログラムに出席しました。催しの始まる前は、風が強く、雨のおそれもありました。わたしは静かに祈りをささげました。わたしたち会員を楽しませるためにこれほど熱心に準備した人々、激しい雨や風に襲われたなら衣装も発表も台なしになってしまう人々を御覧になり、憐れんでくださるよう天の御父にお願いしたのです。御父はその祈りを聞き届けてくださいました。猛烈な雨が降ったのは、発表が終わってしばらくしてからのことでした。

ブラジルにおける教会の歴史が、歌やダンスで表現されました。特に感動的だったのは、ジェームズ・E・ファウスト長老とウィリアム・グラント・バンガーター長老の働きが描写されたときでした。二人は1940年にクリティーバで宣教師として奉仕しました。二人の写真が大きなスクリーンに映し出されると、観衆の中から割れんばかりの拍手が起こりました。すべてがすべて、すばらしい催しでした。

パナマのパナマシティーでは、神殿の奉献式の前夜、パナマ全土から集ったおよそ900人の青少年の発表を見ました。彼らは色鮮やかな民族衣装を身にまとい、踊りを披露し、家族や友情、信仰についてのメッセージを発表しました。彼らがこの発表のために1年間準備したことを知りました。はるかサンブラス諸島やパナマ北東部のチャンギノラ地区から来た人たちでした。サンブラスの青少年が首都ま



で旅をするのに、陸路、海路合わせて3日を要します。催しは壮大で、心を鼓舞されました。

つい最近、アイダホ州のツインフォールズで神殿が奉献されましたが、その準備として、地元の会員の手で巨大な舞台がアイダホ州ファイラーの会場に設置され、土の



競技場は芝生やそのほかの飾りでいっぱいになりました。新しい神殿から2マイル（約3キロ）先に位置する名所、ショーション・フォールズを表す大きな滝もありました。発表の夜、3,200人の若い男性と若い女性が青と白のリボンを振りながら入場して来ました。競技場は水がよどみなく

流れる大きな川のようにになりました。ヨハネによる福音書第4章10節と14節にある「生ける水」と名付けられた記念式典は、新しい神殿地区にある14のステークから集った青少年を一つにしました。歌と踊りを通じて、救い主からわき出る生ける水に頼ることでもたらされる霊的な命と、

地域の山からわき出る大小の川に頼ることでもたらされる物理的な命の両方が描写されました。この催しを見る特権にあずかったわたしたちは、心を高められ、啓発されました。

わたしはこのような催しを支持します。青少年を決して忘れることのできない何



ローマに神殿が建設されるというニュースに喜ぶイタリアの専任宣教師と教会員たち。

かに参画させてくれるからです。そこで生まれた友情や作られた思い出はいつまでも消え去ることがないでしょう。

来月、メキシコのメキシコシティー神殿が大掛かりな修復工事の後で再奉献されます。これからもそのほかの神殿が完成し、オープンハウスや奉獻式が行われる予定です。

さらに今朝、5つの新しい神殿の建設について発表できることをうれしく思います。それらの神殿のための用地はすでに購入済みで、数か月から数年のうちに以下の場所に建てられる予定です。カナダのアルバータ州カルガリー、アルゼンチンのコルドバ、グレート・カンザスシティー地域（訳注——ミズーリ州西部のカンザスシティーとカンザス州北東部のカンザスシティーは隣接しており、二つの都市は合わせてグレート・カンザスシティーまたは大カンザスシティーと呼ばれている）、ペンシルベニア州フィラデルフィア、そしてイタリアのローマです。

兄弟姉妹の皆さん、宣教師の軍勢は、世界中で働き、イエス・キリストの福音にある真理を求めている人々を探し続けています。178年前に組織されてからずっとそうであったように、この教会は着実に発展し続けています。

これまでの6か月間、わたしは恵まれて、様々な国々の指導者や政府の代表者と会う機会がありました。わたしが会った人々は教会に対して、また教会員に対して、

好意を持ってくださっています。また、協力的であり、いろいろと便宜を図ってくださいます。しかし、限られた形でしか影響を及ぼせない地域や、自由に福音を宣べ伝えられない地域も、世界中には依然として残っています。32年以上前のキンボール大管長と同様、わたしも皆さんに強くお願いします。これらの地域でも伝道に対する門戸が開かれ、福音の喜びを伝えられるように祈ってください。当時、キンボール大管長の呼びかけにこたえて祈っ

たことで、以前には教会を拒んでいた国々が次々に伝道への門戸を開くという奇跡を、わたしたちは目の当たりにしました。わたしたちが信仰をもって祈れば、同じことが起こるはずですよ。

さて、兄弟姉妹の皆さん、わたしたちがここへやって来たのは教えと靈感を受けるためです。皆さんの中には、教会に入ってまだ間もない人もいるでしょう。皆さんを歓迎します。問題、試練、落胆あるいは喪失感にさいなまれている人もいるでしょう。わたしたちは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。これからの2日間、多くのメッセージが伝えられるでしょう。確信をもって言えますが、これから皆さんにお話をする人たちは何を話すべきかをよく祈ったうえで決めています。天の助けと靈感を願い求めたことによって、靈感と導きを受けています。

天の御父はわたしたち一人一人の必要を心に留めておられます。この第178回半期総大会で語られる言葉に耳を傾けることにより、わたしたちが主の御霊に満たされますように。

この心からの祈りを、イエス・キリストの御名によりささげます、アーメン。



集会所の外に集まるアルゼンチン・コルドバの聖徒たち。

簡素に行わせなさい

十二使徒定員会

L・トム・ペリー長老

日々のストレスからの解放を願うとき、生活を簡素にする方法を熱心に求めることができますように。



人は年を重ねると、この試しの人生には一定のパターンがあることに気づきます。ワースリン長老とわたしはかなり年を重ねましたが、人生の良いときと悪いとき、山や谷、喜びの時期と悲しみの時期、豊かなときと貧しいときは周期的にやって来ます。予期せぬときに好ましくないことが起こると、ストレスや不安を感じることがあります。死すべきこの世における課題の一つは、生活上のストレスや苦勞に負けないこと、つまり人生の様々な時期を、前向きに、楽観的な姿勢を失うことなく堪え忍ぶことです。困難や問題に遭ったときは、ロバート・ブラウニングの希望にあふれた言葉を心に刻み込むとよいでしょう。「最善はこれからやって来るのだ。」(“Rabbi Ben Ezra,” *The Harvard Classics*, チャールズ・W・エリオット編, 全50巻[1909-1910年], 第42巻, 1003で引用) 人生のすべての苦難

や嵐を、あらかじめ知ることはできません。間近に迫っているものですら分からないのです。しかし、信仰と希望を抱く者であるわたしたちは、イエス・キリストの福音が真実であり、「最善はこれからやって来る」ことを一点の疑いもなく知っています。

わたしの人生でも、特に大きなストレスを感じた時期がありました。仕事の問題を抱えていたとき、妻が命にかかわる病に冒されていると診断されたのです。わたしも家族も、押し寄せる逆境に押しつぶされそうに感じた時期でした。嵐のような日々のストレスと不安のみ込まれそうになったとき、妻とわたしは、苦しみを和らげる方法を見つけました。

わたしたちは、家から数マイル(1マイルは約1.6キロ)離れたある場所までドライブをしました。一時的に悩みを忘れて気持ちを落ち着かせ、話し合い、励まし合うためです。行き先は、ウォールデンポンドという、木々に囲まれた小さな美しい池でした。妻が元気なときは池の周りを散歩しました。歩くのが大変なときは車の中で話し合いました。わたしたちにとって、ここは一休みし、瞑想し、癒されるための特別な場所となりました。その理由の一つは、ウォールデンポンドの歴史にあるのかもしれませんが。ウォールデンポンドは、ヘンリー・デビッド・ソローが世の喧騒を避けて何年かを過ごした場所なのです。だからこそ、わたしたちはこの場所で、簡素な生き方ができるという大きな希望を持ち、ひどく複雑で忙しい生活から逃れて、気分を一新することができました。

1845年3月、人生とは何かを見極めよう

とウォールデンポンドのほとりに移って来たソローは、ここで2年間を過ごしました。鉄道員から購入した粗末な小屋を取り壊して材木を作り、さらに森から材木を切り出すと、親友のラルフ・ワルド・エマーソンの所有する土地の一面に自分の小屋を建てました。細かく収支を記録し、わずか28ドル12セントで家と自由を手に入れたと記しています。簡素な生活を続けるため、庭を作ってエンドウ豆、ジャガイモ、トウモロコシ、豆類、カブを植えました。そして、生活必需品を買うためのわずかな利益を得るため、2.5エーカー(約1ヘクタール)の豆畑を作りました。利益は確かにわずかですが、8ドル71セントでした。

ソローは時間をほとんど気にせず暮らしました。こぢんまりとした小屋には時計もカレンダーもありません。付近に育つ植物や生息する鳥、動物など、自然の美しさと思議を研究し、執筆する日々でした。しかしこの世から完全に隔絶していたわけではありません。コンコードの町を頻繁に訪れ、人々を自宅に招いて、会話を通して啓発し合っていました。2年が過ぎると、ソローはためらいもなく小屋を後にします。簡素な暮らしのもたらす霊的な恵みを体験することが彼の目的であり、そのために十分な時間は過ぎたと判断したからです。またソローは、人生の新たな経験が行く手に広がっており、一步を踏み出し、新たな探検に出る時が来たと感じていたのです。

ソローはウォールデンポンドでの経験から、人がほんとうに必要なとするのは、食物、衣服、家、燃料の4つのみであると結論づけました。生きていくうえで基本として必要な、これらの4つの事柄の一つ一つについて、また、簡素な生き方のもたらす霊的な恵みについて詳しく話しましょう。

第1の必要は食物です。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちには神聖な知識があります。体と霊の関係について明らかにされた真理です。教義と聖約第88章15節には、「霊と体が人を成す」と書かれています。わたしたちを肉体的にも霊的にも祝福するため、主はまた健康の律法を与えて、どの食物と物質



が体のためになるのか、またならないのかを明らかにされました。この教えには、教義と聖約第89章にある約束が伴います。

「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。

また、知恵と、知識の大いなる宝、すな

わち隠された宝さえ見いだすであろう。

また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。

また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」(教義と聖約89:18-21)



知恵の言葉について、小冊子『若人の強さのために』以上に優れた勧告はありません。

「主はあなたの体を大切に扱うよう命じられました。そうするためには教義と聖約第89章にある知恵の言葉を守らなければなりません。栄養のある食物を取り、定期的に運動し、睡眠を十分に取ってください。これらのことをすべて行うなら、有害な常習癖を避け自制心を維持することができます。健康な体、機敏な精神、聖霊の導きなどの祝福も得られるでしょう。……

麻薬、薬物、そのほか感覚を刺激したり、興奮状態を招いたりする危険な行為は、あなたの肉体、心、霊の健康を損なう恐れがあります。そのようなものの中には、違法な薬物、処方薬や市販薬の乱用、日用製品の薬剤も含まれます。」(『若人の強さのために』36-37)

わたしたちは、死すべき肉体に害を与えることを望みません。なぜなら、肉体は神からの賜物であり、不死の体と霊が再結合することは、天の御父の偉大な幸福の計画の一部だからです。

第2の基本的な必要は衣服です。 霊的な祝福をもたらす簡素な生活を送るには、質素で慎みのある衣服を身に着ける



必要があります。服装や身だしなみはわたしたちについてのメッセージを人々に伝え、周囲の人々の間で自分がどのような行いをするかにも影響を与えます。慎重な服装をするなら、御霊がとどまり、盾となつてわたしたちを守ってくれるでしょう。

世の中で流行している女性のファッションは、常に極端なスタイルを助長する傾向があります。最新のスタイルを求めるファッションデザイナーの多くは、1着分の生地で2着か3着を作ろうとしているようです。たいていの場合、そうしたデザイナーたちは、女性の衣服の上半分から生地を減らしすぎており、下半分からも減らしすぎています。時には、おなかの周りの生地も節約しています。男性のファッションも極端なスタイルを取り入れています。そうした服装は、わたしの時代ではぞんざいで不適切だと言われていました。だらしのない服装は、ほとんどの場合、だらしのない態度につながるとわたしは考えています。

皆さんの多くは、間違っただけを集めるために、服装や身だしなみで目立とうとしすぎています。主は、そうした注目を正しいとはされません。モルモン書にある命の木の物語で、木の実を食べた人々をあざけり笑った人々の「衣服の装いは、非常に

華やか」でした。大きく広々とした建物の中で「ファッションばかりを気にする」嘲笑のため、多くの人々が恥ずかしい思いをし、「禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった」ことを考えると、その深刻さを実感することができます(1ニューファイ8:27-28)。

N・エルドン・タナー管長は、かつてこのように警告しました。「慎重な服装は心と思いの表れであり、自分と隣人、そして人類の創造主を敬う気持ちから生まれます。慎みは、謙遜さ、好ましき、礼儀正しさの表れです。両親と教師、青少年はこれらの原則に従い、聖なる御霊の導くままに服装と身なりと外見に関する問題について具体的に話し合い、選択の自由を使って責任を引き受け、正義を選ぶようにしてください。」(Friend to Friend, Friend, 1971年6月号, 2)

ソローの第3の必要、すなわち家について話しましょう。現在アメリカを襲っている住宅市場の危機について、新聞も大きく採り上げています。覚えているかぎり、わたしたちはほとんどすべての総大会で、収入の範囲内で生活するよう勧告されました。お向かいの大きな家でなく、自分の収入に見合った家を選ぶべきです。

ヒーバー・J・グラント大管長はかつてこのように語りました。「思い出せる限りの記憶をたどると、ブリガム・ヤングの時代から現在に至るまで、多くの人が壇上から、……負債に陥ることのないように強く勧告してきました。今日のすべての問題の大半は、この勧告に従わなかったために起きていると、わたしは考えます。」(Conference Report, 1921年10月, 3)

簡素な暮らしを送るうえで、より役立つ方法の一つは、これまで繰り返し受けてきた勧告に従うことです。それは収入の範囲内で生活し、負債を避け、もしもの時に備えて貯金をすることです。節約、勤勉、節約、つましさが身に付くよう訓練し、それを習慣として維持するべきです。自己を管理できる家族は、利子を払うのではなく、手に入れています。

ソローが最後に挙げた必要は燃料です。価格高騰、限られた供給源、供給者への危険で予測不可能な依存、新しい持続可能なエネルギー源の必要性など、燃料やエネルギーの問題が大きな話題となっています。これら複雑な問題についての議論は政府の指導者と産業界にお任せします。ここで話したいのは、霊の燃料のことで、

主は素晴らしい計画をお与えになり、

御自身のみもとに帰るための道を示されました。しかし、この世の旅路を終えるには霊の燃料が必要です。到着した花婿を迎えるための油を十分に蓄えていた5人の思慮深いおとめを見習いましょう(マタイ25:6-10参照)。霊の油を十分に蓄えておくには何が必要でしょうか。神の永遠の計画を知り、計画の中での自分の役割を知らなければなりません。自分の思いよりも主の御心を優先しながら義になった生活を送ることで、わたしたちは約束された祝福を手にするのです。

ウィリアム・R・ブラッドフォード長老はこの壇上から次のように教えました。「正義はきわめて単純なものです。わたしたちは人生で直面するあらゆる状況において、正しい道か間違っただの道のうちいずれの道に進むかを選択しなければなりません。正しい道を選んで行動するならば、わたしたちは天の力をもたらす正義の原則により守られます。しかし、間違っただを選び、その選択に従って行動するなら、そのような天の約束や力は失われ、わたしたちは一人取り残され、最終的には失敗するのです。」(『正義』『リアホナ』2000年1月号, 102)

この世を去る直前、神と和解することができたかと尋ねられたソローは、「わたしには神と言い争った記憶がありません」と答えました。(Viva la Repartee, マーデー・グロス編(2005年), 181で引用)

日々のストレスからの解放を願うとき、生活を簡素にする方法を熱心に求めることができますように。偉大な幸福の計画の中で主が示された、靈感あふれる勧告と指示に従えますように。聖霊を伴侶とするふさわしさを身に付け、この世の旅路を進むに当たって御霊の導きを受けられますように。天の御父のみもとに戻って生活するという、この試しの世における究極の目的を達成するために自分自身を備えられますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

それゆえに、 あなたがたは行って

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

わたしたちは皆、伝道活動に参加することができます。これは主の業であり、主はわたしたちが伝道に参加できるよう助けてくださいます。



「**だ**れでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」¹と主は教えられました。ですから、バプテスマは救いに不可欠なのです。

復活された救い主は天に昇る前に、弟子たちにこう教えられました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。」²

回復の時に、主は繰り返し命じられました。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶために召されている。」³

主の教会には、世界中で福音を宣べ伝える責任があります。これが伝道活動の

土台であり、宣教師には、「イエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、人々が回復された福音を受け入れられるよう助けることにより、キリストのもとへ来るよう勧める」⁴義務があります。

改宗者や後世の人々、そして宣教師の人生に、伝道活動がどれほど大きな影響や祝福を与えるか、またわたしたちがどのように伝道活動に参加できるかについて話し、証します。

14歳のころ、ある美しい8月の朝に、プリナ長老とパーキンズ長老が我が家を訪ねて来ました。彼らはわたしたち家族に神の真の性質について教え始めました。その後も訪問し、祈りの方法を教えてくれました。また、回復や救いの計画についても教えてくれました。しかし3、4回訪問を受けた後、17歳の姉ディーナとわたしを除いて、家族のほとんどは宣教師の話の間もなくなくなりました。姉とわたしは二人とも心に聖霊の証を感じ、メッセージが真実であるという霊的な確認を得ました。

わたしたちはモルモン書を1冊購入し、読み始めました。毎日放課後、モルモン書を先に読めるよう、急いで帰宅しました。先に帰宅した方が読んでいる間、もう一人はもどかしく思いながら食事の時間まで待ち、急いで食事を済ませました。そしてようやく自分の番が来ると、寝る時間まで読むのです。わたしたちは夢中でした。



イタリア、ローマの専任宣教師たちは、モルモン書を携えて人々をキリストのもとに招いている。

教会にも出席するようになり、程なく両親にバプテスマの許可を求めました。父は快く許可してくれましたが、母はためらいました。母を説得し許可書に署名してもらうには、それから1か月かかりました。バプテスマの日、母ときょうだい^{みな}が初めて教会に来ました。そこで母は御霊を感じました。わたしたちの証を聞いた母は宣教師のところへ行き、もう一度教えてほしいと頼みました。数週間後、母と妹、そして弟たちがバプテスマを受けました。わたしの人生は永遠に変わり、イエス・キリストの福音は、人生においてわたしを動かす力となりました。

主と、主が我が家^{わたし}に送ってくださった宣教師に対する感謝の思いは言葉では表せません。主は回復された福音の知識をわたしに授けてくださいました。そしてこの知識を人に伝える必要性を切に感じたわたしは、宣教師になりたいと思いました。

数か月後、姉のディーナとわたしは地元^{地元}のサンサルバドルで働く宣教師に召されました。この召しにより、わたしたちは戸別訪問をして、イエス・キリストの回復された福音の喜ばしい知らせを分かち合い、多くの人をバプテスマの水に導く機会を

得たのです。後に、二人とも中央アメリカ伝道部の専任宣教師として奉仕しました。

伝道はわたしの人生に大きな影響を与えました。主にもっと頼り、御霊の導きを求め、神の子供たちに対する計り知れない愛を感じるようになりました。聖文の知識や教義への理解が増し、従順になり戒めを完全に守ろうという望み^{望み}も増しました。そして、救い主とその無限の贖罪^{しよくざい}に対する証が強まりました。わたしの伝道経験が今のわたしを築いたのです。わたしは伝道が大好きになり、伝道はわたしと家族の人生に何よりも大きな影響を与えました。

ジェフリー・R・ホランド長老は、伝道が自身の人生に与えた影響をこのように述べています。「47年後の今、わたしの伝道経験はすべてを意味しています。この47年間で、自分の伝道について考えなかった日が1日はあったかもしれませんが、その日がいつだったのか特定できません。」

数年前、もうすぐ8歳になる孫のクリスチャンが、待ち切れない様子で自分のバプテスマ会を計画していました。孫は自分の母親に、祖母のわたしに話者の一人として改宗談を話してもらえらるかどうかと尋ねました。どうしてわたしに改宗談を話し

てもらいたいのか孫に尋ねたところ、答えはこうでした。「おばあちゃん、それってすごく大事なことなんだよ。おばあちゃんが福音を受け入れてなかったら、ぼくがバプテスマを受けられなかったって分かってるの？ 今のぼくはいなかったんだよ。」

自分の働きが及ぼす遠大な影響力を宣教師が自覚しているかどうかは分かりません。わたし自身の家族では、福音の祝福は今4世代に及んでいます。ゴードン・B・シンクレイ大管長はこう述べなかったでしょうか。「一人の若い女性を救うことは、その子孫を救うことにもなるのです。」⁶ わたしは神殿で結婚し、8人の子供がいます。どの子供も忠実な教会員で、神殿でエンダウメントを受けています。そのうち6人が結婚しており、子供がいます。現在、わたしたち家族は34人です。しかし、それだけではありません。夫もわたしも伝道に出て、2人の息子と6人の娘のうち3人も伝道に出ました。このように、わたしたちは家族全体で、多くの国の何百人もの人が福音を受け入れるよう助けてきたのです。そうした改宗者やその子供たちの何人もまた伝道に出ました。

伝道活動は教会の原動力です。これ以



ナイジェリアで地元の男性と話をする夫婦宣教師。

上に偉大で重要な業はありません。伝道に携わるすべての人の人生を祝福します。そして後の世代を祝福し続けるのです。

皆さんはこう自問しているかもしれません。どうすれば伝道活動を助けることができるのだろうか。どのような形で携わることができるのだろうか。伝道活動を始めるに当たり、心に留めておくべき基本的な真理が二つあります。まず、神が御自分のすべての子供たちを愛しておられ、彼らの救いを望んでおられるということを明確に理解してください。教義と聖約第18章13節にはこう書かれています。「人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」2番目に、キリストとその回復された福音のメッセージは、皆さんが贈ることができる最も大切な贈り物だということです。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』で説明されているように、伝道活動には4つの働きがあります。求道者を見つけること、教え、バプテスマを施すこと、新会員をフェローシップすること、あまり活発でない会員をフェローシップし、教えることです。⁷ 教会員は皆、子供も青少年も成人も、これらの活動のどれか、またはすべてにおいて助けることができます。

良き隣人、そして良き友人になることから始めましょう。義と親切において模範となりましょう。皆さんのほほえみから、愛と平安と幸福が伝わるようにしましょう。福音を中心とした生活を送ってください。

それから、もっと具体的に伝道活動を行ってください。アイデアを幾つか提案しましょう。皆さんに合うものが2、3見つかるかもしれません。

- 家に子供がいれば、子供の伝道の準備を助けましょう。
- 自分が伝道に出る準備をしましょう。
- 家族や友人に、宣教師の話や活動に参加するように勧めましょう。
- 宣教師と一緒に求道者の家に行くか、宣教師が皆さんの家で教会員でない人を教えるように招待しましょう。
- 家庭の夕べにだれかを招待しましょう。
- 家族歴史センターにだれかを招待するか、彼らが家族歴史を探求するのを手伝いましょう。
- 宣教師に知人を紹介しましょう。会員が知人を紹介することは、最も良い方法です。
- 自分の信条や証を教会員ではない友人や家族に伝えましょう。
- 人々に手を差し伸べる機会を求めましょう。
- 求道者や新会員と友達になりましょう。
- 真理を求めている人を見つけるために最大限の努力をしましょう。
- 家族や友達が伝道に出ている場合、愛と励ましの手紙を送り、彼らのために祈りましょう。

皆さんは、自身の働きの成果から喜びを得るでしょう。伝道活動にさらに熱心になることで、ワードや支部全体が強められます。教会全体が皆さんの働きの影響を受けるようになるでしょう。

小学2年生だった娘のマージーは、親友を初等協会に誘いました。二人とも聖餐会の発表で割り当てを受けました。その子の父親はかつて宣教師を拒んでいましたが、マージーが家に行き、教会のパンフレットを何冊か渡したところ、ジョセフ・スミスと最初の示現に関するマージーの簡単な説明と証に注意深く耳を傾けてくれました。そして自分の娘にこれからも初等協会に行くことを許可しただけでなく、彼女が宣教師からレッスンを受け、バプテスマを受ける許可も与えたのです。父親と母親はバプテスマ会に出席してくれました。

わたしたちは皆、伝道活動に参加することができます。これは主の業であり、主はわたしたちが伝道に参加できるよう助けてくださいます。主の福音はあらゆる国に広められるべきであり、わたしたちは主の御手に使われる者となって、主の真理を伝えることで、人々の人生に祝福をもたらすことができます。わたしたちもその過程において大いに祝福を受けます。

わたしたちは愛ある天の御父の子供です。御父はわたしたちが御父と永遠に住むことができるようになる道を開くために、御子を送ってくださいました。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。

注

1. ヨハネ3:5
2. マタイ28:19-20
3. 教義と聖約18:14
4. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』参照
5. ジェフリー・R・ホランド、「The Atonement」(新任伝道部会長のためのセミナー、2007年6月26日)、1
6. ゴードン・B・ヒンクレイ「若い女性に対する私たちの責任」『聖徒の道』1989年2月号、116
7. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』219 参照

あなたは十分に知っています

七十人会長会

ニール・L・アンダーセン長老

主イエス・キリストの弟子として、わたしたちには光と真理という巨大な霊的蓄えがあります。苦難にあふれる今の時代に、わたしたちは信仰の道を選びます。



わたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを皆さんとともに喜びます。モンソン大管長が5つの新しい神殿を発表しましたが、大都市から小さな村に至るまで、わたしたちは世界中のあらゆる大陸において、信者の大家族を構成していると感じました。わたしたちはともに、永遠の命に向かって旅立ちました。これは最も大なる旅路です。わたしたちは「最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を」^{ごんち}受けながら前進します。

今日味わっているような、霊的な力と確信に満ちた数多くの経験がある一方で、不十分さや準備不足を感じ、心に疑いや混乱が生じ、また霊のよりどころを見失ってしまうときがあります。キリストの弟子と

しての勝利の一部は、このような気持ちにどう対処するかにかかっています。

40年近く前、伝道に出るという勧めについて深く考えていたとき、わたしは自分が不十分で準備ができていないと感じました。こう祈ったことを覚えています。「天のお父様、わたしはほとんど知識もありません、どうして伝道に出ることができでしょうか。」わたしは教会を信じていましたが、自分の霊的な知識はとても乏しいものだと感じていました。祈っていると、このような気持ちを抱きました。「あなたはすべてを知っているわけではありません。しかし、あなたは十分に知っています。」この確信は、わたしに宣教師となる勇気を与えてくれました。

霊の旅路は生涯続きます。始めからすべてを知っているわけでも、旅の間にすべてが分かるわけでもありません。少しずつ、教訓に教訓を加えられながら改心していきます。わたしたちはまず、主イエス・キリストを信じる信仰という基盤を築きます。そして、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けるという原則と儀式を心に刻みます。さらに絶えず祈ることを決意し、進んで従順になり、モルモン書の証人として前進するのです。(モルモン書は力強い霊の糧です。)

そして揺らぐことなく、忍耐し続け、生涯を通じて進歩を遂げていきます。時に、次のような答えを主から受けます。「あなたはすべてを知っているわけではありません。

しかし十分に知っています。戒めを守り、正しいことを行うのに十分なだけを知っています。」ニーファイの次の言葉を思い起こしてください。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません。」²

以前、ヨーロッパ南部の伝道部を訪問しました。到着したその日に、ある新任の宣教師が自らの強い意思で帰還の準備をしていました。彼は翌日に出発する切符を手にしていました。

わたしたちは伝道部会長宅で一緒に座って話をしました。彼は、困難に満ちた少年時代について語りました。学習障がいがあり、次々と異なる家族に引き取られたそうです。この長老は、自分には新しい言語を学び、新しい文化に慣れることができないと切実に話してくれました。そして、こう付け加えました。「アンダーセン兄弟、わたしは神が自分を愛してくださっているかどうかさえ、分かりません。」それを聞いたとき、わたしは霊に強く迫る確かな、次のような思いを感じました。「彼は、わたしが愛していることを知っている。確かに知っている。」

もししばらく彼の気持ちを聞いてから、こう言いました。「長老が言うことはよく分かりませんが、一つだけ訂正しなければなりません。あなたは神が愛しておられることを知っています。はっきりと分かっているはずです。」

こう言うと、わたしに語りかけた同じ^み御霊が彼にささやきました。長老は頭を垂れて泣き始めました。そしてわたしに謝りました。「アンダーセン兄弟。」彼はいました。「わたしは神から愛されていることをよく知っています。よく知っているのです。」この長老はすべてを知っているわけではありませんでしたが、十分に知っていました。神から愛されていることを知っていました。このかけがえのない霊的な知識は、疑いを信仰に置き換えるに十分なものでした。彼は伝道を続けるための力を見いだしました。

兄弟姉妹、わたしたちは皆、霊的な力や、靈感や啓示を受けるときがあります。わた



したちは、そうした霊的な経験を心の奥底にとどめておく必要があります。そうするならば、困難に直面したときのために霊的な食糧貯蔵をすることができるのです。イエスは、御自身が教え、命じることを行うよう、心に留めなさいとおっしゃいました。³

何年か前に、友人が悲惨な事故で若かった娘を亡くしました。夢や希望は打ち砕かれ、友人は堪え難い悲しみを感じました。彼はそれまで教えられてきたことや、宣教師として教えてきたことに疑問を抱き始めました。わたしは彼の母親から、息子に祝福を与えてほしいという手紙をもらいました。彼の頭に手を置いたと

き、あることを告げた方がよいと感じました。それは、今までまったく同じようには考えたことのないものでした。信仰とは単なる感情ではなく、決断を伴うものであると感じたのです。友人は信仰を選ぶ必要がありました。

彼はすべてを知っているわけではありませんでした。十分なだけは知っていました。そして信仰と従順の道を選びました。彼はひざまずき祈りました。そして霊の平静さを取り戻したのです。

その出来事から何年かが過ぎました。先日、現在伝道中の彼の息子から手紙が届きました。確信と証に満ちた手紙でした。そのすばらしい手紙を読んでいると、この上なく困難な状況の中で信仰を選んだ一人の父親の決断が、次世代に大きな祝福を与えていることに気づきました。

困難、苦難、疑問、疑い。これらはこの世の生涯に付きものです。しかしわたしたちは独りではありません。主イエス・キリストの弟子として、わたしたちには光と真理という巨大な霊的蓄えがあります。恐れと信仰はわたしたちの心に同時に存在することはできません。苦難にあふれる今の時代に、わたしたちは信仰の道を選びます。イエスは言われました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」⁴

長い年月を通して、わたしたちは重要な霊の成長を何度も繰り返します。そして、「光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる」⁵ことが分かり始めるのです。疑問や疑いは解消されるか、わたしたちにとって気にならないものになります。わたしたちの信仰は純真で清いものとなり、自分がすでに何を知っているかが分かるようになります。イエスは言われました。「幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」⁶

ハドレー・ペイは今7歳です。ハドレーには生まれつき重度の聴覚障がいがあり、わずかでも聴力を回復させるために大きな手術を受ける必要がありました。両親は娘が話せるようになるための訓練を熱心に続けました。ハドレーと家族は、

聴覚障がいという困難を明るく受け止めていました。

ハドレーが4歳のとき、母親と一緒にスーパーのレジの列に並んでいました。ハドレーが後ろを振り向くと、車いすに乗った少年がいました。見ると、その子には両脚がありませんでした。

話し方を学んできたとはいえ、ハドレーは声の大きさを調節することがうまくできませんでした。そして大きな声で、その子になぜ脚がないのかと母親に尋ねたのです。

母親は静かに、そして簡潔にこう説明しました。「天のお父様は、御自身の子供たちを一人一人違うように造られたのよ。」ハドレーは、「分かったわ」と答えました。

すると不意に、ハドレーは少年の方を向いて言いました。「天のお父様がわたしを造ってくださったとき、わたしの耳は聞こえなかったのよ。だから、わたしは特別な。天のお父様は、脚のないあなたを造ってくださったから、あなたも特別ね。いつかイエス様が来られるとき、わたしは耳が聞こえるようになって、あなたは脚がもらえるわ。イエス様は、すべての問題をなくしてくださるの。」

「幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」

ハドレーは十分に知っていました。

イエスはキリストです。イエスは復活されました。イエスはわたしたちの救い主、贖い主です。主が再び来られるとき、すべてが正しく取り計られることでしょう。この業は主の聖なる業です。主の神権は、預言者ジョセフ・スミスを通して地上に回復されました。そして今日の主の預言者はトーマス・S・モンソン大管長です。そのことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. モロナイ6:3
2. 1ニーファイ11:17
3. ジョセフ・スミス訳ルカ14:28
4. マルコ5:36
5. 教義と聖約50:24
6. マタイ18:3

父がモルモン書を読んだおかげで

七十人

マルコス・A・アイトカイトイス長老

今日、わたしの声を聞いているすべての人に、モルモン書を読み、そこに書かれている約束を実行するよう勧めます。そのようするなら、モルモン書が真実であることを知るでしょう。



愛する兄弟姉妹、おはようございます。今日、皆さんの前で話せることに、深い喜びと榮譽を感じています。わたしの言葉が神によって導かれ、「説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶ」ため(教義と聖約50:22)、御霊がわたしたちとともにあるよう祈っています。

わたしの家族の歴史で、1940年6月2日はとても大切な日です。その日、父がバプテスマを受けてこの教会に入ったのです。

父をバプテスマに導いた宣教師の一人であるジャック・マクドナルド長老は、その日のことを、自身の父親にあてた手紙の中で次のように書いています。

「先週の日曜は、ことのほかすばらしい日になりました。わたしたち宣教師は町

を離れ、静かな川岸まで行きました。そしてジョーンズ長老とわたし[マクドナルド長老]が同僚になってから初めてのバプテスマを施しました。アントニー・アイトカイトイスが氷のように冷たい水に入り、教会の会員となったのです。……何もかもが最高でした。青く澄んだ空や、この上なく穏やかで緑豊かな郊外の雰囲気はすばらしく、だれもが偉大な影響力の存在を感じずにはいられませんでした。

一緒に歩きながら、バプテスマを受けたばかりの彼は、この日がどれほどすばらしいかを言葉では言い表せず、まるで新しい人間になったようだと言いました。……これがわたしたちの最初のバプテスマでした。しかし、わたしやほかのだれの功績でもありません。彼が自分で改宗したのです。」

この出来事のおかげで、わたしの人生も変わりました。自分の行いがどれほど賢明なものとなるかを父が予見していたかは分かりませんが、あの日、バプテスマを受けた父を愛しています。他界してから30年以上たちましたが、わたしは父の名を誇りに思い、感謝し続けるでしょう。

リトアニア人の両親を持ちながら、スコットランドで生まれた父は、まだ若いころにブラジルに移住しました。英語が話せたことで、父の改宗は早まりました。英語のモルモン書を読むことができたのです。当時、ポルトガル語でモルモン書を読むには、翻訳の質がまだ十分ではありませんでした。言葉の壁のために、母が教

会に入るのはその数年後になります。しかし教会に入ってから、人のために自らをささげ神を愛することについて、家族にとって力強い模範となりました。母は92歳になります。今日この会場に来ています。偉大な忠誠心を持つ母を心から愛していると伝えられるのは大きな喜びです。わたしは母の名も誇りに思い、感謝し続けるでしょう。

当時の状況でバプテスマを受けて教会に入った父の勇気をたたえます。それは大変なことでした。まだ妻は会員ではなく、飲酒や喫煙の誘惑も並大抵ではありませんでした。経済的に苦しく、教会に加わることに母親の反対もありました。バプテスマを受ければもう息子とは思わないと言われていたのです。ブラジルの教会員数はまだ300人にも達しておらず、礼拝堂は一つもありませんでした。父の決意と勇気はまさに驚くべきものです。

それほど多くの困難に直面しながら、父はどのようにそのような決断ができたのでしょうか。答えは簡単です。モルモン書を読んだからです。モルモン書を読んで、父は回復のメッセージが真実であることを知るようになりました。モルモン書は、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であることを証拠です。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には次のように書かれています。「モルモン書は、御霊を通して用いるときに、改宗をもたらす最も強力な手段となります。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』104)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう宣言しました。「祈りをもってモルモン書を読む人は、貧富の差や学問の有無に関係なく、その力によって成長することができます。……

……わたしは皆さんにはっきりと約束します。これまでに何度読んだかに関係なく、祈りの気持ちをもってモルモン書を読むなら、皆さんの[心の]中に、……主の御霊が注がれるようになります。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになるでしょう。」(『モルモン経』『聖徒の道』1988年10月号、7)



この約束は父とわたしの家族に成就しました。わたしたちはこれまで受けてきた教えに従って、家族で毎日聖文を読んでいます。長年そうしています。家族で何度かモルモン書を読み通しました。これからも続けるつもりです。約束されているとおり、主の御霊が家族の心に注がれ、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになりました。

モルモン書が真実だと分かる、地上にイエス・キリストの教会を回復するため、ジョセフ・スミスが神により召されたということが分かります。ジョセフ・スミスが御父と御子にまみえたこと、信仰はただ一つであり、有効なバプテスマは一つであることが分かります。神の預言者が今日地上におり、昔の時代のペテロがそうだった

ように、神権のすべての鍵^{かぎ}とそれらを行使用する権利を持っていることが分かります。イエス・キリストが神の御子であり、人が救いにあずかるための唯一の御名^{みな}を持つ御方であられることが分かります。父なる神が生きておられ、わたしたちを愛しておられることが分かります。御父の救いの計画が完全であると分かり、儀式を執り行い、戒めに従って生活し、最後まで堪え忍びたいという願いを抱くようになるのです。

モルモン書を受け取り、こうした説明を受けながら、読むことを拒む人がいることを残念に思います。ほかからの影響に身をさらし、この書物をよく調べることを拒み、価値のないもののように無視し、モルモン書という霊のごちそうを決して口にしない人がいることを残念に思います。わたしには理解できません。それはまるで、愛情深い父親と遠く離れて暮らす息子や

娘が、その父親からもらった手紙を読むことを拒み、封を開けようもしないのと同じです。そのような選びをする人は、優しい母親が愛情込めて作ってくれた料理を、ほんの少しでも口に入れるのを拒んでいるだっこのようです。

モロナイ第10章3節から5節にあるモロナイの勧めに従うなら、神は御自身の真理を明らかにしてくださいます。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には、モロナイの言葉がこのようにまとめられています。

- 1「モルモン書を読み、イエス・キリストに関するモルモン書のメッセージを深く考える。」
- 2「モルモン書が真実であり、ジョセフ・スミスが回復の預言者であるという証^{あかし}を得るために、イエス・キリストを信じる信仰をもって神に祈る。」

せいさん 聖餐会と聖餐

- 3「誠心誠意で祈る。これは、神から受ける答えに従って行動する意志があるという意味を含んでいます。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』111)

これらのことを知ることはできないと言う人がいるかもしれませんが。わたしは、神が地上の預言者を通して与えられた指示に謙遜に従うなら、知ることができると証します。このことを信じずにほかのことを信じるということは、神が真理をどこに見いだすべきかを知らず、真理をわたしたちに示す力をお持ちでないという、愚かな考えを受け入れることになるでしょう。この書物にある約束に従わない人がいるというだけでは、全員がこの約束を実行していないということにはなりません。

なぜわたしは父の名前を愛し、誇りに思うのでしょうか。モルモン書の約束どおりに、読んで実行したからです。なぜわたしは父の名前を愛し、誇りに思うのでしょうか。大きな困難に直面しながら、受けた答えから目を背けなかったからです。なぜわたしは父の名前を愛し、誇りに思うのでしょうか。神が望まれることを行う勇気を持ち、わたしの生まれる以前に、わたしの人生を祝福してくれたからです。

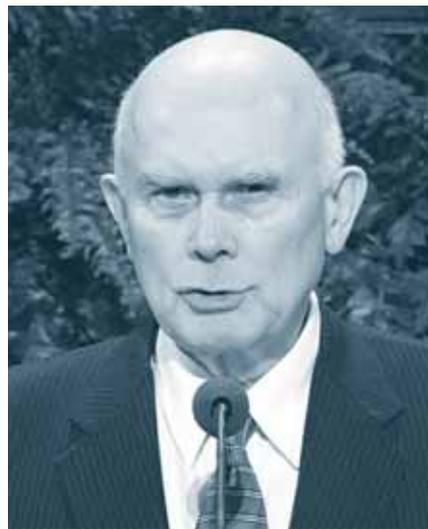
今日、わたしの声を聞いているすべての人に、モルモン書を読み、そこに書かれている約束を実行するよう勧めます。そのようするなら、モルモン書が真実であることを知るでしょう。

モルモン書が神の御言葉であると証します。だからこそ、わたしはジョセフ・スミスが神の預言者であることを知っているのです。ジョセフ・スミスはモルモン書を書いたのではなく、神の力によって翻訳したことを知っています。わたしはトーマス・S・モンソンが今日地上における神の預言者であり、神権のすべての鍵とそれらを行行使する権利を持つ、地上で唯一の人であることを知っています。イエス・キリストがわたしたちの救い主であり、実在の御方であられることを知っています。神が生き、わたしたちを愛しておられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

聖餐会は、聖餐の儀式が行われる場であることから、教会における最も神聖で重要な集会です。



わたしたちは使徒パウロが預言した苦難の時代を生きています(2テモテ3:1参照)。細くて狭い道を歩もうとすると、足を踏み入れたくなるような回り道を至る所で見ます。気を取られ、屈辱を味わい、落胆し、意気消沈するかもしれません。どうすれば主の御霊の導きを受けて選択を行い、道にとどまることができるでしょうか。

近代の啓示において、主はその答えを次の戒めの中で与えてくださっています。

「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行き、聖式をささげなければならない。

まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」(教義と聖約59:9-10)

これは約束を伴う戒めです。毎週ふさ

わしい方法で聖餐の儀式に参加することによって、わたしたちは「いつも御子の御霊を受け[る]」という約束にふさわしくなれるのです(教義と聖約22:77)。この御霊こそ、わたしたちの証の土台です。御霊は、御父と御子について証し、すべてのことを思い起こさせ、真理に導いてくれます。わたしたちが道を歩むときに導いてくれる羅針盤なのです。この聖霊の賜物は、ウィルフォード・ウッドラフ大管長が説いているように、「人に授けられる最大の賜物です。」(Deseret Weekly, 1889年4月6日, 451)

聖餐会は、聖餐の儀式が行われる場であることから、教会における最も神聖で重要な集会です。聖餐会は、家族の全員が一緒に出席できる唯一の安息日の集会です。聖餐に加えて、この集会の内容は常にわたしたちの意識を主イエス・キリストの贖罪と教えに向けるものとなるように計画し、行われるべきです。

わたしの記憶にある最も昔の聖餐会は、自分が執事に聖任されて聖餐のパスを行っていた、ユタ州の小さな町での聖餐会です。そのころの記憶と比べると、今日わたしが出席する様々なワードの聖餐会は著しく改善されています。たいていの場合、聖餐は静かで敬虔な雰囲気の中で執行され、配られ、会員も敬虔に聖餐を取っています。集会の司会は、必要な業務を含めて簡潔に威厳をもって行われ、話は内容も話し方も霊的です。音楽も祈りも適切です。これが一般的であり、



わたしが青少年のころに経験していた聖餐会から大きく進歩していることを示しています。

しかし、時々例外があります。若い世代の中に、また大人の中にさえも、この集会の重要性と、その場における個人の敬虔さと礼拝の大切さをまだ理解していない人がいるように感じるのです。わたしはこの場で教えるべきだと感じている事柄を次のような人に向けて語ります。すなわち、これらの重要な原則をまだ理解し、実践していない人、そしていつも主の御霊の導きを受けるといふ、約束された霊的な祝福をまだ享受していない人に向けて話します。

II

まず、聖餐の儀式に参加するために教会員はどのようにして自分自身を備えるべきか、ということから始めます。5年前の世界指導者訓練集会で、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は教会の神権指導者に向けて、聖餐会をどのように計画し、実施すべきかについて教えました。「わたしたちはきわめて個人的な方法で主の贖罪を記念します」と、ネルソン長老は述べています。「聖餐会には打ち砕かれた心と悔いる霊を抱いて来ます。これは安息日を守るうえで最も重要な点

です。』（『聖餐会での礼拝』『リアホナ』2004年8月号、12）

聖餐会には、始まる前に余裕をもって着席します。「その静かな時間に前奏曲を小さく流します。開会前は会話や連絡の時間ではなく、指導者と会員が聖餐のために霊的に備える、祈りを込めた瞑想めいそうの時間なのです。』（『リアホナ』2004年8月号、13）

復活後、ニーファイ人に御姿を現された救い主は、血を流すことによる犠牲をささげるのをやめて、代わりに「あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい」と教えられました（3ニーファイ9：20）。この戒めは、わたしたちがどのように備えるべきかを教えており、毎週聖餐を受けるように指示している近代の啓示の中でも繰り返されています。ネルソン長老も教えているように、「聖餐会で霊的にどれだけ豊かに得られるかは、教会の各会員に責任があります。』（『リアホナ』2004年8月号、14）

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は著書『救いの教義』（Doctrines of Salvation）の中で、わたしたちは救い主あがなが世の贖いのために受けられた死と苦しみを記念して聖餐を受けると教えています。この儀式が始められたのは、わたしたちが主に仕え、主に従い、いつも主を

覚えるという聖約を新たにできるようにするためです。スミス大管長は次のように付け加えています。「この戒めに絶えず従わなければ、主の御霊を受けることはできなくなります。」（Doctrines of Salvation, ブルース・R・マッコンキー編、全3巻〔1954-1956年〕、第2巻、341）

III

服装は、行おうとしている活動に対する、わたしたちの態度と準備の度合いを示す重要な指標です。水泳やハイキングをする場合、あるいは海岸へ遊びに行く場合に、履物を含めどんな服装をして行くかを考えれば、そのことが分かるでしょう。聖餐の儀式に参加するときの服装についても、同じことが言えるはずですが。神殿に行くときと似ています。服装は、参加しようとしている儀式をわたしたちがどのくらい理解し、尊んでいるかを示しているのです。

聖餐会の間、特に聖餐の儀式の間は、礼拝に集中し、ほかのどんな行為も控えるべきです。特に、ほかの人の礼拝を妨げる恐れのある行為は控えます。静かに居眠りする人でさえ、ほかの人のじゃまはしていないのです。聖餐会は、本や雑誌を読む時間ではありません。若人の皆さん、聖餐会は携帯電話で別の場所にいる

人と小声で会話したり、メールを送ったりする時間ではありません。聖餐を取るとき、わたしたちはいつも救い主を覚えるという神聖な聖約を交わします。まさにその聖約を交わしている集会で、それを明らかに破っている人を目にするのは、何と悲しいことでしょうか。

聖餐会の音楽は、わたしたちの礼拝のきわめて重要な部分を占めます。聖文では、義人の歌は主への祈りであると教えられています(教義と聖約25:12参照)。大管長会は、「賛美歌を歌うことが、すばらしい説教となることもあります」と宣言しています(『賛美歌』9)。歌うことによる礼拝、特に聖餐を受けるのに備えさせてくれる賛美歌による礼拝に、すべての出席者が加わったなら、どんなにすばらしいでしょうか。聖餐会でのすべての音楽に関して、その目的は演奏ではなく礼拝にあることを常に覚えながら、注意深く計画する必要があります。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう教えました。

「聖餐会は、福音について語る場であり、信仰をもって臨み、贖い主の使命について静かに考え、福音の救いの原則を熟慮する時間であって、他の目的で集まる所ではありません。娯楽や高笑い、軽薄な態度は、末日聖徒の聖餐会と場を共にすることができません。わたしたちは柔和な祈りの精神をもって、また主を賛美する心で集まらなければなりません。」(Doctrines of Salvation, 第2巻, 342)

このようにするとき、すなわち、聖餐の儀式と聖餐会での礼拝に常に伴うべき厳粛さを自分も持つとき、わたしたちは御霊を伴侶とし、啓示を受ける資格を得るのです。これが、人生における導きと、その道中における平安を受ける方法なのです。

IV

復活した主は、アメリカ大陸を訪れ、忠実なニーファイ人の間で聖餐の儀式を定めたとき、聖餐の大切さを強調されました。主は聖餐の象徴を祝福し、弟子たちと群衆とに与えて(3ニーファイ18:1-10参照)、次のように命じられました。



大会の衛星放送の前に大人の手を借りて身だしなみを整える、ブラジル・サンパウロの若い男性。

「これをあなたがたは、悔い改めてわたしの名によってバプテスマを受ける人々のためにいつも行いなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたのために流したわたしの血の記念として、それを行いなさい。そうすれば、あなたがたはいつもわたしを覚えているということを、父に証明することができる。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊を受けるであろう。

……あなたがたはいつもこれらのことを行うならば、わたしの岩の上に建てられているので、幸いである。

しかし、あなたがたの中で、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを行う者は、わたしの岩の上に建てられておらず、砂の土台の上に建てられているのである。雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてこれらの者に打ちつけると、彼らは倒れてしまう。」(3ニーファイ18:11-13)

聖餐は、モーセの律法における血の犠牲と燔祭に代わる儀式であり、救い主の次の約束を伴っています。「打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしは……火と聖霊によってバプテスマを授けよう。」(3ニーファイ9:20)



大会の衛星放送の間、ともに楽しく過ごすアルゼンチンの家族。

V

さてここで、特に聖餐の儀式を執行する神権者に向けて話します。この儀式は、いつも敬虔に威厳をもって執り行われるべきです。会衆のために祈りをささげる祭司は、言葉をゆっくり、はっきりと言い、聖約と約束されている祝福の内容を述べます。これは非常に神聖な行いです。

聖餐の象徴を準備する教師とバスをすすめる執事もまた、非常に神聖な行いをします。わたしはトーマス・S・モンソン大管長の次の話が大好きです。大管長は12歳の執事だったころ、ビショップに頼まれて、聖餐の祝福を切に望む寝たきりの兄弟のところへ聖餐を持って行きました。「その兄弟が感謝する態度に、わたしは深く感動しました」とモンソン大管長は述べています。「主の御霊に包まれ、自分は聖なる地に立っていると感じました。」(*Inspiring Experiences that Build Faith* (1994年), 188) この神聖な儀式を執行するすべての人は、「聖なる地」に立つのです。

聖餐の儀式を執行する若い男性は、ふ

さわしくあるべきです。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい」と、主は言っておられます(教義と聖約38:42)。聖文にはふさわしくない状態で聖餐を受けることに対する警告がありますが(1コリント11:29;3ニーファイ18:29参照)、それはその儀式を執行する人にも確かに当てはまります。重大な罪を犯した教会員に対する措置として、ビショップは聖餐を受ける特権を一時的に取り上げることができます。また、ビショップには、この神聖な儀式を執行する特権を取り上げる権能もあるのです。

聖餐の儀式を受けるときに適切な服装をすることの大切さについてはすでに話しましたが、それはこの神聖な儀式で何らかの務めを行うアロン神権者の若い男性にも当然当てはまり、また特別な意味を持ちます。全員が身だしなみを整え、慎み深い服装をするべきです。外見や行動のために彼ら自身が特別な注目を集めたり、礼拝し聖約を交わすというこの神聖な儀式の目的に出席者が全神経を集中するのを妨げたりするようなことがあってはな

りません。

ジェフリー・R・ホランド長老は、13年前の総大会で、このテーマについて貴重なことを教えました。現在の執事のほとんどは、この言葉がこの場で最後に語られたときに生まれてさえいなかったもので、彼らと、彼らの両親や教師のために繰り返します。「聖餐を用意する祭司、教師、執事の兄弟は、できるだけ白いワイシャツを着るように提案したいと思います。教会の神聖な儀式では、しばしば儀式用の服装をしますが、白いワイシャツはバプテスマを受けたときに着た白い服装や、間もなく皆さんが神殿に参入し、伝道に出るときに着る白い服装を思わせます。」(「わたしを記念するため、このように行いなさい」『聖徒の道』1996年1月号, 73)

最後に、聖餐はこの神権の儀式に対する鍵を持つ人によって認可されたときだけに執り行われます。ですから、たとえ十分な人数の神権者がいる場合でも、聖餐式は一般に家庭や親族の集まりでは行われません。聖餐のテーブルで職務を行う人、聖餐を準備する人、または会衆にパスを行う人は、この儀式の鍵を持つ、あるいは鍵を行使する人から指名を受けなければなりません。それはビショップリックや教師定員会、執事定員会の会長会のことです。主は「わたしの家は秩序の家であ[る]」と宣言しておられます(教義と聖約132:8)。

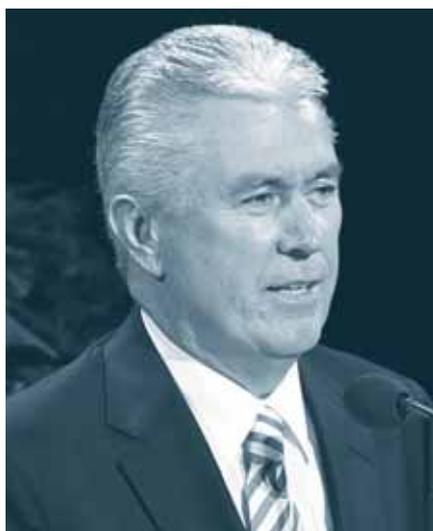
どうすれば主の御霊の導きを受けて選択を行い、それによって「世の汚れに染まらずに」(教義と聖約59:9)、死すべき世を通じて安全な道にとどまれるでしょうか。わたしたちはイエス・キリストの贖罪が持つ、清めの力を受けるにふさわしくする必要があります。そのために、わたしたちは主の戒めに従って、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のみもとに行き、毎週のすばらしい集会で聖餐の象徴を受け、いつも主の御霊を受けるといふ貴い約束にふさわしくしてくれる聖約を交わすのです(教義と聖約20:77参照)。わたしたちがいつもそのように行えるよう、そのすべてを可能にする贖罪を行われた御方、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

希望という無限の力

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

神と、神の慈しみ、神の力に対して希望を持つなら、難しい状況の中で勇気を得、気持ちを新たにすることができます。



愛する兄弟姉妹、友人の皆さん。今日は何と栄光ある日でしょう。敬愛する預言者が5つの神殿の建設を発表しましたが、わたしたちはその証人となりました。今日は実にすばらしい日です。

第二次世界大戦の終わりごろ、父がドイツ軍に徴兵されて西部戦線に送られたため、母が独りで家族の世話をすることになりました。わたしはまだ3歳でしたが、恐怖と空腹の日々を今でも覚えています。当時チェコスロバキアに住んでいましたが、戦線は日に日に近づき、危険が高まっていました。

寒さの厳しい1944年の冬、母はついに自身の両親が住むドイツへ逃げることを決意しました。厚着させたわたしたちを連れて、西へ向かう残り少ない避難列車に乗る手配を何とか終えました。どこへ行っても爆発音はやまず、人々の苦悩の表情や絶

えることのない空腹感は、自分たちが戦場にいることをまざまざと感じさせました。

列車は時々停車しては物資を積み込んでいました。ある夜、いつものように停車しているとき、母は急いで列車を降りて4人の子供のために食べ物を探しに行きました。戻った母は青ざめました。列車と子供たちが消えていたのです。

不安に押しつぶされそうになりながら、母は心の中で必死に祈りました。広くて暗い駅の構内を懸命に探し、列車がまだ出発していないようにとひたすら望みながら、何本もの線路の間をしきりに行ったり来たりしました。

あの真っ暗な夜、ぞっとするような駅の端から端まで、母がどんな気持ちでいなくなった子供たちを探したかを察するのは、わたしには恐らく不可能です。母は間違いなく恐れでいっぱいだったでしょう。列車が見つからなければ、二度と子供たちには会えないという思いが胸をよぎったに違いありません。それでも、わたしは次のことも確信しています。母の信仰が恐怖に打ち勝ち、希望が絶望を追い払ったということです。母は座り込んで悲嘆に暮れるような女性ではありませんでした。母はできることをしました。信仰と希望を行いで示したのです。

母は線路から線路へと走り回り、列車を一つ一つ調べ、離れた場所に移されていたわたしたちの列車をついに見つけました。そしてようやく子供たちと再会したのです。

あの夜、母がどんな気持ちだったかをよく考えます。時をさかのぼって彼女の隣

に座ることができたら、どうすれば恐怖の中で希望を失わずにいることができたかを尋ねるでしょう。信仰や希望について、また母がどのように絶望に打ち勝ったかを尋ねるでしょう。

それはできませんので、今日は皆さんの隣に、そして落胆、心痛、孤独にさいなまれているかもしれない人の隣に座りたいと願っています。今日は皆さんに希望という無限の力について話します。

希望の大切さ

希望は三脚いすの脚の一つです。信仰と慈愛とともに、この3つはわたしたちの生活を安定させます。困難や試練に遭遇しても倒れることはありません。聖文には希望の大切さが明確に書かれています。使徒パウロは、聖文が書かれた目的はわたしたちに「望みをいだかせるため」¹であると記しています。

希望は生活を幸福で満たす力を持っています。² しかし希望がないと、つまり望みをなかなか持てないでいると、「心を悩ます」³ことがあります。

希望は御霊^{みたま}の賜物^{たまもの}です。⁴ それはキリストの贖い^{あがな}と復活の力を通して、また救い主を信じる信仰により、わたしたちが永遠の命へ引き上げられるという希望です。⁵ このような希望は約束の原則であると同時に、戒めでもあります。⁶ ほかのあらゆる戒めと同じように、責任が伴うのです。わたしたちは希望を生活の一部とし、希望を失わせようとする誘惑に打ち勝たなければなりません。天の御父の憐れみに満ちた幸福の計画に対する希望は、平安^{あわ}、憐れみ^{あはれ}、喜び^{よろこび}、^{9,10}を生みます。救いへの希望はわたしたちの守りのかぶとであり¹¹、信仰の土台であり¹²、心の錨^{いかり}なのです。¹³

たった独りになったモロナイは、自分の民が完全に滅びるのを目の当たりにした後でさえも希望の大切さを信じていました。モロナイは、ニーファイの民が滅びる直前にも、希望がなければ神の王国で受け継ぎを得られないと記しています。¹⁴

では、なぜ絶望があるのでしょうか

聖文には、「すべての事物には反対の



もの」があると書いてあります。¹⁵ 信仰、希望、慈愛についても同じことが言えます。疑いを抱いたり、絶望したり、同胞を助けなかったりすると、貴い最上の祝福に背を向けさせるような誘惑を受けることになるでしょう。

敵対する者は、人の思いや思考を深い暗闇に縛りつけるために絶望を使います。絶望は、人に明るさや喜びをもたらすものをすべて奪い、人生を意味のない、むなしなものだと思込ませます。絶望は向上心をそぎ、病を進め、人を汚し、心を鈍らせます。絶望は、永遠に下り続けるだけの階段と言ってもいいでしょう。

一方、希望は地平線から昇る太陽の光のようです。美しい夜明けとともに暗闇を貫き、高い所からわたしたちを照らしてくれます。希望は、永遠の御父の愛ある守りに信頼を置くように勧め、そのための靈感を与えてくれます。御父は、絶対的なものは存在しないと叫ぶ、混乱と恐れの世界の中にあって、永遠の真理を求める人々に道を用意されました。

では希望とは何でしょうか

言語は複雑で、希望という一つの言葉にも、形や強さに幾らか幅があるものです。例えば、幼い子供はおもちゃの電話を望み、若い人は大切な友人が電話をかけてくるよう望んでいるかもしれません。大人は、いっそのこと電話は鳴らない方がいいと望んでいるかもしれません。

今日は、そうしたささいな事柄をはるかに超越する希望、つまりイスラエルの望み¹⁶、人類の大いなる希望、すなわちわたしたちの贖い主、イエス・キリストを中心とした希望について話します。

希望は知識ではありません。¹⁷ 希望は、主がわたしたちへの約束を果たしてくださるという、変わることはない信頼です。神の律法と預言者の言葉に従って今行動すれば、望んでいる祝福を将来受けられるという確信です。¹⁸ 祈りはこたえられると信じて待ち望むことです。希望は、自信、楽観、熱意、粘り強く忍耐するといった特質に表れます。

福音の言葉で言えば、この希望は堅固であり、揺らぐことなく、積極的です。古

代の預言者は「確固とした望み」¹⁹ や「生ける望み」²⁰ について語りました。これは、善い行いを通して神をあがめることができるという希望です。希望があれば、喜びや幸福が訪れます。²¹ 希望があれば、わたしたちは「忍耐し、……[わたしたちの]苦難に耐える」²² ことができるのです。

待ち望み (hope for)、希望を持つ (hope in)

わたしたちが待ち望む(訳注——英語ではhope for)ことはたいいてい、将来の出来事です。現世という地平線の先を眺め、次の世で何が待っているのかを知ることさえできればと思います。天の御父がわたしたちのために用意された将来以上に、栄えある将来を想像できるでしょうか。イエス・キリストの犠牲のおかげで、わたしたちに恐れる必要はありません。永遠に生き続け、二度と死を味わうことがないからです。²³ 主の無限の贖罪のおかげで、わたしたちは罪から清められ、裁きの法廷で清く聖なる状態で立てるのです。²⁴ 救い主は救いの源であられます。²⁵

わたしたちはどのような生活を待ち望めるのでしょうか。キリストのみもとに来て、罪を悔い改め、信仰をもって生活する人は永遠に平安の中に住みます。この永遠の賜物の価値について考えてください。愛する人たちに囲まれ、知識を増し、さらに幸せになり、究極の喜びの意味を知るのはです。現在の人生の1ページがどんなにわびしく感じられても、イエス・キリストの生涯と犠牲のおかげで、人生という書物が、自分の最大限の期待を超える結末を迎えるということを望み、確信することができます。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のです。²⁶

希望を持つ(訳注——英語ではhope in)ことは、日々の生活で助けを与えてくれます。希望を持つなら、それらの事柄は訓練、誘惑、悲しみの中でわたしたちを支えてくれるのです。だれでも落胆や困難を経験したことがあります。耐えられないような暗闇もあるでしょう。このようなとき

こそ、回復された福音の神聖な原則に希望を持てば、再び光の中を歩めるようになるまで、希望を持った事柄はわたしたちを支え、助けてくれるのです。

わたしたちはキリストであるイエスに希望を持っています。神の慈しみに、聖なる御霊の現れに、そして祈りが聞かれ、こたえられるという知識に希望を持っています。神が御自身の御言葉のとおりにより約束を果たしてこられたので、今も将来も神が約束を守ってくださることを確信をもって望めるのです。苦難の中で神の預言者の勧告に従うなら、物事が「〔わたしたちの〕益となるようにともに働く」²⁷ という希望を確固として持つことができます。このような希望を、神と、神の慈しみ、神の力に対して持つなら、難しい状況の中で勇気を得、気持ちを新たに、迫り来る恐れ、疑い、絶望に対して力を得ることができます。

希望は善い行いに導く

わたしたちは、歩くのを学ぶと同じ方法で、つまり一歩ずつ、希望をはぐくむことを学びます。聖文を研究し、日々天の御父と語るとき、また、知恵の言葉を守り、自分の一を完全に納めるなど、神の戒めを守る決意をするときに、わたしたちは希望を得るのです。²⁸ 「さらに完全に」福音を実践するとき、「聖霊の力によって、……望みにあふれ〔る〕」²⁹ 能力を伸ばしていくのです。

希望をくじくようなことばかりが起っていても希望を持つ、という勇気ある決断をすべきときがあるかもしれません。父アブラハムのように、わたしたちは「望み得ないのに、なおも望みつつ信じ」³⁰、あるいは、ある作家が表現したように、「冬のただ中であって、〔自身〕の内に、燃えるような夏を〔見いだす〕」のです。³¹

信仰、希望、慈愛は互いを支え合います。どれか一つが強くなると、ほかの二つも強くなります。希望は信仰から生じます。³² 信仰がなければ希望もないからです。³³ 同様に、信仰も希望から生じます。信仰は「望んでいる事がらを確認……すること」³⁴ だからです。

希望は信仰と慈愛の両方に不可欠で



す。不従順、落胆、引き延ばしによって信仰が弱くなると、希望が信仰を支えてくれます。挫折や焦りのせいでなかなか慈愛を持ってないとき、希望があれば決意を貫くことができ、報いを期待せずに同胞を助けたいと思うようになります。希望が明るいほど、信仰はより強くなります。希望が強いほど、慈愛はより清らかになるのです。

わたしたちが待ち望むなら信仰が生まれ、希望を持つなら慈愛が生じます。信仰、

希望、慈愛³⁵ という3つの特質が、回復されたイエス・キリストの真理と光を土台として互いに影響しながら作用するとき、わたしたちは多くの善い行いをするようになります。³⁶

個人的な経験のもたらす希望

一つの希望が成就するたびに確信が増し、さらに大きな希望へとつながります。これまでの人生で、希望の力を肌で感じた経験が少なからずありました。世界大戦



の恐怖と絶望に囲まれていた幼少時代、教育の機会を得るための苦労、命をも危うくした青少年時代の健康問題、難民としての経済的困難と落胆に満ちた経験をよく覚えています。母が示してくれた、最悪のときでもできることを行い、不安になって希望的観測に甘んじることなく、信仰と希望を行いで示すという模範は、家族とわたしを支え、直面している状況が将来は祝福となるという確信を与えてくれました。

これらの経験から、イエス・キリストの福音こそ、そして末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることこそが、信仰を強め、明るい希望を持ち、慈愛を抱くことにつながるのだと知ようになりました。

希望は絶望の中でわたしたちを支えてくれます。希望は、周囲のすべてが暗闇に思えても喜ぶべき理由があるということを見せてくれるのです。

わたしはエレミヤとともに宣言します。「主を頼みとする人はさいわいである。」³⁷

ヨエルとともに^{あかし}証します。「主はその民の望み、イスラエルの人々のとりでである。」³⁸

ニーファイとともに宣言します。「これからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父

は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」³⁹

このような希望を、わたしたちは大切にし、はぐくむべきです。このような成熟した希望は救い主イエス・キリストによって、また主を通じて生じます。なぜなら、「[救い主]についてこの望みをいただいている者は皆、[救い主]がきよくあられるように、自らをきよくする」⁴⁰からです。

主は、心安らぐ希望のメッセージを与えてくださいました。「小さい群れよ、恐れてはならない。」⁴¹ 神は、罪を捨て、信仰、希望、慈愛をもって進み続ける人々を「両腕を広げて……受け入れよう」と⁴² 待っていてくださいます。

苦しんでいるすべての人、落胆、心痛、孤独にさいなまれているすべての人に、愛と心からの関心をもって伝えます。決してあきらめないでください。

決して負けないでください。

絶望が、皆さんの霊を決して打ち負かすことのないようにしてください。

イスラエルの望みである主を喜んで受け入れ、頼ってください。神の御子の愛はすべての暗黒を貫き、すべての悲しみを和らげ、すべての心に喜びを与えるからです。

これらのことを証し、皆さんに祝福を残します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ローマ15:4
2. 詩篇146:5参照
3. 箴言13:12
4. モロナイ8:26参照
5. モロナイ7:41参照
6. コロサイ1:21-23参照
7. ローマ15:13参照
8. 詩篇33:22参照
9. ローマ12:12参照
10. 箴言10:28参照
11. 1テサロニケ5:8参照
12. ヘブル11:1;モロナイ7:40参照
13. ヘブル6:19;エテル12:4参照
14. エテル12:32参照;ローマ8:24も参照
15. 2ニーファイ2:11
16. エレミヤ17:13参照
17. ローマ8:24参照
18. 教義と聖約59:23参照
19. アルマ34:41
20. 1ペテロ1:3
21. 詩篇146:5参照
22. アルマ34:41
23. アルマ11:45参照
24. 2ニーファイ2:6-10参照
25. ヘブル5:9参照
26. 1コリント2:9
27. 教義と聖約90:24
28. ローマ15:14参照
29. ローマ15:13
30. ローマ4:18
31. アルバート・カムス, *Familiar Quotations*, 第17版(2002年), ジョン・バートレット編, 790で引用
32. エテル12:4参照
33. モロナイ7:42参照
34. ヘブル11:1
35. モロナイ10:20参照
36. アルマ7:24参照
37. エレミヤ17:7
38. ヨエル3:16参照
39. 2ニーファイ31:20
40. 1ヨハネ3:3
41. 教義と聖約6:34
42. モルモン6:17参照

教会役員の支持

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長



わ たしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。
反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。
反対の方は、その意を表してください。
大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方は皆、その意を表してください。
反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

アール・C・ティンギー長老を七十人会長会から、また、アール・C・ティンギー、シエルドン・F・チャイルドの各長老を七十人第一定員会から解任し、この二人を名誉中央幹部に任命することを提議します。

また、ジェラルド・N・ランド、ロバート・R・ストイアーの各長老を七十人第二定員会から解任することを提議します。この兄弟たちの優れた奉仕に、わたしたちとともに感謝を示したい方は、その意を表してください。

2008年11月1日をもって、ホルヘ・A・ロハス、T・ラマー・スライトの各長老を地域七十人から解任するよう提議します。この兄弟たちに感謝の意を示したい方は、その意を表してください。

ジェイ・E・ジェンセン長老を七十人会長会の会員として支持するよう提議します。

賛成の方は皆、その意を表してください。
反対の方。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持するよう提議します。

賛成の方は皆、その意を表してください。
反対の方は、その意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見るかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。

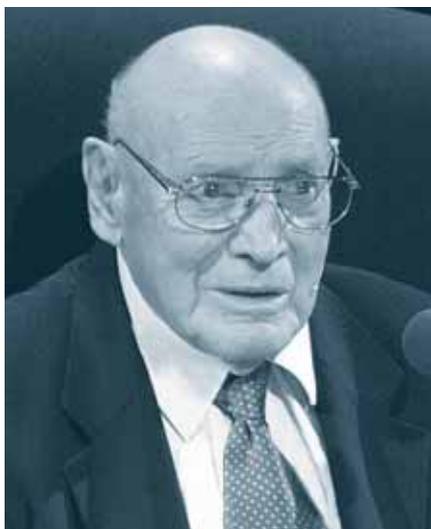


どんな出来事も 愛しなさい

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン長老

逆境に遭ったときの対処の仕方が、幸福で満ち足りた人生を送れるかどうかを大きく左右する……のです。



わたしは若いころスポーツが大好きでした。当時のたくさんの思い出を大切にしています。でも、全部楽しい思い出というわけではありません。ある日、フットボールの試合で惨敗を喫しました。落胆して帰宅すると母がいて、哀れなわたしの話を聞いてくれました。母は常々わたしたち子供に、自分と互いを信じ、不幸を人のせいにならず、何をするにも最善を尽くすよう教えていました。転んだら立ち上がり、また歩き出すよう母は望んでいました。ですから、そのときの母の助言は、まったく予想外の言葉ではありませんでした。それは、生涯忘れ得ぬ言葉となりました。

こう言ったのです。「ジョセフ。どんな出来事も愛しなさい。」

わたしはこの助言についてこれまで何度も考えてきました。

恐らく母はこう言いたかったのでしょう。「人生には山も谷もあるし、何もかもうまく行かないと感じることはだれにでもある。でも、落胆や逆境にもめげず幸福な人たちは、困難から学ぶ方法を知っているのだから、彼らは、さらに強く、賢く、幸福になっていく。」

中央幹部は、痛みや苦しみ、悩みをめったに経験しないと思う人もいるかもしれませんが、それが事実ならどんなによいでしょう。この壇上のすべての男女は、満ちみちる喜びを経験したことがある反面、落胆、悲しみ、喪失感もたくさん味わってきました。賢明な主は、すべての人に災いや悲しみを経験させられるのです。

わたしの場合、主は天の窓を開いて、言い尽せないほどの祝福をわたしとわたしの家族に注いでこられました。それでも、わたしも人並に、もうこれ以上耐えられないと思うほど心が重かったこともあります。そのようなとき、わたしは傷つきやすかった少年時代を振り返ります。フットボールの試合に負けて深く悲しんだあのころのことを。

当時は将来のわたしに何が待ち受けているのか知る由もありませんでした。しかし、悲しみや苦痛を経験するときは、母の言葉をよく思い出しました。「どんな出来事も愛しなさい。」

どうすれば悲しみに満ちた日々を愛す

ることができるでしょうか。少なくともその当座は愛することなどできません。母が言いたかったのは、落胆した心を抑圧することでも、痛みを否定することでも、不快な事実を覆い隠して幸福を装うことでもありません。そうではなく、逆境に遭ったときの対処の仕方が、幸福で満ち足りた人生を送れるかどうかを大きく左右するという事なのです。

逆境に知恵をもって立ち向かうなら、最も困難なときこそ大いに成長する機会となり、その結果、非常に大きな幸福へと導かれます。

長年を通じて、わたしは試しや試練に遭ったときに役立つことを学んできました。それらを皆さんに紹介しましょう。

笑う習慣を身に付ける

わたしたちにできる一つ目のこと、それは笑う習慣を身に付けることです。皆さんは、運転中にだれかがが下手な運転をする時、自分自身の名誉はおろか、家族や飼い犬、果てはアダムに至るまでのすべての先祖が侮辱されたかのように反応する人を見たことがありますか。あるいは、運悪く開けっ放しになっていた戸棚に頭をぶつけた人が、戸棚に向かってののしり、仕返ししている場面に出くわしたことがありますか。

そのようなときに良い解毒剤があります。笑うことです。

子供たちをワゴン車に乗せて、ロサンゼルスに向かっていたときのことで、車には少なくとも9人が乗っていて、何度も道に迷いました。わたしたちは腹を立てる代わりに笑いました。道を間違える度に、さらに大笑いしました。

わたしたちにとって道に迷うことは普通でした。ユタ州シダーシティーを目指して南下する途中で道を間違え、2時間後に「ネバダ州へようこそ」という標識を見るまで気づかなかったこともあります。でも怒らずに笑ったおかげで、怒りや憤りとはほとんど無縁でした。よく笑ったおかげで大切な思い出がたくさんできました。

娘の一人が友達の紹介でブラインドデート(訳注——人の紹介で設定される



デートで、当日になって初めて相手と対面する)をしたときのことです。娘が準備をして相手を待っていると、ドアベルが鳴りました。入って来た男性は娘のデートの相手にしては少し年上に見えましたが、娘は礼儀正しく振る舞いました。男性をわたしや妻、ほかの子供たちに紹介し、コートを着て玄関を出ました。娘は車に乗りましたが、車は動きません。やがて、娘は車を降り、真っ赤な顔で戻って来ました。その男性はブラインドデートの相手ではなく、ベビーシッターをする依頼を受けていた我が家の別の娘を迎えに来ていたのです。

わたしたちは腹を抱えて笑いました。実のところ、笑いが止まりませんでした。ほんとうの相手が来たとき、わたしはまだ台所で笑っていて、あいさつに出られません。娘には恥ずかしい思いをさせたのではないかと後で思いました。でも、娘はわたしたちと一緒に笑いましたし、わたしたちは今でも思い出して笑っています。

今度不満の声を上げなくなったら、代

わりに笑ってみてください。そうすれば皆さんの寿命も延び、周りの人の生活ももっと明るくなります。

永遠を求める

わたしたちにできる二つ目のこと、それは永遠を求めることです。逆境にぶつかると、多くの場合、自分だけが問題を抱えていると感じます。納得ができず「なぜわたしが」と考えます。

しかし悲しみはいずれすべての人にやって来ます。皆いつかは悲しみを経験しなければなりません。免除される人はいないのです。

わたしは聖文が好きです。聖文には、アブラハム、サラ、エノク、モーセ、ジョセフ、エマ、ブリガムなど、偉大で高貴な男女の模範が載っているからです。どの人も、逆境と悲しみを経験し、人格が試され、強められ、精錬されました。

落胆、苦悩、悲しみの時期を堪え忍ぶことは、人生で経験する実地訓練の一部です。それらは当座は堪え難いものです

が、そのような経験こそ、まさにわたしたちの理解力を広げ、人格を築き、人に対する思いやりを増してくれるのです。

イエス・キリストは大いに苦しまれたので、人の苦痛と悲しみを理解しておられます。わたしたちも試練を受けることによって、さらに人を思いやり、理解できるようになります。

暗く、息が詰まるようなリバティーの監獄で、預言者ジョセフ・スミスが同僚たちと苦しんだときに救い主が語られた崇高な言葉を思い出してください。「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」¹

永遠の見地を示すその言葉によって、ジョセフは慰められました。わたしたちも同じです。苦痛のあまり倒れそうになっているまさにその瞬間こそが、最終的な勝利に欠かせない瞬間となることもあるのです。

報いの原則

わたしたちにできる3つ目のこと、それは報いの原則を理解することです。主は忠実な人が受けた損失にすべて報いてくださいます。主を愛する人々から奪われたものは、主の方法によって加えられます。わたしたちが希望するときにもたらされないかもしれませんが、忠実な人々が今日流した1滴の涙は、後に100倍もの喜びの涙、感謝の涙となって戻って来るでしょう。

福音の祝福の一つは、死の幕が下り現世の生涯が終わりを告げても、幕の裏側では命が続いているという真理を知っていることにあります。そこでは、わたしたちは新しい機会を与えられます。死でさえも、愛にあふれる天の御父が約束してくださった永遠の祝福をわたしたちから奪い去ることはできません。

天の御父の憐れみにより、報いの原則が勝利を得ています。そのことをわたしは目の当たりにしています。孫のジョセフは自閉症です。ジョセフの両親は、胸が張り裂ける思いで、それが意味する現実に直面しました。彼らはジョセフがほかの子供のように成長しないことを知りました。これがジョセフ自身に、そして家族全員に対して何を意味するかを理解しました。しかし、ジョセフがいるのは大きな喜びです。自閉症の子供は感情を表現するのが苦手ですが、ジョセフは一緒にいるときいつもわたしを力強く抱き締めてくれます。試練もありますが、ジョセフのおかげで生活は喜びに満ちています。

両親はジョセフにスポーツをするよう励ましました。初めて野球をしたとき、外野を守りました。しかし、打球を追いかける理由がよく理解できなかったジョセフは、試合の能率を上げる方法を思いつきました。自分の方に打球が飛んで来ると、ボールが通り過ぎるのを見守り、ポケットから別のボールを取り出してピッチャーに投げたのです。

ジョセフを育てるうえで家族が抱えていたどんな不安も、彼らが払ったどんな犠牲も、10倍になって戻って来ました。このえり抜きの霊を育てたおかげで、ジョセフの両親は、障がいを持つ子供について多



くを学びました。家族、近所の人々、友人の寛容さと思いやりを、身をもって知りました。ジョセフの両親は、ジョセフの成長をとともに喜び、ジョセフの善良さに驚嘆しました。

天の御父とその御子イエス・キリストを信頼する

わたしたちにできる4つ目のこと、それは天の御父とその御子イエス・キリストを信頼することです。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」² 主イエス・キリストはわたしたちの仲間、助け手、弁護者であられます。主はわたしたちが幸福になり、成功するよう望んでおられます。わたしたちが自分の分を果たすなら、主は助けてくださいます。

万物の下に身を落とした御方が助けに来てくださいます。主はわたしたちを慰め、支えてくださいます。弱さを強くし、悲嘆の中にいるわたしたちを強めてくださいます。弱さを強さに変えてくださいます。³

娘の一人が赤ちゃんを出産した後に重い病気になりました。わたしたちは彼女のために祈り、癒しの祝福を施し、できる

かぎり支えました。彼女が祝福されて癒されることを願っていましたが、数日が数か月に、数か月が数年になりました。あるとき、これは一生闘わなければならない病気かもしれないとわたしは娘に告げました。

ある朝、小さなカードを取り出してタイプライターに挟みました。次の言葉はそのとき娘のためにタイプした言葉の一節です。「簡単な秘訣を教えよう。主を信頼し、最善を尽くしたら、後は主にお任せすることだ。」

娘は確かに神を信頼していました。しかし病気はよくなり何年も苦しみました。でも時がたち、主が娘を祝福され、次第に健康を取り戻しました。

この娘の性分からすると、たとえ病気が和らがなかったとしても、天の御父を信頼し「後は主にお任せ」していたことでしょう。

結論

母は随分前に永遠の報いを受け取りに逝ってしまいましたが、母の言葉は常に心の中に残っています。遠い昔、わたしのフットボールチームが負けたときの助言を今も覚えています。「どんな出来事も愛しなさい。」

すべての事物になぜ反対のものが必要なのか、わたしは知っています。正しく扱うなら、逆境から祝福が得られ、わたしたちは逆境を愛せるようになるのです。

ユーモアを探し、永遠の見地を求め、報いの原則を理解し、天の御父に近づくときに、困難や試練を堪え忍ぶことができます。わたしの母のように「どんな出来事も愛しなさい」と言うことができるのです。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

注

1. 教義と聖約121:7-8
2. ヨハネ3:16
3. エテル12:27参照

天使の務め

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

困難に直面するわたしたちを神がほうっておかれることは決してありません。神は必ず助けてくださいます。



アダムとエバは自ら進んで死すべき世での生活を始めたとき、この星の栄えの世界には、いばらとあざみ、そしてあらゆる種類の苦難が待ち受けていることを知っていました。しかし恐らく、二人が最も困難だと感じたのは、耐えるべき苦難や危険ではなく、神から遠ざかってしまったこと、ともに歩み、言葉を交わし、顔を合わせて助言を受けていた御方から離れてしまったことだったでしょう。意識的に行ったこの選択の結果について、創造の記録にはこう記されています。「主を目にすることはなかった。彼らは主の前から締め出されていたからである。」¹ あらゆる不安の中で二人が何よりも心配していたのはこのことだったに違いありません。

しかし神は二人が直面する困難を御存じでした。時にはひどい孤独を感じ、悩みを抱えることを確かに御存じでした。

このため、神は現世の家族を絶えず見守り、常に祈りを聞かれました。そして、教え、助言を与え、導くために預言者(後に使徒)を遣わされました。特に必要のある場合は、天使すなわち神の使者を遣わして、御自身の子供たちに祝福を授け、天がいつもすぐ近くにあり、神の助けをいつでもすぐに得られることを告げ、安心させられました。実際、アダムとエバは荒涼とした寂しい世界に来てから、すぐに天使の訪れを受け、² 犠牲をささげることの意味と、来るべき約束の贖い主による贖罪の役割について教えを受けました。

救い主の降誕が近づくと、天使がマリヤに遣わされ、神の御子の母となることを告げました。³ その後、幼いイエスがお生まれになった夜には、天の軍勢が歌うために遣わされました。⁴ それから間もなく、天使がヨセフを訪れ、赤ん坊に危険が迫っていること、安全のために、この小さな家族はエジプトへ逃れなければならないことを告げました。⁵ 危険が去った後、家族は天使からそのことを告げられて、3人で受け継ぎの地に戻りました。⁶

初めから、後の神権時代に至るまで、神は天使を使者として使い、御自身の子供たちに愛と関心を示されました。聖典や末日の歴史には、天使が地上の人々を教え導いた記録が随所に記されていて、この限られた時間では、その一端を説明することもできません。しかし、天使の務めに関する教義には大きな価値があり、末日の教会の歴史には非常に多くの実例を見ることができます。

通常、天使の存在は目に見えませんが、

見えるときもあります。見えても見えなくても、いつも近くにいるのです。天使は世界全体に影響を及ぼすほど大きな使命を担うこともあります。もっと個人に向けたメッセージを携えて来ることもあります。時には警告を目的とすることもあります。しかしほとんどの場合、困難なときにあって慰めを与え、何らかの形で憐れみに満ちた関心を示し、導くために訪れるのです。夢の中で、リーハイは恐ろしい場所にいました。自ら「暗くて寂しい荒れ野」と書いています。リーハイは天使に出会いました。「その人……は白い衣を着ていて、……わたしに言葉をかけて、後について来るように言った」⁷ と記しています。リーハイは天使の後について行き、安全な場所、そして最終的には救いの道へと導かれました。

わたしたちは皆人生の旅路において、「暗くて寂しい」場所、つまり悲しみや恐れ、失意といった状況に身を置くことがあります。現在、世界中の人々が、財政危機、エネルギー問題、テロリストの攻撃、自然災害などに苦しんでいます。これらのことは、個人や家族に、住む家や食糧の不安だけでなく、子供たちの将来の安全と幸せについて、また、末日の預言にある地球の行く末について不安を抱かせることになります。これら以上に深刻であり、時にこれらと関連を持つのが、倫理、道徳、霊的な事柄についての墮落です。これは、人の住む所であれば規模を問わず、家庭の内外で起きています。しかし天使は、アダムとエバ、預言者、そして世の救い主をも助けるために遣わされたように、わたしたちを助けるために今でも遣わされていることを証します。マタイは福音書の中で、サタンが荒れ野でキリストを誘惑した後、「御使たちがみもとにきて仕えた」⁸ と記しています。神御自身である神の御子でさえ、地上におられた間、天の慰めを必要とされました。ですから、天使は時の終わりで、義にかなった人々を教え導くでしょう。後に天使となった息子のモロナイにモルモンが語ったとおりです。

「奇跡の日は終わってしまったと言えるであろうか。

天使が人の子らに現れることは、終わってしまったのであろうか。神は聖霊の力を人の子らに与えられなくなったのであろうか。時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面に救われる人が一人でもいるかぎり、神は聖霊の力を与えるのを控えられるのであろうか。

見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。……天使が人に現れて教え導くのも、信仰による。……。

見よ、天使はキリストに従っており、深い信仰と確固とした心をもって、あらゆる方法で神を敬う者に自分自身を示し、キリストの命じられる御言葉のとおり^{みことば}に教え導いている。』⁹

わたしの声の届く所にいるあらゆる人をお願いします。勇気と信仰を持ってください。そして、御自分が「[わたしたちの戦い]と、[わたしたちの]子供たち[の戦い]と、[わたしたちの]子供たちの子孫…の戦いを戦う」¹⁰と言われた主の御言葉を覚えていてください。そのような守りを受けるために何をすればよいのでしょうか。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。[わたしたち]がまっすぐに歩み、……交わした聖約を思い起こすならば、万事が[わたしたち]の益となるようにともに働くであろう。』¹¹ 末日は恐れおののく時ではありません。信じて、聖約を思い起こす時です。

必要なときに、祝福を受けるために遣わされる天の助け、すなわち天使について話していますが、神の御手に使われる者という意味では、すべての天使が幕のかなたから遣わされるのではないということ覚えておきましょう。ここで、今、そして日々、ともに歩き語り合う人の中にも天使はいます。近所に住む人の中にもいます。わたしたちを産んでくれた人たちもそうです。わたしにとっては、結婚してくれた人も天使の一人です。善良で清い人々の、親切で献身的な行いの中に神の愛を見るときほど、天を身近に感じるときはありません。彼らの善良さと清さを言い表すのに「天使のような」という言葉以外は思い浮かびません。さきほどの開会の祈りの中で、ジェームズ・ダン長老が、

初等協会から成る聖歌隊の子供たちを表現するのにこの言葉を使いました。それは当然のことです。この子供たちの気持ち、顔、そして声を心にとどめ、目に焼きつけながら、わたしの友人であり、ブリガム・ヤング大学の同僚であった故クライン・D・バラス兄弟の経験談を、彼の妻マリリンと家族の許しを得て紹介しましょう。

アイダホ州の大きな農場での少年時代を振り返りながら、バラス兄弟は、乳搾りの時刻までに牛を集める夜の仕事について話しました。牛は、時折洪水を起こすティートン川流域の草原に放牧されていたため、洪水が起きやすい春の間は、たとえ牛が危険を冒して川を渡ろうとしても、子供たちは決して後を追いかけはならないというのがバラス家の厳しい規則でした。必ず家に戻って、大人の助けを求めることになっていました。

バラス兄弟が7歳の誕生日を迎えて間もないある土曜日、両親は、家の手伝いを時間内に終えたら、夜、映画に連れて行ってくれると約束しました。クラインが牧場へ行くと、捜していた牛が、洪水の警戒水位を越えた川を渡ってしまっている

ことが分かりました。心待ちにしていた夜の映画に行けなくなるかもしれないと思った彼は、何度も警告されていたにもかかわらず、独りで牛を追いかけることにしました。

年老いた馬のパナーに乗り、彼は急いで、冷たく、流れの速い川に入りました。増水し、馬の頭がやっと水面に出るほどです。馬に乗った大人であれば大丈夫だったかもしれませんが、まだ小さいバラス兄弟の全身は水中に潜ってしまいました。馬が呼吸をしようと何度か顔を上げるときだけ、クラインも顔を水面から出してあえぐように空気を吸うことができました。

ここでバラス兄弟自身の言葉を紹介します。

「ようやくパナーが対岸によじ登ったとき、わたしはもう少しで命を落とすところだったこと、とんでもないことをしたこと¹²に気づきました。分かっているながら父の言葉に従わなかったのです。埋め合わせをするには牛を無事に連れ戻すしかないと思いました。そうすれば父は赦してくれるかもしれません。しかし、辺りはすでに薄暗くなっており、自分がどこにいるのかも



よく分かりません。絶望感に襲われました。びしょぬれで寒く、方角を失い、怖くなってきました。

わたしは地面に降りると、バナーの足もとに倒れ込んで泣き始めました。泣きじゃくりながらも、祈ろうとしました。何度も何度も天の御父に言いました。『ごめんなさい。赦してください。ごめんなさい。赦してください。』

長い間祈りました。ようやく頭を上げると、涙の向こうに白い服を着た人が歩いて来るのが見えました。わたしは暗闇の中で、祈りの答えとして天使が遣わされたに違いないと思いました。人影が近づいて来ましたが、わたしは身じろぎ一つせず、物音も立てませんでした。目の前の光景に圧倒されていたのです。とても不従順だったわたしに主はほんとうに天使を遣わされたのでしょうか。

すると、聞き覚えのある声がありました。『クライン、ずっと探していたんだよ。』暗がりの中でそれが父の声だと分かったわたしは、走って行って父の広げた両腕に飛び込みました。父はわたしをしっかりと抱き締めて、優しく言いました。『心配したよ。おまえを見つけれられてよかった。』

どれほど申し訳なく思っているかを伝えようとしたのですが、震える唇から途切れ途切れに出て来たのは『ありがとう……真っ暗……怖い……川……独りぼっち』という言葉だけでした。わたしが牧場から戻らなかったため、父が捜しに来てくれたことは夜になって分かりました。わたしも牛もいなくなっていたので、父はわたしが川を渡り、危険な目に遭っていると分かったのです。辺りはすでに暗く、事態は急を要していたので、父は長くて白い保温下着以外はすべて脱ぎ、靴を首の周りに結びつけて、言うことを聞かない息子を救うために危険な川を泳いで渡ってくれたのでした。』¹²

愛する兄弟姉妹、わたしは天とこの世に天使がいることを証します。困難に直面するわたしたちを神がほうっておかれることは決してないこと、そして神は必ず助けてくださることを証します。「時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面



に救われる〔男性、女性、または子供〕が一人でもいるかぎり、神がわたしたちをお見捨てになることはありません。¹³ 全世界のあらゆる人が、あるいは自分だけが、神から遠ざかり、天が閉じられ、暗くて寂しい場所に独りで迷い込んでいると感じることがあるかもしれません。多くの場合、その苦しみは自分の行いが原因なのですが、それでも全人類の御父は見守り、助けてくださいます。そして、目に見えるか見えないか、知っているか知らないか、死すべき体か不死の体かは別にして、天使たちは常に周りにいてくれるのです。

モンソン大管長の好きな聖句の一つには、主が与えられた次の約束が載っています。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう」¹⁴ この約束を今以上に喜んで信じ、さらに感謝できますように。天使の訪れを祈りながら、人に親切な言葉をかけ、助け、信仰と「わたしたちが」交わした聖約¹⁵を宣言することによって、わたしたち自身が、もう少し天使のように

なることができますように。そうするなら、だれかが、ひょっとすると初等協会の子供が「……真っ暗……怖い……川……独りぼっち」と叫んでいるとき、わたしたちが神から遣わされる使者となることができることでしょう。そのような神の使者になることができるよう、イエス・キリストの神聖な御名によって、アーメン。

注

1. モーセ5：4。
2. モーセ5：6-8参照
3. ルカ1：26-38参照
4. ルカ2：8-14参照
5. マタイ2：13-15参照
6. マタイ2：19-23参照
7. 1ニーファイ8：7、5-6
8. マタイ4：11
9. モロナイ7：35-37、30
10. 教義と聖約98：37；強調付加
11. 教義と聖約90：24
12. クライン・D・パラス、『リアホナ』1995年11月号F5-F7参照
13. モロナイ7：36
14. 教義と聖約84：88
15. 教義と聖約90：24

子供さえも理解できる

七十人

ジェラルド・コセー長老

神は、御自身のすべての子供たちが、教育の高さや知的能力に関係なく、神に関する真理を理解できるようにされました。



親はよく、大人の質問に対するわが子の返答に、意表を突かれることがあります。ある夜、妻とわたしが出かけているときのことでした。ベビーシッターをしてくれた女性が子供たちの祈りに興味を引かれ、こう尋ねたそうです。「でも、あなたたちの宗教とわたしの宗教はどう違うの？」8歳の長女はすぐさまこう答えました。「ほとんど同じよ。ただ、わたしたちの方がたくさん勉強しているだけ！」幼い娘はベビーシッターの気分を害するつもりなど毛頭なく、末日聖徒にとって知識の探求が大切であることを自分なりに強調したかったようです。

ジョセフ・スミスはこう宣言しています。「人が無知で救われることは不可能である。」(教義と聖約131:6)さらに、次のように付け加えています。「知識の原則は、すなわち救いの原則です。……救いに必要とされるだけの知識を得ていない人は皆、

罪に定められるでしょう。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』211-212)この知識は神とイエス・キリストの性質への理解、そしてわたしたちがみもとへ戻れるように御二方が用意された救いの計画への理解に基づいています。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3)

知識の原則はしばしば人に誤解されてきました。「神の栄光は英知である。」(教義と聖約93:36)それはわたしたちの知的能力で理解できるあらゆる知識を超越しています。神を見いだそうとする人の中には時々、複雑な概念の中に神を捜し求めなければならないと思う人がいます。

しかし、天の御父はわたしたちのためにいつもそばにいてくださいます。御父は人の理解できるレベルに合わせてくださいます。「イエスは幼い子供のもとに来られると、幼い子供の言葉と能力に合わせてられる。」(ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第3巻, 392で引用)

もし福音が知的レベルの高い人にしか理解できないとすれば、神はほんとうに不公平な御方になっていたでしょう。しかし慈しみ深い神は、御自身のすべての子供たちが、教育の高さや知的能力に関係なく、神に関する真理を理解できるようにされました。

実際のところ、子供さえも原則を理解できることは神の力の何よりの証拠です。ジョン・テラー大管長はこう述べています。「人にとってまことの英知とは、奥義や大い

なるテーマを採り上げて、子供が理解できるようにそれを展開し、単純に表現することです。」(“Discourse,” *Deseret News*, 1857年, 9月30日付, 238) 純粹で単純な表現を用いると、そこから受ける印象を弱めてしまうどころか、それによって聖霊が人の心にさらに強い確信をもって証してください。

地上での務めを果たされている間、イエスは、パリサイ人やほかの律法学者たちのねじれた論理と御自身の教えの簡潔さや真正さを何度も比較されました。パリサイ人や律法学者たちは何度も主に難問を投げかけて試そうとしましたが、主の答えはいつも明白で、その簡潔さは子供のようでした。

ある日、イエスの弟子たちは次の質問をしました。「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか。」

イエスは一人の幼い子供を呼び寄せて弟子たちの真ん中に立たせ、こう答えられました。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国に入ることはできないであろう。

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」(マタイ18:1, 2-4)

別のときにもイエスはこう言われました。「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。」(ルカ10:21)

聖書は恐らく、ほかのどの書物よりも多くの解釈や哲学的な論争のテーマとなってきました。しかし、聖書を初めて読む子供は、聖書を専門的に研究する人々の大半と少なくとも同等、あるいはそれ以上に教義を理解するでしょう。救い主の教えはだれにでも分かるものです。子供は8歳の時点で十分な理解をもってバプテスマの水に入り、完全な理解をもって神と聖約を交わすことができます。

イエスのバプテスマの話を読んだ子供はどんなことを理解するのでしょうか。イエスはヨルダン川でバプテスマのヨハネからバプテスマを受けられました。聖霊が「はどのような姿をとって」イエスのうえに

くだ
降られました。そして声が聞こえました。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(ルカ3:22)その子供は、神会、すなわち完全に一致した三人の別々の御方であられる父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊についてはっきりと理解するでしょう。

簡潔さと明瞭さの原則を拒絶することは、集団と個人、どちらにおいても多くの背教の原因となってきました。モルモン書の中で、預言者ヤコブは古代の人々を非難しました。彼らは「分かりやすい言葉を侮り、預言者たちを殺し、自分たちの理解できないものを求めた。それゆえ、彼らは的のななたに目を向けたために盲目となり、盲目のために墮落しなければならなかった。神が分かりやすいことを彼らから取り去り、彼らが理解できないことを多く伝えられたからであり、彼らがそれを望んだためである。」(ヤコブ4:14)

時々、わたしたちは、高慢のためにエリシャの勧告に従うことをためらったスリヤ軍の長ナアマンのように、「それは簡単

さ」と思いたくなるかもしれません。ナアマンから見て、エリシャの勧告は重い皮膚病を治すには簡単すぎたのです。僕たちはその愚かさを彼に気づかせました。

「『わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに「身を洗って清くなれ」と言うだけではありませんか。』

そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえて幼な子の肉のようになり、清くなった。」(列王下5:13-14)

ナアマンの清めは肉体だけではありませんでした。謙遜けんそんになってこのすばらしい教訓を受け入れたとき、彼の霊も清められたのです。

幼い子供たちは驚くべき学習意欲を持っています。教師に完全な信頼を寄せ、清い霊と非常に謙遜な心を持っています。つまり、聖霊を招くと同じ特質です。聖霊を通してこそ、わたしたちは霊に関する

事柄の知識を得られます。パウロはコリント人にこう書きました。「それと同じように神の思いも、神の御霊みたま以外には、知るものはない。」(1コリント2:11)

パウロはさらに付け加えています。「生れながらの人は、神の御霊たまものの賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(1コリント2:14)

わたしたちは、肉欲の人、あるいは生まれながらの人が「聖なる御霊の勧めに従……わなにかぎり、……神の敵となる」ことを知っています。神の敵にならないためには、「子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わな[ければ]」なりません(モーサヤ3:19)。

アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリはその哲学的短編小説『星の王子さま』で一人の少年の混乱を描いています。庭一面のバラを発見した少年は、自分が持っている、愛情を込めて育てた花が特別なものではなく、とても平凡であることに気づきます。そして、自分のバラを特別にしているのは外見上の美しさではなく、それを世話するのにかけた時間と愛情であることに気づきます。少年は驚嘆して言います。

「きみの住んでるとこの人たちったら、おなじ一つの庭で、バラの花を五千も作ってるけど、……じぶんたちがなにがほしいのか、わからずにいるんだ。

だけど、さがしてるものは、たった一つのバラの花のなかにだって、すこしの水にだって、あるんだがなあ……。

だけど、目では、なにも見えないよ。心でさがさないとね。」(岩波少年文庫『星の王子さま』サン＝テグジュペリ作、内藤濯訳、131-132)

同じように、神に関するわたしたちの知識もどれくらいの情報量を蓄積できるかで決まるわけではありません。結局、救いに重要な福音のすべての知識は、幾つかの教義や、原則、基本的な戒めに要約



でき、これらは皆すでに、バプテスマの前に受ける宣教師の教えに含まれています。神を知ることは、霊的な理解力とこれらのわずかな教義の基本的な事柄が真実であるという強い証を得るために心を開くことなのです。神を知るとは、神の存在に対する証を持ち、神がわたしたちを愛しておられることを心に感じることです。また、イエス・キリストを救い主として受け入れ、主の模範に従いたいという熱烈な望みを持つことです。神と隣人に仕えるとき、わたしたちはキリストについて証し、周りの人がさらによく主を知ることができるように助けます。

これらの原則を実践する具体的な方法はワードや支部で教えられています。教会で教える皆さん、皆さんのレッスンの第一の目標は人の改心です。レッスンの質は、生徒に新しい情報を幾つ伝えたかで測られるのではありません。御霊を招き、生徒が決意できるように動機づけることができたかで測られるのです。生徒の霊的な知識が増すのは、彼らが信仰を働かせて、教えられたレッスンを実行に移したときです。

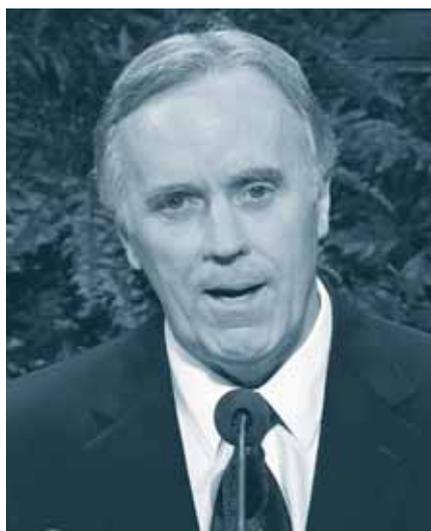
わたしたちが幼い子供のように心を開き、簡潔で力強い神の御言葉に耳を傾け、それを実践することを喜びとする方法を知ることができますように。もしそうするなら、わたしたちが「〔神の〕数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすもの」に関する知識を得られることを証します(教義と聖約42:61)。イエス・キリストの御名により、アーメン。

道

七十人

ローレンス・E・コーブリッジ長老

幸福と充足感を得る道はただ一つです。イエス・キリストがその道です。



イエス・キリストはアルパでありオメガ、初めであり終わりである

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。……」

この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。¹

主は言われました。「わたしはアルパでありオメガであり、主なるキリストである。すなわち、わたしは初めであり終わりである者、世の贖い主である。」²

主は言われました。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」³

主は言われました。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」⁴

主は言われました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」⁵

主は言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」⁶

主は言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」⁷

イエス・キリストは道です。光であり、命です。パンであり水です。初めてあり終わりです。よみがえりであり、命です。世の救い主、真理、道です。

幸福と充足感を得る道はただ一つです。主がその道です。ほかの道は、どのような道であれ愚かな道です。

主は生ける水の泉を与えてくださいます。その水を飲む人は、二度と渴きを覚えませんが、その水を飲まない人は、愚かにも渴いたままです。

主は命のパンです。それを食べる人は、二度と飢えませんが、食べない人は、愚かにも弱く、飢えたままです。

主は世の光です。主に従う人は、物事をはっきりと理解できますが、従わない人は、愚かにも盲目のまま、闇の中にとどまるのです。

主はよみがえりであり、命です。主はこう言われました。「……わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。」⁸ 主から学ぶ人はいっそう豊かな人生を送りますが、⁹ 愚かにも学ばない人の

人生は枯れたままです。

主は世の救い主です。主の贖いの祝福を受け入れる人は、清められて汚れがなくなり、主の御霊を受けるのにふさわしくなりますが、そうでない人は、愚かにも孤独で汚れたままとどまるのです。

主がその道です。

ほかに神はおられない

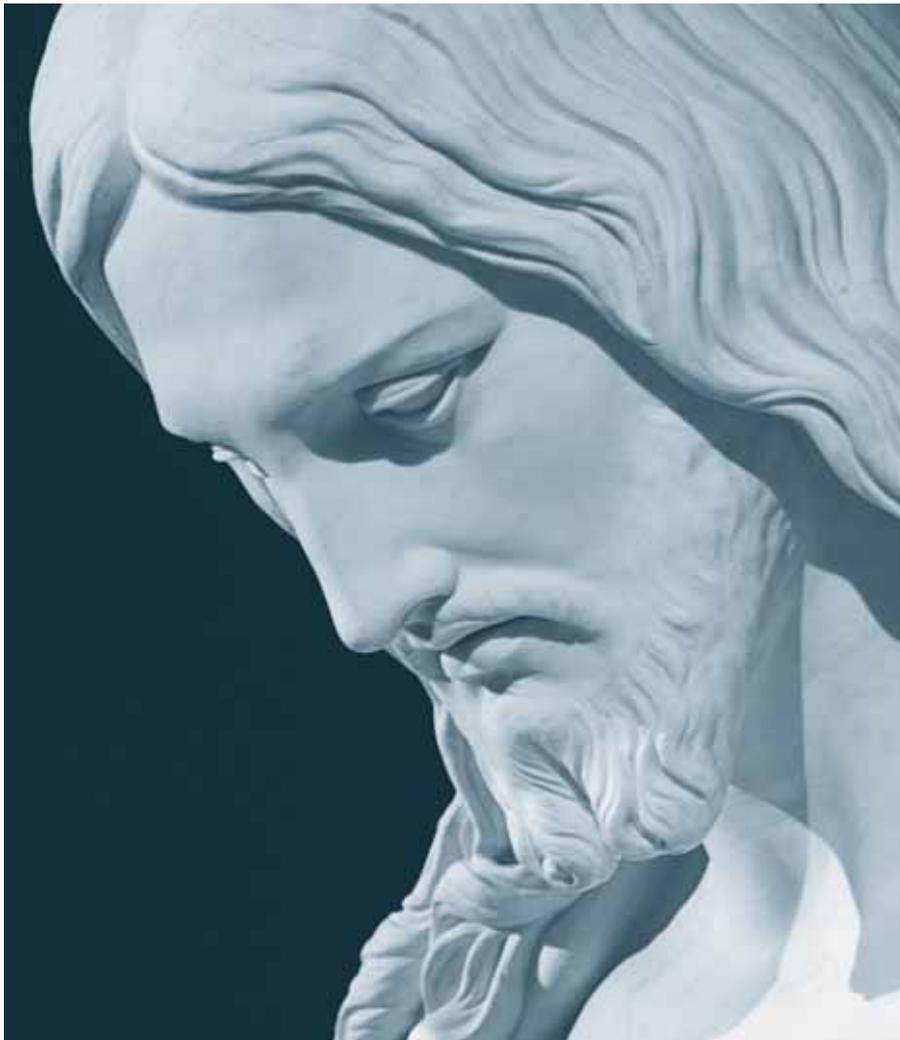
「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じ」¹⁰ています。御父の計画は御子により受け入れられ、実行されました。わたしたちが聖霊の御霊を受けられるようにするためです。御父の道は御子の道です。主は言われました。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」¹¹

神のみがわたしたちを祝福してください。神のみがわたしたちを養い、心臓を鼓動させ、息を与えてください。神のみがわたしたちを支えて守り、人生の重荷に耐える強さを下さいます。神のみが力と知識、平安と喜びを下さいます。また、わたしたちの罪を赦し、癒し、わたしたちを変え、信心深い心を作り上げられます。神のみがわたしたちを御父のみもとへ連れ帰ることがおできになります。わたしたちが主を覚えて主の戒めを守りさえするならば、主はそれ以上のことをしてください。わたしたちは何をすればよいのでしょうか。主を覚えて、主の戒めを守ることです。それがなすべき唯一の賢い行いです。

イエスは御霊によりバプテスマをお授けになる

バプテスマのヨハネは、自分は水でバプテスマを授けるが、イエスは「御霊によって」¹²バプテスマを授けるために来られたと言いました。

この世の人生において、天から与えられる聖霊の賜物よりも価値のあるものはほかにありません。それは喜び、幸福、平安、知識、強さ、導き、確信、愛、その他すべての良いものの源です。わたしたちは弱いとき、聖霊の力によって変わり、強められます。また、聖霊の力は神権を伴



い、婚姻関係と家族関係を永遠に結び固めます。¹³ 聖霊の力によって、主は主を信じる者に御自身を現されます。¹⁴ あらゆる良いことは、わたしたちが生活の中で聖霊の力を受け、保てるかどうかにかかっています。それがすべてを左右するのです。

そのために、イエス・キリストはゲツセマネという園に入り、わたしたちのために罪を克服されました。わたしたちの罪を御自身が背負われ、わたしたちの過ちの罰のために苦しみました。わたしたちに経験を得させるための代価を支払われました。どのようにして行われたのか、何をなされたのかは分かりません。ただ分かるのは、主がそれを行われ、それゆえにわたしたちは罪を赦され、主の力を授けられるということです。それでは、わたしたちは何をすればよいのでしょうか。御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守り、いつも

御子の御霊を受けられるようにすることで、¹⁵ すべてはそれにかかっています。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い

世間で最も広く通用している魅力的な人生哲学は、「自分の人生は自分自身で好きなようにすればよいのであって、他人に指図されない」というものです。しかし、主は言われました。「わたしは道であ[る]」¹⁶、「わたしに従ってきなさい。」¹⁷「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでないければならない。」¹⁸

不可能だと思わないでください。主の標準は、わたしたちにはとうてい到達できないほどきわめて高いため、実際には主に従うことはできないと考えがちですが、それは誤りです。少なくとも現在は、あまりにも困難で高く、能力を超えている



教会指導者の教えを聞くことができ喜びウクライナの姉妹たち。

と思うかもしれません。そのような考えを持ってはいけません。確かに主の標準は最高の標準ですが、最も能力の高いえり抜きのわずかな人だけしか到達できないとは考えないでください。

このような考えは、人生経験から誤って導き出された結論です。この世の経験によれば、人間のどんな試みであろうと最も優れた業績を残すことはいつも困難です。それゆえ、最も能力のあるえり抜きのわずかな人だけしか達成できません。標準が高くなればなるほど、達成できる人は少なくなります。

しかし、それはここでは当てはまりません。なぜなら、この世におけるいかなる経験とも異なり、この業は人間の努力による業ではなく、神の業だからです。神の業、すなわち「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」¹⁹ 神の栄光なのです。このようなものはほかに何もありません。いかなる場所や時代にもありません。

かつて人が考えたいかなる取り組み、機構、計画、事業、制度の中にも、人を罪から救い、人生を変えるイエス・キリストの贖いの力と聖霊の賜物を授けてくれるものはほかにありません。ですから、主に

従うようにという主の招きは最高の標準ですが、だれにでも達成できるものです。わたしたちにその力があるからではなく、主がその力を持っておられ、わたしたちにもできるように助けてくださるからです。「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じ」²⁰ ています。

主の道は困難ではありません。人生は困難ですが、福音はそうではありません。どこでも、まただれにとっても、「すべての事物には反対のものがなければならない」²¹ のです。人生はだれにとっても困難ですが、また簡潔でもあります。選択肢が二つあるのみです。²² 一つは、主に従い、主の力を授かり、平安、光、強さ、知識、確信、導き、愛、喜びを得る道です。もう一つは、どのような道であれほかの方向へ進み、主の支えや力、導きを受けずに、混乱と疑惑、悲痛と絶望の中を孤独に生きる道です。どちらの道がたやすいでしょうか。

主は言われました。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

……わたしのくびきを負うて、わたしに

学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」²³

人生は困難ですが、簡潔です。道をそれず、どんなことがあっても決してあきらめてはいけません。あきらめる必要はないのです。ひたすら前へ進むのです。あきらめなければ、きつとうまくいきます。

幸福と充足感を得る道はただ一つです。イエス・キリストがその道です。ほかの道は、どのような道であれ、狂気と錯乱に満ちています。

主イエス・キリストは生ける神の御子であり、命のパン、真理、よみがえり、そして命、救い主であり世の光であられると証します。主は道であり、唯一の道です。

主に従う方法をよく知ることができますように。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ1：1, 4
2. 教義と聖約19：1
3. ヨハネ4：14
4. ヨハネ6：35
5. ヨハネ8：12
6. ヨハネ11：25, 26
7. ヨハネ14：6
8. ヨハネ6：63
9. ヨハネ10：10参照
10. 信仰箇条1：1
11. 出エジプト20：3
12. ヨハネ1：33
13. 教義と聖訳132：7, 19参照
14. 2ニーファイ26：13参照
15. 教義と聖約20：77
16. ヨハネ14：6
17. マルコ8：34
18. 3ニーファイ27：27
19. モーセ1：39
20. 信仰箇条1：3
21. 2ニーファイ2：11
22. モロナイ7：15-17参照
23. マタイ11：28-30

シオンに来たれよ

十二使徒定員会

ロ・トッド・クリストファーソン長老

家族とステーキと地方部で、シオン、すなわち新エルサレムの建つあの大きな日に備え、一致と信心と慈愛によってシオンを築く努力をしましょう。



預言者ジョセフ・スミスはこう語りました。「シオンを築き上げることは、あらゆる時代の神の民が関心を寄せてきた大義であり、預言者たち、祭司たち、王たちが、特別な喜びをもって語ってきたテーマです。彼らはわたしたちが生きている時代を、喜びに満ちた期待をもって待ち望み、すばらしい喜びに満ちた期待に胸を高鳴らせながら、このわたしたちの時代について歌い、書き記し、預言しました。しかし彼らはわたしたちの時代の出来事を見ることなく世を去って行きました。わたしたちは、末日の栄光をもたらすために神に選ばれている恵まれた民です。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』186)

シオンとは、場所と人々の両方を指します。シオンとは、洪水が起こる前に、古代のエノクの町に与えられた名前です。「そして、その生涯に、彼は一つの町を建て、

それは聖なる都、すなわちシオンと呼ばれた。」(モーセ7:19) このシオンはおよそ365年間続きました(モーセ7:68参照)。聖文にはこのように書かれています。「エノクとそのすべての民は神とともに歩み、彼はシオンの中に住んだ。それから、シオンはなくなった。神が御自身の懐にそれを迎え入れられたからである。そのことから、シオンは消えうせたという言葉が広まった。」(モーセ7:69) 後に、エルサレムとエルサレムにある神殿はシオンの山と呼ばれました。聖文には将来の新エルサレムについての預言があり、キリストがシオンの王として統治され、「千年の間、地は安息を得るであろう」と書かれています(モーセ7:53, 64)。

主はエノクの民をシオンと呼ばれました。「彼らが心をつにし、思いをつにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」(モーセ7:18)。別の箇所では、「心の清い者、これこそシオンである」と言われました(教義と聖約97:21)。

シオンの対極にあり、敵対するのはバビロンです。バビロンの町は、もともとはバベルの塔で知られたバベルであり、後にバビロニア帝国の首都になりました。この地で最も目立つ建造物はバアルまたはバアルの神殿です。バアルは、礼拝に際して行われた性倒錯のために、旧約の預言者たちから「恥ずべき者」と呼ばれた偶像です。(『聖句ガイド』『バビロン;バベル』の項参照) 世俗的で、悪を礼拝し、紀元前587年にユダを征服してとりこしたバビロンは、これらなどのすべてから、退廃

的な社会、霊的な囚われの象徴となっています。

このような歴史的背景のもと、主は御自身の教会の会員に語られました。「あなたがたはバビロンから出なさい。もろもろの国民の中から、天の果てから果てまで四方から集まりなさい。」(教義と聖約133:7) 主は御自身の教会の長老たちに、この集合を成し遂げるために全世界へ出で行くよう呼びかけられました。このようにして始まった努力は、今も力強く続けられています。「見よ、見よ、これが彼らの叫びであり、すべての人への主の声である。すなわち、『あなたがたはシオンの地へ行って、わたしの民の境が広げられ、シオンのステーキが強くされ、シオンが周りの地域に及ぶようにしなさい。』」(教義と聖約133:9)

そして今日、主の民は世界各地に広がる末日聖徒イエス・キリスト教会のワードや支部、そしてステーキに集合することで、「もろもろの国民の中から」集まっています。ニーファイは、「占める場所」は小さいものの、主の力が「地の全面に散っている小羊の教会の聖徒たち……に下[り、]……義と神の力とをもって、大いなる栄光のうちに武装」するのを予見しました(1ニーファイ14:12-14参照)。

「まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであり、

シオンの地とそのステーキに集合することが、防御のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となるためである。」(教義と聖約115:5-6)

初期の教会員たちは、預言者ジョセフ・スミスの指示の下で、ミズーリ州にシオンの中心となる場所を築こうと試みましたが、聖なる都を築くのに必要なふさわしさに欠けていました。主は彼らが失敗した理由の一つを次のように述べておられます。

「彼らはわたしが彼らの手に求めたことに従おうとせず、あらゆる悪に満ち、また聖徒としてふさわしく彼らの中の貧しい

者や苦しんでいる者に持ち物を分け与えない。

また、日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に従って結束しない。」(教義と聖約105:3-4)

「彼らの中には、あつれきや争い、ねたみ、対立、およびみだらなむさぼりの欲望があった。それゆえ、これらのことによつて、彼らはその受け継ぎを汚したのである。」(教義と聖約101:6)

わたしたちは、厳しすぎる目を初期の会員たちに向けるよりも、自分たちは彼ら以上にできているだろうかと自問してみるべきです。

シオンがシオンである理由は、その民の性質、特質、忠実さにあります。覚えていてください。「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」(モーセ7:18) 家庭、支部、ワード、ステークにシオンを確立しようと願うなら、次の標準に達しなければなりません。(1) 心と思いにおいて一つとなる。(2) 個人としても、全体としても聖なる民になる、(3) 貧困をなくすため、貧しい人と助けを必要としている人を効果的に助ける。これらの実現をシオンが築かれるまで待つてゐることはできません。これらを実現して初めてシオンが築かれるのです。

一致

シオンが栄えるためには一致が求められますが、その一致を得られているかどうか考えるに当たっては、自分が「あつれきや争い、ねたみ、対立」を克服できているか自問する必要があります(教義と聖約101:6参照)。個人としても民としても、対立や争いを完全に避け、「日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に従って」いるでしょうか(教義と聖約105:4)。この一致を得るには赦し合うことが不可欠です。イエスは言われました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」(教義と聖約64:10)

わたしたち一人一人が救い主を生活の



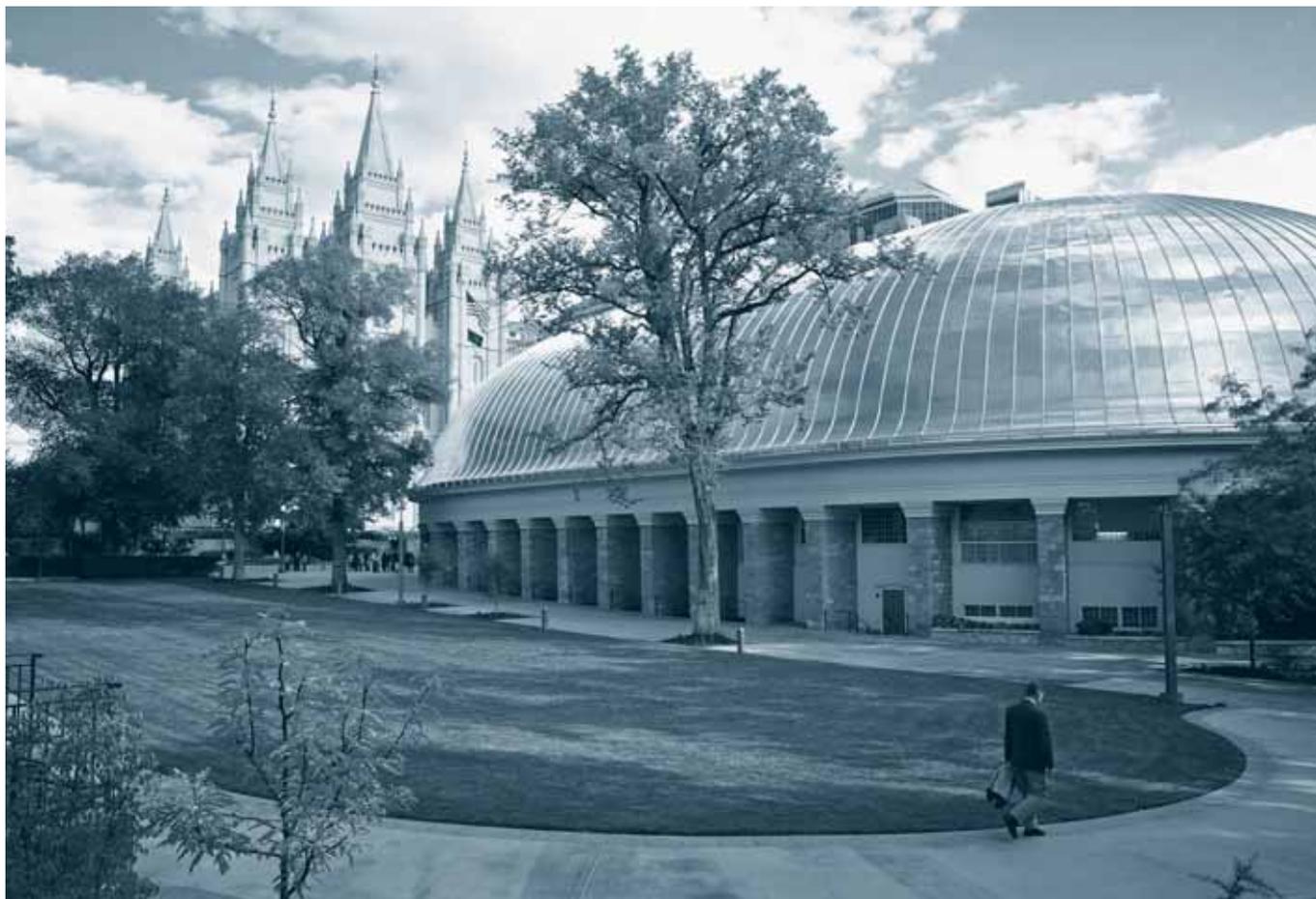
中心に置き、主がわたしたちを導くために任命された指導者に従うとき、心を一つにし、思いを一つにすることができます。互いへの愛と関心において、トーマス・S・モンソン大管長と一致することができるのです。今年4月の総大会で、モンソン大管長は教会から離れている人、またすべての人に向けてこう話しました。「人は良心という自分だけの聖域すなわち悪からの避け所を持っており、それは古い自分を捨てて、自分の持っている可能性を追求するよう駆り立ててくれます。この考えに基づいて、わたしたちは再び心から申します。戻って来てください。わたしたちはキリストの純粋な愛をもって手を差し伸べています。そして、皆さんの力になり、この交わりに歓迎したいと願っています。心が傷ついている人、悩み恐れている人に申します。わたしたちに、あなたを立ち上げさせ、元気づけ、恐れを鎮めさせてください。」(トーマス・S・モンソン「過去を振り返り、前進する」『リアホナ』2008年5月号、89)

今年の7月末、ハンガリーのブダペスト郊外でカンファレンスが開かれ、東ヨーロッパ数か国のヤングシングルアダルトが集まりました。この中に、モルドバから参加した20人の若い男女がいました。何日もかけてパスポートとビザを取得し、30時間以上もバスに揺られてやって来ました。カンファレンスではおよそ15のワークショップが開かれ、各自が最も参加したいと希望する2つか3つのワークショップを選ぶことになっていました。モルドバのヤングアダルトは集まって相談し、自分たちの興味をよそに、各ワークショップに最低一人が参加して詳しいメモを取ることにしました。そして、学んだことを報告し合い、後日、参加できなかったモルドバのヤングアダルトにも伝えることにしたのです。これは一致と互いへの愛を示す、とても分かりやすい好例であり、こうしたことを様々な方法で何度も繰り返していくことで、シオンを再び起こすことができるのです(イザヤ52:8参照)。

聖さ

シオンを築くために必要な業の多くは、「心の清い者」(教義と聖約97:21)になるための個人の努力にかかっています。主は言われました。「日の栄えの王国の律法の諸原則によらなければ、シオンを築き上げることはできない。そうでなければ、わたしはシオンをわたしのものに迎えることはできない。」(教義と聖約105:5) もちろん、日の栄えの王国の律法とは福音の律法と聖約のことであり、それには、わたしたちが常に救い主を覚えること、また従順、犠牲、奉獻、忠誠を誓うことが含まれます。

救い主は初期の一部の聖徒の中にあつた「みだらな……欲望」を非難されました。(教義と聖約101:6、88:121も参照)この人々はテレビや映画、インターネットやアイポッドのない時代に住んでいました。性的な画像、映像、音楽が氾濫する現代、みだらな欲望やそれに類する悪から完全に離れているでしょうか。わたしたちは、かろうじて慎み深いと言える服装をしたり、ポルノグラフィーを見て不道徳におぼれた



りすることなく、義に飢え渴かなければなりません。シオンに来るには、皆さんやわたしが、ほかの人と比べて多少は悪くないという程度では足りません。ただ善い人であるというだけでなく、聖なる男性、聖なる女性にならなければならないのです。ニール・A・マックスウェル長老が語ったように、バビロンの別荘に別れを告げ、シオンを永住の地としましょう(ラリー・W・ギボンズ「だから、心を決めなさい」『リアホナ』2006年11月号、102参照)。

貧しい人の世話をする

主はいつの時代も、貧しい人をどれほど助けたかで社会や個人を計られました。主は言われました。

「地は満ちており、十分にあり余っているからである。まことに、わたしはすべてのものを備え、人の子らが自ら選択し行動する者となるようにした。

それゆえ、わたしの造った豊かなものの中から取りながら、わたしの福音の律法に従って貧しい者や乏しい者に物を分

け与えることをしない者は、悪人とともに、地獄で苦しみながら見上げるであろう。」(教義と聖約104:17-18。56:16-17も参照)

さらに次のようにも言っておられます。「現世のものについて、あなたがたは平等でなければならない。しかもそれが不承不承であってはならない。そうでなければ、豊かな御霊^{みたま}の現れは与えられないであろう。」(教義と聖約70:14。49:20; 78:5-7も参照)

わたしたちは自分の資産や所有物をどう扱うかを自分で決めますが、この世のものをどのように管理したかを神に報告します。断食献金や人道支援プロジェクトを通して惜しみなく援助する皆さんの姿をとてもうれしく思います。長年にわたる聖徒の皆さんの寛大な援助によって何百万という人の苦しみが和らぎ、そのほか数え切れないほどの人が自立できるようになりました。それでも、シオンの大義を求めらるれば、貧しい人、助けの必要な人のために自分が行うべきことを行い、

主の求められることをすべて行っているかどうか、一人一人が祈りをもって検討する必要があります。

わたしたちの多くは所有物や娯楽を礼拝する社会に住んでいます。この世のものをもっと手に入れたという強欲と無縁の生活を送っているかどうか自問してください。物質主義は、バビロンの特徴である偶像礼拝と高慢の一形態にすぎません。わたしたちは、必要な分だけで満足できるようになるはずで

使徒パウロはテモテに、利得を信心と考える人に気をつけるよう警告しました(1テモテ6:5参照)。

「わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。

ただ衣食があれば、それで足りるとすべきである。」(1テモテ6:7-8)

世界の多くの地域が経済的に不安定な時代を迎えています。最善を尽くして互いに助け合いましょう。1975年にサイゴンから難民としてユタ州プロボに移り、小さな



トレーラーハウスで生活を始めたベトナム人の家族の話を思い出します。その家族には若い男性がおり、近くに住む大家族のジョンソン兄弟とホームティーチングの同僚になりました。少年は次のように語りました。

「ある日、ジョンソン兄弟は、我が家の台所にテーブルがないことに気づきました。そして翌日、台所の流し台に面した壁にぴったり合うテーブルを持って現れたのです。それは一風変わっていたものの、機能的なテーブルでした。一風変わったと言うのは、2本の脚はテーブルの天板の柄と調和していましたが、ほかの2本が不釣り合いだったからです。また、古びた天板の一方の縁に沿って木製の小さな釘^{くぎ}が何本も突き出ていました。

そのうちに、わたしたちはこのユニークなテーブルを毎日使って、調理の支度や簡単な食事をするようになりました。それでも家族全員の食事はベトナム風に、今

までどおり床に座って食べました。

ある晩、わたしはジョンソン家の玄関に入って、ホームティーチングに出かけるために待っていました。何げなく近くの台所を見ると、驚いたことに、わたしたちがもらったものと、うり二つのテーブルがあるではありませんか。唯一の違いといえば、我が家のテーブルでは木釘が出ていた縁の部分に、ジョンソン家のものには穴が開いていることでした。それで分かりました。この愛にあふれた兄弟は、わたしたちが困っているのを見て、自宅の台所にあるテーブルを半分にして、それぞれに新しい脚を付けたのです。

ジョンソン家族にとって、この半分になった家具が小さすぎるのは明らかでした。恐らく、完全な状態のときでも十分な大きさではなかったでしょう。……

この親切な行いは、人生を通して、真の施しとは何かをはっきりと思い起こさせてくれます。」(ベス・エリス・リーがソン・クワ

ン・リーから聞いた話「よく似た二つのテーブル」『リアホナ』2004年7月号、45)

預言者ジョセフ・スミスは言いました。「わたしたちはシオンを築き上げることを最大の目標としなければなりません。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』186) 家族とステークと地方部で、シオン、すなわち新エルサレムの建つあの大きい日に備え、一致と信心と慈愛によってシオンを築く努力をしましょう。賛美歌から引用します。

悩めるイスラエル 神呼びませり
バビロン滅びて 塔は倒されん
シオンに來たれよ 喜びに入れ
シオンに來たれよ 主來る日近し
(『悩めるイスラエル』『賛美歌』6番)

シオンの王であるイエス・キリストを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

常に祈りなさい

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

祈りをさらに意義深いものとするために、すべての行いについて主と相談し、心からの感謝を述べ、人のために祈りましょう。



前回の総大会でわたしが伝えたメッセージは、信仰をもって祈り求めるという福音の原則に焦点を当てたものでした。今日は、祈りをさらに意義深いものとするために必要な3つの原則を説明します。わたしと皆さんに聖霊の助けがあるよう祈ります。

原則1：祈りをさらに意義深いものとするために、すべての行いについて主と相談する(アルマ37：37参照)。

端的に言えば、祈りとは、天の御父の地上の息子娘から御父に向けられたコミュニケーションです。「神と自分の真の関係(つまり神が父親で自分がその子供であることを)を知るやいなや、祈りは自然で本能的なものとなる。」(“Bible Dictionary” ‘Prayer’の項、752) 御子の御名によって絶えず御父に祈ることはわたしたちに与えられた戒めです(3ニーファイ18：19-20

参照)。善いものや神の御心みこころに添うものために誠心誠意祈るなら、人は祝福と、守りと、導きを受けると約束されています(3ニーファイ18：20；教義と聖約19：38参照)。

啓示とは、天の御父から地上の子供たちに向けられたコミュニケーションです。わたしたちが信仰をもって求めれば、啓示に啓示を、知識に知識を受け、平和をもたらす事柄と奥義、つまり喜びと永遠の命に至る知識が得られます(教義と聖約42：61参照)。「奥義とは、聖霊の力によってのみ知り、理解し得る事柄」です(ハロルド・B・リー、*Ye Are the Light of the World* [1974年]、211参照)。

御父と御子の啓示は神会の第三の御方、すなわち聖霊を通して示されます。聖霊は御父と御子の証人であり、御二方のメッセージを伝える使者でもあられます。

神が地球を創造されたときの手順を見ることにより、祈りを意義深いものとする方法を学ぶことができます。モーセ書の第3章を読むと、神は万物を自然の法則に従って地上に置かれる前に霊的に創造されたことが分かります。

「さて見よ、わたしはあなたに言う。これが天地創造の由来である。主なる神であるわたしが天と地を造ったとき、

地にはまだ野の植物もなく、また野の草も生えていなかった。主なる神であるわたしは、わたしが語ったすべてのものを、それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造した。」(モーセ3：4-5)

この聖句から、霊的な創造が物質的な創造に先立っていたことが分かります。同

様に、朝の意義深い祈りは、日々の霊的な創造を行うために重要なものであり、その日の物質的な創造、すなわちその日達成する事柄に先立ちます。物質的な創造が霊的な創造の延長線上にあるのと同じように、朝の意義深い祈りと、晩の意義深い祈りは、つながっているのです。

例えば、朝の祈りの中で、自分の性格、行動、霊的な成長に関して、天の御父に相談する必要があるかもしれません。まず祝福に対して十分に感謝します。その次に、自分の力だけではどうすることもできない事柄に対して、理解する力、導き、助けを請います。例えば、祈りながら次のようにすることができます。

- 最愛の人たちに、とげとげしい言葉や不適切な言葉を使ったときのことを思い出す。
- どうすべきか分かっても、いつもそのとおりにできるわけではないことを認める。
- 自分の弱さや、自分の中の「生まれながらの人」を捨てる努力が足りないことを悔やむ。
- もっと完全に救い主のような生活をすると決意する。
- 行いと性質を改善するためにもっと力を願い求める。

このように祈ることは、一日の霊的な備えに欠かせません。

そして、一日中、助けと導きを求めて心の中で祈り続けます。アルマも次のように勧めています。「あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。」(アルマ37：36)

そのようにして一日を過ごすならば、とげとげしい言葉を使いたくなるような場面でもそうしない自分、怒りたくなるような場面でも怒らない自分に気づきます。天の助けと力に気づき、へりくだり、祈りがこたえられたことを認識します。そう認識している間でさえ、心の中で感謝の祈りをささげるのです。

一日の終わりに、再びひざまずいて御父に報告をします。その日の出来事を振り返り、受けた祝福や助けに心から感謝

を述べます。悔い改め、翌日よりよい行動を取り、よりよい人になる方法を、主の御霊の助けを受けて見つけます。だからこそ、夜の祈りは朝の祈りを土台としたものであり、朝の祈りの続きなのです。また、夜の祈りは翌朝の意義深い祈りへの備えでもあります。

朝の祈りと夜の祈り、そしてその間の祈りは、それぞれ関係がないではありません。むしろ、一日、数日、数週間、数か月、数年にわたってつながっているのです。これはある意味で「常に祈りなさい」という聖文の勧告にこたえる方法なのです(ルカ21:36;3ニーファイ18:15, 18;教義と聖約31:12)。そのような意義深い祈りは、神が忠実な子供のために取っておられる最も崇高な祝福を獲得する手段なのです。

わたしたちが神との関係を思い出して次の勧告に従うとき、祈りは意義深いものとなります。

「あなたの必要とするあらゆる助けを神に叫び求めなさい。まことに、あなたが行うことはすべて、主のために行うようにしなさい。どこへ行くにも主にあって行くようにしなさい。まことに、あなたの[あらゆる]思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとしえに主に向けるようにしなさい。

あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださいるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」(アルマ37:36-37。強調付加)

原則2：祈りをさらに意義深いものとするために、心からの感謝を述べる。

ブリガム・ヤング大学アイダホ校に勤めていたころ、ベドナー姉妹とわたしはよく自宅で中央幹部をもてなしました。ある夜、十二使徒定員会の一員と一緒にひざまずいて祈ったとき、わたしたち家族は意義深い祈りについて重要な教訓を得ました。



その日、ベドナー姉妹とわたしは親友の予期せぬ訃報を受けていました。わたしたちはすぐに、残された伴侶と子供たちのために祈りたいと思いました。わたしが妻に祈るよう頼んだとき、その日に起こった悲しい出来事について知らなかったその十二使徒は「祝福に対する感謝だけ述べて、何も求めないように」と優しく勧告しました。その勧告は、いにしへの教会にアルマが与えた「絶えず祈るように、またすべてのことに感謝をささげるように」という教えに似ていました(モーサヤ26:39)。しかし、そのような悲劇の中にあるときは、友人の家族への祝福を求めるのが先で、感謝を述べるのはその後ではないかと感じました。

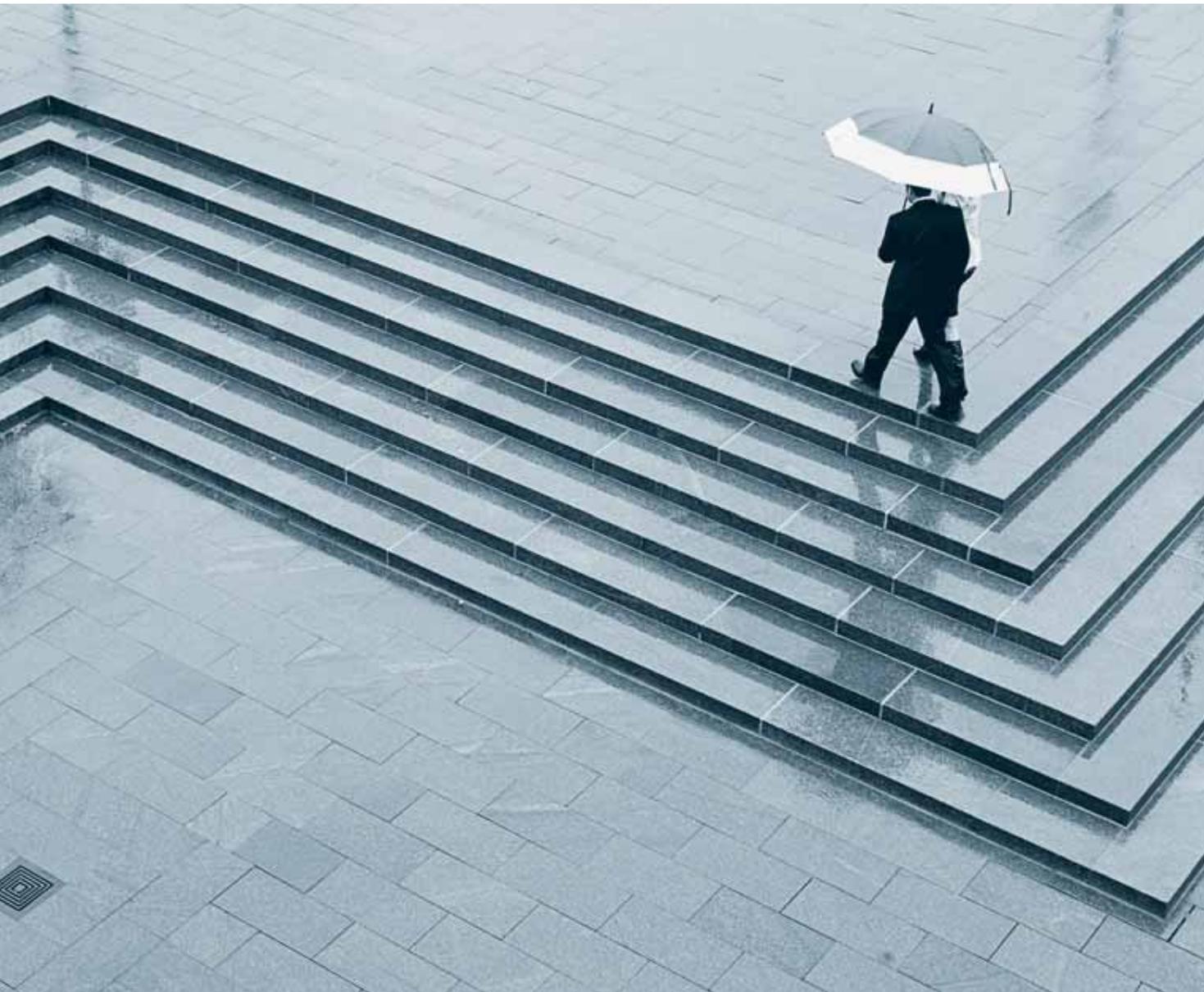
ベドナー姉妹は十二使徒の指示に信仰をもってこたえました。彼女はその愛する友人とともにたくさんの意義深く心に残る経験ができたことを天の御父に感謝しました。聖霊が慰め主として与えられていること、逆境に立ち向かうときや人に奉仕するときに助けてくれる御霊の賜物が与えられていることに、心から感謝を述べま

した。何より重要なことに、妻はイエスキリストの贖いの犠牲や主の復活、そして家族が永遠にともに住めるようにしてくれる、回復された福音の儀式と聖約への感謝を述べたのです。

わたしたち家族はその経験を通して、意義深い祈りにおいて感謝がどれほど大きな力を持っているかについて貴重な教訓を得ました。あの祈りのおかげで、わたしたちは靈感を受け、それまで頭や心を占めていた数々の不安を鎮めることができたのです。幸福の計画への感謝、人を救う救い主の使命への感謝が、そのとき必要だった安心感をくれ、愛する友人の家族は大丈夫だという気持ちになりました。この経験から、何について信仰をもって祈り、適切に願うべきか、理解が開けました。

わたしがこれまでに経験した最も意義深く霊的な祈りには、感謝の言葉が大半を占めていて、願いの言葉はほとんどあるいはまったくありませんでした。わたしは今、使徒や預言者と祈る機会に恵まれています。そこで気づいたのは、救い主の教会の現代の指導者は、モルモン書に記された司令官モロナイと同じ特質を持っているということです。なぜなら彼らもまた、神が民に授けてくださった多くの特権と祝福について、神への感謝で胸をいっぱいにしているからです(アルマ48:12参照)。言葉数は多くありません。祈るべき事柄が示され、願い事が多くあるからです(3ニーファイ19:24参照)。預言者たちの祈りが力強いのは、子供のように簡潔で、心から述べられているからです。

祈りを意義深いものにしようと努力するとき次のことを覚えておきましょう。「すべてのことの中に神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」(教義と聖約59:21) 皆さんもわたしも、時々感謝するだけの祈りをささげるようにしましょう。何も求めず、ただ心を喜ばせ、心を尽くして感謝を伝えましょう。



原則3:祈りをさらに意義深いものとするために、真心から誠実に人のために祈る。

自分の人生に祝福を求めて天の御父に懇願するのは良いことであり、ふさわしいことでもあります。しかし、愛する人のためにも、悪意をもって自分を利用しようとする人のためにも熱心に祈ることは、意義深い祈りにとって大切な要素です。祈りの中でより多くの感謝を述べると啓示を受けやすくなるように、全身全霊で人のために祈ると、主の御声^{みこゑ}がもっとよく聞こえるようになります。

モルモン書のリーハイの模範から大切な教訓が学べます。リーハイはエルサレムの滅亡に関する預言者の教えや警告に

信仰をもってこたえました。彼はそれから「民のためにまことに一心に主に祈[り]」しました(1ニーファイ1:5。強調付加)。この熱烈な祈りの答えとして、リーハイは栄光あふれる示現を受け、その中で神と御子、そして差し迫っているエルサレムの滅亡を見ました(1ニーファイ1:6-9, 13, 18参照)。主が見せてくださった事柄のためにリーハイは喜び、胸がいっぱいになりました(1ニーファイ1:15参照)この示現は、個人的な教化や導きを求めた結果ではなく、人のためにささげた祈りの答えとして得られたことに注意してください。

救い主は人のために一心に祈ることについて完全な模範を示されました。十字

架にかかる前夜にささげた執り成しの祈りの中で、イエスは使徒やすべての聖徒たちのために祈られました。

「わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。……

わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。……

……あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります。」(ヨハネ17:9, 20, 26)

神権を尊び、 十分に活用する

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

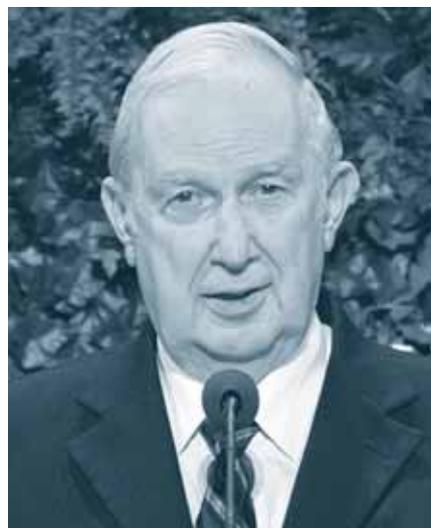
聖なる神権を活用することに関して完全な模範となる御方は、救い主イエス・キリストです。主は愛と哀れみと慈愛をもって教え導かれました。

アメリカ大陸で教え導かれたとき、救い主は民に、御自身の教えについて深く考え、理解を求めて祈るよう指示されました。主は病気の者を癒されました。そして、書き記すことのできない言葉で民のために祈られました(3ニーファイ17:1-16参照)。主の祈りの影響力は計り知れないものでした。「わたしたちは、イエスがわたしたちのために御父に祈ってくださるのを聞いたが、そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない。」(3ニーファイ17:17) 世の救い主が自分たちのために祈ってくださるのを聞いたとしたらどのように感じるか想像してみてください。

わたしたちが伴侶や子供など、家族の具体的な必要や望みについて御父に祈るとき、彼らはわたしたちの祈りの力を感じているでしょうか。わたしたちが仕える人々は、彼らのために信仰をもって誠実に祈るわたしたちの祈りを聞いているでしょうか。愛し仕える人々がわたしたちの祈りを聞くことも、祈りの影響を感じることもないとすれば、悔い改めるべき時は今です。救い主の模範に倣うなら、祈りは真に意義深いものとなります。

わたしたちは「常に祈[る]」ように命じられています(2ニーファイ32:9; 教義と聖約10:5; 90:24)。「心の中……だけでなく、声に出しても祈り……隠れて祈るだけでなく、世の人々の前でも祈り、ひそかに祈るだけでなく、公にも」祈るよう命じられています(教義と聖約19:28)。すべてのことについて主と相談し、心から感謝を述べ、誠心誠意人のために祈るなら、祈りがさらに意義深いものになることを証します。

天の御父が生きておられ、すべての心からの祈りを聞いてこたえてくださることを証します。イエスはキリストであり、わたしたちの救い主、仲保者であられます。啓示は実在します。この神権時代に完全な福音が地上に回復されました。主イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。



愛する兄弟の皆さん、わたしたちは神の聖なる神権を持つ驚くべき兄弟の一団として世界各地に集っています。救い主の御名により義にかなって神権を使い、人々を祝福するために働くことを認められた少数の男性の中に数えられることは、何とすばらしい祝福でしょうか。

兄弟の皆さん、わたしたちの中にアロン神権とメルキゼデク神権を持つことの計り知れない価値について真剣に考えている人はどれくらいいるのでしょうか。これまで地上で神権を受けた人の数が非常に少ないことや、イエス・キリストが御自身の御名によって働く力を彼らにお授けになったことを考えるなら、自分が持つ神権について、へりくだり、深く感謝するはずで

神権は神の御名によって行動する権能です。この権能なくして、地上における神の業を成し遂げることはできません。わたしたちが持っている神権は、神の永遠の権能の一部を委任されたものです。真実で、忠実であるなら、わたしたちが聖任を受けた神権は永遠に有効なものとなります。

しかしながら、権能を受けただけでは、その職にかかわる力を授けられたことにはなりません。神権の力をどの程度行使できるかは、本人のふさわしさや、主イエス・キリストを信じる信仰、主の戒めに対する従順の度合いにかかっています。福音の知識の基盤をしっかりと築くならば、神権をふさわしく使うわたしたちの能力は大いに増します。

聖なる神権を活用することに関して完全な模範となる御方は、救い主イエス・キリストです。主は愛と哀れみと慈愛をもって教え導かれました。主の生涯は謙遜さと力の比類ない模範です。神権を使うことによって最大の祝福がもたらされるのは、へりくだり、自分を忘れて人のために奉仕するときです。主の模範に従い、忠実で、従順な神権者となるならば、いっそう大きな力を受けることができます。求められたときはいつでも、御霊の静かな導きに忠実に従うことにより、癒しの力、祝福の力、慰めの力、助言の力を行使することができるのです。

少しの間、聖なる御霊の導きを受けら

れるような静かな場所に、皆さんとわたし
が二人だけだと想像してください。皆
さんの中には、定期的に個人のふさわし
さに関する面接を受けている人もいれば、
召しによってはそのような面接をめぐら
ない人もいます。これから少し
の間、皆さんとわたしは二人で神権個人
面接を行うと考えてください。

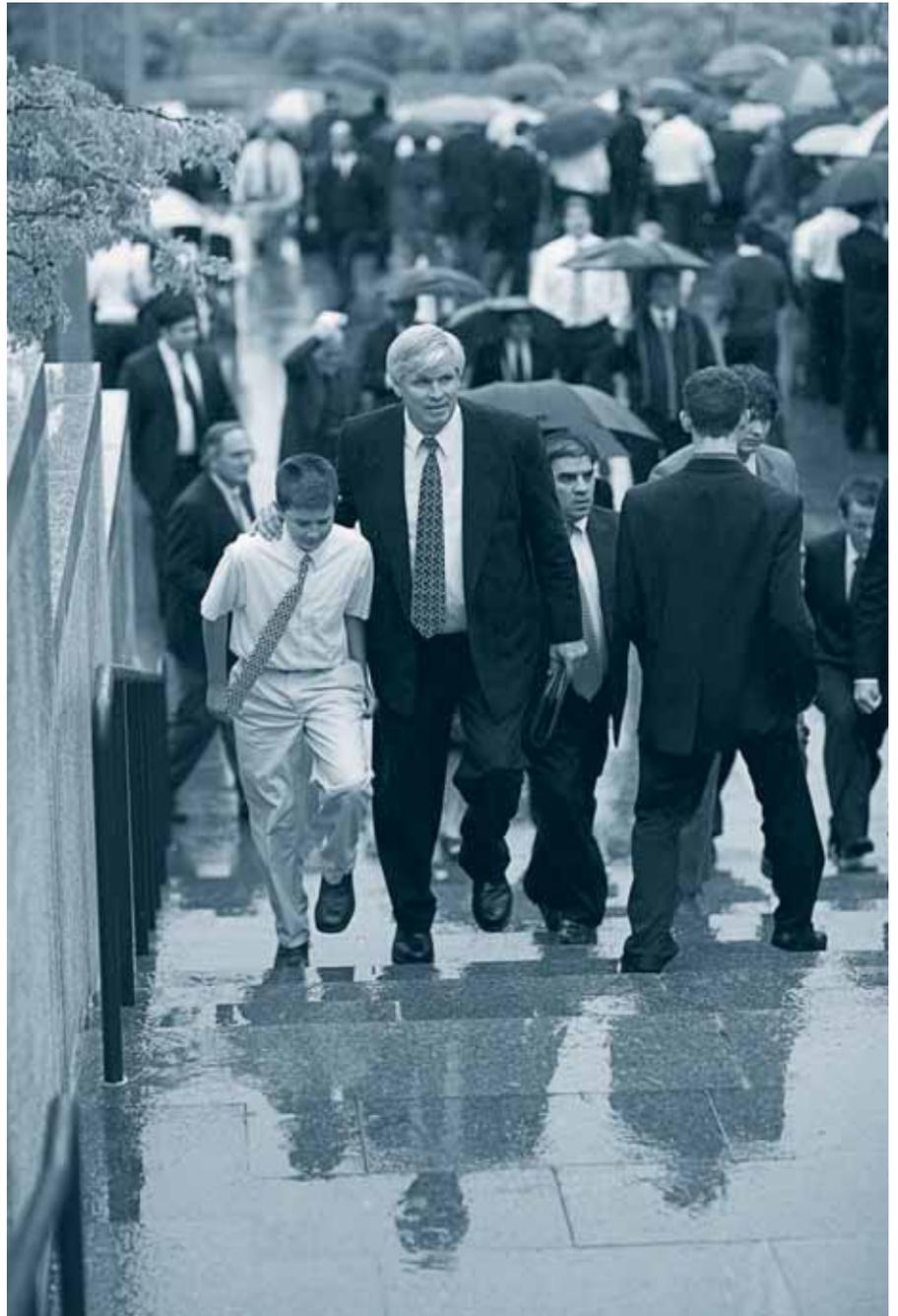
ともに語り合う間、神聖な権能を使う
皆さんの個人的なふさわしさについて考
えてください。人々を祝福するためにどれ
ほど頻りに神権を活用しているかについ
ても考えてください。皆さんを非難するつ
もりはありません。皆さんが神権を使うこ
とでもたらされる祝福を増やしたいので
す。

あなたが人知れず、心の中で抱く思い
は、聖なる御霊の導きを招くものですか。
それとも、大掃除をする必要がありますか。
精神を高める書物などに触れて高潔な思
いを養っていますか。それとも、ポルノ雑
誌やポルノサイトの誘惑に屈していますか。
知恵の言葉の目的に反する刺激物や
有害物質を避けるために細心の注意を
払っていますか。それとも自分勝手な言
い訳を見つけて例外を設けていますか。
人格を高める健全なものだけに触れるた
めに、目や耳から入って来るものを、細心
の注意を払ってコントロールしていますか。

離婚しているのであれば、あなたがこ
の世にもたらした子供たちに、法で定め
られた最低限の援助だけでなく、実際の
経済的必要を満たしていますか。

既婚者であれば、あなたは肉体だけ
でなく、思いにおいても妻に対して誠実で
すか。妻に聞かれたくないような会話を
ほかの女性と決してしないことによって、
結婚の聖約に忠誠を尽くしていますか。
あなた自身の妻や子供に親切に、優しく
接していますか。家事を幾分かでもする
ことによって、妻を支えていますか。聖文
の研究や、家族の祈り、家庭の夕べなど、
家族の活動を率先して行っていますか。
それとも、あなたがうっかりしているため、
妻がその代わりをしていますか。妻に愛
していると伝えてありますか。

今の質問に頭の中で答えてみて、一つ



でも気まずい答えがあったなら、改善す
るための行動を今すぐ起こしてください。
ふさわしさの問題があるなら、わたしのす
べての愛情を込めて勧めます。今すぐビ
ショップかステーキ会長会の一員に話して
ください。あなたには助けが必要です。
あなたを悩ませているその問題はほうっ
ておいても解決しません。手当てをしな
ければ悪化することでしょう。神権指導者
に打ち明けることは難しいかもしれませんが、
あなたと愛する人たちのために今
すぐ打ち明けるよう勧めます。

兄弟の皆さん、ここで、特に天の御父の
娘たちの生活を祝福するために、神権を
どのように使うべきかについて話します。

家族の宣言は、夫婦は対等のパート
ナーでなければならないと述べています。
教会のすべての妻はパートナーとなる機
会を歓迎し、喜んで協力したいはずで
す。これが実現するか否かは夫にかかってい
ます。多くの夫は伴侶と対等のパート
ナーになることで、夫婦でその恩恵を受け、子
供に祝福をもたらしています。しかし、ま
だそうしていない人も大勢います。妻と対

等のパートナーとなることをためらっている人に、主の靈感に基づいた勧告に従い、実行するよう勧告します。夫婦が自分たちのため、そして家族のために大切な決断を下すに当たり、主の御心みこころを求めるときに、対等のパートナーという関係から最大の恵みを得ることができます。

神権を通して主の御名において行動するという至高の特権を活用するには、御霊の導きに敏感でなければなりません。皆さんが愛し仕える人々の生活において、神権の力をもっと活用する方法について、もっと気づくようになってください。特に今わたしが思い浮かべているのは、夫を亡くし助けが必要な女性など、理解と思いやりのある神権者の支援から祝福を受けられる人たちのことです。彼女たちの多くは決して助けを求めてきません。困っている女性の家であなたが手助けできる事柄に気づいてください。それは靈感あふれる神権の祝福をして不安を取り除いてあげることや、家の小さな修理をしてあげることかもしれません。

ビショップである皆さんは、ワード評議会で働く姉妹たちに心を配り、彼女たちの言葉によく耳を傾けてください。彼女たちは家庭で神権の祝福を受けられないワードの女性たちの必要に気づくことができます。扶助協会は家庭訪問を通して、必要を見だし、解決方法を提案してくれることでしょう。扶助協会の守備範囲を超えた事柄については、皆さんはビショップとして、長老定員会や大祭司グループに必要な応じた支援を要請することができます。

ビショップである皆さんは、問題のある夫婦と話し合うときに、夫が述べた言葉を重んじるのと同じように、妻が述べた言葉をも重んじていますか。世界中を訪問すると、女性たちが軽んじられている様子を時々目にします。神権指導者が天の御父の娘よりも御父の息子の言葉の方を重んじているのです。そのような不平等は決してあってはなりません。

独身の姉妹はワードに出席するときに相応の思いやりと関心を向けられていますか。歓迎され、必要とされていると感じ



福音の教えを息子に伝えるウクライナの父親。

られるような重要な召しを果たす機会が与えられていますか。神権者から必要な支援を受けていますか。

神権の権能の目的は、与え、仕え、高め、励ますことです。不義な支配をしたり、強制したりすることではありません。一部の文化では伝統的に家族のあらゆる事柄を支配し管理する役割が男性に与えられています。これは主の方法ではありません。一部の地域では、妻はまるで夫の所有物であるかのように扱われています。それはルシフェルが広めた、残酷で、無意味で、誤った結婚観であり、すべての神権者はそのような考え方を否定しなければなりません。それは男性が女性よりも優れているという偽りの前提に立っています。これほど真理から懸け離れた考え方はありません。天の御父は御自身の最も偉大で輝かしい、至高の創造物である女性の創造を、最後まで残しておかれたと聖典は証言しています。ほかのすべてが造られた後で女性が造られ、そのとき初めて創造の業は完成したと宣言され、しかも、良いと宣言されたのです。

わたしたちの妻、母親、祖母、姉妹、そして人生で出会う大切な女性たちについ

て、ヒンクレイ大管長はこう語りました。「全能者が創造されたものの中で、徳をまとって道を歩む立派な女性ほど美しく、霊を鼓舞するものはありません。彼女たちは徳の大切さを悟り、肉体を神聖なものとして尊びます。そして思いを高め、常に理解力を増し加え、永遠の真理をもって自分自身の霊を養っています。」¹

神の御心みこころにより、女性は多くの点で基本的に男性と異なっています。² 女性は思いやり深く、周りの人のことを考えます。しかし、この思いやり深い性質のゆえに、女性は、たとえ主の助けがあっても果たせないほど、多くのことを達成しなければならないと感じ、途方に暮れてしまうときがあります。すべきこと全部をしてはいないと感じ、落胆する女性もいます。ふさわしく、能力があり、献身的な教会の女性の多くがこうした思いを味わっていると、わたしは思います。

ですから、夫や息子である皆さん、妻や母親があなたのためにしていることすべてに感謝を伝えてください。愛と感謝をしばしば表してください。そうするならば、称賛の言葉をめったに聞くことのない、多くのすばらしい行いに感謝されることのない、天の御父の多くの娘たちの人生は、いっそう豊かで、楽しく目的のあるものになるでしょう。夫であるあなたは、妻を元気づける必要に気づいたら、抱き締め、どれほど愛しているか伝えてください。生活を豊かにしてくれる特別な女性たちに、わたしたち一人一人が常に優しく、感謝を示せますように。

失った後で初めて、なくしたものの真の価値に気づくことがあります。分かりやすくするために、ある男性のことを考えてみてください。彼は背罪によって神権を使えなくなりました。完全な悔い改めを通して、以前受けた儀式が回復され、それに伴い神権が彼に戻されました。回復の後で、わたしは彼の妻に向かって言いました。「祝福してほしいですか。」彼女は勢いよくなすきました。次に、今や神権を使える夫に向かって言いました。「奥さんを祝福したいですか。」このような経験が持つ深い感動と、そのような場で築かれ

人を保護する御腕

る愛と信頼、感謝のきずなは、言葉では表現できません。だからといって、神権の価値をもっとよく知るために神権を失う必要はないのです。

わたしは大切な妻を心と思いを尽くして愛し、大事にし、尊敬することによって得られる大きな喜びと幸せを知っています。皆さんも神権を活用し、人生で出会う大切な女性たちを愛し敬うことによって、同じ喜びを得られるように願っています。

主イエス・キリストの地上における15人の使徒の一人として、神権に対するわたしの気持ちを表明します。それはハワード・W・ハンター大管長が語った次の言葉に完璧に表されています。「主の特別な証人として、わたしたちは、主の教会と王国にまつわる諸事を執行し、地球上のどこであれ、全世界に住む主の娘、息子に仕えるという畏れ多い責任を託されています。証し、統治し、仕えるという召しのゆえに、わたしたちは年齢、弱点、疲労、自分是不十分ではないかという危惧を乗り越えて、主が定められた業を、命あるかぎり最後まで、成し遂げなければならないのです。」³

神はわたしたちが神の大切な娘たちをどのように扱うかについて責任を問われます。神が望んでおられるように接しなければなりません。主の導きにより、さらに靈感を受け、さらに注意を払い、さらに意義深く、特に神の娘たちに対して、持っている神権を活用できるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

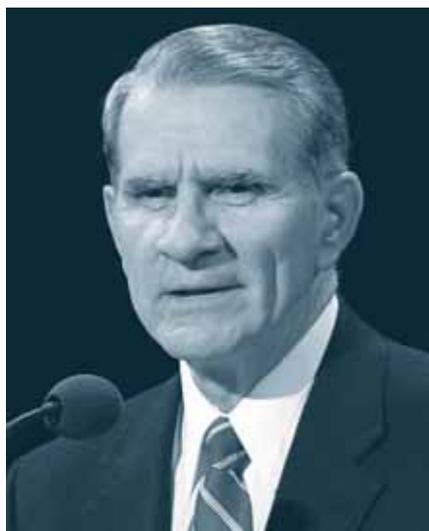
注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「若い女性に対する私たちの責任」『聖徒の道』1989年1月号、116
2. モーセ4:17-19;モーセ5:10-11 参照
3. ハワード・W・ハンター「教会の姉妹たちへ」『聖徒の道』1993年1月号、109参照

七十人会長会

ジェイ・E・ジェンセン長老

へりくだり、十分に悔い改めて聖餐会に出席し、ふさわしい状態で聖餐にあずかることで、何度も何度も(人を保護する主の)御腕を感じられるのです。



わたしは今晩、イエス・キリストの贖罪について、またアロン神権者による聖餐の執行と贖罪の関連性についてお話しします。聖餐については、今朝オークス長老もそのすばらしい話の中で非常に力強く教えてくれました。救い主の憐れみを心にはっきりと描き出すために、短い聖文の言葉を使います。「人を保護する御腕」という言葉です(アルマ34:16参照)。

主の御腕の中で守られる

ある家族がグランドキャニオンのノースリムにある見晴らし台で写真を撮っていたときのことで。突然悲鳴が聞こえてきたので、走って行くと、2歳の女の子が手すりの透き間をすり抜けておおよそ35フィート(約11メートル)下の岩棚に落ちていました。その幼い子供はよじ登ろうとしましたが、動いたことでもっと滑り落ちてしまいました。

5フィート(約1.5メートル)先は200フィート(約61メートル)の危険な絶壁です。

イアンという名の19歳の若者は、女の子がいる場所を見ました。彼は緊急対応訓練を受けていたので、そのような事態に対処する方法を知っていました。彼はこう語っています。「『すぐに状況を把握し、何をすべきかが分かりました。カメラを置いて、それほど険しくない小道を少し登って行った所で手すりを越え、幾つもの岩の上を這い降り、やぶを通り抜け、彼女を見つけました。』イアンは1時間その子を腕に抱えたまま、レスキュー隊が救助用ロープを降ろしてくれるのを待ちました。」(“Save Her” *New Era*, 2007年9月号、7)「腕に抱えたまま」という言葉がわたしの心をとらえました。腕についての話が聖典に度々登場するからです。愛の御腕、憐れみの御腕、保護の御腕などです(2ニーファイ1:15;モーサヤ16:12;アルマ5:33;教義と聖約6:20;29:1参照)。

アミュレクがゾーラム人に語った、無限にして永遠の贖罪についての教えの中に、「腕に包み込んで保護する」という聖文の言葉があります。神の御子の犠牲によって、人はキリストを信じる信仰を持つようになり、悔い改めに導かれる、とアミュレクは教えました。「このように、憐れみは正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する」のです(アルマ34:16。9-15節も参照)。

実体のあるもので実体のないものを教える

人を保護する御腕についてより深く理解するうえで大切なのは、救い主が実体

のあるものを使って福音の原則を教えられたことを思い出すことです。主は、硬貨や種、羊、パン、魚、体の各部分などを用いられました。

腕は実体のあるもので、わたしたちは腕を使って愛情や愛を伝えます。わたしがオフィスから帰宅すると、妻はわたしを腕に包み込んでくれます。また、ラテンアメリカで奉仕していた間はずっと、普段のあいさつである「アブラソー」つまり抱擁によって、愛と安らぎの御腕に包み込まれるという経験をしました。

贖罪について効果的に教える方法を深く考えたとき、「人を保護する御腕」という言葉が役立ちました。わたしたちはバプテスマを受け、^{あかし}按手によって聖霊を受けたとき、人を保護する御腕に導く二つの儀式を受けたことになります。その後、へりくだり、十分に悔い改めて聖餐会に出席し、ふさわしい状態で聖餐にあずかることで、何度も何度もその御腕を感じられるのです。

聖餐会を日常生活に当てはめる

教義と聖約第110章の前書きには、人を保護する御腕を感じることに最も深く関連する聖文の出来事と、それに至った経緯が記されています。預言者ジョセフ・スミスの説明によれば、カートランド神殿を奉獻した安息日に、彼とほかの神権者たちが教会員のために聖餐を執行しました。

この神聖な儀式の後、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは退いて、ひそかに祈りをささげました。その祈りの後、救い主がこの二人に^{みすがた}御姿を現し、こうおっしゃいました。「見よ、あなたがたの罪は赦されており、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい。」(教義と聖約110:5)

1836年のカートランド神殿におけるこの出来事の順序は、現代にも共通しており、わたしたちにも当てはまります。安息日ごとに、若い神権者の皆さんは、聖徒のために聖餐を執行します。そして聖徒たちは、霊的な癒しを渴望し、主からこの同じ言葉を思いと心で聞きたいと切望し、祈りを込めて聖餐会に出席しているのです。「見よ、あなたがたの罪は赦されてお

り、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい。」(教義と聖約110:5)

ダリン・H・オークス長老は、聖餐に関連した霊的な清めや癒しがあることを証しています。「主の晩餐の聖餐は、バプテスマの聖約と祝福を新たにするものです。わたしたちは罪を悔い改めて、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のみもとに行き、聖餐を受けるように命じられています。パンを頂くとき、わたしたちは進んでイエス・キリストの御名を受け、いつも主を覚え、主の戒めを守ることを証明します。わたしたちがこの聖約に従うとき、主はバプテスマの清めの効果を新たにしてください。わたしたちは清められ、いつも主の^{みたま}御霊を受けることができます。」(「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号、14)

アロン神権者とのかかわり

会員がその清め、すなわち人を保護する御腕をさらに十分に受けられるようにするために、承認する^{かぎ}鍵を持っている人々と、聖餐を執行する人々は、聖餐の準備と祝福、パスに関して教会の手引きに述べられている一般的な指針に確実に従うようにしなければなりません。各神権者は、自分が主の代理を務めているということを心に留め、また敬虔で、^{けいげん}威厳がなければなりません。一般的に言えば、教会の青少年は模範的です。しかしながらわたしたちは、聖餐の執行時の服装や外見があまりにもくだけて、カジュアルな傾向にあるのを時折見受け、^{きこ}危惧しています。

若い男性の皆さん、教会に行く前に、どうかもう一度鏡の前に立って、外見があらゆる点で整っているか自分自身に問いかけてください。もっと良い方法として、親



など、あなたが愛するだれかに、改めて自分を見てもらってください。そして、何か不都合なことを指摘されてもその人の勧めに腹を立てないでください。

イエス・キリストの真の僕は身だしなみと服装が適切で、常に主の標準を反映しており、また世俗の流行に流されません。一つ一つ細かく注意を払っていると、必ず主の御霊を受けます。また、聖餐を執行する人々の服装や外見は、無限の贖罪の祝福を熱心に求めている人々の気を散らすものであってはなりません。

神権者にあてたモンソン大管長のメッセージには、神権を持つことは特権であるというテーマがうかがえます。「神権は……奉仕の務め、支え励ます特権、人の生活を祝福する機会です。」(『聖なる神権の義務』『リアホナ』2006年5月号, 57) わたしは、これが聖餐の執行にも当てはまることを証します。

人を保護する御腕を経験する

わたしはビショップとして奉仕していたときに、重大な背きを犯した教会員たちの生活に贖罪の祝福がもたらされるのを何度も見ました。イスラエルの判士として、わたしは彼らの告白を聞き、また、しばらくの間聖餐を受けない、などの制限を、必要に応じて課しました。

わたしたちのワードのあるヤングシングルアダルトが、ある若い女性とデートをしていました。二人は情熱を制し切れなくなってしまいました。彼は助言と援助を求めてわたしのところに来ました。告白の内容と、わたしが感じた御霊の促し、その他の事柄に基づいて、しばらくの間聖餐を受けることを禁じました。わたしたちは定期的に会って、悔い改めが行われていることを確認しました。そして適切な期間の後、わたしは再び聖餐を受けることを彼に認めました。

わたしは聖餐会の壇上に座って、彼に目をやりました。彼は今やふさわしい状態で聖餐にあずかっているのです。わたしは彼を包み込む憐れみ、愛、保護の御腕を感じました。贖罪の癒しが彼の魂を温め、重荷を取り去り、その結果、約束さ



部会と部会の合間に子供たちと親密な時間を過ごすアルゼンチンの両親。

れた赦し、平安、幸せが得られたのです。

贖罪——常に存在する力

わたしには、これまでの経験から、パッカー会長が説いた真理について証があります。「どうい^{あがな}うわけか、キリストの贖罪は、墮落と霊の死から贖われるためにわたしたちがこの世の生活を終えるときだけに適用されると考える人がいます。しかし贖罪にはさらに大きな力があります。日常生活において求めることのできる、常に存在する力です。責めさいなまれ、苦しみを受け、苦痛を味わうとき、あるいは悲嘆に暮れているときに、主はわたしたちを癒すことができになります。わたしたちはキリストの贖罪がどのようにして行われる

のかを完全に理解してはいませんが、『人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安』を経験することはできます。」「(『主の御手』『リアホナ』2001年7月号, 26)

わたしは天の御父と御子イエス・キリストを愛しています。御二方を信じ、愛し、御二方に忠誠と献身を尽くします。わたしは証します。神はわたしたちの天の御父であられ、わたしたちは御父の子供です。贖罪は確かに存在し、わたしたちの生活に力をもたらします。回復された福音は真実です。そして、これらの真理は聖文、特にモルモン書の中に見いだされるのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

悪との戦いに勝つ

七十人

ジェームズ・J・ハムラ長老

皆さんはこの末の日に、以前と同じ選び、すなわち悪ではなく善を再び選ぶために信任を受けて地上にきました。



今 晩はアロン神権者の兄弟たちに向けてお話しします。皆さんが自分は何者であり、皆さんの人生にはどんな目的があって、どうしたらそれを達成できるのか、深く知るためのお手伝いをしたいと願っています。

皆さんは最も重要な時期に、この世に生を受けました。大いなる戦いの最後の決戦が始まろうとしています。創世の前に始まったこの戦いは、世界の歴史において悲惨な結果を残してきました。わたしが言うのは、キリストに従う者たちと、キリストを自分たちの神として認めない者たちとの間で争われてきた戦いのことです。¹

黙示者ヨハネはこの戦いについてこう書いています。

「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。」

そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」²

この前世の戦いを起こしたのはサタンでした。御父がその子供たちのために作られた救いの計画に反抗し、その計画の実施者として定められたキリストを拒むことによって戦いが始まったのです。悲しいことに、御父の子供の3分の1がサタンに従いました。³ しかし、3分の2はそうしませんでした。皆さんもその中にいて、御父の幸福の計画を成し遂げるために、この地上にやって来たのです。

残念なことに、この戦いはサタンを天から追放するだけでは終わりませんでした。ヨハネによると、サタンとその使いたちは「地に投げ落され」⁴、「激しい怒りをもって」⁵この地に下って来たのです。その怒りは、時の初めから人を苦しめてきた流血と恐怖の歴史が証明しています。

人々が受けた傷があまりに深く、広い範囲にわたっていたため、神御自身が、彼らの状況を見て涙を流されました。⁶

わたしたちは今、地上の現世の歴史上、末の日に当たる所にいます。再臨の時、御子はかつて御自身を拒んだこの地に戻り、それを再び御自身のものとされます。⁷ その日、主がサタンとその軍勢を制圧し、平和で義に満ちた1,000年間の到来を告げます。⁸ その日に備えるために、神はもう一度、この地に神の王国を回復されました。その王国が末日聖徒イエス・キリスト教会です。⁹

かつて神の王国が地上に築かれたこともありましたが、その王国を託された人々は王国を保つことができませんでした。けれども今回は違います。今回の神の王国は失われることなく世に打ち勝つという預言された約束があります。¹⁰

神の王国の最後の回復は、それが確実に成功するように、かつてない強い霊の力によって始められ¹¹、同じ霊の力と、またそれ以上の力によって支えられています。この末日に生を受け、御父と御子のために働くように取っておかれたのが、御父の息子、娘の中で最も勇敢で気高い霊たちです。彼らの勇気と気高さは、前世のサタンとの戦いで証明されています。「善を選ぶのも悪を選ぶのも任されていた」とき、彼らは「善を選んで、非常に深い信仰」と「善い行い」を示したからです。¹² そのような特質が、今こそこの地上で神の業を支え、激しさを増しているサタンの怒りから人を救うために必要とされているのです。

アロン神権者の若い友人の皆さん、皆さんこそ、その勇敢で気高い御父の息子です！皆さんは「〔主の〕家の勇士、〔主の〕戦士」です。¹³ 皆さんこそ、悪よりも善を選んで、「非常に深い信仰」と「善い行い」を示した人々たちです。前世で義を選んだ皆さんは、この末の日に以前と同じ選び、すなわち悪ではなく善を再び選び、非常に深い信仰を働かせて、善い行いをするよう信任を受けて地上にきました。それはまた地上における神の王国とその民の代表者となるということでもあります。

神の王国が地に回復され、皆さんが地上にやって来たことから、サタンは「自分の時が短いのを」知っています。¹⁴ また、神の王国が「民の背きのほかに」打ち倒されることがないのも知っています。¹⁵ だからこそ、サタンはあらゆる手段を駆使して、皆さんを背きの道に誘い込もうとしているのです。皆さんを背きの道に引きずり込めば、専任宣教師として伝道したり、神殿結婚をしたりするのを妨げることになるでしょうし、将来の子供たちを信仰によって守れなくなるのを知っているからです。これはすべて、皆さん自身だけでなく、

教会を弱めることになります。サタンは、神の王国が「民の背きのほかに」打ち倒されることがないのも知っています。間違いなく、今や、この戦いの焦点は皆さん、つまり「神の戒めを守り、イエスのあかしを持[とう]」¹⁶と努力している皆さんに当てられています。

若い友人の皆さん、皆さんは今の時代とこれからやって来る時代が「危機的」¹⁷であることを認識しなければなりません。このことについて、ボイド・K・パッカー会長はこう言いました。

「教会の歴史あるいは人類史上、いまだかつて現在の状況に匹敵するものはありませんでした。ソドムとゴモラにさえ、今わたしたちを取り巻いている甚だしい悪と腐敗はありませんでした。どこへ行っても、みだらな言葉、下品な言葉、神への冒瀆の言葉を耳にします。かつては人目を忍んで行われていた、言うに堪えない悪と背徳が、今や公然と、法的保護さえ与えられています。ソドムとゴモラの時代には、局地的な現象だったものが、今では世界中に広がり、わたしたちの中にも存在しています。」¹⁸

今日の危機的状況について話すのは、皆さんを怖がらせるためではなく、まじめに考えてほしいからです。まじめであるとは、自分の置かれた状況を熱心かつ真剣に見極め、自分の行動の結果を、入念に思慮深く検討できるという意味です。つまり、まじめな人には、良い判断と慎重な行動が期待できることになります。多くの預言者が若者にまじめであるよう教えているのも納得できます。¹⁹ ヒラマンの2,000人の若い兵士が戦いに優れていたのは、勇気と体力と誠実さだけでなく、「まじめ」であったからだともルモンが言ったことを思い出してください。²⁰ ルモンがその特質を高く評価したのは、彼自身もその特質を身に付けていたからです。わずか10歳のときにニーファイ人の聖なる記録をゆだねられたのも、ルモンが「まじめな子供で、観察が鋭かった」からでした。²¹ そして15歳のときに、「主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わった」のも、「まじめな心の持ち主」だったからです。²²



ですから、サタンとの戦いの最終段階に差し掛かっている今こそ、まじめであってください、若い友人の皆さん。麻薬やアルコールやタバコを取り入れてはいけないということを理解してください。ポルノグラフィなど不道德な活動にかかわってはいけません。うそを言ったり、偽ったり、盗んだりしてはいけません。不誠実な言葉、下品で卑しい言葉を使ったりしてはいけません。入れ墨やピアスなどで体を汚してはいけません。そのようなことをしていたら、あなた自身の魂をかけた戦いに勝つことができただけでなく、御父のほかの子供たちの魂をかけた大いなる戦いで勇敢な戦士として戦うことなどできないからです。²³

若い友人の皆さん、道は一つしかないことを理解してください。サタンとの戦いに勝つには、時の初めと同じような方法で勝利を得なければならないのです。天の戦いで主がついに勝利を勝ち取ったとき、大きな声が聞こえてきました。

「今や、わたしたちの神の救いと力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。……」

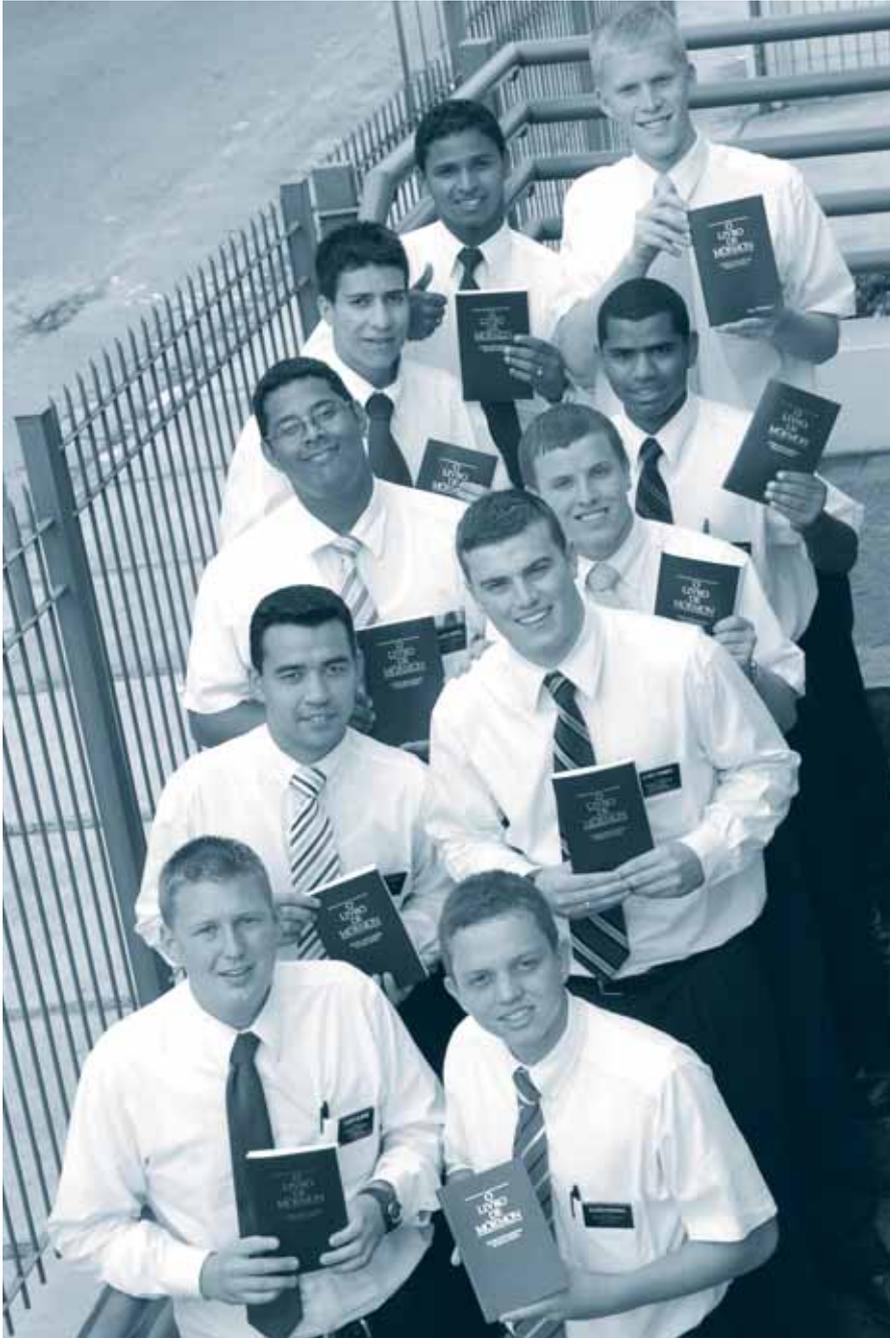
……兄弟たち〔ミカエルと天使たち〕は、小羊の血と、彼らの証の言葉とによって、彼〔サタン〕にうち勝った。彼らは自分の命を惜しまず、死に至るまでも証を保った

からである。……」²⁴ この宣言の重要性を見落とさないでください。つまり、世の始めにサタンを退けたのは、(1)主イエスキリストとその贖いの犠牲に対する信仰と、(2)最後まで変わらない、確固とした主に対する証、そして(3)主とその業に自らを献身することだったのです。もしそれが時の初めに、サタンにうち勝つ方法だったとすれば、今日も同様に、サタンにうち勝つための唯一確かな道であることが皆さんに分かります。²⁵

さて、敵にうち勝つために必要な信仰、証、御霊による清めをどのように得るべきか、疑問に思うかもしれません。こうした特質はすでに皆さんの内にあると申し上げます。皆さんはそれを呼び起こしさえすればよいのです。そのために、3つの提案をさせていただきます。

第1に、若き日のジョセフ・スミスと同じことを行ってください。静かな場所を見つけ、天の御父に祈ります。²⁶ 定期的に、熱意をもって祈ってください。祈りは啓示を受けるための前提条件です。祈りが定期的で熱意を伴うものであればあるほど、より頻繁に啓示を受けます。啓示を受けると、まだ見ていない物事に対する証拠や確信が与えられます。これは信仰の基です。²⁷

第2に、主の声を聞く方法を学んでくだ



ブラジルの専任宣教師たちはイエス・キリストの福音を広めるために尽力している。

さい。主の声は静かで細く、ささやくような声です。²⁸ 聞くというより感じるものです。思いや感情、そして印象を通してもたらされます。そうした声を聞くには過度の笑いや軽薄さ²⁹ を捨て、皆さん自身が静かで穏やかである必要があります。自身の生活を律することは簡単には思えないかもしれませんが、貴く、愛ある主の声を聞くことはどのような状況でも皆さんの支えとなります。それゆえに、あらゆる努力を

払う価値のあることなのです。

第3に、皆さんに与えられている主の言葉に従ってください。主の言葉は愛や慰めを与えるだけでなく、常にわたしたちを導き、正してくれます。どんなに難しく思えても主の勧めのとおりに行動してください。今、行動してください。主の御心を行うことにより、主についての知識を得、主への愛が生じ、これまでにないほど、自身の生活よりも主に従うことを優先したいと

望むようになるでしょう。³⁰

愛するアロン神権者の皆さん、今は皆さんの時代です。無駄にしないでください。まじめでいましょう。「信仰のたてを手に取り……悪しき者の放つ火の矢を消す」のです。³¹ そして、「信仰の戦いをりっぱに戦いぬ」くのです。³² そしてすべてのことを行った後、堅く「立って」³³、「主が……なされる救を見」てください。³⁴ 主の救いがもたらされ、皆さんと皆さんの側にいる人々をあらゆる悪から解き放ってくださることを約束します。このことを主イエス・キリストの御名により証します、アーメン。

注

1. 1ニーファイ14：10、13参照（「見よ、教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり、もう一つは悪魔の教会である。……〔悪魔の教会は〕神の小羊と戦うために、……全地の面に大勢の人を寄せ集める……。」）
2. 黙示12：7-9
3. 教義と聖約29：36参照
4. 黙示12：9
5. 黙示12：12
6. モーセ7：29、36-37参照
7. マタイ21：33-44参照
8. 教義と聖約88：110；モーセ7：64参照
9. ブルース・R・マッコンキー「キャラバンは行く」『聖徒の道』1985年1月号、83参照
10. ダニエル2：44-45；教義と聖約38：9-15；教義と聖約82：24参照
11. ジョセフ・スミス—歴史1：17-19参照（御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現されたのは、エデンの園で人に御姿を現されて以来、初めてのことだった。）、1：30-49（モロナイ）；教義と聖約27：7-8、12-13（バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブおよびヨハネ）；110：11-16（モーセ、エリヤおよびエライアス）；128：19-21（「ミカエルすなわちアダムから現在に至るまでの様々な天使たち」）
12. アルマ13：3
13. 教義と聖約101：55；105：16参照
14. 黙示12：12

15. モーサヤ27:13
16. 黙示12:17
17. 2テモテ3:1
18. ボイド・K・パッカー, "The One Pure Defense," 教会教育システム教育関係者への説教, 2004年2月6日, ソルトレークタバナクル
19. アルマは息子たち, ヒラマン, シブロン, コリアントンに「まじめ」であるように教えた(アルマ37:47;38:15;42:31参照)。パウロも若い男性に「まじめであるように教えている(テトス2:6)。さらにパウロはほかの人たちにも, 特にビショップたちに, 慎み深くあるように教えている。(ローマ12:3;1テサロニケ5:6, 8;1テモテ3:2, 11;テトス1:8;2:2, 4, 12)
20. アルマ53:20-21参照
21. モルモン1:2
22. モルモン1:15
23. ゴードン・B・ヒンクレー大管長「終わりの戦いと確かな勝利」『リアホナ』2007年6月号, 2-7参照
24. ジョセフ・スミス黙示12:9, 11
25. 教義と聖約76:53(日の栄えの王国を受け継ぐ者は「信仰によって勝利を得る。'), 1ヨハネ5:4-5(「わたしたちの信仰こそ, 世に勝たしめた勝利の力であり, 世に勝つ者は……イエスを神の子と信じる者」である。)参照
26. ジョセフ・スミス—歴史1:11-15参照
27. ヘブル11:1;アルマ32:21;エテル12:6参照
28. 主の声は, ささやきのような, まったく優しい静かな声と描写されている。列王上19:12;ヒラマン5:30;教義と聖約85:6参照
29. 教義と聖約88:69, 121参照
30. マタイ16:24-25;ヨハネ7:17参照
31. エペソ6:16
32. 1テモテ6:12
33. マラキ3:2参照。「だれが, その前に立つことができようか。」(黙示6:17)「神の武具を身につけて, 完全に勝ち抜いた」者(エペソ6:13)
34. 出エジプト14:13

自分の立っている場所で持ち上げる

**大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長**

すべての神権者は独自の場所に立っており, 自分だけにしか達成できない重要な務めを担っています。



愛する兄弟の皆さん, 世界中の神権者が一堂に会するこのような集会で, 皆さんとともにいられて光栄です。愛する預言者, トーマス・S・モンソン大管長, アイリング管長が大会に出席していることに心から感謝しています。皆さんの忠実さと高潔さに感謝しています。このような偉大な兄弟の輪に加われることは, すばらしい特権であり, 喜びです。

自分の立っている場所で持ち上げる

何年も前のことですが, ドイツのダルムシュタットにある集会所で, 何人かの兄弟たちに頼んで, グランドピアノを礼拝堂から隣の文化ホールまで移動してもらったことがあります。ある音楽の催しに必要だったからです。引越し運搬が専門と

いう兄弟は一人もいませんでした。重力の法則に忠実に従うこの楽器を, 礼拝堂の端から端まで, さらに文化ホールの中まで運ぶ作業は, ほとんど不可能に思えました。この作業には体力だけでなく緻密なバランスが求められることをだれもが承知していました。たくさんの方を試みましたが, どうしてもピアノのバランスが取れませんでした。体力や背丈, また年齢に応じて, 何度も何度も兄弟たちの立つ位置を変えましたが, うまくいきませんでした。

ピアノの周りに立ったまま, 次にどうしたものか考えあぐねている兄弟たちに, 友人のハノルスチン兄弟が大きな声でこう言いました。「兄弟の皆さん, 肩を寄せ合って立ち, 自分の立っている場所で持ち上げてください。」

実に簡単な方法でした。しかし, 各自が自分の立っている場所で持ち上げると, ピアノは床から上がり, 文化ホールに移動することができました。まるでピアノが動力を得たかのようなものでした。それがこの難題の解決法だったのです。肩を寄せ合って立ち, 各自が自分の場所で持ち上げさえすればよかったのです。

ルスチン兄弟のこの簡単な方法について考えることがよくあります。そして, その奥深い真理に感銘を受けます。今晚, わたしは「自分の立っている場所で持ち上げる」という方法について, さらに詳しく述べたいと思います。



指導しようとする人もいれば、隠れようとする人もいる

簡潔に見えるかもしれませんが、自分の立っている場所で持ち上げるという原則は、力の原則です。わたしの知っている神権者のほとんどは、この原則を理解し、生活の指針としています。どのような仕事であれ、一生懸命、熱心に取り組んでいます。神権の義務を忠実に果たし、召しを尊んで大いなるものとしています。人に仕えることで主に仕えています。肩を寄せ合って立ち、自分の立っているその場所で持ち上げているのです。

しかし、時折、この原則を適用できずに苦しんでいる人々があります。彼らは、二つのグループ、すなわち、指導しようとする人と隠れようとする人に分類できるようです。王冠をかぶりたい人、あるいは、洞くつに隠れたい人があるのです。

指導しようとする人

指導しようとする人は、自分には、現在求められている以上のことを行う能力があると感じているかもしれません。次のように考える人もいます。「自分がビショップにさえなれたら、もっといいワードにできるのに。」自分の能力は自分の現在の召しをはるかに超えていると思ひ、もし自分が重要な指導的立場にいたら、違いを生み出すために一生懸命に働くだろうと思うのです。そして、こう考えます。

「単なるホームティーチャーあるいは定員会会長会顧問の立場で、いったいどんな影響を及ぼせるというのだろう。」

隠れようとする人

隠れようとする人は、忙しすぎて教会で奉仕などできないと感じているかもしれません。礼拝堂を掃除する必要があるときや、メンデス家族が引っ越しの手伝いを必要としているときに、あるいはビショップがあるクラスの教師に召そうとするときに、いつも何らかの言い訳を準備しているように思われます。

20年前、エズラ・タフト・ベンソン大管長は、ビショップやステーキ会長からの次のような報告を紹介しました。「ある人々は、『忙しすぎる』あるいは『時間がない』と言って、奉仕の召しを断っている。またある人々は、そのような召しを受けても、その召しを尊んで大いなるものとしようとしていない。」

ベンソン大管長は続けてこう言いました。「主はわたしたち一人一人が主の教会で召しを受け、自分たちの才能や影響力を用いて周囲の人々に祝福をもたらすように期待しておられます。」¹

不思議なことに、これら二つの傾向、すなわち指導しようとしたり、隠れようとしたりする傾向の根本的な原因は、同じです。それは利己心です。

より良い方法

救い主御自身がわたしたちに教えてくださったより良い方法があります。「あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」²

人に仕えようとするとき、わたしたちの動機は利己心ではなく、愛でなくてはなりません。これこそまさにイエス・キリストの生き方であり、神権者の目指すべき生き方です。救い主は人の誉れを心に留められませんでした。サタンは世のすべての王国と栄光を主に与えると申し出ました。しかしイエスはその申し出を即座にきっぱりと断られました。³ 救い主には、生涯を通じて、御自身のための時間はほとんどありませんでした。きつと疲労と心労をしばしば感じられたことでしょう。それでも時間をかけて、病気の人、悲しんでいる人、見捨てられた人の世話をされました。

このような模範があるにもかかわらず、わたしたちは勢力と思いと力を尽くして主に仕えようとはせず、あまりにも容易に、またあまりにも頻繁に、人の誉れを求めてしまいます。

兄弟たち、わたしたち一人一人が主の前に立って裁きを受けるとき、わたしたちがこの世、あるいは教会で得ていた地位に主は目を向けられるでしょうか。「夫」「父親」あるいは「神権者」以外の肩書きを主は大切と思われるでしょうか。スケジュールがどれほど過密だったかと、ど

れほど多くの大切な集まりに出席したかといったことに、主は関心を示されるでしょうか。毎日の生活を予定で満たすことに成功したからといって、それを妻や家族と時間を過ごすのに失敗した言い訳とすることができるでしょうか。

主はわたしたちとは非常に異なる方法で裁かれます。主は高潔な僕を喜ばれますが、高潔を装いながら自分自身に仕える利己的な僕をお喜びにはなりません。

この世で謙遜な人々は、来世では栄光の冠をかぶることでしょう。イエス御自身、ある金持ちの話をされたときに、この教義を教えられました。この金持ちは、高価な紫の衣や亜麻布の服を着て、毎日ぜいたくな食事をしていました。一方、物乞いのラザロは、金持ちの食卓から落ちるパンくずだけでも食べさせてもらいたいと望みました。来世で、地獄へ投げ落とされた金持ちが、苦しみながら目を上げると、ラザロがアブラハムの隣で栄光のうちにいました。⁴



ジョン・ロウ・モイルの模範

今年ジョン・ロウ・モイルの誕生200周年です。ジョンは改宗者で、故郷イギリスを後にし、手車隊の一員としてソルトレーク盆地へと旅しました。ソルトレーク・シティーから一つ谷を越えた小さな町に家族で住む家を建てました。ジョンは熟練した石切り職人でした。そしてその腕を見込まれ、ソルトレーク神殿建設のために働くよう依頼されました。

建設現場へ時間どおり到着するために、毎週月曜日、ジョンは午前2時に家を出て、6時間歩きました。金曜日の午後5時に仕事を終えると、ほとんど真夜中まで歩いて、やっと家にたどり着きました。彼はこのスケジュールで何年も働き続けました。

ある日、家で雑用をしていたとき、牛に足をけられ、複雑骨折をしてしまいました。限られた医療環境で、助かるためには骨折した足を切断するしかありませんでした。ジョンの家族と友人はドアに彼を縛り付け、ひざ下数インチを残し、のこぎりで足を切り落としました。

荒療治にもかかわらず、足は快復に向かいました。ベッドに腰かけられるようになると、ジョンは木を削って、足首の機能を果たすよう精巧な関節の付いた義足を作り始めました。この装具を付けて歩くと極度の痛みが伴いましたが、ジョンはあきらめませんでした。それどころか持久力をつけ、毎週22マイル(約35キロ)離れたソルトレーク神殿まで歩けるようになり、石工の仕事を続けたのです。

ジョンの手によって「聖きを主に捧ぐ」という言葉が神殿に刻まれました。今日、この言葉はソルトレーク神殿を訪れるすべての人にとって黄金の目印となっています。⁵

ジョンは人の誉れを求めてこのようなことを行ったわけではありません。義務を怠ろうと思えば、もっともな理由が幾らでもあったはずですが、そのようなこともしませんでした。ジョンは主が自分に何を期待しておられるのかわっていたのです。

長い年月が流れ、ジョンの孫、ヘンリー・D・モイルは十二使徒定員会会員に召され、最終的には、大管長会で顧問として働きました。これらの召しにおけるモイル管長の働きは称賛に値します。しかし、名前があまり知られていない祖父ジョンの働きも、主は喜んでおられるに違いないのです。ジョンの性格、犠牲という遺産は、忠実さの旗印となり、家族と教会に対する務めを果たすうえでの模範となっています。ジョン・ロウ・モイルは「自分の立っている場所で持ち上げる」という言葉の意味を確かに理解していました。

ヒラマンの2,000人の勇士が示した模範

人々からの個人の認知度が、人の働きを評価する指標となることはめったにありません。例えば、ヒラマンの2,000人の息子たちのうち、一人の名前さえ、わたしたちは知りません。個人名は明かされていないのです。しかし、グループとしての彼らは、誠実さと勇気、率先して奉仕する模

範として常に覚えられているのです。一人ではなし得なかったような偉業を、皆で一つとなって達成したからです。

神権を持つ兄弟の皆さん、ここに学ぶべき教訓があります。わたしたちが肩を寄せ合って立ち、自分の立っているその場所を持ち上げるとき、また、自分自身の名声や喜びよりも、神の王国の栄光を求めるとき、非常に多くのことを達成できるのです。

あらゆる召しは奉仕し成長する機会である

つまらない召しといったものはありません。あらゆる召しは奉仕し成長する機会となります。主は一人一人に奉仕の機会を提供するために、また、それがひいては個人の成長となるように教会を組織されました。どのような召しであれ、他の人々を強め、祝福する機会として、またそれだけでなく、天の御父が望んでおられる資質を身に付ける機会としてとらえるよう皆さんに勧めます。

ステーキ会長会を再組織するためにシオンのステーキを訪問したとき、驚いた経験が何度かあります。面接中に自分は次のステーキ会長会に召されるという導きを受けたと言う兄弟がいたのです。

最初にこの言葉を聞いたとき、どのように反応すればよいのか分かりませんでした。

しばらくしてから御霊により理解することができました。主はすべての人に何かしらの召しを準備しておられるとわたしは思います。時折、主から、あなたはある特定の召しを受けるのにふさわしい人物だ、と告げる霊的な印象を受けることがあります。これは憐れみ深い神からの霊的な祝福です。

しかし、時折、主が「あなたはこの職にあって奉仕するにふさわしい」と語られた後の言葉がわたしたちに聞こえていないことがあります。主はこう語られるかもしれないのです。「しかし、これはあなたのために準備したわたしの召しではない。わたしの望みは、あなたが自分の立っているその場所で持ち上げることである。」神は何が最良かを御存じです。



ネクタイを結んでもらうブラジルの未来の宣教師。

あなたにしか達成できない責任

すべての神権者は独自の場所に立っており、自分だけにしか達成できない重要な務めを担っています。

わたしたちは皆、モンソン大管長がどのようにして年配の人たちや病気の人たちを訪問し、祝福しているか、また、どのようにしていつも彼らの必要にこたえ、元気づけ、慰め、愛しているか、いろいろな話を耳にします。モンソン大管長は、さりげない方法で、彼と接しただれもが自分自身についてより良い気持ちを感じられるようにしてくれます。モンソン大管長が教会のすべての家族を訪問して見守ってくれたら、すばらしいと思いませんか。

きっとそうでしょう。しかし、もちろんそんなことはできませんし、すべきでもありません。主はモンソン大管長にそのような指示は出しておられません。主は、わたしたちがホームティーチャーとして、担当家族を愛し見守るように指示されたのです。主は、モンソン大管長がわたしたちの家庭の夕べを計画し、実行するようには指示しておられません。主はわたしたちが、父親、そしてイスラエルの長老としてそうするように望んでおられるのです。

自分よりもっと有能で、もっと経験豊かで、もっと立派にこの召しや割り当てを果たせる人がいると感じるかもしれませんが、しかし、主があなたの責任をお与えになったのには理由があるのです。あなた

にしか影響を与えたり、心を動かしたりできない人がいるかもしれないのです。恐らく、ほかのだれにもまねのできない何かを、あなたはできるかもしれないのです。

天の御父は御自身の子供たちに手を差し伸べ、彼らの生活に祝福をもたらすという気高い業において、御父を代表するようわたしたちに指示しておられます。わたしたちが心と霊に神権の力を受けて固く立ち、最大限の努力を払って今託されている召しを果たすよう求めておられるのです。

兄弟の皆さん、どんなに強くても、一人でピアノを持ち上げることなどできません。同様に、だれも主の業を一人で推し進めることはできません。しかし、わたしたち皆が主に任命されたそれぞれの場所で肩を寄せ合って立ち、自分の立っている場所で持ち上げるなら、何者もこの神聖な業を推し進めるのを妨げられないのです。

兄弟の皆さん、肩書きを追い求めたり、責任逃れをしたりしないようにしましょうではありませんか。

自分たちは主イエス・キリストの旗の担い手であるというこの深遠な教訓を、神の御霊に支えられていつも覚えていられますように。そして、最後まで忠実かつ誠実であり、一人一人がシオンの大義に自分のすべてをささげ、聖約を守り、肩を寄せ合って、自分の立っている場所で持ち上げることができるよう。

このことを祈るとともに、皆さんにわたしの祝福と愛を残します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

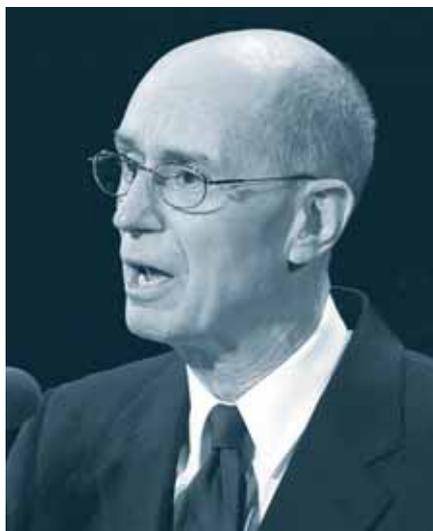
1. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 451-452
2. マタイ20:27
3. マタイ4:8-10参照
4. ルカ16:19-31参照
5. ジーン・A・セッションズ編 "Biographies and Reminiscences from the James Henry Moyle Collection," タイプライター原稿, 教会記録保管庫, 末日聖徒イエス・キリスト教会, 203.

おお、神の務めに 出で立とうとする人々よ

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

増し加わった分の奉仕を成し遂げるだけの力以上に、重荷を担うわたしたちの力は増し加えられるのです。



愛する兄弟の皆さん、今晚わたしは、時折責任に圧倒されそうに感じる神権者の皆さんを励ますことができると思っています。この問題について以前にも話したことがあります。しかしもう一度お話しします。この問題はわたしが愛し仕える人たちの生活の中で、幾度となく繰り返されるものだからです。

皆さんのほとんどは、神権の務めに關して、自分の能力をはるかに超えた働きを求められていると感じた経験があるでしょう。ステーキ大会で何百人もの聴衆を前に話すよう依頼されたときに感じたかもしれません。改宗して日が浅ければ、公の場で祈るように、あるいは初めてクラスを教えるように依頼されたときに感じたかもしれません。また、ある人は宣教師訓

練センターで新たな言語を学ぼうとしているときに感じたかもしれません。その時点でまだ余力があったとしても、伝道部会長から、出会うすべての人にできるかぎり話しかけ、救い主と福音について証するよう指示されたときに、見知らぬ町の街頭で感じたことでしょう。

そのとき、こう考えたかもしれません。「伝道が終われば、忠実な神権者でいることはもっと容易になるだろう。」しかし、数年後、睡眠時間が短くなり、妻と生まれただばかりの赤ちゃんを養い、彼らに愛と親切を尽くし、教育を受けようと努力し、長老定員会の会員に助けの手を差し伸べ、彼らの家具を動かす手伝いをし、時間を割いて神殿で先祖のために働こうと努力します。顔にほほえみを絶やすことなく、こう考えたかもしれません。「もう少し年を取ったら、それほど努力しなくても忠実な神権者でいられるだろう。もっと容易になるだろう。」

年配の人たちはほほえんでいます。神権の奉仕とはどういうものかよく分かっているからです。それは、忠実に奉仕すればするほど、より多くのものを主は求められるということです。しかし、年配の人たちのほほえみは喜びのほほえみです。より重い荷物を担えるように主が力を増し加えてくださることをよく知っているからです。

この現実の大変なところは、そのように主から力を増し加えていただくには、能力の限界だと思ふ領域を越えて奉仕し、忠実で

あり続けなければならないという点です。

それは筋力を養うようなものです。筋肉を鍛えるには筋肉をくたびれさせなければなりません。筋肉を疲れるまで使わなければならないのです。そうすると筋肉は自力で回復し、より大きな力をつけます。霊的な力が増し加えられることは、神の賜物たまものです。限界まで神の務めに励むときに、主から与えられるものなのです。イエス・キリストの贖いの力あがなによって、わたしたちの性質は変わります。すると増し加わった分の奉仕を成し遂げるだけの力以上に、重荷を担うわたしたちの力は増し加えられるのです。

そう考えると、神権の奉仕を難なくこなしているように見える人がいるのも理解しやすくなります。そのような人はすでに試練を乗り越えたか、あるいは試練が待ち受けているかのどちらかだということが分かります。ですから、そうした人々をうらやむよりもむしろ、責任が彼らにとって難しいものになったときに、助ける準備をしておきましょう。いずれ必ずそうなるからです。

神権の奉仕において、能力の限界まで努力するという試しは、神の計画にとって必要なことです。そうすることで、神の子供たちが再び神とともに永遠に住むにふさわしくなるのです。天の御父は御自身の子供たちを愛しておられ、わたしたちに永遠の命を得させようとされました。家族として永遠に、栄光をまわって、再び御父とともに住めるようにしてくださったのです。この賜物を受けられるように、御父はわたしたちに死すべき肉体、罪に誘われる機会、罪から清められ第一の復活の朝によみがえるための道を授けられました。そして、それを可能にするために、救い主として、愛する御子エホバを授けてくださったのです。救い主は死すべき肉体をもってこの世に生まれ、誘惑を受けられましたが、決して罪を犯さず、ゲツセマネで、さらにはゴルゴタで、わたしたちが清められるようにとわたしたちの罪の代価を支払われました。この罪の清めは、イエス・キリストに対する十分な信仰を持ち、罪を悔い改め、バプテスマの儀式によってきれいにされ、主のすべての戒めに従



うという聖約を交わして守る人にもみたらされます。また、わたしたちの魂に対するどう猛な敵、ルシフェルもいました。この敵は自分に従う大群を引き連れて、神の子供たちをすべて容赦なくとりこにしようとし、永遠の命という喜びにあずかれないようにしようとするのです。

思いやりと深い信頼の下、天の御父と救い主はこの地上において選ばれた少数の息子たちに神権を授けられました。わたしたちは神の御名において行動し、イエス・キリストの真の福音とその儀式をできるかぎり多くの御父の子供たちに提供する権能と力を持っています。これらのことを考えると、いかに神がわたしたちを信頼してくださっているか理解できるでしょう。また、神権のこの上ない重要性和立ち足はだかる障害を理解できるでしょう。

わたしたちが時々、圧倒され、押しつぶされそうになるのは驚くようなことではありません。「できるかどうか確信が持てない」という皆さんの思いは、神の神権を持つことの真の意味を皆さんが理解している証拠です。実はこの召しは独りでは果たせません。人としての限られた力しか持っていない皆さんやわたしにとって、この責任はあまりにも難しく、あまりにも大切です。このことに対する理解が神権者として立派に奉仕するための基礎となります。

ふさわしくないという気持ちに襲われたら、そのようなときこそ救い主を思い起こしましょう。わたしたちはこの業に一人で行き組んでいるのではないことを、救い主は明言しておられます。自宅の鏡にはったり、自分の至らなさを感じる時に思い出したりするとよい聖句があります。

例えば、6か月前、トーマス・S・モンソン大管長は、難しく思える召しをわたしが恐れることなく果たせるように祝福してくれました。モンソン大管長はそのとき、救い主の約束された言葉を思い出しました。大管長がわたしの頭に手を置いたとき、この神権時代の少数の神権者に与えられた次の言葉が彼の心に浮かんだのです。

「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行く。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」¹

モンソン大管長が思い出し、引用した約束はわたしの中で成就しました。自信が疑いに取って代わり、御霊が注がれ、医師は靈感を受け、わたしの命は守られました。わたしは支えられたのです。モンソン大管長の祝福のおかげで、わたしは

いつもすぐに救い主を思い出すことができます。また、神の務めを行うときに救い主が先立って行き、わたしたちの周囲におられるという約束を信頼することができます。

わたしは、天使がわたしたちを支えるという約束が真実であることを知っています。恐怖におののく召し使いに対するエリシャの確かな約束を思い出すとよいでしょう。与えられた奉仕の召しのために圧倒されそうになっているわたしたちに対する確かな約束でもあります。エリシャは現実と恐ろしい敵に直面していました。

「神の人の召使が朝早く起きて出て見ると、軍勢が馬と戦車をもって町を囲んでいた。その若者はエリシャに言った、『ああ、わが主よ、わたしたちはどうしましょうか。』」

エリシャは言った、『恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。』

そしてエリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。²

このエリシャの召し使の場合と同様、皆さんの目に見える反対する人々よりも、皆さんとともにいる人々の方が多いのです。皆さんとともにいる人の中には、肉の目には見えない人々もいます。主は皆さんを支えてくださるとともに、時には、皆さんとともに立ってくれる人を召してくださいます。支える人々を召してくださいます。だからこそ、定員会があるのです。だからこそ、定員会の指導者は定員会の集会で皆さんの顔を見たり、目をのぞき込んだりするので、だからこそ、ビショップの責任は祭司定員会の管理だけにとどまらないのです。ビショップは祭司の兄弟たちの顔をよく見えています。皆さんには、そのようなビショップや長老定員会会長、伝道部会長が与えられているのです。そしてそのような指導者が、直接皆さんを助けたり、皆さんを支える人々を召したりするので、あなたが必要としているまさにそのときに、あなたとともに奉仕するにふさわし

い同僚が召されることもあります。

このことは少なくとも二つの事柄を提案しています。一つはわたしたちを助けるために主が送られる人々を認め、歓迎すること、もう一つはすべての責任においてほかの人を強める機会を見いだすことです。以前、ある伝道部会長から一人の宣教師の話の話を聞きました。その宣教師は12人あるいは13人以上の同僚を割り当てられました。伝道部会長はこう話してくれました。「その同僚というのは、皆、任期途中で帰ろうとしている、またはまさに送り返されそうな宣教師ばかりでした。しかし、どの宣教師も結局最後まで伝道地を離れることはなかったのです。」

さて、押しつぶされそうな同僚をそれほどたくさん救った宣教師と後日、話をする機会があり、この奇跡的な出来事について触れました。すると、次のような教訓となる、意外な返事をもらいました。「その話は真実ではないと思います。失敗しそうな同僚など一人もいませんでした。」

伝道部会長は確かに靈感を受けて、ふさわしい天使を何度も何度も送ったのです。奉仕するときに、わたしたちはふさわしいタイミングで助けを送ってもらえると期待することができます。秘められた力を見いだし、引き上げてくれる助けを送ってもらえるのです。逆に、わたしたちの方が、だれかを助け励ますために主から送られる人となるのを心待ちにすることもできるのです。

わたしは自分の経験から、送られる側に立った場合、どのように助ければよいか少し話すことができます。十二使徒定員会に召されて間もなく、大管長会の第一顧問だったファウスト管長から電話を受けました。執務室に来てほしいというのです。どうしてわざわざ会って話したいのか、少し心配しながら彼のオフィスに行きました。

あいさつを交わした後で、ファウスト管長はわたしを見てこう言いました。「もうそういう気持ちになりましたか。」当惑するわたしに、彼は続けてこう言いました。「集会であなを観察してきました。召しが手に余る、自分には資格がないと感じてはいませんか。」



わたしは、不安に駆られていて、まるで壁に突き当たったようだと感じました。元気づけてもらえると思っていました。不安な気持ちを察してくれたことに感謝し、助けを求めました。しかし、親切でありながらもきっぱりとした彼の返事には驚きました。「わたしに求めないで、主に求めてください。」それから彼は天を指さしました。さて、何年かが過ぎ、わたしはその同じ執務室のいすに座っています。部屋に足を踏み入れる度に、天井を見上げ、ファウスト管長のこと、そして主の務めを果たすに当たって圧倒されそうな人をどのように助ければよいか模範によって教えてくれたことを思い出します。責任に圧倒されそうな人が自信をもって主の業に就けるようになる方法を見つけてください。彼らは、皆さんの勧告に従うなら、必要な強さを有り余るほど身に付けられるでしょう。

主は、皆さんの生涯を通じて度々、力、勇気、そして決意を強める経験を与えてくださっているはずで、主は皆さんが主に仕えるためにそのような経験をどれほど必要としているか御存じです。そうした経験の幾つかは皆さんも、他の神権者とともに次の言葉を声に出して読んだときに経験したかもしれません。

「それゆえ、おお、神の務めに出で立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に罪

のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えなさい。」³

皆さんが自分の利益よりも高邁な大義に仕えるよう召されたときはいつでも、この聖文のような高い標準に自らをささげ、従っているかぎり、主は時宜になつて自信と力を増し加えてくださったはずで、わたしはある晴れた春の日、芝生の上に立ったときにそのような自信と力を感じました。わたしは自分の国を守る責任を託されていました。まだ戦争は始まっていませんでしたが、自分の持っているものすべて、恐らく命をも差し出すよう要求される未知の任務が待ち受けていました。わたしはほかの人々とともに右手を挙げ、「真の忠誠心をもって」自分の国を守ると誓いました。「この義務を自らの意志で、微塵の疑いも言い逃れもなく引き受け、今まさに就こうとしているこの職に伴うすべての義務を立派に、また誠実に果たします。ですから、神よ、どうか力をお与えください。」⁴

わたしが守ったあの約束を果たす力は、確かに、執事のころから自分の中に養われていました。神権を授かった最初のころ、当時「宣教師歓迎会」と呼ばれていた集会に幾度となく出席しました。現在は実に多くの人がこの奉仕の召しにこたえているので、出発前に聖餐会で簡潔

に話してもらうだけにとどめていますが、昔は、神の召しに出で立とうとしている宣教師のために聖餐会の全時間が使われたものです。そうした集会には、決まった賛美歌が何曲か必ず歌われました。帰還宣教師が四重唱で歌うときに感じた気持ちを今でもよく覚えています。「主よ、み旨のまま行かん。」歌詞は続けてこう約束します。「み旨のまま言わん。」そして次の言葉で終わります。「み旨に添いません。」⁵

わたしはそのとき、今でもそうですが、心に感動を覚えました。神権の奉仕を行うとき、それに伴う約束が自分にとっても皆さんにとっても真実であるという確信を得たからです。わたしたちは、主が望まれる所ならどこにでも行って奉仕するときに喜びを見いだします。主の御言葉を語ろうとするときに啓示を受けます。そうすることによって、天の御父の子供を招き、彼らが贖いにより変化を経験し、ふさわしくなって天の家に戻り、御父とともに暮らせるように助けるのです。わたしはそのとき、人は忠実に奉仕することで主に心を変えていただき、主の御霊を受けるにふさわしくなって、主に永遠にわたって仕えるようになる、とも感じました。

わたしたちが自らのすべてをささげて神権の奉仕を行うとき、主は必要な勇気を与えてくださいます。さらに、主がともにいてくださり、天使がわたしたちを支えてくれるという確信も与えてくださいます。わたしはそのことを証します。

わたしたち神権者は神から召されていることを証します。この教会は神の真実の教会であり、皆さんは神の永遠の神権を有しています。トーマス・S・モンソン大管長が神権のすべての鍵を持っていて、今の世でそれを行使していることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

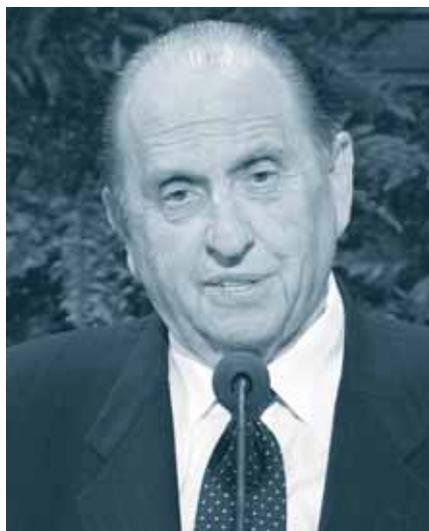
注

1. 教義と聖約84:88
2. 列王下6:15-17
3. 教義と聖約4:2
4. "Oaths of Enlistment and Oaths of Office," <http://www.army.mil/CMH/faq/oaths.htm>.
5. 「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番

学び、行い、 人格を築く

トーマス・S・モンソン大管長

わたしたちが学ぶべきことを学び、なすべきことを行い、なるべき人物になることができますように。



今 晩、皆さんはこの大管長会に召されている二人の顧問の強さを目の当たりにしました。わたしは皆さんの前に立ち、大管長会が主イエス・キリストの導きの下に一つになっていることを宣言します。

宣教師たちによる聖歌隊に特に感謝します。ある経験を紹介しましょう。ここにいる宣教師たちも、そして皆さんも興味を持ってくれるかと思います。何年も前、宣教師訓練センターの会長から電話がありました。会長は切迫した様子でこう言いました。「モンソン管長、家に帰りたいたいという宣教師がいます。手を尽くしましたが引き留めることができません。」

わたしは言いました。「珍しいことではありません。以前にもありました。その宣

教師は何に悩んでいるのですか。」

すると会長は、「その長老はスペイン語圏に召されているのですが、スペイン語を習得するのは絶対に不可能だと言っています」と答えました。

わたしは言いました。「提案があります。明日の朝、日本語を学んでいるクラスに長老を参加させてください。それから正午に、彼と会ってください。」

翌朝10時に会長から電話がありました。「今、長老と一緒にいるのですが、スペイン語なら絶対に習得できると言っています。」

意志があれば、道は開けるものです。

今晚、お話しするに当たり、確かにここには王国の神権者たちが集まっていることが分かります。恐らくこれほど多くの神権者が一時に集合したことはかつてないと思います。神聖な召しに対する皆さんの献身的な努力は人々に感動を与えています。自分の義務について学ぼうとする皆さんの意欲が伝わってきます。皆さんの清らかな心は、皆さんと家族を天に近づけています。

現在、世界の多くの地域で人々が経済的に苦しんでいます。企業が倒産し、失業者が増え、投資したお金が危うくなっています。わたしたちは自分の責任下にある人々が衣食住に事欠くことのないようにしなくてはなりません。この教会の神権者が一致協力してこのような苦難に立ち向かうとき、奇跡とも言えることが起きるのです。

わたしたちは末日聖徒の皆さんが慎重



に計画を立て、支出を控えめにして、過度なあるいは不必要な負債を負わないように強く勧めます。教会の財務もそのように管理されています。教会は、皆さんの納める什分の一やそのほかの献金が、犠牲なくしては納められない神聖なものだということをよく認識しています。

わたしたちの家庭を義の宿る神聖な場所とし、祈りと愛に満ちた住まいにしましょう。わたしたちが、天の御父だけが与えになることのできる祝福にあずかるためです。わたしたちは日々の生活で御父の導きが必要なのです。

この話を聞いている多くの人々の間には神権の力がみなぎり、手を差し伸べて栄光ある福音を分かち合う力があふれています。以前から語られているように、わたしたちには、無関心で消極的な人々の心を奮い立たせる力があります。また、神権の召しを忠実に果たし、それによって人を高め、非常に多くの人を引きずり込もうとしている罪の沼地を避けるように励ます熱意があります。確かに、人の価値は神の目に大いなるものです。このような知識によって人々の生活に良い影響を及ぼす

のはわたしたちに与えられた貴重な特権です。エゼキエル書の次の言葉は、この神聖な業に携わり、救い主に従うわたしたち全員に当てはまります。

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け……る。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。

あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住んで、わが民となり、わたしはあなたがたの神となる。」¹

この約束に値するにはどうしたらよいでしょうか。この祝福を受けるのにふさわしい資格は何でしょうか。何か指針となるものがあるでしょうか。

ここで3つの課題を提案します。一緒に考えてみましょう。執事から大祭司まですべての神権者に当てはまるもので、わたしたち皆が行うことができます。優しい天の御父は、これらを行おうと努めるときに助けを与えてくださるでしょう。

第1に、**学ぶべきことを学ぶ。**

第2に、**なすべきことを行う。**

第3に、**なるべき人物になる。**

では、主の目にかなう僕となるために、これらの目標について考えてみましょう。

1. 学ぶべきことを学ぶ。使徒パウロは学ぶ努力の大切さについて、ピリピ人にこのように述べています。「ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」² またヘブル人にはこのように述べています。「罪……をかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエス〔の模範〕を仰ぎ見つつ、走ろうではないか。」³

十二使徒定員会で長年奉仕し、後に大管長会の一員を務めたスティーブン・L・リチャーズ管長は神権者に向かって度々語り、神権に関する彼の考え方を次のように強調しました。「普通、神権は単純に『人に託された神の力』と定義されています。この定義は正しいと思います。」

リチャーズ管長は続けてこう言いました。「しかし、わたしは神権を実務的な目

的に合わせ、奉仕の観点から定義するのが好きで、よく『奉仕の完全な計画』と呼んでいます。なぜなら、神権という賜物たまものの意味と力を完全に理解したいと望むなら、人間に授けられたこの神聖な力を活用しなければならぬと思われるからです。それは奉仕のための道具であり、……使おうとしない人はそれを失うこととなります。神権をないがしろにする人は、『その職にいるにふさわしい者と見なされない』とはっきり啓示されているからです。』⁴

第11代大管長であり、教会の偉大な教師の一人であったハロルド・B・リー大管長は、分かりやすい言葉で次のように勧告しています。「神権者になるとき、わたしたちは主の代理人になります。神権者は主の用向きを受けている者として、召しについて考えるべきです。』⁵

さて皆さんの中には、生まれつき内気だとか、自分には召しを積極的に果たすだけの力がないと考えている人もいるでしょう。忘れないでください。この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の業なのです。わたしたちは主の用向きを受けて働くときには、主の助けを頂く特権があるのです。主は重荷に耐えられるようにわたしたちの肩を強くしてください。

正規の教室で行われるレッスンは、時として威圧的に感じることもあるかもしれませんが。最も効果的なレッスンの幾つかは礼拝堂や教室の外で行われます。数年前、あるアロン神権者たちはアロン神権の回復を記念して毎年行われるキャンプをとっても楽しみにしていました。わたしのステーキの若い男性たちはバスに乗って約150キロ北のクラークストーン墓地へ行きました。モルモン書の3人の証人の一人であるマーティン・ハリスの墓を見学するためです。美しいみかげ石の墓標を囲むと、一人の高等評議員がマーティン・ハリスの略歴を説明し、モルモン書から彼の証あかしを読み、加えて自らモルモン書が真実であると証を述べました。若い男性たちはじっと耳を傾け、墓標に触れ、そこで聞いた言葉や心に感じた気持ちについて深く考えました。



それからローガンの公園で昼食を取りました。若者たちはローガン神殿の庭園の芝生に横になり、そびえ立つ神殿の塔を見上げました。そよ風が吹く中を美しい白雲がたなびいていました。神殿の目的を教わり、聖約と約束が単なる言葉以上の意味を持っていると理解できた若者たちの心には、神殿に入るにふさわしくなりたいという気持ちが芽生えました。天国がとても近く感じられました。確かにわたしたちは学ぶべきことを学んだのです。

2. なすべきことを行う。教義と聖約第107章には、預言者ジョセフ・スミスに与えられた神権に関する啓示が書かれています。「学習」が「行動」に移ることについて次のように記されています。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。』⁶

今夜この部会に出席している神権者には皆、奉仕する召し、割り当てられた責任を最善を尽くして果たす召しと与えられています。主の業にあっては、つまらない割り当ては一つもありません。どれも永遠に価値のあるものです。ジョン・テラー大管長はこのように警告しています。「もしあなたが召しを尊んで大いなるものとしなければ、義務を果たしていれば救うことができたかもしれない人々に対して、あなたは神から責任を問われるでしょう。』⁷ 永遠の命への機会を得る時期を遅らせたことに対して責任を取れるよ

うな人などいません。一人の人を救うことが大きな喜びであるならば、臆おそすることです。努力が足りなかったために、一人の神の子が勧告や助けを得られず、もっと頼りになる神の僕が来るまで待たなければならぬとき、その神権者はどれほどひどく後悔の念を覚えるでしょうか。

「人事を尽くして天命を待つ」という古い格言がありますが、これは真実です。

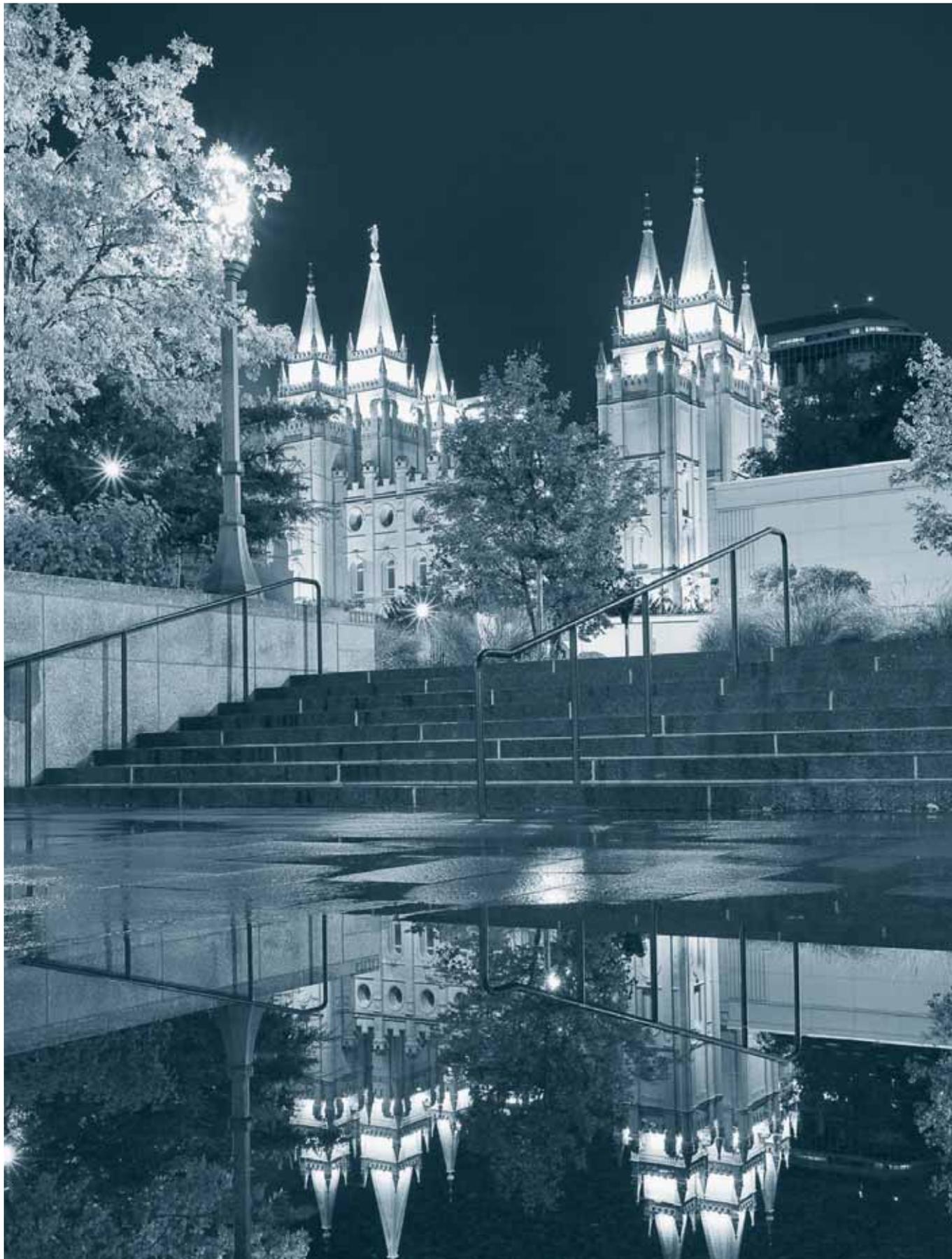
神権者による奉仕の大部分は静かに目立たない所で行われています。優しいほほえみ、温かい握手、真理に対する真心からの証は、まさしく生活を改善し、人格を変え、人を救いへと導きます。

そのような奉仕の一例を挙げましょう。ジュリアス・フセックと妻ドロシーはポーランドで2年間伝道する召しを受けました。フセック兄弟はポーランド生まれで、その国の言葉を話し、ポーランド人を愛していました。フセック姉妹はイギリス人で、ポーランドの言葉や人々についてほとんど知りませんでした。

二人は主を信頼して伝道を始めました。生活環境は決して快適とは言えないものでした。仕事は孤独で、しかもすべきことは山ほどありました。当時ポーランドにはまだ伝道部がありませんでした。フセック夫妻に与えられた割り当ては道を備えることです。それは伝道部が設置され、ほかの宣教師が召され、人々を教え、改宗者にバプテスマを施し、支部を設立し、礼拝堂を建てるための準備でした。

責任のあまりの大きさに二人はくじけてしまったのでしょうか。そのようなことは一瞬たりともありませんでした。自分たちの召しが神から与えられたものであると知っていた二人は天の助けを祈り求め、全身全霊で打ち込みました。結局ポーランドに2年ではなく5年滞在し、これらの目的を果たしたのです。

ラッセル・M・ネルソン長老、ハンス・B・リンガー長老、それにわたしはフセック長老とともにポーランド政府のアダム・ロバトカ長官を訪れました。長官はこう言われました。「あなたがたの教会を歓迎いたします。建物を造ってもけっこうですし、宣教師を派遣してもけっこうです。どうぞ



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2008年10月現在

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒委員会



ボイド・K・バックカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



Dトッド・クリストフアーソン

七十人会長会



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラズバンド



クラウチアイ・R・M・ラスマス



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・ゴフ



L・ホイットニー・クラートン



ジェイ・E・ジェンセン

七十人第一定員会



マルコス・A・アイドカタイス



カーロス・H・アマード



デビッド・S・ハクスター



シェーン・M・ボーン



ジョセフ・M・コーコラン



クレイグ・C・クリステンセン



ゲリー・J・コールマン



スペンサー・J・コンロイ



ロバート・E・コービット



ベンハミン・T・オハリス



ジョン・B・ディンキンズ



チャールズ・H・デュワー



デビッド・F・エリクス



エリック・B・フレイザー



エドワード・ガブライト



ロバート・A・ゴイド



クリスティアン・G・ゴーマン



チャールズ・C・ヘフエナン



ドナルド・L・ホルストロム



スタンレー・G・スタンスベリー



ウィリアム・D・シャリール



ドン・R・クラーク



ジェームズ・M・ダガン



キース・R・エドワーズ



ジェームズ・J・ハムラ



キース・K・ヒルビグ



リチャード・G・ヒンクル



マーティン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



トマス・ジョンソン



ロバート・V・ジョンソン



熊地 健彦



ロバート・E・コーリカー



エリック・W・コビュッチョ



スタンレー・G・スタンスベリー



ダレル・H・ガン



ラリー・W・キボンズ



スベンサー・V・ジョンソン



ジョン・M・マドソン



リチャード・J・メイントス



リン・A・ミケルソン



マーク・B・ナッチェウ



デニス・B・ナイセンゴファー



グレン・L・ペイス



アラン・F・パーカー



ケビン・W・ピアトン



アンソニー・D・パークンズ



ロバート・B・パイヤー



高 拓哉



ロバート・C・オークス



ウィリアム・W・マスタク



ウィリアム・W・マスタク



ラルフ・E・H・ポール



ブルース・D・ポーター



カール・B・プラット



リン・G・ロビンス



ジョセフ・F・セハロ



クリス・アップル



ゲary・E・スタインヒルバー



ジョセフ・A・タイズラー



ロバート・A・タイズラー



ロバート・S・ワッド



ケント・D・ウィントン



ウィリアム・S・ワッド



ウィリアム・S・ワッド



ウィリアム・S・ワッド

七十人第二定員会



マービン・B・アーノルド



ダグラス・L・カリスター



ダッド・R・カリスター



クレイグ・A・カードン



ウィリアム・D・シャリール



ドン・R・クラーク



ジェームズ・M・ダガン



キース・R・エドワーズ



スタンレー・G・スタンスベリー



ダレル・H・ガン



ラリー・W・キボンズ



スベンサー・V・ジョンソン



高 拓哉



ロバート・C・オークス



ウィリアム・W・マスタク



ウィリアム・W・マスタク



ラルフ・E・H・ポール



ブルース・D・ポーター



カール・B・プラット



リン・G・ロビンス



ジョセフ・F・セハロ



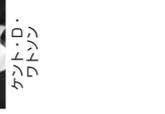
クリス・アップル



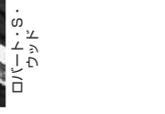
ゲary・E・スタインヒルバー



ロバート・S・ワッド



ケント・D・ウィントン



ウィリアム・S・ワッド



ウィリアム・S・ワッド



ウィリアム・S・ワッド

管理ビジネスプロリック



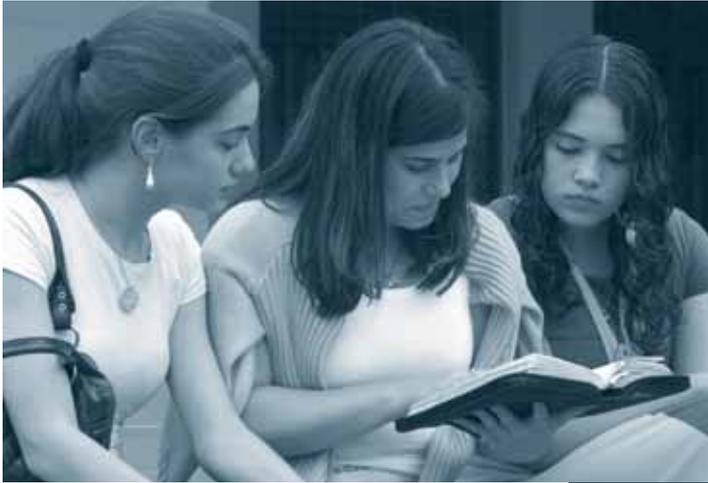
第一顧問
リチャード・C・エズレ



管理ビジネスプロリック
ジョセフ・B・ハートン



第二顧問
ジョセフ・B・マクミラン



総大会での教えを享受するため、部会にとも集った
ウクライナ(中段左、キエフ神殿建設地の前)と
ナイジェリア(下段左)の教会員。



部会の合間に聖典を学び(上段左)語り合う(上段右)
ブラジルの聖徒たちとその様子を跳める若い男性(中段右)。

ポーランドへおいでください。」そして長官はジュリアス・フセック長老を指して言われました。「この方は教会のために一生懸命働いてくれました。皆さんは彼の模範と働きに感謝なさるとよいでしょう。」

フセック夫妻のように、わたしたちも主の業においてなすべきことを行おうではありませんか。そうすれば、わたしたちもジュリアス・フセックと妻ドロシーとともに次の詩篇の言葉を体現することができるでしょう。「わが助けは、天と地を造られた主から来る。……あなたを守る者はまどろむことがない。見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。」⁸

3. なるべき人物になる。パウロは愛する友であり同僚のテモテに、言葉にも、行状にも、慈愛にも、霊にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になるようにと助言しました。⁹

割り当てをよく果たせるように祈り、天の助けを求めるよう皆さんに勧告します。「人間よりも優れた力が存在することを認めても、決して人間の価値が低くなるわけではない」¹⁰という言葉聞いたことがあります。人は求め、信じ、祈らなくてはなりません。そして、見いだすことができるという望みを持たなくてはなりません。真心から、祈るような気持ちで努力するならば、必ずこたえられます。これこそまさに信仰の真髄なのです。へりくだって求める人には神の恵みが授けられます。

モルモン書にはこれらすべてを含んだ助言が記されています。主は言われました。「したがって、あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。」¹¹

では、主はどのような人物であられたのでしょうか。主は奉仕の業を通してどのような模範を示されたのでしょうか。ヨハネによる福音書第10章を読んでみましょう。「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。

羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。

彼は雇人であって、羊のことを心にかけ



ていないからである。」

主はまた言われました。「わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。

それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。」¹²

兄弟の皆さん、学ぶべきことを学び、なすべきことを行い、なるべき人物になることができますように。そうするなら、天から祝福を受けることができます。わたしたちは決して独りではありません。1羽のすずめが落ちるのさえ知っておられる御方が、わたしたちを御存じないはずはありません。

数年前、長年の友人から手紙をもらいました。手紙には証が記されていました。今晚、その一部を紹介させていただきます。学ぶべきことを学び、なすべきことを行い、なるべき人物になろうと常に努力した人の持つ神権の力について描かれているからです。3年前に90歳で他界した友人セロン・W・ボラップの手紙から抜粋します。

「8歳でバプテスマを受け、聖霊を受けたとき、善良な人間になり、生涯を通じて聖霊の助けを受けられることに大きな感動を覚えました。聖霊は善良な人々とのみ交われ、生活に悪が入って来ると聖霊は去って行かれることを告げられました。聖霊の励ましや導きがいつ必要になるか知りませんでした。この賜物を失わないため、そのような生き方をしよう努

力しました。この賜物のおかげで、あるときわたしは命を救われたのです。

第二次世界大戦中、わたしは南太平洋でエンジニア兼射撃手としてB-24爆撃機に乗り込んでいました。……ある日、石油精製所を壊滅させるため、これまでで最長の爆撃飛行を試みるという発表がありました。わたしは聖霊から、自分はこの作戦に送られるが、命を失うことはないという促しを受けました。当時、わたしは末日聖徒グループのリーダーを務めていました。

ボルネオまで飛んで行くと、激しい戦闘になりました。わたしたちの飛行機は相手の戦闘機の銃撃で被弾し、すぐに炎に包まれました。パイロットは脱出に備えるようにと言いました。最後に脱出したのはわたしでした。海上に漂っている間も敵国のパイロットから狙撃されました。わたしは救命ボートを膨らますのに苦労しました。海面を浮き沈みしているうちにおぼれかけ、意識が遠のいていきました。一瞬意識が戻ると、「神様、助けてください」と叫びました。……もう一度救命ボートを膨らませようとする、今度はうまくいきました。自分が沈まない程度の空気を入れ、転がるようにボートに乗り込みました。疲労で動くことができませんでした。

敵艦に囲まれ、戦闘機が頭上を飛び交う敵陣の中で、わたしたちは3日間海に浮かんでいました。青い海に浮かぶ黄色いボートの一団がなぜ敵に見つからなかったのかは謎です。」彼はつづけてこう書いています。「嵐になり、10メートルにもなる

一つに結ばれた心

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

義のうちに完全に一致するならば、聖徒たちは主のあらゆる目的を達成することができます。



愛する兄弟姉妹の皆さん、この安息日の朝に皆さんとともに集えることは喜びです。わたしたちは、様々な環境の中で生活しています。あらゆる国、そしてあらゆる文化的背景から神の王国に入ります。預言されたこの集合の業はさらに加速するでしょう。

人々の間での衝突が、世界中で増えています。そのような分裂と紛争はわたしたちにも影響を与えることがあります。ですから今日、大いなる一致の日が近づきつつあるという希望のメッセージをお伝えします。主なるエホバは、御自分の民となる人々と住まうために戻って来て、民が結ばれ、心をついにし、主と、また御父と結ばれているのを御覧になるでしょう。

一つになるというメッセージはすでに何度かお伝えしました。今後も話すでしょう。わたしはこれまで、神のすべての預言者から同じことを聞いてきました。わたしが

記憶しているデビッド・O・マッケイ大管長の最後のメッセージは、一致への願いでした。主の預言者たちは一致することを常に求めています。この民が輝かしい行く末に備えるに当たり、一致の賜物を頂くことはさらに必要になります。しかし、その賜物を保つのはさらに難しくなるでしょう。

このメッセージを伝えるに当たり、わたしたちは向上していると申し上げます。父親と母親は家庭の一致を祈り求めており、その祈りはこたえられています。家族は朝に夜に一つになって祈っています。ある家庭を訪問したとき、就寝前の祈りの輪に加わるよう招かれました。いちばん年下の子が祈るように言われました。その子は、まるで族長のように、家族一人一人の名前を挙げながら祈りました。わたしは少しの間目を開けて、両親とほかの子供たちの顔を見ました。その幼い男の子の祈りを聞きながら、皆が信仰と心において一致していることがよく分かりました。

ある扶助協会の姉妹たちは、夫を突然失った若い姉妹を初めて訪問する際、一緒になって祈りました。葬儀のために家族や友人が訪れることになっていましたが、彼女たちは、その姉妹が準備をするのをともに手伝う方法を知りたかったのです。また、主の代わりにかけるべき慰めの言葉を知る必要がありました。祈りはこたえられました。家に着くと、彼女たちは、それぞれてきぱきと働きました。あまりに早く準備が済み、もっと手伝いができなかったことを残念に思う姉妹もいたくらいです。彼女たちは、その時必要とされて

高波にボートは引き裂かれそうになりました。食べ物も水もなく3日が過ぎました。兵士たちはわたしが祈ったかどうか尋ねました。わたしは自分が祈ったことを伝え、必ず救出されるだろうと言いました。夕方になると、味方の潜水艦が見えました。救出に来てくれたのかと思ったのですが、通り過ぎてしまいました。翌朝も同じように通り過ぎました。わたしたちは、この地域に味方が来るのはこの日が最後だと知っていました。すると聖霊の促しがありました。『あなたは神権を持っています。救出するよう潜水艦に命じなさい。』わたしは心の中で祈りました。『イエス・キリストの御名と神権の権能により、向きを変え、わたしたちを救出するように命じる。』数分後、潜水艦はわたしたちのそばまでやって来ました。デッキにたどり着くと、艦長は言いました。『どうして君たちを見つげられたのか分からない。君たちを探していたわけではなかったのに。』しかし、わたしには分かっていました。』¹³

わたしたちが携わっているこの業は真実であることを証します。主御自身がその導き手であられます。わたしたちがいつも主に従うことができるよう心から祈り、イエス・キリストの御名により願います。アーメン。

注

1. エゼキエル36:26-28
2. ビリビ3:13-14
3. ヘブル12:1-2
4. スティーブン・L・リチャーズ, Conference Report, 1937年4月, 46
5. ハロルド・B・リー, *Stand Ye in Holy Places* (1974年), 255
6. 教義と聖約107:99
7. ジョン・テラー, "Discourse," *Deseret News*, 1878年8月7日付, 2
8. 詩篇121:2-4
9. テモテ4:12
10. スティーブン・L・リチャーズ, Conference Report, 1937年10月, 10
11. 3ニーファイ27:27
12. ヨハネ10:11-15
13. 個人の書簡; 強調付加



いた慰めの言葉をかけました。一つとなつて主の御心にかなう奉仕をした彼女たちの心は結ばれました。

皆さんは、わたしと同様、教会員が以前にも増して一致している様子を見ていでしょう。一致の奇跡は、主の方法で祈り、努力するときに起こります。心が一つに結ばれるのです。互いの背景にどのような違いがあっても、周囲でどのような激しい衝突が起こっても、神は忠実な聖徒たちに一致の祝福を約束しておられます。主は、わたしたちが一つとなるようにと御父に願われたとき、弟子たちのために、そしてわたしたちのためにも祈られたのです。¹

わたしたちが一致を求める理由と、御父が一致を与えようとされる理由は同じです。一致の祝福を受けるときには喜びがあることを、わたしたちは経験を通して知っています。この世に来る前、わたしたちは御父と一致することで、その喜びを得ていました。天の御父の霊の子供であるわたしたちは、今もその喜びを切望しています。わたしたちを愛しておられる御父は、一致というわたしたちの神聖な望みがかなうよう願っておられるのです。

御父はその喜びを個別に与えることはなさいません。御父は、一致の喜びを与

えることを強く望まれています。それは独りでは得られないのです。ほかの人と一緒に求め、ふさわしさを示さなくてはなりません。ですから、祝福を与えるという目的をもって、神がわたしたちに集まるようにと勧告されたのは、驚くことではありません。神はわたしたちに、家族として集まるよう望んでおられます。また、クラス、ワード、支部を設立し、しばしば集まるように命じられました。神が意図されたそのような集まりに、すばらしい機会が待っているのです。わたしたちは祈ることができます。そして喜びをもたらす、奉仕の力を強めてくれる一致に向けて努力することができるのです。

3人のニーファイ人に、救い主は、忠実な働きへの最後の報いとして、主と一つとなる喜びを約束されました。「あなたがたは満ちみちる喜びを得、父の王国で座に着くであろう。父が満ちみちる喜びをわたしに与えてくださったように、まことに、あなたがたの喜びは満ちるであろう。そして、あなたがたはわたしのようになる。わたしは父のようであり、父とわたしは一つである。」²

主はわたしたちに手引きを与え、永遠に深まる一致という祝福と喜びを得るに

はどうすればよいかを教えてくださいました。モルモン書の中には、一致が達成された時の様子が記録されています。アルマの時代のモルモンが泉での出来事です。危険で困難な状況の中で民が取った行動から、わたしたちは導きと励ましを得ることができます。

靈感を受けたアルマとその民が行ったことは、すべてがイエス・キリストの贖罪を通じた心の変化を選ぶことにつながりました。それ以外に、心をつ一つにするという祝福を神から頂く方法はありません。モーサヤ書にこうあります。

「そしてそれ以後、彼らは神の教会、すなわちキリストの教会と呼ばれた。また、神の力と権能によってバプテスマを受けた人々はだれでも、神の教会に加えられた。……

またアルマは祭司たちに、自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示した。

まことに、彼は祭司たちに、悔い改めと、御自分の民を贖われた主を信じる信仰のほかは、何も説かないように指示したのである。

また彼は祭司たちに、決して互いに争

うことなく、互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。

彼はこのように祭司たちに、教えを説くように指示した。このようにして、人々は神の子となった。』³

この理由でアルマは、信仰と悔い改めを教えるように民に命じたのです。同じ理由から、わたしは家庭の夕べで、家族が救い主と救い主の使命について証するようになってほしいと願いながらレッスンをし、子供たちにも、その願いを分かちてもらえるようになりました。あるときは親であるわたしたちが救い主について証しました。レッスンをしたり、質問に答えたりすることを通して、子供たちが証してくれたときはほんとうにうれしかったです。証をすると、聖霊がそれを確認してくださいました。そのようなとき、家族の心が結ばれるのを感じました。

儀式以外にも、わたしたちが民として従

っている原則があります。この原則は、より深い一致をもたらしてくれます。

啓示はそのような原則の一つです。啓示は、ともに主の御心に従う方法を知る唯一の方法です。啓示には天からの光が必要です。聖霊はわたしたちの心に、そしてともに集まる人々の心に、主がわたしたちに望んでおられる事柄を証してくださいます。そして、主の戒めを守ることにより、わたしたちの心は一つに結ばれるのです。

一致に向けて努力するわたしたちを導く第2の原則は謙遜になることです。高慢は一致の大敵です。皆さんは、高慢の恐ろしい影響を肌で感じたことがあるでしょう。ほんの数日前、意見の食い違う二人の人を見ました。どちらも善良な人です。最初は、穏やかな雰囲気では何が正しいかを話し合っていました。それが、二人のどちらが正しいかという争いになりました。次第に声が大きくなり、顔も赤らんできました。問題そのものについてではな

く、互いの人格についての言い合いに変わり、自分には優れた能力や知識があることを示しながら、なぜ自分の考えの方が正しいのか、証拠をぶつけ合っていました。

わたしと同じように、皆さんもそうした衝突から来る危機感を持ったことがあるでしょう。わたしたちは、そのような、人生を台なしにするような悲しい不一致を目にしてきました。皆さんもわたしも、自尊心を傷つけられたために聖徒の交わりを去った人々を知っています。

幸いなことに、平和を作り出すことにたけた仲裁者も多く、彼らは大事に至る前に波風を鎮めてくれます。皆さんも、争いの中にあるときや、争いを見かけたときに、平和を作り出す人になることができます。

平和を作り出す方法の一つは、同意できる点を何かしら見つけることです。平和を作り出す人、または仲裁者となるには、どんなに相違点が多くても、神の子であるわたしたちが正しいと信じる意見の一つ一つには、どれにもきっと真実の一端があるのだと心から信じる必要があります。一致を取り戻す偉大な仲裁者は、共有できる真実に皆の目を向けさせられる人です。共通の真実は常に相違点をしのぎ、より大切なものとなります。神に助けを求め、そして行動するなら、自ら共通の土台を見つけれられるだけでなく、ほかの人もそうできるよう助けることができます。神は、平和を回復したいと望む皆さんの祈りにこたえてくださいます。そのようなわたしの祈りにも、神はこたえてくださいました。

同じ原則は、自分とはかけ離れた背景の人々と一致するときにも応用できます。神の子には相違点よりも共通点の方が多いのです。相違点を絶好の機会ととらえることもできます。神の助けがあれば、ほかの人の持つ相違点を、いら立ちの原因ではなく、有益なものとして見るができるでしょう。主の助けによって、ほかの人の持つものが自分の欠点を補ってくると感じ、感謝できるようになるのです。優しい主の助けにより、相違点を持つ人と交わる機会を得、その人の相違点のおかげで必要な助けが得られたという経験



がわたしには何度もあります。これは、よりよく主に仕えるうえで自分に足りないものを補うための主の方法なのです。

これは、一致についてのもう一つの原則につながります。それは互いの良い点について話すということです。家族や教会のだれかについての意見や、その人の最近の状況を尋ねられたときのことを思い出してください。この1週間で、わたしにはそのようなことが何度もありました。人を判断しなければならぬときは確かにあります。そのような判断を言葉にしなければならぬときもあります。しかしたいは、どのような判断をするか自分で選ぶことができます。例えば、新しいビショップについてどう思うかと尋ねられたとしたらどうでしょうか。

一致を築くことにたけてくると、そのような質問を受けたときに聖句を思い浮かべようになります。「さて、わたしの同胞よ、あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っているので、誤って裁かないように注意なさい。あなたがたが裁くその裁きで、あなたがたも裁かれるからである。」⁴

自分が不完全な光の中でほかの人を見ていることを悟れば、わたしたちはもう少し寛大な言葉遣いをするようになるでしょう。皆さんはこの聖句に加えて、母親からこのような言葉を聞いたことがあるかもしれません。わたしの母はよくこう言いました。「その人について良いことを言えないのであったら、何も言わないでおきなさい。」

これらを心に留めるなら、ビショップの働きや性格の最も良い点を探せるようになります。愛にあふれたあなたの裁き主である救い主も、あなたとわたしの行いを裁くときに必ずそうなさるでしょう。先ほどの聖句とあの母親の教えを思い出すなら、ビショップの働きの最も良い部分や、ビショップが善良な動機から行動していることについて話せるようになるでしょう。キリストの光の中で、ほかの人について寛大な発言をするなら、平和と喜びがもたらされることをわたしは約束できます。例えば、あなたはビショップとも、あなたの意



見を求めた人とも一致を感じるができるでしょう。それは、ビショップが完全な人だからでも、あなたの寛大な評価にその人が同意したからでもありません。それは、不一致の種をまくという可能性を排除したあなたの選択に、主が感謝しておられることを感じるからです。

主はわたしたちとは異なる人々をさらに多く集めておられます。ですから、これと同じ原則に従わなければなりません。今後さらに明白になるのは、贖いにより、全員が同じ変化を経験するということです。わたしたちは、柔和で、愛があり、容易に勧告に従い、同時に恐れを知らず、すべてに忠実な弟子になるのです。住む国は違っても、人が変わると同じプロセスを通して教会に入ります。わたしたちは御霊の賜物により、使徒パウロが見たような者になるのです。

「というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中であって、父のみもとに近づくことができるからである。

そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」⁵

一致が深まるなら、主は、世の中では奇跡と考えるようなことを行うことができになるでしょう。義のうちに完全に一致するならば、聖徒たちは主のあらゆる目的を達成できるのです。

国の最高指導者、自治体の長、世界の慈善団体の指導者たちから次のような言

葉を耳にします。「災害が起きたとき、あなた方の教会は真っ先に助けに来てくれました。何百人もの教会の方が、被災者のために必要なものを持って来てくれました。自分のテントや物資さえ持って来てくれました。疲れを知らず、明るい人たちでした。行くべき場所や動くべき時を理解しているようでした。」そしてよく、このように言われます。「皆さんは、どのように救援活動を組織したらよいかよく知っています。」

わたしは、そうした方々に感謝の言葉を述べますが、奇跡は組織力だけでなく人の心にもかかっていると言うことは控えています。聖徒たちは主の御名によって、主がなされるであろう助けを行うために来ました。主が選ばれた指導者の指示に従って来たのです。心が結ばれているので、力が増し加えられたのです。

今日にしている一致はさらに増し加えられると厳粛に証します。父なる神は生きておられます。御父は愛をもって祈りを聞き、こたえられます。復活し栄光に満ちた救い主イエス・キリストは生きておられ、憐れみの手を差し伸べてくださいます。この教会は主のまことの教会です。モンスン大管長は神の生ける預言者です。神の望まれることに進んで従う姿勢を示し、心から一致して大管長を支持するなら、わたしたちは神が望まれる所へ行き、主が望まれる者となるためにともに力強く前進していくことでしょう。

家庭と教会の中で一致を享受できるよう皆さんに祝福を残します。一致のもらす喜びを得るため、皆さんの心の中に義になかった望みが生じるという主の約束を残します。

イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ17:21参照。教義と聖約50:43:93:3も参照
2. 3ニーファイ28:10
3. モーサヤ18:17, 19-22
4. モロナイ7:18
5. エペソ2:18-19

クリスチャンらしい勇気 ——弟子としての犠牲

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

非難する相手に、救い主のように答えましょう。



わ たしたちは集まって、一つとなり、イエス・キリストの御名を受けています。わたしたちはクリスチャンなのです。そのようなわたしたちは次のような一つの疑問を抱えています。「では、わたしたちが救い主の愛を持っているのならどうして、わたしたちに敵対し、攻撃したがる人がいるのですか。」最近、聡明で忠実な末日聖徒の若者たちが、彼らの最も懸念している問題を書き出しました。その中である姉妹は次のように問いました。「教会は非難を受けたとき、なぜもっと弁明しないのですか。」

彼女の問いに答えましょう。信仰を問題視されたり批判されたりするのは、この世の大きな試しの一つです。そのようなときに、議論に備えて強気の構えをしたく

なるかもしれません。しかし、そのようなときこそ、思慮深くあり、祈り、救い主の模範に従う大切な機会なのです。思い出してください。イエス御自身も世からさげすまれ、拒まれました。リーハイの夢で、救い主のみもとに来た人も「指さし、あざけり笑」われました(1ニーファイ8:27)。イエスは言われました。「世は〔弟子たちを〕憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではないからです。」(ヨハネ17:14)しかし、非難する相手に救い主のように応じることは、わたしたちがキリストに似た者となるだけでなく、人々が主の愛を感じて主に従うように手を差し伸べることを意味しているのです。

キリストのように応じるための脚本や公式はありません。救い主はそれぞれの状況に、異なった方法で応じられました。邪悪なヘロデ王に対峙したときには沈黙を保たれました。ピラトの前に立ったときは、御自身の神性と目的について簡潔かつ力強く証されました。神殿を汚していた両替商には、その神聖さを守るために、神としての責任を果たされました。十字架にかけられたときには、キリストとしての比類ない言葉を口にされました。「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

沈黙、柔和、赦し、謙遜な証を述べること、これらを消極的で弱々しい応じ方だと誤解する人がいます。しかし「敵を愛し、

迫害する者のために祈る」には(マタイ5:44)、信仰と強さと、何よりもクリスチャンらしい勇気が必要です。

預言者ジョセフ・スミスは生涯を通してこの勇気を示しました。「宗教心のある人か宗教心のない人かを問わず、あらゆる階級の人々から容赦のない迫害を受けていた」にもかかわらず(ジョセフ・スミス—歴史1:27)、ジョセフは報復することも、憎むこともありませんでした。キリストの真の弟子は皆そうですが、寛容に、憐れみ深く愛することにより、ジョセフは救い主とともに立ちました。これこそクリスチャンらしい勇気なのです。

報復しないで、もう一方の頬を向け、怒りを抑えるとき、わたしたちも救い主とともに立っているのです。主の愛を示すことは、反対者の心を和らげ、非難してくる人に非難せずに応じる唯一の力です。それは弱さではありません。これこそクリスチャンらしい勇気なのです。

歴史から分かるのは、教会に対する批判は新しい問題ではないということ、そして、そのような批判はなかなか消滅しないということです。しかしキリストの真の弟子は反対の中に存在する機会に目を向けます。

モルモン書の預言者アビナダイは、縛られ、邪悪なノア王の前に引き出されました。王はアビナダイに激しく反対し、ついに死刑を言い渡しましたが、それでもアビナダイは大胆に福音を教え、証を述べました。アビナダイがその機会を生かしたので、アルマという名の祭司が福音に改宗し、多くの人をキリストのみもとに導きました。アビナダイとアルマの勇気は、クリスチャンらしい勇気でした。

経験から分かるのは、教会が悪評を受けている時期には、それがきっかけで主の目的が達せられることもあるということです。1983年、大管長会は教会の指導者にこう書き送りました。「反対こそが好機かもしれません。宣教師は常に、宗教や教会のメッセージに対する人々の関心が薄いという問題に直面しています。教会が批判されるとき、人々は教会に関心を持ちます。それは〔会員たちにとって〕教



会に関心を向ける人々に真理を紹介する機会になります。』¹

このような機会は様々な方法で活用できます。批判を載せた新聞や雑誌の編集責任者に親切な手紙を書く、友達と話す、ブログにコメントを書く、教会を中傷している人に教会についての不安を解消する言葉をかける、などです。誤った情報や偏見に影響を受けている人、「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる」人に(教義と聖約123:12)、愛をもって答えるのです。非難する人にこのように応じることは、決して弱さではないことを断言します。これこそクリスチャンらしい勇気の実践なのです。

批判に応じるときの状況はそれぞれ異なります。ありがたいことに、主は非難する人の本心も、わたしたちが最も効果的に応じる方法も御存じです。真の弟子は御霊の導きを求めるとそれぞれの状況に合った靈感を受けます。そしてあらゆる状況において、真の弟子は主の御霊をその場に招くような応じ方をします。パウロはコリントの人々に自分の宣教について思い起こさせたとき、それは「巧みな知恵

の言葉によらないで、霊と力の証明によったのである」と述べました(1コリント2:4)。その力は主の御霊に宿っているので、信仰について語るときに争おうとしてはなりません。宣教師は皆知っているでしょうが、聖書を使って教義の論争をすると必ず御霊が遠ざかります。救い主は言われました。「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではな[い。]」(3ネーファイ11:29) この教会はキリスト教ではないと非難されるよりも悲しいのは、そのような非難に対して教会員がクリスチャンらしくない方法で応じることです。人との会話にいつも御霊の実、つまり「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、〔そして〕自制」が伴うようにと願っています(ガラテヤ5:22-23)。ウェブスターの辞書によると、柔和とは「忍耐と我慢強さを示すこと。侮辱に腹を立てずに耐えること」²とあります。柔和は弱さではありません。クリスチャンらしい勇気のしるしです。

これは他のキリスト教派の人たちと交流するときに特に重要です。隣人である他のキリスト教派の人たちと、教義的な違いについて争いの心で討論するなら、間

違いなく天の御父は悲しまれ、悪魔が声を立てて笑います。

原則を曲げ、信念を崩しなさいと提案しているものではありません。教義を教え、教義に従うことでこの世で評判が落ちたとしても、回復された福音の教義を変えることはできません。それでも、神の御言葉を大胆に語りたいと思うときでさえ、聖霊に満たされるよう祈らなくてはならないのです(使徒4:29, 31 参照)。大胆さと決して間違えてはならないのは、サタンのまがい物である尊大さです(アルマ38:12参照)。真の弟子は自慢やうぬぼれではなく、静かな自信をもって語ります。

真の弟子は自己弁護ではなく人々の福利を第一に考えます。質問や批判を受けることは、相手と親しくなり、御父やわたしたちにとってその人が大切な存在であることを示す機会となります。自己を弁護したり、神学論争に勝ったりするためでなく、相手が真理を理解できるように助けるために話してください。非難する相手に対する最も力強い答えは、心からの証です。愛と柔和さがなければそのような証はできません。わたしたちはエドワード・



パートリッジのようになるべきです。主は言われました。「彼の心〔は〕わたしの前に清い……。彼は心に偽りのない、昔のナタナエルのような。」(教義と聖約41:11)心に偽りのない人とは、子供のように汚れなく、怒るに遅く、赦すに早い人です。

そのような特質はまず家庭ではぐくまれ、あらゆる人間関係の中で実践できるものです。心に偽りのない人は、自身に落ち度がないかまず探します。非難されたら、救い主の使徒たちのように「主よ、わたしですか」と自問すべきです(マタイ26:22参照)。御霊の答えに耳を傾けるなら、必要なときに軌道修正し、謝り、赦しを請い、行いを改めることができます。

心に偽りのない真の弟子は人の意見を過度に批判することはありません。多くの会員は、教会員ではない学校の友達、職場の同僚、世界中の友達や隣人と固い友情を築いています。わたしたちには彼らが必要であり、彼らもわたしたちを必要としています。トーマス・S・モンソン大管

長が教えたように「人に敬意を払うようになりましょう。……町や国や世界で、一人だけで生きている人はいないのです。」³

救い主がヘロデになされたように、時に真の弟子は沈黙をもってクリスチャンらしい勇気を示す必要があります。以前、ゴルフをしていたとき、ヤマアラシのようにとげを突き出すサボテンに体がこすれてしまいました。サボテン自体にはほとんど触れませんでした。とげが服全体に刺さりました。このサボテンのような状況に遭遇することもあります。どのように接しても傷ついてしまうような状況です。そのような場合は、近づかないで立ち去るべきです。相手は挑発的に、議論を吹きかけてくるかもしれません。モルモン書では、レホンタイと衛兵が山の頂上に宿営していましたが、裏切り者のアマリキヤがふもとに「下りて来」て会談をするようにしきりに求めました。結局山から下りたレホンタイは「少しずつ」毒を盛られて殺され、レホンタイの兵はアマリキヤの手に落ちました(アルマ47章参照)。ある人々は議論や

非難というわなで、わたしたちを高い山から下ろそうとします。高い山には光があります。そこでは、朝の最初の光が見え、夕方の最後の光が見えます。それは安全な場所です。それは真実であり、知識のある場所です。時には、わたしたちを山から下ろし、神学上の泥試合に巻き込もうとする人たちがいます。議論が好きな少数の人は、インターネット上で、あるいは直接、宗教論争を始めます。わたしたちは常に互いへの敬意と愛の山の上にとどまっているべきです。

エルサレムに城壁を築いた預言者ネヘミヤの模範に従いましょう。敵はネヘミヤに平野での会見を求めました。そこで「〔ネヘミヤに〕危害を加えようと考えて」いたのです。レホンタイとは違い、ネヘミヤは賢くその申し入れを断る伝言を送りました。「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしおいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか。」(ネヘミヤ6:2-3)わたしたちにも行うべき大いなる業があります。手を休めて議論をし、気をそらすなら、その業を達成することなどできません。ですから、クリスチャンらしい勇気を出して、前進すべきなのです。詩篇にはこう書かれています。「悪をなす者のゆえに、心を悩ますな。」(詩篇37:1)

この世では悪が常につきまといます。現世における大切な試験は、世にあって世の者とならないことです。執り成しの祈りの中で救い主は天の御父にこう祈られました。「わたしをお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。」(ヨハネ17:15)しかし、救い主は迫害について警告したときでさえ、平安を約束されました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおどけるな。」(ヨハネ14:27)主の平安の外套がいのとうがわたしたちを包んでいるので、大管長会の次の約束が成就することを証します。「耐え難いと思われるほどの反対の声も、地上の神の王国を祝福

するものとなるでしょう。」⁴

質問してくれた姉妹と、非難する人にどう応じるべきか知りたがっているすべての人に答えます。わたしたちは彼らを愛しません。キリストに従い、クリスチャンらしい勇気を示すなら、人種、信条、宗教、政治的信念を問わず、愛さねばなりません。彼らよりも優れていると思っているのではなく、より優れた道、イエス・キリストの道を愛をもって示したいのです。主の道は、バプテスマの門と、義にかなった生活という細くて狭い道と、神の神殿につながる道です。主は「道であり、真理であり、命」です(ヨハネ14:6)。主によらなければ、わたしたちもすべての兄弟姉妹も、最高の賜物である永遠の命と永遠の幸福を得られません。彼らを助け、模範になることは、弱い人ではなく強い人の役目です。それは皆さんやわたし、弟子としての犠牲を払い、非難する人にクリスチャンらしい勇気をもって応じる末日聖徒の役目なのです。

モルモン⁵の証をわたしの証に代えてこの話を終えます。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。」(3ニーファイ5:13) 主についてのわたしの特別な証をお伝えします。主の愛が永遠であるため、わたしたちの命が永遠に続くことを証します。わたしたちが、主の永遠かつ無条件の愛をあらゆる地の兄弟姉妹に伝えられるよう、イエス・キリストの御名によりへりくだり祈ります、アーメン。

注

1. 大管長会からの手紙、1983年12月1日付
2. Webster's Third New International Dictionary, 1986年
3. トーマス・S・モンソン "In Quest of the Abundant Life," *Ensign*, 1988年3月号, 3
4. 大管長からの手紙、1983年12月1日付

神は御自身のすべての子供たちを愛し、助けられる

管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリン ビショップ

わたしたちは天の御父の助けを必要としています。この助けは人がその同胞に仕えることや祈り、キリストに心を向けることによりもたらされます。



回 復の業の何より重要な真理の一つは、神は生きておられ、天に住んでおられるということ、神は昇栄した御方で「骨肉の体」¹を持っておられるということ、神は昨日も今日も、また永遠にわたって変わることのない御方であり²、あらゆる徳と真理の源であられるということです。

アダムとエバは、この地上に送られた神の肉における最初の子供でした。彼らの創造について神はこう言われました。

「神であるわたしは、自分の形に人を創造した。わたしの独り子の形に人を創造し、男と女に創造した。」³

この真理は人類家族を高めてくれます。

男性と女性はすばらしい創造物であり、神の特性を授かっています。神は天地を創造したとき、自分に似た子供をもうけるという崇高な力をアダムとエバにお与えになりました。わたしたちが皆、神の形をしているのはそのためです。

しかし、わたしたちは大変な肉体的弱さや、危険と闘っています。病気や老い、死は避けることができませんし、困難や心痛は人生の旅路には付きものです。また、人は個人の願望、欲求、感情を充足することに駆り立てられています。

ほかにもありますが、このような理由で、わたしたちには天の御父の助けが必要で、この助けは同胞に奉仕することにより、大いにもたらされます。⁴ 「自分を愛するようにあなたの隣りを愛せよ」というのは戒めです。⁵ わたしたちは皆兄弟姉妹ですから、人は距離や文化、宗教、民族によって隔てられてはいても、皆「隣り人」なのです。預言者ジョセフ・スミスはこう言っています。「神の愛で満たされた人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、人々の中へ出て行きます。」⁶ 主は模範を示されました。

「主は人の子らの中で、ためになることを行われるからである。……したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決



して拒まれない。主は異教徒さえも心にかけられる。……すべての人が神にとって等しい存在なのである。」⁷

主の方法で人を助けるためには、自分自身をよく治め、助けが必要な人のために犠牲を払うよう努めます。貧しい者もその分にに応じて働き、人のためになる、より良いことを求めます。⁸ この規範は時の初めからありました。⁹

教会の福祉プログラムはこの神聖な規範の実践であり、忠実な教会員はこの規範に従っています。教会員のささげ物によって、^{ほんりよ}伴侶に先立たれた人への支援や、親のいない子供たちの世話、苦しんでいる人を保護することが可能になります。

数年前、中国の政府高官がソルトレーク・シティーを訪れ教会の施設を見学し、ブリガム・ヤング大学で講演をしました。教会の福祉プログラムについて説明を受けた彼は言いました。「このように皆がお互いを思いやっていたら、世界はもっと平和になるでしょうね。」

断食して、食べるはずだった食物の代価を貧しい人たちのためにささげるといふ行為に彼は興味を引かれました。彼はウェルフェアスクウェア(訳注—福祉プログラムを提供する、教会運営の施設)の見学を終えるとき、マネージャーに小さな赤い封筒を手渡しました。これは「^{アンパオ}紅包」と呼ばれるもので、中国では愛や祝福を示すものとして手渡され、それには幸せになるようにとの願いが込められています。大使は言いました。「小額ですが、昨日と今日、朝食を抜いた分のお金です。わたしの断食献金を教会の福祉プログラムのためにささげたいと思ひまして。」¹⁰

教会の福祉プログラムは神から靈感を受けています。その精神は、人の救いの土台となるものです。¹¹ それは奉仕の原則を示すものであり、イエス・キリストの教会が回復されたことを全世界に証するものでもあります。目に見えて分かる天からの助けです。トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「福祉の原則……は変

わりません。それは今後も変わることがないでしょう。なぜならそれは啓示として与えられた真理だからです。」¹²

神から助けを受けるもう一つの大切な方法は祈りです。わたしたちはイエス・キリストの御名によって御父である神に祈るようという戒めを与えられています。主はこう教えられました。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」¹³ 天の御父はすべての真心からの祈りにこたえてくださいます。

主の預言者として、モンソン大管長は言いました。「トンネルの先に光が見えないときも、夜明けが来ないかのように思えるときもあります。……そして見捨てられた、もう希望がない、孤独だと感じるのです。もし自分がそのような状況にいることが分かったら、信仰をもって天の御父を仰ぎ見てください。御父はあなたを力づけ、導いてくださるでしょう。苦しみを取り去っ

てはくださらないかもしれませんが、どのような嵐であつてもあなたを慰め、愛を込めて導いてくださいます。」¹⁴

ある種の必要が生じたときには、神のために働く権能を持つ人によってのみ行われる祈りに頼ります。イエス・キリストは行って「病人を癒し、死者を生き返らせ」¹⁵、疲れ果てた魂を引き上げられました。福音の回復とともに、神の業の一面であるこの働きを行うために必要な神権の力と権能も回復されました。¹⁶

病気の人やひどく悩んでいる人がいたら、「教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもら[ってください]。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ち上がらせて[くださいます]。』¹⁷ 忠実な長老たちは、主がおられたならばなさったであろうことを行う権能を託されています。¹⁸

祈りがこたえられた経験が記録されていたら、それは膨大な量に上り、世界もその書かれた文書を取め切れなんでしょう。名誉中央幹部であり、愛すべき友人のグレン・L・ラッド長老は心に留めておきたい次のような話をしてくれました。

「わたしは、ジャニスという親戚の12歳の少女が重傷を負って入院しているという電話を受けました。母親が娘に神権の祝福を受けさせたいと言うのです。」

「カウリー長老とわたしは病院に向かいました。そこで事故の詳細が分かりました。ジャニスは市営バスにひかれたのです。二つの後輪が彼女の頭部と胴体の上を通過して行ったとのことでした。」

「カウリー長老とわたしはジャニスの病室に入りました。彼女は骨盤を損傷し、肩に深い傷を負い、複数箇所骨折をしていました。さらに頭部の損傷は深刻で、もはや治すすべがないほどでした。ともあれ、わたしたちは儀式を施し、少女を祝福すべきだと感じました。わたしが油を注ぎ、カウリー長老がそれを結び固めました。カウリー長老は少女を祝福し、力強く毅然とした態度でこう告げました。回復して完全に治癒し、普通の生活を送れるようになるようにと。そして、多くの損傷については後遺症が出ることなく回復す



るようにとも祝福しました。これは偉大な祝福であり、ほんとうにすばらしい経験でした。」

ラッド長老はこう続けています。「ジャニスは1か月たってもまったく動くことができませんでした。しかし、わたしたちは信仰を持ち続けました。回復し、後遺症も残らないと祝福の中で宣言されたのですから。」

ラッド長老は結びにこう言っています。「あの病室を訪れてから長い年月が過ぎました。最近ジャニスと話す機会がありました。ジャニスはもう70歳で、3人の子供の母親であり、11人の孫がいます。これまで事故の後遺症に苦しんだことはただの一度もありません。」¹⁹

これは、わたしがこれまでに見てきた多くの癒しの中のほんの一例です。しかし、天の御父が祈りを通して御自身の子供たちを助けてくださることの証として、この病室で起こったことほど偉大なものはありません。58年ほど前、神は12歳の

ジャニスと二人の謙遜な神の僕たちのうえに助けを与えられたのです。

天の御父からの助けは、最終的には御子を通して与えられます。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」²⁰

わたしは主イエス・キリストについて証するとき、非常に敬虔な思いと畏敬の念を抱きます。証するときには、主の御名の用い方には細心の注意を払うことを忘れないようにします。わたしたちを導き、教え、救ってくださる主は身近な御方ではありますが、主については、隣近所の友人に語るように語ることはしません。

主は御父の霊の子供たちのうち最初に生まれた御方です。主は聖任されて行うように命じられたことをすべて行われました。すべてのことが主をたたえ、主を証するのはこのためです。²¹ 主は古代の預言者たちに記録すべきことを教えられ、今日の預言者にもその思いを明らかにされています。……そして主は、預言者の言葉をすべて成就されます。²²

神の独り子として、主はマリヤというおとめからお生まれになりました。死にうち勝ち、世の人々の罪を贖い、生者と死者に救いをもたらされました。復活なさった主として、使徒たちとともに魚と蜂蜜を食し、エルサレムとアメリカ大陸で群衆を招いて手と足とわき腹の傷に触れるようにおっしゃいました。それは、主こそがイスラエルの神であられること、主こそが生けるキリストであられるということ、すべての人が知るためでした。

すべての人に向けて主は言われました。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」²³

主はわたしたちの立法者であり、裁き主、世の贖い主であられます。再臨の時には「主権は彼の肩にあり、その名は霊妙、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君となえられる。」²⁴ このことを、イエス・キリ

ストの最も聖なる御名によって証します。
アーメン。

注

1. 教義と聖約130:22
2. 教義と聖約20:17参照
3. モーセ2:27。創世1:27も参照
4. モーサヤ2:17参照
5. マタイ22:39
6. *History of the Church*, 第4巻, 227
7. 2ニーファイ26:33
8. 教義と聖約56:16-18; 78:13-14; 104:13-18参照
9. 創世3:19; 出エジプト23:10-11; レビ19:9-10; マタイ25:40; モーサヤ4:16-27; モーセ4:25:5:1参照
10. ニール・K・ニューエル, "The Red Pocket" (未出版原稿, 1999年), 1
11. モーサヤ4:16-27参照
12. トーマス・S・モンソン「個人と家族の福祉に関する指導原則」『聖徒の道』1987年2月, 2
13. マタイ7:7-8
14. トーマス・S・モンソン「過去を振り返り, 前進する」『リアホナ』2008年5月号, 90
15. モーサヤ3:5
16. 教義と聖約13章:27:12-13; 110:11-16; 128:20-21参照
17. ヤコブの手紙5:14-15
18. ヨハネ14:11-14; 信仰箇条1:7; ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2編(1966年), 345参照
19. グレン・L・ラッドとの対話から。グレン・L・ラッド, "Miraculous Event," *Treasured Experiences of Glen L. Rudd* (自費出版原稿, 1995年), 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, 270-273も参照
20. ヨハネ3:16
21. モーセ6:63参照
22. アモス3:7; 教義と聖約1:38
23. ヨハネ11:25-26
24. 2ニーファイ19:6。イザヤ9:6も参照

徳に立ち返る

中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

今こそわたしたち一人一人が立ち上がり, 世に旗を掲げ, 徳に立ち返るようにと呼びかける時です。



前回の総大会で, わたしはモンソン大管長から新たに中央若い女性の会長に召されました。神の預言者の前でこの神聖な信任を受けたとき, わたしは心と勢力と思いと力を尽くして仕えることを誓いました。この召しを受ける前に, 「どんなに難しいことでもできる」という言葉を刻んだ小さなプレートを持っていました。その短い motto がわたしに勇気を与えてくれました。けれども, もしその motto を変えるなら, こうするでしょう。「神の力によって何事でもすることができる。」¹ 今日わたしは, この神聖な説教壇で神の力に頼ります。

今年の4月, 総大会の2日後に, 新しく召された会長会として最初の集会を開きました。わたしたちはエンサインピーク〔訳注——ソルトレーク盆地の北端に位置する山, エンサインは「旗」, ピークは「山頂」の意〕の頂上に登りました。そして眼下に

広がる盆地を見渡すと, 日の光に輝く神殿と天使モロナイが見えました。そのとき, わたしたちは会長会として神殿を目標にすべきことがはっきりと分かりました。そしてわたしたちの責任も明らかでした。「一人一人の若い女性が神聖な聖約を交わして守り, 神殿の儀式を受ける備えができるように助け」² なければならないということです。

「教会で行う事柄はすべて神殿の業に行き着きます。」³ 開拓者であった先祖たちが, 定住した家を離れて西部へと向かった理由は神殿でした。物資の不足に苦しみ, 死さえも身に受けた理由は神殿でした。旅の途中で赤ん坊を埋葬しながらも, 彼らが次のように歌うことができたのは, 神殿の聖約があったからでした。

恐れず来たれ, 聖徒 進み行けよ
その旅は辛くとも 恵みあらん⁴

すべてを失った人もいましたが, 彼らは神殿の儀式と神聖な聖約, 家族とともに永遠の命にあずかるという約束のすべてを手にして盆地にやって来ました。

聖徒たちがソルトレーク盆地に到着した2日後, プリガム・ヤングとその一行はエンサインピークに登り, その頂上で, 世界への旗印または標準の象徴として, 杖に黄色いバンダナを結びつけた旗を掲げました。⁵ 聖徒たちは光となり, 標準の象徴となるように求められました。今年の4月, わたしたち3人も, 杖にペルー製の金色のショールを結びつけた旗をエンサインピークで掲げました。それは「徳に立ち返る」

ように呼びかける世界への旗印であり、標準の象徴でした。

徳は、主の聖なる神殿に入り、御霊^{みたま}の導きを受けるための必要条件です。徳は「道徳的に高い標準に基づいて考え行動するパターン」です。⁶ 徳には純潔や道徳的な清さも含まれます。徳は、心と思いから生まれ、家庭においてはぐまれます。何千という小さな選びや行いの積み重ねです。今日の社会では徳^{こんにち}という言葉あまり聞かなくなりましたが、語源となるラテン語の*virtus*（バータス）には、強さという意味があります。徳高い女性や男性は、静かな威厳と内なる強さを持っています。聖霊を受けその導きを受けるふさわしさを備えているので、自信に満ちています。モンソン大管長はこのように勧告しています。「皆さん……は、……独り取り残されたとしても、正しいことを擁護する人となってください。周りの人が倣える模範、つまり光となるように、道徳的に正しくある勇氣を持ってください。自身の潔白な心と道徳的な清さよりも価値のある友情などありません。自分は清くふさわしいという確信をもって、与えられた務めを果たせるというのは、何とすばらしいことでしょう。」⁷

今日の社会において、わたしたちは道徳的に高い標準は古くさいとか、意味がない、または大切ではないという思いに徐々に陥ってはいないでしょうか。ヘイルズ長老が話したように、モルモン書のレホントアイは、山の頂上にいました。レホントアイと彼が率いた兵たちは、山から下りないと「固く決意して」いました。しかし、狡猾なアマリキヤが4回「山から下りて来るように」と、回を重ねるごとに大胆に働きかけただけで、レホントアイは山を下りてしまったのです。⁸ それから、アマリキヤの偽りの約束を信じ込んだレホントアイは「少しずつ……毒を盛ら[れて]」⁹ 死にました。ただ毒を盛られたのではなく、「少しずつ」です。同じようなことが今日も起こってはいないでしょうか。取り囲む不道徳を、まずは辛抱し、次いで哀れみ、果ては抱擁してはいないでしょうか。¹⁰ 偽りの手本や説得力のあるメディアのメッセージによって欺かれ、自分の神聖な価値を忘れてはい



ないでしょうか。わたしたちも少しずつ毒を盛られてはいないでしょうか。この高貴な世代の若人を誘惑して何もしないように仕向け、あるいはメールのやり取りばかりに夢中にさせて、真理の知識を得られなくすることほど、狡猾な欺きがあるでしょうか。神の預言者が皆さんや皆さんの時代のために書いたモルモン書に記されている真理から離れないでください。年齢にかかわらず、皆さんやわたしのような女性をそそのかし、自分自身や自分の容姿、服装、体型ばかりを気かけさせ、自分が神の娘であることや、その徳高い影響力で、家庭から始め、ひいては世の中を変える力があることを忘れさせる以上に、狡猾な欺きがあるでしょうか。また、年齢にかかわらず、神の聖なる神権を

持った男性をそそのかし、彼らを魅惑するポルノグラフィーによって信仰よりも肉の体に目を向けさせ、徳の擁護者ではなく不道徳の消費者になるよう仕向けること以上に、狡猾な欺きがあるでしょうか。モルモン書には、2,000人の若き英雄が、両親の交わした聖約と家族の信仰を守る強さと自信を、徳と清さによって得ていたことが記されています。彼らの徳と「いつでも誠実」であるという決意が、世の中を変えたのです。¹¹

わたしは、徳高い若い女性や若い男性が御霊に導かれるとき、世の中を変えることができると信じています。しかしそのためには徳に立ち返らなければなりません。厳しい訓練に取り組みなければなりません。マラソンのジューマ・イカンガー選手



は、ニューヨークマラソンで優勝した後にこう言っていました。「勝とうと思っても、そのために備えようと思わなければ意味がない。」¹² 今は、さらに自己訓練することによって備える時です。さらに「み国にふさわしく」¹³ なる時です。コースを定め、目標に集中する時です。徳に立ち返るには、まず心の中と家庭の中から始めなければなりません。

徳に立ち返ることを始めるためには、わたしたちはそれぞれ何ができるでしょうか。徳に立ち返るための道のりや訓練プログラムは一人一人違うでしょう。わたしの自己訓練プログラムは、聖文に書かれている指示に基づいています。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。」¹⁴ 「あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」¹⁵ 「聖なる場所に立ち[なさい。]」¹⁶ 「この世のものを捨て[なさい。]」¹⁷ 「悔い改め……なければならぬことを信じなさい。」¹⁸ 「いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守[りなさい。]」¹⁹ 「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」²⁰ 今こそ、これまで以上にモロナイの呼びかけにこたえ、「目を覚まして地から立ち上がり」「あらゆる善い賜物^{たまもの}を得るように、また悪い賜物や清くないものに触れないように」²¹ すべき時です。

先日、いちばん最近生まれた孫娘の祝福の儀式に参加しました。主人と息子たちとともに、多くの愛する人たちが孫娘を囲む光景は、わたしにとって神聖なものでした。

真っ白な衣装に包まれた孫娘は実に愛らしく、おばあさんたち二人の名前を付けられても気にする様子はありません。けれども最も感動したのは、息子のザックが父親として与えた祝福の言葉でした。息子は、幼いアナベル・イレインが、自分が神の娘であることを理解し、母や祖母、姉の模範に従うように、そして徳高い人生を歩み、神聖な神殿の聖約を交わして守る備えをする中で、大きな喜びを見いだせるようにと祝福しました。その神聖な瞬間に、わたしはすべての若い女性が同じように、生まれて祝福されたときだけでなく、生涯を通して、義にかなった神権の力によって囲まれ、強められ、守られるようにと祈りました。

先の総大会の聖会で、ワークドルフ管長が新しい預言者と大管長会への支持を求めたとき、わたしはすべての神権者が起立するのを見ました。わたしは皆さんの強さと神権の力を感じました。皆さんは徳の擁護者なのです。そして「若い女性は立ってください」と言ったとき、わたしは感動に包まれました。わたしの席から皆さん全員が一斉に立ち上がるのが見えました。今日の世に、皆さん以上に力強く徳を推し進める存在はいません。皆さんの義の影響を決して過小評価しないでください。

わたしたちは救い主の模範と「主の偉大な贖いの犠牲^{あがな}という無限の徳」²² によって徳に立ち返ることができることを証します。わたしたちは、難しいことだけでなく、何事でもなせるよう能力と強さを与えられます。今こそわたしたち一人一人が立ち上がり、世に旗を掲げ、徳に立ち返るよようにと呼びかける時です。この世を主の

再臨に備えるため、主の御手^{みて}に使われる者として生活し、「御子が御自身を現されるときに、……御子に似た者となれるように、……清い御子と同じようになれるよう〔に〕」²³ 祈ります。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

1. アルマ20：4参照
2. First Presidency letter, 1996年9月25日付
3. ラッセル・M・ネルソン, 「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 37参照
4. 「恐れず来たれ聖徒」『賛美歌』17番
5. ゴードン・B・ヒンクレー「国々の民を招く旗」『聖徒の道』1990年1月号, 53-54; ボイド・K・パッカー「防衛と避け所」『リアホナ』2006年11月号, 85参照
6. 「わたしの福音を宣べ伝えなさい」118
7. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』2008年5月号, 65
8. アルマ47：4-12参照
9. アルマ47：18
10. アレキサンダー・ポーブ, An Essay on Man, 手紙2, 217-20行
11. アルマ53：20; アルマ56も参照
12. ジュマ・イカンガー, マイケル・サンドロック, Running with the Legends: Training and Racing Insights from 21 Great Runners (1966年), 415で引用
13. 「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番
14. 教義と聖約121：45
15. 教義と聖約25：13参照
16. 教義と聖約45：32
17. 教義と聖約25：10
18. モーサヤ4：10
19. 教義と聖約20：77
20. 信仰箇条1：13。ローマ8：16；1コリント3：16；1テサロニケ5：22；モルモン書ヤコブ4：6；アルマ37：36；モロナイ10：32も参照。
21. モロナイ10：30-31
22. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号, 2
23. モロナイ7：48, 強調付加

神の真理は出で立ち

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

これは神の業です。神の業が妨げられることはありません。しかし、……なすべきことはまだたくさんあります。



わ たしの兄弟であり姉妹である皆さん、今年の7月19日、ソルトレーク・シティーの「デイス・イズ・ザ・プレース記念公園」に「ユタ開拓者子孫の会」によって、預言者ジョセフ・スミスとその後継者ブリガム・ヤング大管長の像が設置されました。「西部を見詰めて」と題されたこの像は、西部準州の地図を持つ二人の偉大な預言者を表現したものです。

末日聖徒を含む大勢の人々が忘れていますが、ジョセフ・スミスは教会が最終的には広大なアメリカ西部に移動するということを熟知していました。1842年8月、ジョセフ・スミスはこう預言しています。「聖徒は引き続き多くの苦難に遭い、ロッキー山脈に追いやられるでしょう。多くの人が背教します。迫害者によって殺される人や、厳しい気候や病気のために命を落とす人がいるでしょう。しかし、ある人々は〔生き長らえて〕町の建設を助ける

でしょう。そして、聖徒がロッキー山脈の中で力強い民になるのを見るでしょう。』(History of the Church, 第5巻, 85)

その当時は、ジョセフの最も親しい仲間ですら、1800年代初期における教会の揺籃期以来、その発展に伴って、末日聖徒が数々の試練に耐えなければならなくなることを十分には理解していませんでした。しかし、その当時の敵も将来の敵も、神の目的を妨げる、あるいはとどめる十分な力を持っていないことを、ジョセフ・スミスは知っていました。わたしたちは皆、ジョセフ・スミスが語った次の預言的な言葉を知っています。「真理の旗が掲げられています。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはできません。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれませんが、しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるでしょう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることでしょう。』(History of the Church, 第4巻, 540)

1830年に末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されて以来、180年近くの歳月が流れました。預言が成就され、「神の真理」が「大胆かつ気高く、悠然と」前進するのを見ながら、すでに178年がたったのです。

この教会の最初の10年間は、たった数人の会員から始まりました。激しい反対にもかかわらず、1830年代には597人の宣教師が召され、1万5,000人以上の改宗者

がバプテスマを受けました。アメリカ、カナダ、イギリスで門戸が開かれ、福音が宣べ伝えられました。

1840年代には多くの改宗者が教会に入りました。それと同時に、教会、特に、預言者ジョセフに対する迫害もひどくなり続けました。このような困難のさなか、また、旅の行程での大きな試練にもかかわらず、イエス・キリストの回復された福音は、1840年代に召された1,454人の宣教師による忠実な奉仕を通して、とどまることなく、世界中のさらに多くの国々に宣べ伝えられ、教会の会員数は4万8,000人以上に達しました。1844年6月27日、ジョセフ・スミスへの迫害は頂点に達し、とうとうジョセフと兄のハイラムはカーセージの監獄で暴徒に殺されました。

殉教後間もなく、ジョセフの示現を成就するために、ブリガム・ヤングと教会はロッキー山脈へ移動する準備を開始しました。困難、苦悩、死、そして背教が絶えず付きまといました。それでもなお、御業は前進しました。1850年代になって、705人ほどの宣教師が召され、スカンジナビア、フランス、イタリア、スイス、そしてハワイで働きました。伝道活動は、インド、香港、タイ、ビルマ、南アフリカ、そして西インド諸島など、世界の様々な国々でも開始されました。

1850年代の10年間にバプテスマを受けたスカンジナビアやイギリス出身の忠実な改宗者の中には、このロッキー山脈の聖徒たちと合流するための旅に出たものの、その途中、陸路や船上で病に伏し、亡くなった人もいます。

1875年に、メキシコへの最初の宣教師が7人召されました。その地における御業は革命やその他の問題があったにもかかわらず発展しました。そして、つい4年前の2004年には、メキシコの会員が100万人に達するという画期的な出来事を教会は経験しました。

ブリガム・ヤングは聖徒を導いて、西部に数々の神殿を建設し、350以上の入植地を築きましたが、そのすべての段階で、聖徒は信仰を試されました。1877年、ブリガム・ヤングが亡くなるまでに、教会員数



は11万5,000人以上に増加していました。ありとあらゆる迫害にもかかわらず、神の真理は、文字どおり、大胆かつ気高く出で立っていたのです。

次の数十年間に教会がどれほど発展したかについては、時間の関係で、詳しくは述べられません。しかし、注目すべきは、1890年から1930年までの40年間、教会とその教義が、依然として一般社会からの攻撃を受けていたということです。リード・スムート長老は合衆国議会に選出されましたが、上院議員として受け入れられるために大変な努力をしなければなりませんでした。その間、教会とその教えについて実に多くのことが語られ、その多くが中傷的で、ジョセフ・F・スミス大管長やそのほかの教会指導者に向けられたものでした。しかしその一方で、幾つかの新聞に、教

会員は社会に貢献する市民、善良な民であるという記事が載り始めました。

1925年9月3日、ヒーバー・J・グラント大管長が、南アメリカで伝道活動を開始すると発表しました。回復された福音をすべての国民にもたやすための主の方式にのっとり、わたしの父方の祖父であり、十二使徒定員会会員だったメルビン・J・バラード長老は、福音を宣べ伝えるためにその地を奉獻するよう、他の人々とともに、南アメリカへ派遣されました。

1925年のクリスマスの朝、バラード長老はアルゼンチンの地で南アメリカ諸国を奉獻し、伝道活動を開始しました。翌年の7月、同地を去る前に、バラード長老は次のように預言しました。

「この地で主の業は、しばらくの間、かしの木がどんぐりから生長するように、ゆ

っくりと発展するでしょう。あつという間に生長して枯れるヒマワリのように、一日にして発展するということはないでしょう。しかし将来は、大勢の人々がこの地で教会に加入します。そして、二つ以上の伝道部に分割され、教会における最も強力な地域の一つとなるでしょう。この地の御業は、今は非常に小規模です。しかし、将来も同じ状況に甘んじることは決してないでしょう。」(メルビン・J・バラード, Melvin J. Ballard: *Crusader for Righteousness*, [1966年], 84)

南アメリカにおける教会の発展ぶりに詳しい人なら、この預言が成就していることを御存じでしょう。今日、ブラジルだけで100万人以上の会員がいるのです。

1930年から1970年までの40年間で、10万6,000人以上の宣教師が召されました。

全世界の教会員数は、4倍に増え、280万人となりました。1960年代だけで、100万人以上の新会員が増えました。1970年までに、宣教師は43の国々と9つの属領地で働いていました。この40年間で、チリ、ブラジル、ウルグアイ、パラグアイ、エクアドル、コロンビア、ペルー、ベネズエラなどの南アメリカ諸国が伝道活動に門戸を開きました。中央アメリカでも、パナマ、コスタリカ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアといった国々で、主の僕たちが伝道の門戸を開きました。アジアでは、韓国、台湾、シンガポール、フィリピンなどで、広範囲にわたる新たな努力が実を結び始めました。

これらはどれも決して容易なことではありませんでした。「神の真理」を「あらゆる者の耳に達」するよう、あらゆる大陸、あらゆる国に携え行こうとするときにいつも問題や障害、迫害が付きまといました。しかし、それでもわたしたちは信仰をもって前進しました。問題に取り組み、障害を克服しました。

スペンサー・W・キンボール大管長は、教会員に福音を広め、福音の真理を分かち合ううえで、「歩幅を広げる」よう勧めました。世界中のすべてのステークで宣教師の数を増やすように勧告しました。また、地球上の何億という人々にわたしたちのメッセージを伝える一助としてメディアを利用するように教会を導きました。

キンボール大管長がその職にあった12年間で、20万人近い宣教師が専任宣教師として働きました。世界の教会員数はほぼ2倍となり、ステーク数は3倍近くに増えました。多くの国々で、伝道活動が開始されたり、再開されたりしました。そして、主の業を妨げ、主の働き手を落胆させようとする敵対者の試みにもかかわらず、多くの国々で改宗の奇跡が起きました。

キンボール大管長の地上における任期の終了から、20数年の歳月が流れました。この間、わたしたちは世界の諸宗教の中でかつてなかったほどに抜きん出た評価を頂いています。しかし同時に、教会員、教会の歴史、そして教会の教義に対し、メディアからかつてなかったほど激しい思

想上の攻撃を受けています。これは恐らく偶然の一致ではないでしょう。

それでも、教会は発展し続けています。教会員数は再び2倍以上になりました。1985年に590万人だったのが現在は1,300万人になっているのです。そして昨年、この神権時代でちょうど100万人目の宣教師が召されました。

兄弟姉妹、この教会の行く末に関するジョセフの預言的なビジョン、また、過去180年近くにわたるそのビジョンの文字どおりの成就について簡単に振り返りましたが、その目的は、次の簡潔な真理を思い出していただくことにあります。

「神の業と計画と目的がくじかれることはあり得ず、またそれらが無に帰することもあり得ない。

神は曲がった道を歩まず、……また述べたことからそれることはない。それゆえ、神の道はまっすぐであり、その道は一つの永遠の環である。

覚えておきなさい。くじかれるのは神の業ではなく、人間の業であることを覚えておきなさい。」(教義と聖約3:1-3)

神はその預言者を通じて語り、「真理の



旗が掲げられてい[る]』ということ、また、「いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはでき[ない]』ということを世に宣言されました。これは紛れもなく、また、議論の余地もなく真実です。その言葉が成就されるのをわたしたち自身が、これまで多くの歳月にわたって、預言者ジョセフ・スミスからトーマス・S・モンソン大管長の時代に至るまで、目撃してきました。確かに、迫害は威を振りました。中傷、偽り、そして事実の歪曲によって名誉を失墜させようとする試みがありました。しかし、回復のとき以来、どの時期においても、神の真理は「大胆かつ気高く、悠然と」出で立ってきたのです。1830年にほんの一握りの会員から始まった小さな教会が発展し、今や全世界の様々な国々に1,300万人の会員を擁する教会となっているのです。そして、現在も、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達するよう、着実に発展し続けているのです。

これは神の業です。神の業が妨げられることはありません。しかし、大いなるエホバが、「御業は成った」と告げられるまでに、なすべきことはまだたくさんあります。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは、これほどまでに高い評価を社会から受けられるように働いてくれた忠実な聖徒たちを称賛し尊ぶ一方で、安穩とした態度で、満足している余裕などありません。

わたしたちは皆、必要とされています。175年以上前に開拓者時代の聖徒たちが着手した業、それに続く各時代にそれぞれの世代の忠実な聖徒たちが成し遂げた業を完成しなければならないからです。わたしたちは彼らが信じたように信じ、彼らが働いたように働き、彼らが奉仕したように奉仕する必要があります。そして、彼らが克服したように克服する必要があります。

もちろん、今日の問題は過去のものとは異なります。しかし、難しいという点では同じです。怒り狂う暴徒の代わりに、絶えず名誉を失墜させようとする人々に直面します。極度の危険や困難の代わりに、アルコールや薬物乱用、ポルノグラフィ、あ

あらゆる種類の汚れと不品行、貪欲、不正直、そして霊的無関心に直面します。家族が住み慣れた住居から追い立てられる代わりに、神聖な結婚制度を含む家族制度に対する攻撃に直面します。社会における家族の重要で神聖な役割を、異なる解釈によっておとしめようとするグループや個人がいるからです。

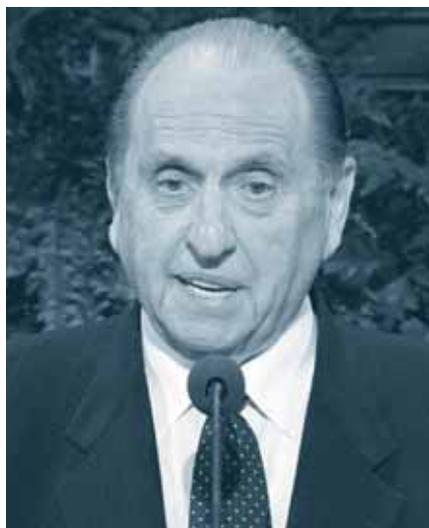
だからと言って、今日の試練が、開拓者の直面した試練よりも厳しいと言いたいわけではありません。ただ、試練の内容が異なっているということなのです。主は手車に荷物を詰め込むようには求められません、信仰を強化するように求められます。大陸を歩いて横断するようには求められませんが、道路を歩いて渡り、隣人を訪問するようには求められます。この世のすべての財産を神殿建設のために差し出すようには求められませんが、現代の生活に伴う様々なプレッシャーに負けることなく、わたしたちの持てる手段と時間を惜しみなく使って神殿を建設し続け、すでに建てられた神殿に定期的に参入するようには求められます。殉教者として命を捨てるようには求められませんが、キリストの弟子として生きるようには求められます。

兄弟姉妹、今はすばらしい時代であり、これまでの世代の末日聖徒の特質であった心からの献身という豊かな伝統を維持し続けられるかどうかは、わたしたちに懸かっています。現代は霊的にひ弱な時代ではありません。わたしたちはうわべだけ義になかった状態にいる余裕はありません。わたしたちの証は、霊的な根が啓示の岩にしっかりと根付いた揺るぎないものとならなければなりません。そして、聖約を交わした民、聖別された民として、信仰を込めて一歩ずつこの業を推進し続けなければなりません。そうすれば、「神の目的は成し遂げられるでしょう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることでしょう。」その日をわたしたちが目^まの当たりにできますように、イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

人生の旅路に喜びを見いだす

トーマス・S・モンソン大管長

この人生を大切にしましょう。人生の旅路に喜びを見だし、友と家族に愛を示しましょう。



愛する兄弟姉妹、今朝、皆さんの前に立ち、謙虚な気持ちになっています。わたしの思いを占めてきた事柄、皆さんに分かち合うべきだと心に感じてきた事柄を話すに当たり、わたしのために皆さんの信仰と祈りをお願いします。

まず、この地上で決して避けられないこと、すなわち、変化するということについて話します。だれでも次のようなことわざを聞いたことがあるでしょう。「変化ほど常に変わらずあるものはない。」

人は一生を通じて、変化に対処しなければなりません。喜ばしい変化も、そうでない変化もあります。愛する人の死、予測しなかった病気、大切にしていたものの喪失など、人生には突然の変化もありま

す。しかし、ほとんどの変化は少しずつゆっくりと起こるのです。

この大会はわたしが十二使徒に召されてから45年目の大会に当たります。当時、なりたての使徒として、十二使徒定員会と大管長会の14人の傑出した先輩たちを見上げました。一人、また一人と、彼らは天の故郷へ旅立ちました。ヒンクレー大管長が8か月前に亡くなったとき、わたしは自分がいちばん古い使徒になったことを悟りました。45年以上の歳月の間に起きた変化は緩やかでしたが、今振り返ると途方もなく大きなものに思えます。

今週、モンソン姉妹とわたしは60回目の結婚記念日を祝います。新婚時代を思い返すと、当時と今のわたしたちの生活が大きく変化したことに気づきます。結婚生活を始めた日に傍らにいてくれた、それぞれの愛する両親は亡くなりました。何年にもわたって生活を喜びで満たしてくれた3人の子供は、成長して自分たちの家庭を築きました。孫の大半は成長し、今では4人のひ孫がいます。

時々刻々、わたしたちは、かつていたところから、今いるところへと移って来たのです。すべての人の人生は、似たような変化をたどります。わたしが人生で経験する変化と皆さんが経験する変化を比べると、ただその細部が違っているにすぎません。時は決して立ち止まることなく絶え間なく進み、それに伴って、変化が訪れるのです。

死すべき世は、一人一人に与えられた唯一無二の機会です。長く生きれば生きるほど、一生の短さを悟ります。様々な機会が訪れては去ります。地上でのこの短い人生で得られる教訓の中で、最も重要な教訓の一つは、大切なこととそうでないことを区別するよう教えてくれる教訓であると、わたしは信じています。皆さんに切にお願いします。したいことを全部するだけの時間が与えられるような、非現実的な架空の将来のためにあれこれ計画している間に、人生で最も大切な事柄をやり過ごしてしまわないようにしてください。そうではなく、今、人生に喜びを見いだしてください。

わたしは観劇が好きで、妻フランシスから「観劇中毒」と呼ばれるほどです。様々なミュージカルを大いに楽しんできましたが、中でも大好きな作品の一つは、アメリカ人作家メレディス・ウィルソンが書いた『ザ・ミュージックマン』(The Music Man)です。主要な登場人物の一人、ハロルド・ヒル教授の警告的なセリフを紹介します。「明日のことばかり考えていると、気づいたときには、空っぽの昨日ばかりがたまっていた、ということになりますよ。」¹

兄弟姉妹の皆さん、今日何かをしなければ、明日になって思い起こす価値のある事柄は何もないのです。

以前、この人生哲学の具体例を話したことがあります。もう一度伝える価値があると思いますので、何年も前にアーサー・ゴードンがある全国向けの雑誌に投稿した話を引用します。「わたしが13歳、弟が10歳くらいのときのことです。父がサーカスに連れて行くと約束してくれました。しかし昼どきになって電話が入り、急な仕事で、父は町に行かなくてはならなくなりました。わたしと兄は、サーカスには行けなくなると言われてがっかりすることになるだろう、と心の準備をしました。しかし父は〔受話器に向かって〕こう言ったのです。『町へは行けません。後回しにせねばなりません。』テーブルに戻って来た父に、母がほほえんで言いました。『サーカスはまたいつか来るでしょ。』

父は答えました。『そうだね。でも、子供



時代は二度と戻って来ないんだよ。』²

成長し親もとを離れた子供を持つ皆さんの多くは、時々寂しさに襲われ、子供が幼かったあのころをもっと深く味わっておけばよかったと悔やむことがあることでしょう。もちろん、昔に戻ることはできません。時は進むのみです。過去を思い続けるよりも、今日、今ここでできることに最善

を尽くすべきです。将来を楽しい思い出で満たすためにできることをすべて行うのです。

今、子育て中の皆さんは、きれいに磨いたばかりの家具に付いた小さな指紋や、家中に散らかったおもちゃ、畳んだ端から崩されていく山のような洗濯物、こういった光景があっという間になくなってしま



子育てを楽しむウクライナの3人の若い父親。

い、意外にもそのことに大きな寂しさを感じるようになるでしょう。そのことを心に留めてください。

ストレスというものとはどんな状況にもあります。最善を尽くして対処しましょう。しかし、ストレスのせいで、最も大切なものをないがしろにしてはなりません。最も大切なものとは、たいていは周りの人のことです。わたしたちは、「自分が相手をどれほど愛しているかを、相手は十分知っているはずだ」と思い込みがちですが、当然そうだと決めてかかっているはいけません。知らせなければならぬのです。ウィリアム・シェイクスピアはこう書いています。「愛情を示さぬ方は、愛さぬのと同じこと。」³ 優しい言葉をかけ、愛を示したことで後悔することは決してありません。そのような行為が、最も大切な人との関係から除外されるなら、いつか後悔する日が訪れます。

久しく連絡を取り合っていない友に手紙を送り、子供を抱き締め、親を抱き締め、もっと「愛しているよ」と言い、いつも感謝を伝えましょう。愛すべき人よりも、解決すべき問題の方を重要視しないでください。友は遠くへ去り、子供は成長し、愛

する人は次の世へ逝きます。彼らの姿が消え、「もし今なら」「あのときああしていれば」と思うまでは、その人がいるのは当然のことだと思ってしまうがちです。作家のハリエット・ビーチャー・ストーは言いました。「墓前に流された哀絶の涙には、伝えなかった言葉や、やり残した行いが込められている。」⁴

1960年代、ベトナム戦争中に、教会員の兵士ジェイ・ヘスは、北ベトナムで銃弾を受けました。その後の2年間、家族は彼が死んだのか生きているのかわかりませんでした。実は、彼はハノイで捕虜として収容されていたのです。やっとのことで手紙を書く許可が出ましたが、25単語以内という制限がありました。同じ状況に置かれたら、皆さんやわたしは家族に何を伝えるでしょうか。2年以上も会っておらず、再会できるかどうかもわかりません。彼からだと認識でき、家族にとって教訓となる言葉を送りたいと思ったヘス兄弟はこう書きました。「大切なこと。神殿結婚、伝道、大学、前進、目標、家族の歴史を記録に残すこと、年2回の写真撮影。」⁵

この人生を大切にしましょう。人生の旅路に喜びを見いだし、友と家族に愛を示

しましょう。いつの日か、明日は底を突くのですから。

新約聖書のヨハネによる福音書、第13章34節で、主は勧告しておられます。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」

皆さんの中には、ソーントン・ワイルダーの古い戯曲『わが町』(Our Town)をよく知っている人もいるでしょう。そして、物語の舞台となった町グローバーズ・コーナースを思い出せるでしょう。物語の中で、エミリー・ウェップは難産のために亡くなります。そして4歳の息子とともに残された若い夫ジョージの孤独と悲しみが描かれます。しかし、エミリーは安らかに世を去ることを望まず、再び人生の喜びを経験したいと思いました。彼女は地上に戻って、もう一度12歳の誕生日を生きることを許されます。最初は若返れてうれしいと思いましたが、喜びはすぐに色あせます。将来起こることを知っていたエミリーには、その日を喜ぶことができません。生きている間に人生の意義とすばらしさにまったく気づけなかったことは、悔やんでも悔やみ切れませんでした。安息の場所に帰る前にエミリーは言います。「人は、自分が生きている一刻一刻に、人生の貴さをかみしめているかしら。」

人生で何が最も大切かを悟ると、受けている祝福に対する感謝の念に満たされます。

ある有名な作家が言いました。「豊かさとは貧しさは、並行する現実として人生に同時に存在している。心の中にあるどちらの庭に目を向けるかは、常に本人が意識して選ぶのだ。……人生に足りないものにとらわれないという選択をし、例えば、愛、健康、家族、友人、仕事、美しい自然、[幸福]をもたらず事柄を追求することなど、豊かにあるものに目を向けて感謝するなら、自分の幻想が作り出した荒地は消え去り、地上の天国を味わうことができる。」⁶

教義と聖約第88章33節にはこうあります。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は

与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。』

古代ローマの哲学者ホラティウスは勧告しています。「神がどのような時代を下さろうと喜んで受けよ。喜ぶことを来る年も来る年も先送りするな。そうすれば、たとえどのような状況に置かれようと、幸せな人生だったと言えるようになる。」

何年前に、ボーグヒルド・ダールの話に感動しました。1890年ミネソタ州でノルウェー出身の両親から生まれ、幼少期から重度の視覚障がい苦しみました。ハンディキャップがあるにもかかわらず普通の生活を送りたいと強く願った彼女は、固い決意で努力し、自分が取り組んだほとんどすべての分野で成功を収めました。障がいが高すぎるので無理だと言う教育者たちの忠告を聞かずに、彼女は大学に進み、ミネソタ大学から学士号を取得しました。その後コロンビア大学とオスロー大学で学びました。結局は、ミネソタ西部とノースダコタで8つの学校の校長を務めました。17冊の著作のうち1冊で、次のように書いています。「見える方の左目には深い傷があって、視界が遮られるので、何を見るにも、その狭い透き間から見える感じでした。本を読むときには、本を顔に近づけて、目を思い切り左側に寄せるようにしなければなりませんでした。」⁷

1943年、すでに50歳を超えていた彼女に奇跡が起こりました。医療技術の画期的な進歩により、長年奪われていた視力がかなり回復したのです。新しい、胸躍る世界が開けました。飛ぶ鳥や、流し台で光を受けて輝く泡、毎晩見る月の満ち欠けなど、だれもが当たり前だと考えるような小さなことを見てとても喜びました。ある著述をこう締めくくっています。「愛する天のお父様、あなたに感謝します。心から感謝します。」⁸

ボーグヒルド・ダールは、視力が回復する前も後も、受けた祝福への感謝に満たされていました。

92歳で亡くなる2年前の1982年、最後の著述が出版されました。タイトルは『生涯幸せ』(Happy All My Life)です。彼女には感謝の心があったので、試練の中にあ

っても祝福を見だし、豊かに生きることができたのです。

新約聖書のテサロニケ人への第一の手紙第5章18節で、使徒パウロはこう述べています。「すべての事について、感謝なさい。これが、……神があなたがたに求めておられることである。」

重い皮膚病を患った10人の人々の話を思い出してください。「そして、〔イエスは〕ある村にはいられると、重い皮膚病にかかった十人の人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちどまり、声を張りあげて、『イエスさま、わたしたちをあわれんでください』と言った。イエスは彼らをごらんになって、『祭司たちのところに行って、からだを見せなさい』と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

イエスは彼らにむかって言われた、『きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。』⁹

主は預言者ジョセフ・スミスを通して与



えた啓示で、こうおっしゃいました。「すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かって神の激しい怒りは燃えない。」¹⁰ わたしたちが天の御父に感謝する者の一人です。感謝しないことが深刻な罪なら、感謝は最も崇高な徳の一つに数えられるでしょう。

人生に変化が訪れることは避けられませんが、感謝の心を持ち、最も大切な事柄で一日一日をできる限り満たすように。大切な人々を大切に、愛を言葉と行いで表すように。

最後に、わたしたち皆が、主なる救い主イエス・キリストに感謝を表せるよう祈ります。主の栄えある福音は「人はどこから来て、なぜここにいる、死ぬとわたしの霊はどこに行くのか」という人生の難題に答えてくれます。

主は祈り方を教え、仕え方を教え、生き方を教えてくださいました。主の生涯は愛の遺産です。病人を癒し、虐げられた人を引き上げ、罪人を救われました。

お独りになられる時が来ました。一部の弟子は主を疑いました。裏切る者もいました。ローマの兵士にわきを刺され、怒り狂った群衆に命を奪われても、ゴルゴタの丘には憐れみの言葉がこだましました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹¹

それより前に、主は、恐らく地上での使命の極致を思い浮かべながら、こう嘆かれました。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらす所がない。」¹² 「客間には……余地がなかった」¹³ という言葉だけが主に向けられた唯一の拒絶の言葉ではなく、それは始まりにすぎませんでした。それでも主は皆さんとわたしに主を受け入れるよう招いておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」¹⁴

試し

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

暴徒も軍隊も、聖徒たちを彼らが真実であると知っている事柄から背かせることはできませんでした。

悲哀を知っているこの悲しみの人、この栄光の王、この万軍の主はどなただったのでしょ。この御方こそ、わたしたちの主、救い主、神の御子、救いの源であります。この御方は「わたしに従ってきなさい」¹⁵と招き、「あなたも行って同じようにきなさい」¹⁶と教え、「わたしの戒めを守り……なさい」¹⁷と嘆願しておられます。

主について行き、主の模範に倣い、主の御言葉に従いましょう。そうしながら、感謝という神聖な贈り物を主にささげましょう。

兄弟姉妹の皆さん、人生の変化を受け入れ、何が最も大切かを悟り、常に感謝を表し、そのようにして旅路に喜びを見いだせますように、心から祈ります。イエスキリストの御名により、アーメン。

注

1. メレディス・ウィルソン、フランクリン・レーシー、*The Music Man* (1957年)
2. アーサー・ゴードン、*A Touch of Wonder* (1974年)、77-78
3. ウィリアム・シェークスピア、*Two Gentlemen of Verona*、第1幕、第2場、31行
4. ハリエット・ピーチャー・ストーリー、*The Harper Book of American Quotations*、ゴートン・カラス、ユージン・エリック共編(1988年)、173
5. 個人的な書簡
6. サラ・バン・プレスナック、*The Book of Positive Quotations*、第2版、ジョン・クック編(2007年)、342
7. ボーグヒルド・ダール、*I Wanted to See* (1944年)、1
8. *I Wanted to See*、210
9. ルカ17：12-18
10. 教義と聖約59：21
11. ルカ23：34
12. マタイ8：20
13. ルカ2：7参照
14. 黙示3：20
15. マルコ2：14
16. ルカ10：37
17. 教義と聖約11：6



この話の目的は、試練の時には常に主が、行く手に安全な道を用意してこられたことを示すことです。わたしたちは使徒パウロが終わりの時に来ると預言した「苦難の時代」に生きています。¹ わたしたちが個人や家族、教会員として安全を確保するには、「福音の律法と儀式に従う」必要があります。²

1849年7月24日、聖徒たちがソルトレーク盆地に入植してちょうど2年がたちました。ようやく暴徒と迫害の歳月から自由になった彼らは盛大に祝いました。

苦境にあったその数年前、暴徒が聖徒たちを家から追い立てていたとき、預言者ジョセフ・スミスはリバティーの監獄で苦しんでいました。自由を意味する「リバティー」と「監獄」という言葉はあまり似合の組み合わせとは言えません。

ジョセフは叫びました。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの

隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。

あなたの御手はいつまでとどめられ、あなたの目、まことにあなたの清い目はいつまで永遠の天からあなたの民とあなたの僕たちへの不当な扱いを眺め、またあなたの耳はいつまで彼らの叫び声で貫かれるのですか。」³

預言者ジョセフ・スミスはそれ以前に主に指示を求めたことがありました。すると主は聖徒たちに、裁判官と知事、そして大統領に対して補償を求めるよう言われました。⁴

裁判官への聖徒たちの訴えは却下されました。ジョセフ・スミスは、偽りの訴えにより生涯で200回以上法廷に召喚されました。しかし、有罪を宣告されたことは一度もありませんでした。

ミズーリ州のボグズ知事に補償を求めると、知事は次のような宣言を出しました。「モルモンは敵として扱わなければならない。そして、公共の秩序のために、必要であれば撲滅もしくは州外に追放しなければならぬ。」⁵ この宣言は、甚だしく残酷で邪悪な行為を招きました。

聖徒たちは合衆国のマーティン・バン・ビューレン大統領に訴えましたが、こう告げられました。「あなたがたの言い分は正しい。しかし、わたしはあなたがたのために何もしてあげることはいできない。」⁶

ここで、合衆国議会に提出された3度目の請願書の最後の数段落を紹介します。

「請願書署名者たちの苦難はすでに極点に達しており、人間として、アメリカ国民として、苦情を述べずに耐えていくことなどできません。わたしたちは、長年にわたって暴虐行為と圧政という鉄の手の下

でうめき苦しんできました。200万ドルにも及ぶ財産を略奪されました。森の獣のように狩り立てられてきました。アメリカ独立戦争で戦った高齢者や無実の子供たちが迫害者によって虐殺されるのを見てきました。アメリカ国民である善良な娘たちが最も冷酷な方法で辱められ、虐待されるのを見てきました。そして、最終的には1万5,000人もの男女と子供たちが、冬の極寒の中を、自分たちの神聖な家庭や暖炉から、見知らぬ地へ、無一文で、何の保護も受けずに、武力によって強制的に追い立てられるのを見てきました。このようなすべての苦境の中にあつて、国の最高評議会に向けて哀願いたします。偉大で自由な民によって選ばれた上院議員と下院議員の皆様にもわたしたちへの補償と保護を、へりくだってお願いいたします。

流浪の状態にある大勢のアメリカ国民の訴える声をどうか、どうかお聞き届けください。……悲嘆に暮れすすり泣くやもめと孤児の声をどうか聞いてください。彼らの夫や父親は、自由が統治するこの国で無惨な殉教を遂げました。どうか、わたしたち流浪の民が国に保護と補償を求めたが無駄に終わった、と国の議事録に記録されることがないようにしてください。わたしたちと妻子たちが、ミズーリのような大虐殺に再び遭うことのないようにし、迫害され傷ついた人々の恐れを大いに和らげられるかどうかは皆様のお力にかかっています。これらのことを請願者一同、祈念してやみません。』⁷

しかしこの請願書は、何の同情の言葉もなく棄却されました。

1844年、イリノイ州のトーマス・フォード知事の発した保護命令にもかかわらず、預言者ジョセフ・スミスと兄ハイラムは、カーセージの監獄で射殺されました。聖徒たちが被った残虐行為と苦しみは言葉では言い尽くせません。

さて、1849年7月24日、暴徒の手からついに自由となった聖徒たちは祝典を計画しました。⁸

しかし、聖徒の持っているものといえば、1,000マイル(1,600キロ)向こうから荒野の中を手車や幌馬車ほろばこに乗せて持って来たも



のだけでした。鉄道がソルトレークまで到達する20年も前のことです。祝典に使えるものなど何もなかったので、自分たちの気持ちを表現することで祝うことになりました。

彼らはテンプルスクウェアにあずまやを作り、104フィート(32メートル)の高さの旗竿はたを立てました。そして幅65フィート(20メートル)もある巨大な国旗を作り、自由を象徴するこの旗竿の先端に掲げました。

この最初の祝典のテーマとして、自分たちを拒み、何の援助もしてくれなかった国家への愛国心と忠誠を聖徒たちが選んだということは不思議に思えるかもしれませんが、まさに驚くべきことです。彼らは一体何を考えていたのでしょうか。その理由が理解できれば、キリストの教えの持つ力を

理解できるでしょう。

プラスバンドが演奏する中、プリガム・ヤング大管長がテンプルスクウェアまでの行進の先頭に立ちました。彼の後には、十二使徒と七十人が続きました。

その後が続いた24人の若い男性は、白いズボンと黒のコートを着用して、右肩に白のスカーフをなびかせていました。頭には冠をかぶり、左の腰にはさや付きの剣を付けていました。そして何より、一人一人が右手に独立宣言と合衆国憲法を携えていました。やがて、一人の若者が独立宣言を読み上げました。

次に24人の若い女性が白い服を着て、右肩に青いスカーフをなびかせ、頭に白いバラを飾って登場しました。皆、聖書とモルモン書を持っていました。

テーマとして愛国心を選んだことほどではないにしろ、驚くのは次に登場した人々です。24人の故老たち(彼らはそう呼ばれていました)が祝福師のアイザック・モーリーに導かれて、登場したのです。彼らは「シルバークレー」という名でも知られていました。皆60歳以上です。赤く塗られた棒の先端に白いリボンを付けて持っていました。一人は星条旗を持っています。これらの男性は神権の象徴であり、神権は「世界が存在する前に初めからあ」りました。⁹そして、この神権時代に回復されたのです。

聖徒たちは、主が彼らに「王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきこと」¹⁰を告げられたことをよく知っていました。当時啓示されたその戒めは、すべての国々に住む今の会員たちにとっても真実です。わたしたちは法律に従う、ふさわしい市民であるべきです。

主は彼らにこう言われました。「この目的のために、わたしはこの国の憲法を制定する賢人たちを立てて、彼らの手によってその憲法を制定し……たのである。」¹¹

別の節で主は聖徒たちにこう言われました。「どんな人であっても、一人の人がほかの人に束縛されるということは正しくない。」¹²そのため、聖徒たちは奴隷制度に反対でした。このことはミズーリのほかの入植者たちを困惑させる非常に難しい問題でした。

そして、この1849年の祝典の日に、「フィニーズ・リチャーズ長老は、24人の故老たちを代表して前に進み出て、忠誠と愛国心に満ちた演説をしました。」¹³彼は、子供たちに愛国心を教え、自由を愛し尊ぶ必要があると話しました。そして、自分たちが経験した苦難について短く回想した後、こう言いました。

「兄弟、そして友である皆さん、60年以上生きてきたわたしたちは、合衆国政府の栄光を見てきました。非道で残虐な行為も経験しました。それらは、政府の崩壊し墮落した管理体制の結果、生じたものです。しかしながら、わたしたちの誇る憲法の純粋な原則は変わらず残ってい



ます。……

わたしたちが先祖から受け継いだ自由の精神と愛国心の炎を、純粋なままわたしたちの子孫に引き継いでいこうではありませんか。」¹⁴

人間的な感情に流されて、聖徒たちは復讐を望んだのではと思う人がいるかもしれませぬ。しかし、人間的な感情以上の何か勝ったのです。

使徒パウロはテモテに次のように説いています。

「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。……

……[しかし]わたしたちはキリストの思いを持っている。」¹⁵

この御霊こそが初期の聖徒たちを、キリストの弟子にしていたのです。

聖徒たちが、多くの苦難を受けてもなお、辛抱強く、寛容で、クリスチャンらしくあり続けた理由を理解できれば、皆さんは、末日聖徒がどうあるべきかについて真の理解を得られることでしょう。復讐心に燃えるよりも、彼らは啓示に心に向けていました。彼らは、旧・新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠に今でも見いだされる教えによって自分たちの進路を決めていたのです。

彼らがどうしてそのように祝うことがで

きたかを理解できれば、わたしたちが主イエス・キリストと福音の原則に対して信仰を持っている理由が分かるでしょう。

モルモン書は教えています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」¹⁶

だからこそ、今日のようなまれに見る苦難の時代にあっても、イエス・キリストの真の教会¹⁷に属するわたしたちは、主の福音の原則を教え、実践するのです。

1849年の記念式典は、3つの点で象徴的かつ預言的でした。一つ目は、若い男性が憲法と独立宣言を携えたことです。二つ目は、一人一人の若い女性が聖書とモルモン書を携えたことです。そして三つ目は、シルバークレーと呼ばれる故老たちが、行進の中でたたえられたことです。

その式典の後、人々は臨時に作られたテーブルでごちそうを食べました。ゴールドラッシュに向かう何百人もの旅人と60人のインディアンも参加するように招待されました。

その後、聖徒たちは仕事に戻りました。

ヤング大管長はこう言いました。「合衆国の人々がわたしたちを10年間、そっとしておいてくれたら、わたしたちは彼らと互角に張り合えるだけの力を蓄えていることでしょう。」¹⁸

1849年の祝典から8年後、聖徒たちは再び7月24日を祝うため、ビッグ・コットンウッド溪谷にいました。すると、「2,500人から成る軍隊が平原をこちらに向かって」と、馬に乗った4人の男性からの知らせが入りました。アルバート・シドニー・ジョンソン大佐に率いられた合衆国軍は、ジェームズ・ブキャナン大統領から、起きてもないモルモンの暴動を鎮圧するよう命じられていました。

聖徒たちは祝典を中断し、防御の備えをするために家路につきました。この度は逃げるのではありませんでした。ヤング大管長はこう宣言したのです。「わたしたちは何の法律にも背いていないし、法律

を破る理由もないし、そうするつもりもない。しかし、この民を滅ぼそうとやって来る者に関しては、全能の神がわたしの助け手となってくださる。彼らはここにやって来られないだろう。」¹⁹

わたしの曾祖母はファーウエストからノーブーに向かう途中で一人の子供を亡くし、西部に向かう途中のウィンタークォーターズでもう一人の子供を亡くしました。

別の曾祖母は当時まだ10代で、ブラット川の南岸に沿って手車を押しながら、次の歌を歌いました。

「見いだせ神の国を
西へ遠く
聖徒を悩ますもの
そこにあらず」²⁰

彼らは、川の向こうで、太陽の光が合衆国軍兵士の武器に反射するのを見ました。²¹

セントルイスで、わたしの曾祖母はエナメル製の小さなアメリカ国旗のピンを買いました。彼女はそのピンを生涯服に付けていました。

暴徒も軍隊も、聖徒たちを彼らが真実であると知っている事柄から背かせることはできませんでした。こうして、和解が取り決められ(後にブキャンの大失態と呼ばれた)ユタ戦争は終わりました。

わたしたちは、当時と同じように啓示によって、そして預言者によって導かれています。預言者ジョセフ・スミスが死んだとき、別の人がその職を継承しました。その継承方法は、今日も変わらず続いています。

6か月前の総大会で、トーマス・S・モンソンが教会の第16代目の大管長として支持されました。81歳の誕生日のちょうど5か月前でした。98歳で亡くなったゴードン・B・ヒンクレー大管長の後を継いだのです。

教会の前任使徒は、ほとんどいつも、何十年という備えの期間を通じて、多くの経験を積みまます。

モンソン大管長は、わたしたちの時代の諸問題に対処するのに、理想的と言っていいほど適した人です。彼は、二人の顧問と十二使徒定員会によって支えられ



ています。全員が、預言者、聖見者、啓示者です。

御父のみもとから追放されたルシフェルは、今なお、暗躍しています。ルシフェルは彼に従う霊とともに、できることなら主の業を妨げ、破壊しようとしています。

しかし、わたしたちは前進し続けます。わたしたちは、家族として、教会として、福音の原則と儀式にしっかりとつながるのです。どんな試練がどれだけたくさん待ち受けていても、わたしたちは忠実かつ真実であり続けなければなりません。

父なる神とその御子イエス・キリストが生きておられることを証します。トーマス・S・モンソンは、預言により神からの召しを受けています。「真理の旗が掲げられています。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはできません。」(History of the Church, 第4巻, 540) 今日、末日聖徒の会衆の上に太陽は決して沈まないのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 2テモテ3:1-7参照
2. 信仰簡条1:3
3. 教義と聖約121:1-2

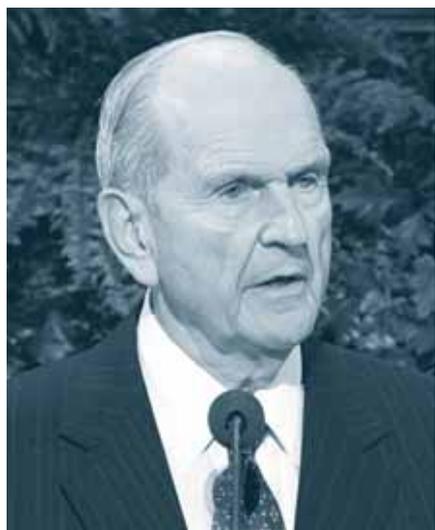
4. 教義と聖約101:86-88参照
5. History of the Church, 第3巻, 175
6. マーティン・バン・ビューレン。エライザ・R・スノー・スミス, Biography and Family Records of Lorenzo Snow (1884年), 77で引用
7. Biography, 152-153で引用
8. Biography, 95-107参照
9. 教義と聖約76:13
10. 信仰簡条1:12
11. 教義と聖約101:80
12. 教義と聖約101:79
13. Biography, 100
14. フィニアス・リチャーズ, Biography, 102-104
15. 1コリント2:14, 16
16. 2ニーファイ25:26
17. 教義と聖約1:30参照
18. プリガム・ヤング, "Remarks," Deseret News, 1857年9月23日版, 228
19. Deseret News, 1857年9月23日版, 228
20. 『賛美歌』17番
21. "By Handcart to Utah: The Account of C. C. A. Christensen," Nebraska History, 1985年冬号, 342参照

日の栄えの結婚

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

この家族の宣言から、日の栄えの結婚にはほかのいかなる関係よりも幸福になるための大いなる可能性があるということが理解できます。



愛する兄弟姉妹、わたしは皆さん一人一人に心から感謝しています。わたしたちはともに、イエス・キリストの福音に深い感謝の念を抱いています。不幸なことがたくさんあるこの世にあって、わたしたちは神の「偉大な幸福の計画」¹に心から感謝しています。神の計画では、男性と女性が存在するのは「喜びを得るためである」²と述べられています。その喜びは、神の永遠の計画に調和した生活を選択するときに得られます。

選択の重要性は簡単な概念によって説明できます。それは、わたしがある大規模商業施設で買い物をしていたときに頭に浮かんだものです。わたしはそれを「買物客の行動パターン」と呼んでいます。買い物は日常生活の一部ですから、これらの行動パターンはおなじみのものであると思います。

賢い客は選択肢を十分に調べてから、選択をします。おもに、買いたい品物の品質や耐久性を調べます。最良のものが欲しいのです。それと対照的に、特価品を探す人や、派手にお金を使う人もいますが、彼らは後になって、ひどく失望し、自分の選択がよくなかったことを知るので、残念ながら、まれに、自分の高潔さを投げ出して、欲しい物を盗む人々がいます。それは「万引き」と呼ばれます。

買物客の行動パターンは結婚の話に当てはめることができます。愛し合っている男女は、最高品質の結婚を選ぶことも、長持ちしない低品質の結婚を選ぶことも、厚かましくも、欲しいものだけ盗む「結婚の万引き」を選ぶこともできます。

結婚に関しては世界中で議論され、様々な形にねじ曲げられた結婚が存在しています。わたしが主の使徒³として、このテーマでお話する目的は、男女の間の結婚が神聖であり、神によって定められたものである⁴と宣言することです。わたしは神殿結婚の美点についても断言します。それは、創造主がその子供たちにお与えになった結婚の中で最も気高く、永続する結婚です。

救いは個人的な事柄ですが、昇栄は家族の事柄です。⁵ 神殿で結婚し、その結婚が約束の聖なる御霊により結び固められる人々のみが、死後も配偶者であり続け、日の栄えの栄光の最高の階級すなわち昇栄を得るのです。⁶ 神殿結婚は日の栄えの結婚とも呼ばれます。日の栄えの栄光には3つの階級があります。その最高を得る

ために、夫婦はこの世においても永遠にわたっても結び固められ、聖なる神殿で交わした聖約を守らなければなりません。⁷

人が心に抱く最も崇高な望みは、死後も持続する結婚です。神殿結婚に誠実であればそうなります。家族が永遠に一緒にいられるようになるのです。

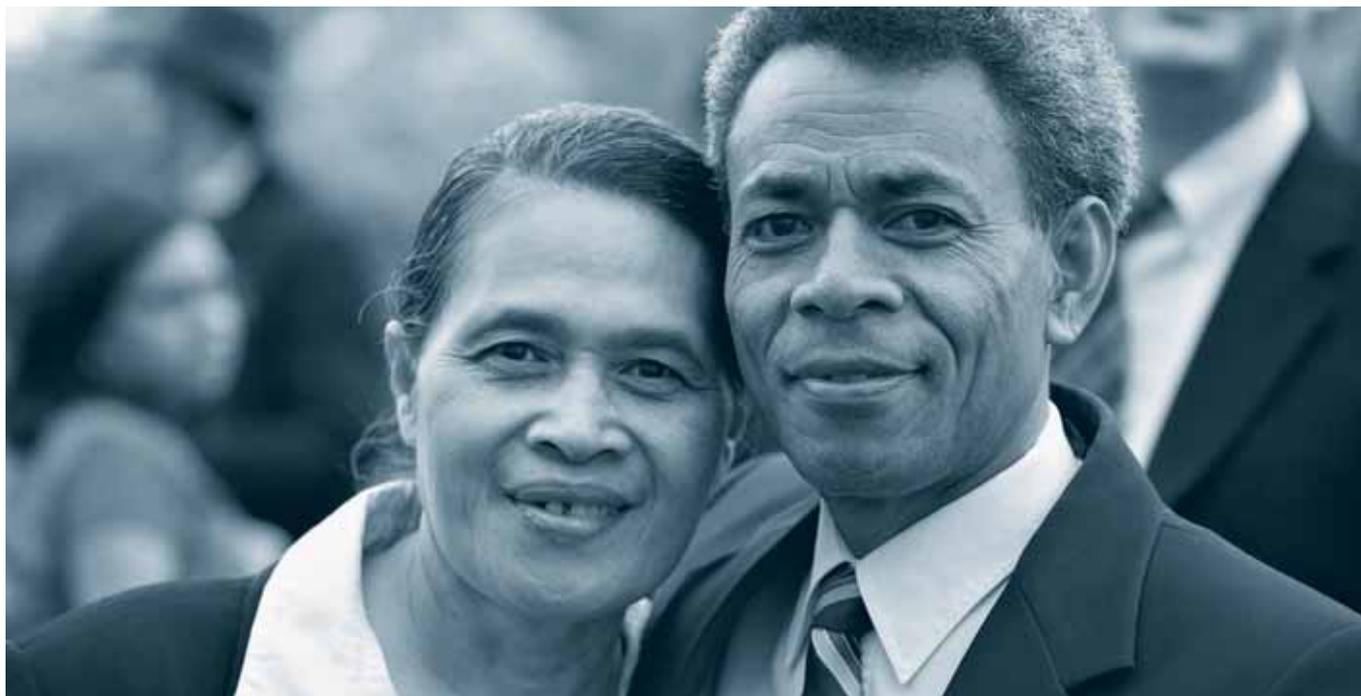
この目標は輝かしいものです。教会におけるすべての活動、進歩の機会、定員会、クラスは、家族に昇栄をもたらす手段なのです。⁸

この目標を達成できるように、天の御父はこの神権時代に神権の鍵を回復し、御父の計画において必要不可欠な儀式を適切な権能によって執行できるようにしてくださいました。天からの使者、すなわち、バプテスマのヨハネ⁹、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ¹⁰、モーセ、エライアス、エリヤ¹¹などが、その回復に携わりました。¹²

この啓示された真理についての知識が、全地に広まりつつあります。¹³ わたしたちは、主の預言者ならびに使徒として「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであること」¹⁴を再び世界に宣言します。

わたしたちはさらに宣言します。「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。[天の御父の偉大な]幸福の計画は、家族関係が墓を越えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。』¹⁵



この家族の宣言から、日の栄えの結婚にはほかのいかなる関係よりも幸福になるための大いなる可能性があるということが理解できます。¹⁶ 地球が創造され、この教会が回復されたのは、家族を築き、結び固め、永遠に昇栄を得られるようにするためです。¹⁷

「人が一人の妻を持つこと、また彼ら二人が一体となることは正当である。これはすべて、地がその創造の目的にかなうため[ある]」¹⁸と聖文は断言しています。ほかの聖文も「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」¹⁹と断言しています。したがって、結婚は昇栄に必要な福音の原則であるだけでなく、神聖な戒めでもあるのです。

天の御父は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」²⁰と宣言されました。愛する御子の贖罪によって、この二つの目的が達せられるようになりました。贖罪のおかげで、不死不滅、すなわち死からの復活がすべての人にとって現実となったのです。²¹ また贖罪のおかげで、永遠の命、すなわち「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」²²である、神のみもとでの永遠の生活が達成可能になりました。永遠の命の資格を得るために、わたしたちは天の御父と永遠の聖約を交わさなければなりません。²³ すなわち、神殿結婚に

は夫婦間だけでなく、神との協力関係も含まれるのです。²⁴

家族の宣言はまた「夫婦は、互いに愛と関心を示し合う……という厳粛な責任を負って[いる]」²⁵ことに目を向けさせてくれます。その間に生まれた子供は「神から賜った嗣業」²⁶です。家族が神殿で結び固められるとき、その家族は、神の王国そのもののようになり永遠になるのです。²⁷

そのような報いは、単なる望みだけでは得られません。新聞の死亡欄は時折、亡くなった人が次の世で、一足先に逝った自分の伴侶ともう一度結ばれるという期待の込められた書き方がしてあります。しかし、実際に彼らが選んだのは永遠という選択肢ではなく、二人が活着している間のみ有効な結婚だったのです。天の御父は至高の賜物をお授けになろうとしましたが、彼らはそれを断りました。そして、その賜物を拒絶したことで、賜物の送り主をも拒んだのです。²⁸

一つの力強い聖句が、単なる望みと永遠の真理を明確に区別しています。「すべての聖約や契約、……義務、誓詞、誓言、……期待がなされ、また交わされるとき、これらが……この世においても永遠にわたっても、……油注がれた者によって、約束の聖なる御霊により結び固められなければ、これらは死者の中からの復活の時も、その後も、まったく効験や効能、効力

がない。……この目的で結ばない契約はすべて、人が死ぬと終わるからである。」²⁹

この真理は絶対的なものです。この教会の会員はすべての人々に、この真理を学び、永遠の命の資格を得るように勧めています。³⁰ すべての人々に、永遠の御父なる神とその御子イエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、聖霊を受け、神殿の祝福を受け、神聖な聖約を交わして守り、最後まで堪え忍ぶように勧めています。

幸いにも、神の偉大な幸福の計画とその永遠の祝福を、この世で福音を聞く機会がなかった人々に及ぼすことができます。彼らのために身代わりで神殿の儀式を行うことができるのです。³¹

しかし、結婚していない多くの成熟した教会員はどうなるのでしょうか。何の落ち度もないのに、独りで生きるという試練を受けています。わたしたちは皆、次のことを思い起こしましょう。主御自身の方法と時から見れば、忠実な聖徒に対して祝福が差し控えられることはありません。³² 主は行いだけでなく心の望みに応じて一人一人を裁き、報いてくださいます。³³

一方、不完全さによる誤解が結婚生活に問題を生むこともあります。実際、どの結婚生活も二つの欠点を抱えてスタートします。欠点のある二人が夫婦となるからです。幸福は二人の熱心な努力によってのみ得られます。オーケストラの団員も心



を合わせて初めてハーモニーが得られません。同様に、結婚生活における調和も、心を合わせる努力をしなければなりません。その努力は、二人がそれぞれ自分の要求を最も小さくし、無私の愛の行いを最も大きくするとき、実に結ぶのです。

トーマス・S・モンソン大管長は述べています。「真の幸福を見いだすには、自身自身の外に焦点を当ててそれを求めなければなりません。自我を捨てて同胞に奉仕するようになるまで、人生の意義は学べません。人々への奉仕は義務のようなものであり、その義務を果たすなら真の喜びが得られます。」³⁴

結婚生活における調和は、最優先すべき幾つかの事項の中で配偶者の幸せを重んじるときにのみ得られます。実際にそうするとき、日の栄えの結婚は現実になり、この世にも来るべき世にも大きな喜びをもたらすのです。

神の幸福の計画は、自ら選択する権利を認めています。買物客のように、日の栄えの結婚でも、程度の低い選択肢でも選べます。³⁵ 結婚には安っぽいものも、高価なものも、悪魔が狡猾に仕組んだものもあります。悪魔の選択肢には気をつけてください。それは常に不幸を招きます。³⁶

最高の選択肢は日の栄えの結婚です。

喜ばしいことに、以前に程度の低い選択肢を選んだとしても、最高の選択肢に格上げできます。そのためには、大きな心の変化³⁷と、自分の質を高めそれを永続的に保つことが必要です。³⁸ その祝福は、全力を尽くして得るだけの価値があります。³⁹

神殿結婚の祝福が完全に実現した状態は、この世の人には到底理解できません。このような結婚は日の栄えの王国においても発展し続けます。そこで、わたしたちは完全になるのです。⁴⁰ イエスが御父の完全な栄光を受けられたように⁴¹、わたしたちも「父のもとに来て、定められたときに父の完全を受け[る]」⁴²のです。

日の栄えの結婚は、永遠の命への備えの中心です。そのためには、正しい相手と、正しい場所で、正しい権能により結婚し、神聖な聖約に忠実に従う必要があります。⁴³ そうすれば、神の日の栄えの王国における昇栄を確信できるのです。そのことを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. アルマ42:8。「神の計画」(2ニーファイ9:13;アルマ34:9参照)、「贖いの計画」(モルモン書ヤコブ6:8;アルマ12:26, 30, 32-33;29:2;42:13参照)。

「救いの計画」(アルマ24:14;42:5参照)、また「憐れみの計画」(アルマ42:15, 31参照)としても知られている。

2. 2ニーファイ2:25
3. 教義と聖約107:35参照
4. 教義と聖約49:15-17参照
5. ラッセル・M・ネルソン「救いと昇栄」『リアホナ』2008年5月号, 7-10参照
6. 教義と聖約76:53;132:7参照
7. 教義と聖約131:1-3参照
8. この目的の一例が聖文の宣言にある。「あなたの務めはとこしえに教会に対するものである。これはあなたの家族のゆえである。」(教義と聖約23:3, 強調付加)
9. 教義と聖約13章参照
10. マタイ16:18-19;教義と聖約27:12-13;ジョセフ・スミス—歴史1:72参照
11. 教義と聖約110:11-16参照
12. 教義と聖約128:8, 18;132:45-46参照
13. 2ニーファイ10:2;30:8参照
14. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
15. 『リアホナ』2004年10月号, 49
16. わたしは以前、次のように申し上げた。「結婚とは、社会秩序を作り出す鑄造所、美徳の源泉、そして、永遠の昇栄への基盤です。」(「結婚のきずなをはぐむ」『リアホナ』2006年5月号, 36)
17. 「地はことごとく荒廃するであろう」と聖文で警告されるときはいつでも、その警告は、聖なる神殿で家族を結び固める神権の権能が必要であるということに関連して述べられている(教義と聖約2:1-3;138:48;ジョセフ・スミス—歴史1:38-39参照)。
18. 教義と聖約49:16。創世2:24;マタイ19:5;マルコ10:7-9;モーセ3:24;アブラハム5:18;教義と聖約42:22も参照
19. 1コリント11:11
20. モーセ1:39
21. 2ニーファイ9:22;アルマ12:8;33:22;ヒラマン14:17;モルモン9:13;モーセ7:62;ジョセフ・スミス訳創世7:69参照

22. 教義と聖約14:7
23. 教義と聖約132:19参照
24. マタイ19:6参照
25. 『リアホナ』2004年10月号, 49
26. 詩篇127:3
27. 教義と聖約132:19-20参照
28. 教義と聖約88:33参照
29. 教義と聖約132:7, 強調付加
30. イエスは古代アメリカの民にこの概念を教えておられる(3ニーファイ27:16-20参照)。2ニーファイ33:4;教義と聖約42:61;ジョセフ・スミス訳1ヨハネ5:13も参照
31. 教義と聖約128:1-18;137:7-8参照
32. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第2巻, 76-77参照
33. アルマ41:3;教義と聖約137:9参照
34. *Church News*, 2008年7月5日付, 2
35. 2ニーファイ2:27;モルモン書ヤコブ6:8参照
36. サタンは、自分と同じように、わたしたちが惨めになることを望んでいる(黙示12:9;2ニーファイ2:18;モーセ4:6;教義と聖約10:22-27参照)。
37. アルマ5:12-14参照。このような大きな変化には、悔い改め、赦し、また「キリストのもとに来て、キリストによって完全に」^{ゆる}なるという新たな決意が含まれる(モロナイ10:32)。
38. 「福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための^{おんしよ}授手である。」(信仰簡条1:4) 悔い改めでは、より善くなるために、すなわち完全な個人の改善のために、すべてを変えることが求められる。
39. 教義と聖約93:1参照
40. モロナイ10:32参照
41. 教義と聖約93:13-14参照
42. 教義と聖約93:19。教義と聖約66:2;132:5-6も参照
43. ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2版(1966年), 118参照

福音を教えること ——最も大切な召し

中央日曜学校会長会第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

教えることについての幾つかの基本的な原則を学び、その方法を示してもらえば、だれにでもできるのです。



最近、オズワルド姉妹とわたしは、5歳になる双子の孫娘たちに縄跳びを教えることにしました。縄跳びというのは、回している縄を跳んでくぐるという子供の遊びです。簡単な説明を受けてから、孫たちは何回かやってみましたが、失敗してしまいました。

もうあきらめようかと思った矢先に、近所の年上の女の子二人が通りかかり、わたしたちは二人に助けを求めました。二人とも上手に縄跳びができたので、孫たちにお手本を見せることができました。女の子たちは、孫たちが回転する縄のリズムに合わせて跳べるように、歌を歌いました。

いったん縄跳びの原則を理解し、そのお手本を見せてもらった孫たちにとって、

後は簡単なことでした。少し練習しただけで、縄跳びの基本を上手に習得していました。

この縄跳びの練習の間、わずか3歳のもう一人の孫娘は静かに芝生の上に座ったまま眺めていました。縄跳びをやってみたくないと聞かれると、うなずいて近寄り、縄のすぐ横に立ちました。わたしたちが縄を回すと、驚いたことにその孫は、姉たちが跳ぶのを見ていたとおりに、跳ぶことができましたのです。1回、2回、そして何度も何度も、年上の子供たちが歌っていたのと同じ歌を繰り返しながら縄跳びをしました。

3人の孫娘は、縄跳びにはある種のこつがあることを見抜いたのです。それは単純なことでした。ですから、基本的な原則を幾つか学び、実際のやり方を見せてもらった後、3人が皆縄を跳ぶことができたのです。それは福音を教えることにも言えます。教えることについての幾つかの基本的な原則を学び、その方法を示してもらえば、だれにでもできるのです。

ボイド・K・パッカー会長はしばしばこのように指摘します。「わたしたち——指導者、教師、宣教師、両親——は皆、明らかにされている福音の教義を教え、学ぶという生涯にわたる課題を主から与えられています。」¹ またL・トム・ペリー長老は端的にこう言っています。「教会ではどのような場でも効果的な教師を必要とします。」²

すべての会員は教師であり、「教えるこ



神権部会の開会を待つ間、大会説教を読むウクライナ、キエフの兄と弟。

とは、わたしたちが行うすべてのことの中心³であることから、わたしたちは皆、教えることに関して幾つかの基本的な原則を学ぶという神聖な責任があります。教え、学ぶことの原則は数多くありますが、それについてただ読むだけでは十分ではありません。まず、そのような基本的な原則を理解し、第2に、経験豊かな教師にそれらの原則をどのように活用するのか示してもらうことが必要です。そのためには、ワードや支部の有能な教師の教え方をよく観察し、教会のウェブサイトまたは教会機関誌に掲載されている教え、学ぶことについての世界指導者訓練集会を復習することが必要です。⁴

福音を学んだり教えたりすることに關する基本的な原則は、聖文の中に見いだすことができます。また、しばしばなおざ

りにされている優れた教材『教師、その大いなる召し』⁵にも書かれています。

福音の教え方を示すことのできる理想的な教師像を探し求めるとき、わたしたちは必然的にナザレのイエスへと引き寄せられます。弟子たちはイエスを「先生」という意味であるラボニと呼びました。⁶ イエスは最高の教師でしたし、今でもそうです。

イエスは「権威ある者のように、教えられた⁷」ので、当時のほかの教師とは違っていました。この教え導く権威は天の御父から与えられたもので、「神は……イエスに聖霊と力を注がれました。……神が共におられ」たのです。⁸

またヨハネが記録しているように、イエスはこの規範に従って天の御父から教えを受けられました。イエスはこう言われま

した、「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していた……。」⁹ 「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。……なぜなら、父は子を愛して、みずからなさることは、すべて子にお示しになるからである。」¹⁰

福音を教えたことで人々の生活を変え、その魂を救った福音の教師の模範は、ほかにも聖典の至る所に書かれています。例えば、モルモン書のニーファイ¹¹、アルマ¹²、そしてモーサヤの息子たち¹³がすぐ頭に浮かびます。モーサヤの息子たちが福音を教えようとしていたときに、どのような準備をしたかに注目してください。

「彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」¹⁴

もう一人の力強い福音の教師にモロナイがいます。モロナイは預言者ジョセフ・スミスを教え指導するために「神の前から遣わされた使者」¹⁵として選ばれました。ジョセフはモロナイが自分を教えたときに何を言い、何をしたかについて簡潔に、けれども詳細に説明しています。¹⁶

モロナイが初めてジョセフ・スミスに現れたとき、ジョセフはほとんど正式な教育を受けていない17歳の少年でした。ジョセフは自分のことを「世の人々の中で取るに足りない少年」¹⁷と言い、後にある知人はジョセフを「素朴」で「無教育」¹⁸と呼びました。モロナイや彼を教えたほかの天使のように、忍耐強く思いやりの深い教師の手の中で、この若者は主が「驚くべき業と不思議」¹⁹と言われたことを成し遂げる中心人物となることができたのです。

モロナイがジョセフ・スミスを教えた方法を見て、教え、学ぶことの原則を幾つか考えてみましょう。話題にすべき重要な原則は数多くありますが、良い教え方に欠くことのできない3つの基本的な原則に重点を置いてみましょう。

原則その1: 教える人に愛を示し、名前 で呼ぶ

ジョセフ・スミスは天使モロナイが初めて訪れたとき、最初は「恐れたが、その恐れはすぐに去った」と述べています。この恐れを払いのけるために、モロナイは何をしたのでしょうか。ジョセフは、モロナイが「わたしの名を呼ん[だ]」²⁰と言っています。生徒を愛し、名前で呼ぶ教師は、天の規範に従っているのです。²¹

最近、トーマス・S・モンソン大管長との集会に出席したとき、大管長がわたしたち一人一人の名前を呼んであいさつしたのに気がつきました。モンソン大管長は少年のころの日曜学校の教師だったルーシー・ガーシュ姉妹について話してくれました。彼女はクラスの子供たち一人一人の名前を知っていたということです。モンソン大管長は彼女についてこのように言いました。「彼女は日曜日に教会を休んだ子や、いつも来ていない子を絶えず訪問しました。皆、自分のことを気にかけてもらっていると感じていました。わたしたちのだれ一人として、彼女と彼女のレッスンを、決して忘れたことはありません。」²²

原則その2: 聖文を使って教える

モロナイが実践したもう一つの教えることの原則は、彼が聖文をよく知っていて、



聖文を使って教えたことです。ジョセフ・スミスは最初に会ったとき、モロナイが「『旧約聖書』の預言を引用し始められた。……ほかにも多くの聖句を引用し、多くの説き明かしをされた」²³と述べています。モロナイが引用した数多くの聖句から、ジョセフはモルモン書を世に出し、真の福音を再び地上に回復するという自らの預言者としての役割を学びました。²⁴

原則その3: 福音の真理について深く考 えるように促す

ジョセフ・スミスを教えるときにモロナイが使った第3の原則は、学んだことについて深く考えさせることです。ジョセフは、自分が「たった今経験したこと……をまた深く考え続けた」²⁵と述べています。復活されたキリストはニーファイ人の群衆に「理解できるように」彼らの「家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい」²⁶と言われました。効果的な教師は、この規範に倣いたいと思うことでしょう。

ニーファイは、深く考えることには頭だけではなく心も使わなければならないことを思い出させてくれます。「わたしの心

は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている。」²⁷ 聖文について、また見たり聞いたりしたことについて深く考えることは、生活の中に個人的な啓示を招き入れることなのです。

福音を教えることは、聖く神聖な召しであることを証します。生徒を愛し、名前で呼ぶとき、聖典を開いてそこから教えるとき、回復された福音の真理について深く考え、実行するように生徒を促すとき、皆さんが与える良い影響はさらに増し、生徒の生活はさらに豊かに祝福されるでしょう。その輝かしい日に、ナザレのイエスについて言われたように、彼らは皆さんにこう言うでしょう。「わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。」²⁸

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー「教え、学ぶことの原則」『世界指導者訓練集会』2007年2月、『リアホナ』2007年6月号、50
2. 『リアホナ』2007年6月号、50。10

リント12:28;エペソ4:11-14も参照

3. ボイド・K・バックナー『リアホナ』2007年6月号, 54
4. 『世界指導者訓練集会』2007年2月参照。『リアホナ』2007年6月号, 49-80;世界指導者訓練集会の放送内容は、www.lds.org でも視聴できます。(訳注——日本語は音声のみ利用できます)
5. 『教師、その大いなる召し』アイテム番号36123 300
6. ヨハネ20:16
7. マタイ7:29。マルコ1:22も参照
8. 使徒10:38
9. ヨハネ8:28
10. ヨハネ5:19-20
11. 2ニーファイ33:1-13参照
12. モーサヤ27:32-37;アルマ17:1-12参照
13. アルマ17:1-12参照
14. アルマ17:2-3
15. ジョセフ・スミス—歴史1:33
16. ジョセフ・スミス—歴史1:27-54参照
17. ジョセフ・スミス—歴史1:22
18. オーソン・ブラット, "Discourse," *Deseret News*, 1880年7月21日付, 386
19. イザヤ29:14;2ニーファイ25:17;27:26。3ニーファイ21:9-10も参照
20. ジョセフ・スミス—歴史1:32-33。49節も参照
21. マタイ3:17;3ニーファイ11:7;モロナイ2:1-2;ジョセフ・スミス—歴史1:17参照
22. トーマス・S・モンソン「偉大な教師の模範」『リアホナ』2007年6月号, 77参照
23. ジョセフ・スミス—歴史1:36, 41
24. ジョセフ・スミス—歴史1:33-54参照。教義と聖約20:8-9も参照
25. ジョセフ・スミス—歴史1:47
26. 3ニーファイ17:3。教義と聖約138:1, 6, 11, 29も参照
27. 2ニーファイ4:16。モロナイ10:3も参照
28. ヨハネ3:2

我が家に戻る

七十人

エドアルド・ガバレット長老

主の羊を飼うという救い主の招きに応じるとき、……多くの人の生活に、どれほど大きな影響を与えることができるでしょうか。



わ たしの生まれたウルグアイのミナスは、冬の間とても寒くなります。日が沈むころ、母は暖炉に薪をくべて、食事をする部屋を暖めました。すると一人、また一人といった具合に、一日の仕事を終えた親、姉、そしてわたしが集まって来るのです。あの、暖炉が暖かく燃える居心地の良い部屋に家族がそろったときの気持ちを、わたしは一生忘れないでしょう。

その後、妻とわたしは自分の家庭を築きましたが、どこに住んでいても、同じように皆でよく集まりました。子供たちが里帰りするといつもぬくもりを感じます。それは暖炉があってもなくても同じです。

何という心地よさでしょう。わたしたちの家、わたしたちの家庭、わたしたちの避け所は何と美しい場所なのでしょう。

長年にわたって、わたしたち家族は様々な国で暮らしました。どの国に行っ

ても、すべてのワードで会員たちから同じぬくもりを感じる事ができました。

すべての教会員に、そのような心地よさを味わってほしいと願っています。教会に再び戻れるよう、わたしたちが働きかけたり伝道活動をしたりすることによって、すべての会員がそのような心地よい気持ちを感じる事ができるのです。

ペルーのステーキや地方部で起こったことを紹介します。まず、幾つかの家族の名前を挙げましょう。カウソ家族、バンダ家族、バルガス家族。さらに名前は続きます。1,700人を超える会員が、教会という我が家に戻って来ました。彼らはペルー全土にあるワード、支部、ステーキ、地方部の会員で、ステーキ会長、ビショップ、定員会や補助組織の指導者から戻って来るよう招かれました。神権指導者、専任宣教師やほかの会員たちの招きを受け入れたのです。そして招いた側の会員たちは、彼らが教会に戻り、キリストのみもとに来る手助けをするという責任を引き受けました。彼らの一人一人に伝えます。「よく帰って来てくださいました。お帰りなさい!」

彼らはどうして家に戻って来る事ができたのでしょうか。それは、伝道部内にある14ステーキと4地方部が一つとなり、個々への働きかけと、バプテスマと確認の儀式を通して、皆が戻って来る事ができるよう1年間にわたって努力したからです。

この働きかけは救い主の次の御言葉に靈感されたものでした。「わたしを愛するか。……わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハネ21:16) また、トーマス・S・モンソン大

管長の教えからも靈感を受けました。「わたしたちは長年にわたって、教会に活発に集っていない人、傷ついたりと感じている人、批判的な人、背罪を犯した人に戻って来るよう、こう呼びかけてきました。『戻って来てください。そして主が備えられた食卓に着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わってください。』」(『過去を振り返り、前進する』『リアホナ』2008年5月号, 89)

アルマは同胞のために深い苦しみを感じ、主にこう祈りました。

「おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を収められるようにしてください。

まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々であり、その多くはわたしたちの同胞です。ですから、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」(アルマ 31:34-35)

ペルーのリマにあるプエンテ・ピエドラステークのアンヘル・アラルコン会長が次のような経験を話してくれました。「毎週土曜日、わたしは朝の8時半から正午まで、宣教師、ビショップ、何人かの補助組織の指導者と一緒に、活発に集っていない会員、教会員ではない人、そして新会員を訪問しました。」

ここまで聞いて、わたしは次の賛美歌の歌詞を思い浮かべました。

「子羊を守る 羊飼いの愛
飢えつつさみしく 迷うものあり
見よ、善き飼い手は そを訪ね行き
喜び連れ来る 何にかえても」
(「羊を守る羊飼いの愛」『賛美歌』136番)

ある土曜日の朝、交通の便の悪い地域に住んでいたバルガス兄弟の電話が鳴りました。バルガス兄弟の家に着いたアラルコン会長が携帯電話からかけていたのです。バルガス兄弟は答えました。「驚きました。ここまで来るのは大変ですよ。」



部会の合間にバプテスマを受けた求道者とポーズを取るモルドバの姉妹宣教師たち。

するとアラルコン会長は言いました。「今、お宅の玄関の前にいます。お話ししたくて来ました。バルガス兄弟が必要なのです。明日、教会の集会に来ていただけないでしょうか。」

すると、もう何年も教会に行っていなかったバルガス兄弟はこう答えました。「行きましょう。」こうして、バルガス兄弟は我が家に戻る道を踏み出したのです。

「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。……

……あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ 25:35-36, 40)

何週間か前の日曜の集会で、何年も教

会から離れていた後、実に久しぶりに集会に出席したという兄弟と会う機会がありました。教会員ではない夫人も一緒でした。

なぜ戻る決意をしたのかを尋ねると、こう答えてくれました。「友人のフェルナンドと、この善良なビショップが教会に誘ってくれたのでそうしました。教会を知ったのはずいぶん昔のことですが、小さな炎がまだ心の中で燃えています。炎は大きくありませんが燃えています。」

わたしは最後にこう言いました。「それなら、その炎を燃やし続けるために、あなたの兄弟として、一緒にその炎を吹かせてください。」それから互いに抱き合いました。

兄弟たちへの関心、注意、心配りは、天の御父に対する深い愛の表れです。実際、奉仕するとき、そして隣人の幸福を思って仕えるときに、わたしたちは神への愛を表しているのです。

ベニヤミン王はこのことについて教えま

した。「そして見よ、わたしがこれらのことを語るの、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということ悟らせるためである。(モーサヤ2:17)

主の羊を飼い、キリストのもとに来ようすべての人を助けるという救い主の招きに応じるとき、教会にあまり活発でない家族、また、教会員ではない多くの人たちの生活に、どれほど大きな影響を与えることができるでしょうか。

ここで紹介した経験談は、何千という兄弟たちが、主の羊を飼うようにという主の招きを受け入れ、人知れず^{おこな}行っていることのほんの一例です。愛と奉仕は、一緒にいたいと望む双子のようなものだということ覚えておきましょう。

わたしたち一人一人が、天の御父への愛を美しく表す方法として、教会から遠ざかっている人を捜し求めるという、教会員に課せられた責任を引き受けることができますように。この愛にあふれた奉仕を通して一人でも教会に導くならば、また、これを生涯の目的とするなら、自分自身と、キリストのみもとに戻るよう働きかけた人々にどれほどの喜びをもたらすことができるでしょうか。

「呼ぶ声を聞けや 今も聞こゆる
『迷えるを、汝れは 探さぬのか』と」
(『賛美歌』136番)

わたしたちが天の御父の息子娘であることを証します。御父はわたしたちを愛し、わたしたち一人一人を名前^{あかし}で知っておられます。

御父と救い主の愛を証します。御父はまずわたしたちを愛し、御自身の御子を通じてわたしたちが我が家に戻ることができるよう、わたしたちに御子を与えられました。わたしは、イエス・キリスト、わたしの救い主、わたしの主、わたしの贖い主^{あがな}への愛を表します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

あかし

証を積み重ねる

七十人

カルロス・A・ゴドイ長老

天使の訪れよりも「静かな細い声」という証拠の方が、わたしたちの証に大きな影響を与えることがあります。



数年前、ブラジルで地域七十人として奉仕していたとき、休暇を使って家族でフロリアノポリスという美しい町を訪れました。日曜日はいつものように最寄りの教会を探し、出席しました。妻と長女とともに参加した日曜学校のクラスでは、福音に対する生徒各自の証について話し合っていました。

レッスンの途中で、教師はクラスの生徒たちに、教会についての証をはぐくんでいる際に得た特別で霊的な経験を紹介するよう言いました。何人かの兄弟や姉妹が自身の経験を話している間、わたしは何か話せることはないかと、改宗者である自分の経験を心の中で振り返ってみました。しかし、証を得る過程で特筆すべきものは何も思いつきませんでした。

いろいろと考えながら、ほかの人たちの経験談に耳を傾けていると、教師の姉妹がわたしの発言を期待しているのが分

かりました。彼女はほかの会員たちの話を聞いていましたが、同時にわたしのすばらしい経験談を待っていることをわたしに伝えました。確かにわたしは地域七十人であり、何か感動的なことを語るべきだったのでしょう。時間が過ぎていき、彼女が待っているのを感じながら、力強い出来事と呼べるような経験談を何とか見つけようと思いました。しかし、残念ながら何も思いつきませんでした。役に立てればと思いつきながらも、教師の期待にこたえることはできませんでした。

幸いなことに、その日は断食安息日でした。聖餐^{せいさん}会で、わたしは会員に向けて、特に教師の姉妹と日曜学校のクラスの生徒たちに向けて証をしました。驚くような経験談ではありませんでしたが、回復された福音が真実であることへの心からの証を述べました。

時としてわたしたちは、教会についての証を得るには、偉大で力強い経験、あるいは、あらゆる疑いを一掃するほどの答えや確信を与えてくれる特別な出来事が必要だと考えてしまいます。

ボイド・K・バックナー会長はこう教えました。「聖文には、御霊^{みたま}の声は『大き[く]』も『耳障り』でもなく、また、『雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもな[い]』と書かれています。むしろそれは『まるでささやきのような、まったく優しい静かな声』であり、『心の底までも貫[き]』、『心を燃え上がらせ[る]』ものです(3ニーファイ11:3;ヒラマン5:30;教義と聖約85:6-7)。エリヤが、主の声は風の中にも、地震の中にも、火の中にもなく、『静かな細い

声』であると認めたときのことを思い起こしてください(列王上19:12)。』

パッカー会長はさらにこう話しています。「御霊は、叫んだり、大きな手で揺すったりはしません。ささやきかけるのです。そのささやき方は、非常に静かで、ほかのことに気を取られていると、まったく気がつかないかもしれません。……

時には強い訴え方をして、気づかせることもあります。しかし、ほとんどの場合、その静かな気持ちに心を傾けないと御霊は離れ去り、わたしたちが自ら熱心に求め、聞く耳を持ち、自分自身の言葉で、昔のサムエルのように、『しもべは聞きます。〔主よ〕』お話し下さい』と言うまで訪れなくなります(サムエル上3:10)。(ボイド・K・パッカー「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号、38-40参照)

偉大な出来事を経験しても、証が強まるという保証にはなりません。レマンとレムエルがその良い例です。彼らは天使の訪れを受けても、その直後に主の御心に疑いを抱いていました。一部の末日の偉大な指導者からも、この原則について学ぶことができます。彼らは回復の初期の時代に天より教えを受けましたが、それでも最後まで堪え忍ぶだけの強さがありませんでした。このような人たちの経験から、天使の訪れよりも「静かな細い声」という証拠の方が、わたしたちの証に大きな影響を与えることがあるということが分かります。

若いころ、わたしはブラジルのポルトアレグレで二人の姉妹宣教師から教会について教わりました。自分の祈りに対する答えを求めていたのを覚えています。特別で疑う余地のない答えを求めていましたが、そのような答えは得られませんでした。しかし、それは回復された教会に加わるのに十分な確信が得られなかったということではありません。

証を養うという過程についてアルマはこう教えています。「しかし見よ、もしあなたがたが目覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい(これは求道



者のころのわたしに当てはまるでしょう)。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」(アルマ32:27)

そのとき以来、一つ一つは小さいものでも、教会の求道者として、後に宣教師として、さらに父親や指導者としての経験が積み重なり、この種が「良い種である」と疑いなく知ることになったのです(アルマ32:30)。

証を養うという過程を、アルマは引き続きこう教えています。「さて、御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたが

たが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊に逆らおうとする不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これは……わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわた

しに良い気持ちを与え始めている。』(アルマ32:28)

ある人々にとって、証は、特別であらう余地のない出来事を通してもたらされることがあります。しかしほかの人にとって、証は、恐らくはそれほど華々しくもない経験の繰り返しによってもたらされるかもしれません。しかしそれらの経験が積み重なると、これまで学び実践してきたことが真実であるという確実な証となるのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になって何年もたった今、わたしは、自分の証を築いてくれた経験のほとんどを思い出せないかもしれません。それでも、あらゆる経験が、回復された教会に対する自分の証に影響を与え、役立っているのです。今日、わたしにはイエス・キリストの福音に対する絶対的な確信があります。

最後に、わたしはこの証を、あの日曜学校の教師だけではなく皆さんにも伝えます。わたしは天の御父が生きておられることを知っています。御父がわたしたちを愛しておられることを知っています。わたしたちは御父の子供です。御父はわたしたちの祈りを聞いてくださいます。イエス・キリストが救い主であられることを知っています。イエスは亡くなられ、復活され、わたしたちの罪を贖ってくださいました。主の贖いは日々、わたしに祝福を与えてくれます。

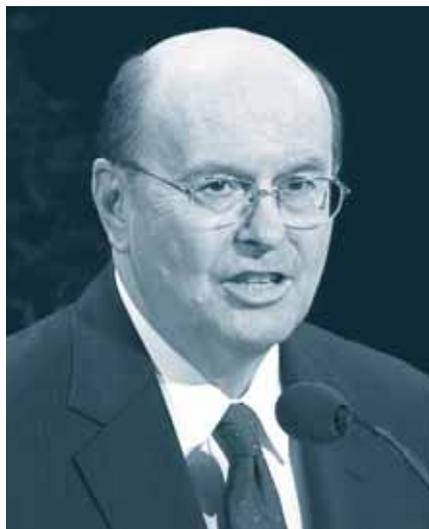
イエス・キリストの教会が、末日に預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことを証します。ジョセフ・スミスは神の預言者でした。今日わたしたちが、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長によって導かれていることを知っています。モーセ、アブラハム、イザヤがそれぞれの時代において預言者であったように、モンソン大管長が現代における預言者であることを知っています。

モルモン書は聖書と同様に神の御言葉であり、救い主についてのもう一つの証です。わたしは神権の力が回復され、世界中の多くの聖徒たちを祝福していることを知っています。このことをイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

「あのね、 大変だったんだよ」

十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

わたしたちは、聖文を通して試練の中には益となりわたしたち自身の個人的な成長に必要なものもあることを承知しています。



去年の冬、わたしの娘は大変な吹雪の中、車を運転していて恐怖を感じたそうです。その話を聞いていて、昔わたしも二人の息子と一緒に同じような経験をしたことを思い出しました。末の息子のジョーが3歳、もう一人のラリーが6歳のときのことです。6月にサンフランシスコからユタに向かって車を走らせていました。天気は実に快適でした。

シエラネバダ山脈をドナー峠の頂上に向かって登り始めたころ、まったく突然に何の前触れもなく、猛吹雪に見舞われてしまったのです。そんな事態に備えていたドライバーは一人もいません。わたしたちの前にいたトレーラーは二つに折れ曲がり、2車線をふさいでいます。スリップし

て道路から飛び出してしまったトラックや車もあります。空いていた1車線に、わたしたちの車も含め多くの車が集中しました。スリップして追突事故を起こさないようみんな必死でした。こうして車の流れは完全に止まりました。

わたしたちは6月のこの大吹雪に何の備えもできていませんでした。暖かい服もなく、ガソリンもだいぶ少なくなっていました。わたしは二人の息子と体を寄せ合って寒さをしのぎました。車の中で何時間も過ぎた後、ようやく除雪車やレッカー車がやって来て、大渋滞を起こしていた大量の車を片付け始めました。

最終的にはわたしたちの車もレッカー車に引かれて、峠の反対側にあるガソリンスタンドまで連れて行ってもらいました。そこでわたしはすぐに妻に電話をしました。前の晩から電話を待っていた妻が心配しているだろうと思ったからです。妻は二人の息子に代わってほしいと言いました。3歳の息子の番になると、息子は震える声でこう言いました。「あのね、大変だったんだよ。」

息子は母親に話しかけ「大変だった」ことを伝えているうちに、気持ちが楽になり、ほっとしているようでした。天の御父のみもとに行こうとするわたしたちにとって、祈りはこれと同じです。わたしたちは、助けが必要なときに御父が心にかけてくださることを知っています。



だれもが人生で試練や苦難に直面する

今話した出来事は、大変な旅ではありましたが、つかの間で、長く尾を引くことはありませんでした。しかしながら、この世の生涯で遭遇する試練や困難の多くは、もっと厳しく、ずっと尾を引くように思えます。わたしたちは皆こうしたことを人生の浮き沈みの中で経験します。この大会を視聴している人の中にも、今この時に、きわめて深刻な事態に直面している人が大勢いることでしょう。

わたしたちは預言者ジョセフの嘆願に共鳴します。ジョセフが偽りの告発により、数か月にわたってリバティーの監獄に捕らわれていたときのことで。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。」

主の答えは心を慰めるものでした。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」¹

回復によって明らかにされた基本的な教義の一つは、義がもたらされるためにはすべての事物に反対のものがなければならないという教えです。² この世の生涯はいつも容易に進むわけではなく、また、そのように意図されているわけでもありま

せん。むしろ試練と証明の時期なのです。アブラハム書にはこうあります。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」³ ハロルド・B・リー長老は次のように教えています。「時には、わたしたちにとって最善のものや永遠の報いをもたらすものが、その時点では最も困難なものと思えることがあります。また、禁じられていることが、しばしば最も望ましいものに思えることもあります。」⁴

小説『二都物語』の冒頭は、よく知られている次のような言葉で始まります。「それはおおよそ善き時代でもあれば、おおよそ悪しき時代でもあった。」⁵ 聖文は、どの世代であってもそれぞれに最良の時代と最悪の時代を経験することを明らかにしています。わたしたちは皆、善悪の戦い⁶、光と闇、希望と絶望という対照的な存在に無縁であるわけにはいかないのです。ニール・A・マックスウェル長老は次のように説明しています。「わたしたちは瞬時に取って代わる苦楽の経験を、この短い死すべき世の最後の最後まで味わう必要があります。」⁷ わたしたちは、教義から、善が悪に打ち勝つこと⁸、悔い改め清められた者に永遠の命が与えられることを知っています。⁹

ディケンズがこの小説を書いているころとほぼ時を同じくして、西部の山間に入植

した初期の聖徒たちの英雄的な努力が始まっていました。

たとえ共通した信仰を持っていたとしても、聖徒たちは数多くの困難に直面し、それぞれにまったく異なった期待を抱いて、ノーブーを去る日を迎えました。前途を楽観する者もいれば、心配する者もいました。ヘレン・マー・ホイットニーとバスシバ・スミスという二人の人物はその良い例です。二人は自分たちの思いを実に力強く記録に残しました。

ホイットニー姉妹はノーブーを去るときに抱いた期待を次のように記録しています。「……小さなりボンや付け襟、レースなどをすべて荷物の中に入れた。これから行く所では買えないだろうから。わたしたちはこの俗世を離れてロッキー山脈を越え、だれも行きたいと思わないような所へ行く。……そこには富む人も貧しい人もいないだろう、いるのは正直な人と徳高い人だけだ。……」¹⁰ ホイットニー姉妹の記録は、理想的とも言える楽観主義に貫かれています。

バスシバ・スミス姉妹の記録もやはり信仰に満ちてはいますが、幾らか不安があったことも読み取れます。彼女は、ミズーリ州で暴徒が聖徒に敵対して群れを成した様子を見ているし、使徒であったデビッド・W・パッテンの死にも居合わせています。

ノーブーから避難したときのことを振り

返って、彼女はこう記しています。「その大切な場所で最後にしたことは、部屋をきれいにし、床を掃き、ほうきをドアの後ろのいつもの場所に片付けることだった。そして万感の思いを込めて、ドアを閉め、まだ見ぬ未来に向かって進み出した。神を信じる信仰を抱きつつ、ミズーリ州でつらい場面を感じた思いよりはむしろ、西部にあって最後には福音とその真実不変の原則が確立されるという確信をもって、進み出したのだ。」¹¹

二人とも末日聖徒の開拓者の女性として、生涯を通じて福音の教えを忠実に実践し、シオンを築くためにすばらしい奉仕の働きをしました。二人は数多くの試練や困難にお遭遇したものの、忠実に堪え忍んだのです。¹² ホイトニー姉妹は樂觀的だったにもかかわらず、最初の3人の子供を出産時や出産間近に亡くしました。そのうちの2人が亡くなったのはノーブーからソルトレークへの旅の途中でのことでした。¹³ ホイトニー姉妹は、信仰を守った記録によってわたしたちに祝福をもたらし、やがて使徒オーソン・F・ホイトニーの母親となったのです。

スミス姉妹の記録には、聖徒たちが西に向かって進んだときに経験した貧困や病氣、困窮の様子が書かれています。¹⁴ 1847年3月には母親が亡くなり、その翌月には2番目の息子のジョンが生まれました。その場面を彼女は短く記録しています。「わたしのこの最後の子は、たった4時間しか生きられなかった。」¹⁵ その後、彼女はソルトレーク神殿のメイトロンとなり、やがて中央扶助協会の第4代会長となっています。

わたしたちは初期の聖徒たちが経験した艱難辛苦に強く胸を打たれます。ブリガム・ヤングは、1856年2月に、こうした苦難についていささかユーモアを交えて次のように述べています。「試練の時について少し話したいと思います。皆さんも御存じのように、わたしはこれまで、飢え死にを恐れる人がいるなら、その人を去らせ、豊かな土地へ行かせなさいと言ってきました。わたしは最後のラバの耳の先からしっぽの先まで食べ尽くしてしまうまで

は、飢え死にの危険があることを心配したりはしません。飢え死にすることを恐れてはいません。」

さらに次のように続けています。「今は仕事に就けない人が数多くいます。しかし間もなく春が来て、不要な苦しみを受けることはなくなります。」¹⁶

今の時代にわたしたちが直面する問題は、ある意味では過去の問題とよく似ています。最近の経済危機は、世界中で著しい不安を引き起こす原因となっています。雇用や財政の問題はどこででも見受けられます。肉体面や精神面で難題を抱えている人も大勢います。結婚問題や道を離れた子供に悩む人もいます。愛する人を亡くしたばかりの人もいでしょう。依存症や、不適切で有害な性癖のために心痛を招いている人もいます。そうした試練は、原因が何であれ、本人にも、その人を愛する人たちにも、深い苦悩を引き起こすのです。

わたしたちは、聖文を通して試練の中には益となりわたしたち自身の個人的な成長に必要なものもあることを承知しています。¹⁷ また雨が正しい者のうえにも正しくない者のうえにも等しく降ることを知っています。¹⁸ 目にする雲がいつも雨の前兆とは限らないことも確かです。わたしたちの耐える問題や試練、困難がどのようなものであれ、イエス・キリストが成し遂げられた贖罪という、慰めをもたらす教義とは、アルマも教えているように、わたしたちの弱さを救い主が身に受けてくださることであり、「御自分の民を彼らの弱さに応じて……救[ってください]」¹⁹ ことです。

聖典や近代の預言者は、収穫の少ない年もあれば豊かな年もあると断言しています。²⁰ 主もわたしたちに、やがて訪れる問題の多くに備えるようにと望んでおられます。主は「備えていれば恐れることはない」²¹ と宣言されました。何年も前、シエラネバダ山脈を横断するときに、あの吹雪の中で心に傷となって残るような経験をした原因の一つは、あのような突然の出来事にわたしが備えていなかったからでした。聖文から得られる偉大な祝福の一つは、予期しないときにしばしば起

こる問題について警告してくれていることです。そういう状況に備えができていることはすばらしいことです。そのような備えの一つが、戒めを守ることです。

モルモン書には数多くの場面で、民は「もし彼らが戒めを守れば」²² その地で栄えると約束されています。この約束には大抵、もし神の戒めを守らなければ御前から絶たれるであろうという警告が伴います。²³ 御霊の祝福、すなわち聖霊の働きかけを受けるということは、その地で真に栄え、備えをするためには、明らかに不可欠な要素なのです。

試練がどのようなものであるかを問わず、現在豊かに頂いているわたしたちが、頂いている祝福をきちんと認識しないとすれば、感謝の心が足りないと言われても仕方ありません。

開拓者の受けた艱難がどれほどつらいものであったかを十分知ったうえで、ブリガム・ヤング大管長は、感謝することについて、その重要性を次のように語っています。「わたしは、赦されない罪を別にすれば、忘恩の罪以上に重い罪を知りません。」²⁴

救い主と贖罪への感謝の念

わたしたちはこの上ない感謝の念をイエス・キリストとその贖罪に向ける必要があります。この大会を視聴している皆さんの中にも、現在、大変な試練や困難に立ち向かっていて、天の御父に祈るとき、心の中では「今、大変なのです」と言いたい気持ちの人が大勢いることも承知しています。

皆さんに、ある姉妹の実話を紹介したいと思います。ユタ州グランツビルに住むエレン・イエーツというこの姉妹は、10年前の10月初旬、ソルトレークの職場に向かう夫のレオンにお出かけのキスをして見送りました。しかしこれが、生きたレオンを見た最後となりました。その日、初出勤に遅れてしまいゆっくり走る車を追い越そうとした20歳の青年の車と衝突して、二人とも即死してしまっただけです。イエーツ姉妹は、二人の高速機動隊員がこの訃報を伝えに来たときは、ショックと悲しみに打ちのめされたそうです。

彼女はこう記録しています。「将来のこ

とを考えようとしたとき、見えたのは、ただ暗闇と苦痛だけでした。」ところが、亡くなった夫の親友が、偶然にもその青年のワードのビショップだったのです。ビショップは彼女に電話をして、青年の母親、ジョアン・ウィルモアが話をしたがっていると伝えました。彼女はそのときのことをこう回想しています。「自分自身の悲しみと苦痛ばかりに心が向いていて、その青年や青年の家族のことまで考える余裕などありませんでした。そんな自分に気づいて動揺しました。すると突然、ここにも自分と同じように、あるいは自分以上に悲しみに暮れている母親がいることを悟ったのです。わたしはぜひおいでいただきたいと伝えました。」

ウィルモア夫妻は彼女の家に着くと、自分たちの息子の過失によりレオンの命を奪ってしまったことに対する心からの悲しみとお詫びの言葉を述べました。そして、救い主が小さな女の子を抱き上げておられる絵を差し出しました。イエーツ姉妹はこう言っています。「つらくて耐えられなくなると、この絵を見て、キリストがわたしのことを個人的に知っていてくださることを思い出しています。キリストはわたしの寂しさや試練を知っておられるのです。」イエーツ姉妹を慰めた聖句です。「元気を出さない。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。」²⁵

毎年10月が来ると、イエーツ姉妹とウィルモア姉妹は一緒に神殿に参入し、イエス・キリストの贖罪が備えられていることに感謝をささげます。(二人は今日ここカンファレンスセンターと一緒に来ています。)救いの計画に、また永遠の家族がいることに、そして、夫婦と家族が暮のいずれの側でも一つに結ばれるという聖約に対して感謝をささげるのです。イエーツ姉妹はこう結んでいます。「この試練を通じて、わたしは天の御父と救い主の愛をこれまで感じたことがないほど豊かに感じるようになりました。」そして、こう証しています。「キリストの贖罪やキリストの愛で癒すことができないほど大きな悲しみや苦痛、病は存在しません。」²⁶ この二人の姉妹が



示してきた愛と救いは、実にすばらしい模範です。イエス・キリストの贖罪を二人の生活に効力のあるものとしているのです。

ゲツセマネの園の救い主を思い出してください。贖罪の過程で、苦痛があまりにも大きかったため、あらゆる毛穴から血を流されたとあります。²⁷ 救い主は御父に呼びかけたとき、「アバ」²⁸ という言葉を使われました。これは苦しみにあえぐ一人の息子が父親に向かって発した叫びだったと解釈できます。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさってください。」²⁹ イエス・キリストの贖罪は、わたしたち一人一人がこの世の生涯で出合うあらゆる試練や困難にも及ぶことを証します。時にわたしたちは「あのね、大変だったんだよ」と言いたいときがあります。そんなときこそ、主がそこにおられることを実感し、その愛の御腕に抱かれて平安を得られるときなのです。

愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長は、この8月の誕生日に、世界中の教会員が贈れる理想のプレゼントは何ですかと質問されて、迷わずこう答えました。「つらい時を過ごしている人を探し出し、……その人のために何かしてあげてください。」³⁰

わたしは皆さんとともに、人類を救ってくださる御方であるイエス・キリストに永遠に感謝をささげます。主が世の救い主、^{あがな} 贖い主であられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

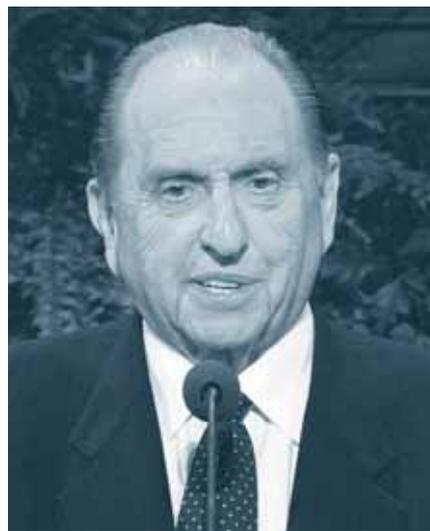
1. 教義と聖約121:1, 7-8
2. 2ニーファイ2:11参照
3. アブラハム3:25
4. ハロルド・B・リー, The Fall of Man, (セミナリー・インスティテュート教師を対象とした集会での講話, 1954年6月23日)
5. チャールス・ディケンズ『二都物語』中野好夫訳, 上巻, 7, 新潮社
6. 2ニーファイ2:15-16参照
7. ニール・A・マックスウェル「よく堪え忍ぶ」『リアホナ』1999年4月号, 12
8. 教義と聖約19:2-3; 教義と聖約133:64
9. 教義と聖約133:62; 教義と聖約14:7; ヨハネ17:3
10. A Woman's View, Helen Mar Whitney's Reminiscences of Early Church History, ジェニ・プロバーク・ホルザフェル, リチャード・ニーツェル・ホルザフェル共編(1997年), 329-330

11. バスシバ・W・スミス, *Autobiography*, アリス・メリル・ホーン編, タイプ原稿, 15, モーリン・ジェンセン・プロクター, スコット・フェイス・プロクターによる写真付き随筆, "Joseph, Joseph, Joseph: The Temple Has Returned to Nauvoo, Part 4, "Lift Up Thine Eyes,""で引用, Meridian Magazine, 2002年, <http://www.meridianmagazine.com/photoessay/020522nauvoo/020522nauvoo3.html>
12. エテル12:6参照
13. ホイットニー, 491
14. ヘイディ・スウィントン, "I Gently Closed the Door," *Heroines of the Restoration*, バーバラ・B・スミス, ブライス・ダーリン・サッチャー編(1997年), 134参照
15. バスシバ・W・スミス, *Heroines of the Restoration*, 134
16. ブリガム・ヤング『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』(メルキゼデク神権者・扶助協会生徒用学習ガイド, 1997年) 195
17. 教義と聖約122:7参照
18. マタイ5:45参照
19. アルマ7:12
20. 創世41:29-31参照;ゴードン・B・ヒンクレー「若い兄弟たちに、そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999年1月号, 56
21. 教義と聖約38:30
22. 2ニーファイ4:4参照
23. アルマ36:30参照
24. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』195
25. 教義と聖約68:6
26. エレン・イエーツ, ユタ・グランツビルステーク大会土曜の夜の部会での話の個人的な記録, 2008年2月16日
27. 教義と聖約19:18
28. マルコ14:36
29. マタイ26:39
30. トーマス・S・モンソン, "Prophet's Birthday: Milestone of 81," *Church News*, 2008年8月23日付, 4でゲリー・アバントによる引用

また会う日まで

トーマス・S・モンソン大管長

それぞれの国で、わたしたちが良き市民となり、それぞれの町で、良き隣人となれますように。教会員と同様に、ほかの信仰を持つ人々とも良い友人になりましょう。



兄 弟姉妹、靈感あふれる、非常にすばらしい大会だったと皆さんも感じたことでしょう。この2日間、主の御霊を豊かに感じ、わたしたちは感動し、この神聖な業への証が強まりました。世界中のすべての教会員を代表し、この大会で話したすべての兄弟姉妹に感謝を表します。モルモン書にあるモロナイの言葉が思い浮かびます。「また教会員の集会は、御霊の働くままに、聖霊の力によって教会員が指導した。教えを説くことも、勧めることも、祈ることも、請い願うことも、歌うことも、聖霊の力によって導かれるままに行われた。」¹

この総大会で聞いたことを、いつまでも覚えていることができますように。わたしたちが聞いたメッセージは来月号の『エンサイン』(*Ensign*)および『リアホナ』に掲載されます。メッセージを研究し、その教えについて深く考えるよう、強く勧めます。

この大会で解任された兄弟の皆さん。長年にわたる献身的な奉仕に、わたしたちは深く感謝しています。皆さんの数え切れない貢献によって、教会全体が益を受けてきました。

はっきりとお伝えします。天の御父は、今日この世界でわたしたちが直面している困難をよく御存じです。御父は、わたしたち一人一人を愛し、御父の戒めを守ろうと努力し、祈りを通して御父を求めるときにわたしたちを祝福してくださいます。

兄弟姉妹、わたしたちは世界的な教会の会員です。教会員は世界中にいます。それぞれの国で、わたしたちが良き市民となり、それぞれの町で、良き隣人となれますように。教会員と同様に、ほかの信仰を持つ人々とも良い友人になりましょう。すべてのことにおいて正直で誠実な男女になりましょう。

世界中に、おなかをすかせ、貧困に苦しんでいる人がいます。わたしたちは手を取り合って、苦しみを和らげ、必要なものを提供することができます。互いを思いやる心を持つ皆さんの奉仕に加え、教会の基金への惜しみない寄付のおかげで、教会は、世界のどこで災害が起こっても、すぐに行動することができます。教会は、真っ先に駆けつけて、できる限りの援助を行っています。皆さんの優しさに感謝しています。

違った種類の困難もあります。特に若い人の中に、麻薬や不道德、非行集団、それらに伴う深刻な問題を抱えている人がいます。さらに、孤独な人、夫や妻を亡くした人、ほかの人との交わりや優しい気



遣いを切望している人がいます。わたしたちが、周囲の人々の必要に敏感に気づき、助けの手と愛ある心を差し伸べることができますように。

兄弟姉妹、天が確かに開いており、イエス・キリストの回復された教会が、今日この地上に存在し、救いの岩の上に立てられていることは何という祝福でしょうか。絶えざる啓示は、イエス・キリストの福音にとって欠かすことができません。

皆さんの家路が守られますように。平和と調和と愛のうちに生活できますように。救い主の模範に日々従えますように。

兄弟姉妹のうえに神の祝福がありますように。わたしとすべての中央幹部のための祈りに感謝します。わたしたちは心から皆さんに感謝しています。

クリストファー・マーロウの戯曲『ドクター・フォースタスの悲劇』(*The Tragical History of Dr. Faustus*)に描かれているフォースタス博士は、神を信じず、サタンの

道に従っていました。したい放題な生活の末、罰が待ち受けるばかりとなった邪悪な生涯の最後で、博士は後悔の弁を述べます。「〔燃える〕火よりもはるかに悲惨なこと〔がある〕。神の御前からの永遠の追放だ。」²

兄弟姉妹、神の御前からの永遠の追放が最も深い悲しみであるなら、神の御前で永遠の命を得ることは最も大切な目標です。

わたしたちがこの最も尊い報いを得るために、熱心に努力し続けることができますよう、心を込めて祈ります。

この業が真実であること、また救い主が生きておられ、御自身の教会をこの地上で導いておられることを証します。わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん、6か月後に再会するまで、お別れを申します。わたしたちが仕える、ナザレのイエス、救い主、^{あがな}贖い主の御名により、アーメン。

注

1. モロナイ6:9
2. "Deviled Marlowe," *Time*, 1964年10月16日号, 77

扶助協会の目的を達成する

中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

扶助協会は、主の娘たちを組織し、教え、鼓舞して、永遠の命の祝福を得させるために、主によって設立されました。



愛する姉妹の皆さん、皆さんの前に立つわたしは何とすばらしい光景を目にしていることでしょう。皆さんとともに集えることに心から感謝しています。皆さんに深い愛と感謝の念を抱いています。

中央扶助協会会長会として、この1年間、世界各地の皆さんを訪問する機会にあずかりました。ドイツ、デンマーク、オーストラリア、ガーナで皆さんとともに話し合い、シンガポール、^{ほんこん}香港、インド、スリランカで皆さんとともに祈り、ブラジル、チリ、ペルトリコ、カナダ、アメリカ合衆国で皆さんとともに高められ、教化されました。

皆さんが、救い主のように「よい働きをしながら……巡回」していることを知り、喜びを覚えています。実にすばらしい働

きです。しかし、なすべき業はさらにあると伝えるべきだと感じています。わたしたちは、地上に神の王国を築き上げる神権者を助ける方法について主の靈感を求めてきました。今は、これまでになかったほど、扶助協会の目的を成就すべき時です。さらに前進し、主が望んでおられることを達成するために、わたしたちは扶助協会の目的をはっきりと理解する必要があります。

最初に、扶助協会の歴史を振り返り、扶助協会が設立された理由を説明しましょう。次に、扶助協会のすべての姉妹が共有している3つの責任についてお話しします。そして最後に、神から託されているこの責任を、個人または組織でどのように果たすよう主が望んでおられるかを説明します。

I. 扶助協会が設立された理由

教会の中になぜ女性の組織があるのかを理解するには、イエス・キリストの福音の回復について理解することが欠かせません。末日に世に下る災いについて知っておられた主は、^{しもべ}僕であるジョセフ・スミス・ジュニアに語り「彼に……戒めを与え」られました。それは

「信仰[が]……地に増すため、

[主]の永遠の聖約が確立されるため、

[主]の完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで……^の宣べられる」ためです。¹

主の業が達成されるには、主の福音が「あらゆる国民、部族、国語の民、民族に宣べ伝えられ」²、主の永遠の聖約が神殿の儀式を通して確立されなければなりません。

主は新約の時代のマリヤとマルタ³に御自分の業に携わるように呼びかけられました。同様に主は、この神権時代の女性たちにも、^{みわざ}御業に携わるよう正式に呼びかけておられます。回復の初期の時代から、女性たちは教会を築き上げるために積極的に働いてきました。彼女たちは伝道活動を支え、神殿建設に貢献し、聖徒たちがともに礼拝できるように幾つかの町を築きました。1842年に扶助協会が組織されたことによって、女性たちは力を結集し、主の王国を築くために具体的な役割を担うようになりました。それはちょうど、神権定員会が組織されることによって兄弟たちが具体的な責任を受けたのと同じです。

扶助協会は設立以来、世界に広がり「どこから見ても非常に際立った世界最大の女性組織」⁴と呼ばれるようになりました。扶助協会が回復に欠かせない組織であったことや、そのような女性のための組織が古代の教会にも存在したことが、預言者ジョセフ・スミスを通して明らかになっています。⁵ ジョセフ・F・スミスの教えによれば、扶助協会は「神によって作られ、神によって承認され、神によって組織され、神によって聖任され」⁶ たのであり、その目的は「天の律法に従って」⁷ 主が「人の不死不滅と永遠の命をもたら」⁸ されるのを助けることなのです。

扶助協会を通して、女性たちは重要な責任を持つ教会の役割を正式に受けます。その中には「神殿での奉仕や福音を教える」⁹ ことも含まれます。さらに、扶助協会は、女性が「[イエス・キリスト]と福音に対する^{あかし}証の種をまいて育て」¹⁰、「家族と家庭を強め」¹¹、「家庭におけるすべての義務を果た」¹² せるようにします。扶助協会には「貧しい者、病人、困っている者の必要を満たす」責任があります。しかし、ジョセフ・F・スミス大管長によれば、扶助協会の働きの中でさらに重要な位置を占めるのは「教会のすべての姉妹の霊的な



安寧〔と救い〕を見守ること」¹³なのです。

まとめると、主が設立された扶助協会の目的は、主の娘たちに永遠の命の祝福を得させるために、彼女たちを組織し、教え、鼓舞することです。繰り返します。主が設立された扶助協会の目的は、主の娘たちに永遠の命の祝福を得させるために、彼女たちを組織し、教え、鼓舞することです。

II. わたしたちの責任

扶助協会の目的を達成するために、主は扶助協会の姉妹一人一人に、そして扶助協会全体に、次のことを求めておられます

1. 信仰と個人の義を増し加える。
2. 家族と家庭を強める。
3. 主に仕え、主の子供たちに仕える。

この3つの責任は互いに支え合い、補強し合います。信仰を強めようとするなら、

その努力の結果、家族は強められます。主に仕え、主の子供たちに仕えるなら、信仰も義を行う力も増し加えられます。この3つの責任は、切り離すことができないのです。では、第一の責任からお話ししましょう。

1. 信仰と個人の義を増し加える。 主の計画の下で自分の役割を果たすには、信仰と個人の義を増し加える必要があります。教会の会員であるためには信仰が必要であり、信仰は大いなる「熱意と忍耐と寛容」¹⁴によって生涯を通じてはぐくまれます。わたしたちは、教会初期の女性の驚くべき信仰の模範を、共通の受け継ぎとして持っています。初期の開拓者の女性は信仰のために家を追われ、迫害されました。火事や洪水をくぐり抜けた女性もいます。地上に主の王国を築くために、海を渡り、土ほこりや病気、そして餓死寸前の状況を堪えながら、何千キロも

歩きました。その多くが旅の途中で夫や子供、親やきょうだいを埋葬しました。なぜそのような苦難を堪えたのでしょうか。それは、その心に信仰の炎が燃えていたからです。この卓越した女性たちは美しい衣服や過度の娯楽、大邸宅や富を求めませんでした。彼女たちには皆さんと同じように、イエス・キリストの回復された福音が真実であり、地上に主の王国を築くため役割を果たすよう主から求められているという確信と証がありました。彼女たちは個人の義を増し加えるために、日々さらに救い主に似た者となる努力をしました。日々、悔い改め、聖文を学び、祈り、戒めに従い、すべて「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」¹⁵を尋ね求めたのです。

2. 家族と家庭を強める。 第2の責任は、家族と家庭を強めることです。世界中の家族は、墮落した習慣と偽りの教えに

よって攻撃され、弱められています。ですから、既婚者か独身者か、熟年者か若者かを問わず、わたしたちには「家族——世界への宣言」に述べられている真理を擁護し、実践する義務があります。

大管長会はこう勧告しています。「必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」¹⁶ この時代に生まれる子供は、ますます罪深くなる世の中で成長しています。わたしたちの家庭は、日々子供が直面する悪からの避け所でない限りなりません。

扶助協会は家族を強めるために組織され、その力を結集し、家庭をこの世からの神聖な避け所とするための手助けをする必要があります。わたしは何年も前の新婚時代にそのことに気づきました。ある日、当時近所に住んでいた両親から、突然外国に引っ越すことになったと聞かされました。母の模範から得られる養いや知恵、励ましを頼りにしてきたのに、長い間会えなくなるのです。当時はまだ、電子メールも、ファックスも、携帯電話も、テレビ電話もありませんでした。また郵便の遅さには定評がありました。出発する前のある日、わたしは泣きながら母に尋ねました。「だれがわたしのお母さんになってくれるの。」母はじっくりと考え、御霊と、このような女性特有の啓示の力をもって言いました。「もしわたしが二度と帰らず、あなたはわたしに二度と会えず、あなたに何も教えられないとしたら、扶助協会にしっかりとつながっていなさい。扶助協会があなたのお母さんになってくれるわ。」

母は知っていたのです。わたしが病気になったら姉妹たちが世話をしてくれ、子供を産んだら助けてくれるということ。でも母がいちばん望んだのは、扶助協会の姉妹たちがわたしにとって力強く霊的な指導者となってくれることでした。以来わたしは、気高く信仰深い姉妹たちから豊かに学ぶようになりました。

両親が故郷を離れた数年の間に、3人



の姉妹が扶助協会の会長を務めました。アルタ・チャンパレン姉妹は、時間管理と家庭管理を姉妹たちに教えるようわたしに勧めてくれました。恐らく、わたし自身がその技術を伸ばす必要があると気づいたからでしょう。ジーン・ホーン姉妹は、わたしが初めて真剣に取り組んだモルモン書の研究を最後まで成し遂げられるよう励ましてくれました。ノーマ・ヒーリー姉妹は、わたしにとって初めての、缶詰工場での奉仕する割り当てをくれ、奉仕について多くのことを教えてくれました。このすばらしい女性たちは、扶助協会の目的を理解していました。

3. 主に仕え、主の子供たちに仕える。

教会のすべての女性が持っている第3の責任は、主に仕え、主の子供たちに仕えることです。興味深いことに、母が故郷を離れている間、わたしはワード初等協会会長の責任と、後にワード若い女性会長の責任を果たしました。ピショップリックの指示の下で、ワード評議会の一員として働いたのです。ボイド・K・パッカー会長はわたしたちにこのように教えています。「〔多

くの兄弟たちがアロン神権者のためにささげる〕働きが大神権者を強めるように、〔若い女性や初等協会での〕皆さんの奉仕は扶助協会を祝福するのです。』¹⁷ ほかの補助組織で奉仕しているときも、扶助協会の姉妹を解任になったわけではありません。扶助協会から出たり入ったりするわけではなく、わたしたちは常に扶助協会の目的と責任につながっており、御父の子供たちの信仰深い羊飼いとなり模範となるあらゆる機会に恵まれているのです。

扶助協会には、すべての姉妹たちが取り組むことのできる、地上で最も偉大な奉仕の機会があります。世界各地を訪れながら、今は夫や子供を持たない何千、何万という姉妹の皆さんが、驚くべき信仰、才能、献身の源となっているのを目にしました。神殿での奉仕、伝道、次世代を教えること、虐げられた人々を助けることにおいて、皆さんほど良い立場にいる人はいません。主は皆さんを必要としています。

若い女性プログラムから扶助協会に移ってきたばかりの姉妹たちの若さとエネルギーにも感嘆しています。皆さんの心に、この世をより良くしたいという望みが燃えているのを見ました。わたしはよく想像するのですが、例えば、もし皆さんが(わたしのよう)年上の姉妹たちにコンピューターの使い方を教えてくれたら、家族歴史の業がどれだけ進むでしょうか。若い皆さんに「じっと座って、年上の経験豊かな姉妹がすべてを計画し、組織し、働くのを見ていてください」とでも言うかのように振る舞って、皆さんの若々しい、活力にあふれた力を無駄にするような余裕などわたしたちにはありません。

III. 目的を達成する

個人の啓示を願い求め、受け、それを実行するとき、主の業を主の方法で行うことができます。個人の啓示なしには、成功することはできません。個人の啓示に耳を傾けるなら、失敗することはあり得ません。預言者ニーファイは、聖霊はわたしたちに「なすべきことをすべて」¹⁸ 示してくださると教えています。末日において、主は御自分の造られた者にその霊を注ぐこ

とができになると預言されています。¹⁹ その預言を成就するには、御霊の声を聞き分けられるように十分心を落ち着け、静かに待つ必要があります。ニール・A・マックスウェル長老は、教会の召しや個人の生活について啓示を受けるために必要な事柄について次のように教えています。「真剣な、心からの熟考が必要で〔す。〕啓示はボタン一つで与えられるものではありません。むしろ断食や聖文研究、静かな瞑想^{めいそう}といった努力が必要なのです。

何より、啓示を受けるには十分義にかなっていなければなりません。義にかなっていれば、求める前に啓示を受けることもあるのです。」²⁰

IV. まとめ

何年も前に、スペンサー・W・キンボール大管長は語りました。「この組織には力がありますが、まだ完全にはシオンの家庭を強め、神の王国を築くに至っていません。姉妹と神権者がともに扶助協会のビジョンをよく理解して初めて、その力は完全に発揮されるのです。」²¹ 扶助協会は、主の娘たちを組織し、教え、鼓舞して、永遠の命の祝福を得させるために、主によって設立されました。

わたしたちが目指しているのは、すべての集会、すべてのレッスン、すべての活動を通じて教会の女性たちが信仰と個人の義を増し加え、家族と家庭を強め、主と主の子供たちに仕えられるようにして、教会の女性が自分の責任を果たせるように支援することです。

これを達成する唯一の方法は、個人の啓示を求め、受け、それに従うことです。この世界規模の姉妹組織が持つ真の力は、一人一人の女性の中にあるのです。自分は弱く、純朴だと思えるかもしれませんが、しかし、わたしたちには高貴な受け継ぎがあり、前を歩いた驚くほど忠実な姉妹たちに匹敵する信仰を養うことができるのです。神の王国を築き、主の再臨に備えるために、わたしたちには重要な役割があります。実際、主はその娘たちの助けなしには、御業を成就することはおできになりません。だからこそ、主はわた



したちのさらなる努力を期待しておられるのです。扶助協会の目的を達成することを、かつてなかったほど望んでおられるのです。イエス・キリストの回復された福音が真実であり、今日生ける預言者が主の業を導いていることを証^{あかし}できることに感謝します。イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

1. 教義と聖約1:17, 21-23
2. 教義と聖約133:37
3. ルカ10:38-42参照
4. ボイド・K・パッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月, 209
5. エライザ・R・スノー “Female Relief Society,” *Deseret News*, 1968年4月22日版, 1参照
6. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』(メルキゼデク神権, 扶助協会学習コース), 184
7. 教義と聖約102:4
8. モーセ1:39
9. ダリン・H・オックス「神権と補助組織」

『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 17

10. 大管長会, “Memorandum of Suggestions,” 1940年3月29日, 2
11. 『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 17
12. 教義と聖約20:47. 51節も参照
13. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』185
14. アルマ32:43
15. 信仰箇条1:13
16. 「大管長会からの手紙」1999年2月11日付
17. ボイド・K・パッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月, 212参照
18. 2ニーファイ32:5
19. ヨエル2:29参照
20. ニール・A・マックスウェル「啓示」『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月11日, 5
21. スペンサー・W・キンボール「扶助協会——その将来と可能性」『聖徒の道』1977年3月, 182

聖なる神殿, 神聖な聖約

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

神殿(は)聖く, 神聖な場所です。神殿は霊的な力と強さの源です。神殿は啓示を受ける場所です。



世界中の女性が集うこのたくいま
れな集会について考えると、喜
びと感謝で胸がいっぱいにな
ります。主イエス・キリストへの信仰を強
め、主の王国を築きたいという望みで結
ばれた、この偉大な姉妹の群れに属して
いることは何という特権でしょう。神殿で
の礼拝という神聖なテーマで話しますが、
御霊がわたしを導いてくださるよう祈っ
ています。

地上で最も神聖な場所は神殿です。神
殿の中で神と神聖な聖約を交わすこと
により、ふさわしい会員は、だれもが心から
願うすばらしい祝福を受けます。また、神
殿での奉仕を通じて、救いに必要な儀式
を受けずに亡くなった先祖たちも、同じ祝
福を受けられるようになります。

わたしはこれから、神殿を建設するこ
との大切さや、神殿の儀式が救いに欠か
せない理由、神殿参入に備える方法につ

いて話します。

多くの会員が神殿に行くために犠牲を
払うのをこれまで何度も目にして、大変感
銘を受けてきました。その一例を話しま
しょう。

1976年、コスタリカに住んでいたとき、
夫は伝道部初の神殿団体参入を計画する
ようにと、伝道部会長から依頼されました。
当時中央アメリカ伝道部と呼ばれたその
伝道部には、コスタリカ、パナマ、ニカラ
グア、ホンジュラスが含まれていました。最
も近い神殿はアリゾナ州メサ神殿でした。
行きも帰りも5日かかりで、6つの国境を
越えなければなりません。参加者のほと
んどが経済的に多大な犠牲を払いま
した。テレビ、自転車、ローラースケート、売
れるものは何でも売りました。あまり快適
とは言えない2台のバスで、昼も夜も走り
続けました。中には、バス代を払うのに
全財産をはたいてしまい、道中の食事に
クラッカーとマーガリンしか持って来てい
ない人もいました。

教会員は神殿に行くために、なぜそれ
ほど喜んで、そのように大きな犠牲を払う
のでしょうか。

メサ神殿で過ごした3日間に、わたした
ちに御霊が豊かに注がれたことを、わた
しはこれまで一度も忘れたことがありま
せん。永遠にわたって結び固められた後
で、涙で顔をぬらしながら抱き合う家族
の姿を見たとき、わたしは深い感動を覚
えました。

それから24年後、コスタリカ・サンホセ
神殿が奉献されました。わたしが出席し
た奉献式には、あの最初の団体参入に参

加した家族が大勢いました。彼らは忠実
に、ふさわしく、この神聖な瞬間を待つ
ていたのです。最近パナマに神殿が奉献
されたおかげで、彼らは今、頻繁に神殿に
参入できます。さらにホンジュラスにも神
殿建設が発表されています。

主は常に御自分の民に神殿を建てるよ
うに命じてられました。モーセに次のよ
うに命じられました。「彼らにわたしのた
めに聖所を造らせなさい。わたしが彼ら
のうちに住むためである。」¹ 彼らが建
てた移動式の幕屋は、約束の地までの旅
の間イスラエルの礼拝の中心となりました。
その形式と構造は主によってモーセに啓
示されました。それは主の聖なる宮とな
るべきものでした。

後に、ソロモン王は手に入る中で最高
の資材を使ってエルサレムに神殿を建て
ました。²

主は地上での務めを果たしておられる
間、神殿を聖なる場所と見なし、神殿に
対する敬虔さについて教えられました。

ニーファイ人もアメリカ大陸で主のため
に神殿を建てました。民は、復活したキ
リストが御姿を現されたとき、神殿の周り
に集まりました。³

この神権時代に教会が回復されて間も
なく、主は聖徒たちに神殿を建てるよう
にお命じになりました。「あなたがた自らを
組織しなさい。すべての必要なものを用
意しなさい。そして、一つの家、すなわち
祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、
栄光の家、秩序の家、神の家を建てな
さい。」⁴

それにこたえ、聖徒たちは多大な犠牲
を払ってカートランド神殿を建てました。
このカートランド神殿で、重要な神権の鍵
が回復され、救い主御自身が御姿を現さ
れました。⁵

現在、儀式が行われている神殿は世界
中に128あり、建築中の神殿も数多くあり
ます。

神殿を建てるという指示を受けている
のは、生者にも死者にも神聖な儀式を施
せるようにするためです。その儀式には、
イニシヤトリー、エンダウメント、結婚、結び
固め、死者のためのバプテスマ、神権へ



の聖任が含まれます。

イニシヤトリーの儀式では、現在と将来に関する具体的な祝福が授けられます。

エンダウメントには神聖な聖約が含まれています。エンダウメントでは、教えを受け、高い所から力を授かり、交わした聖約を忠実に守るなら祝福されるという約束を受けます。

ブリガム・ヤング大管長は、エンダウメントを次のように定義しています。

「あなたにとってエンダウメントとは、主の宮において必要なすべての儀式を受けることであり、あなたがこの世を去った後、……御父のもとに帰り、……永遠の昇栄を得られるようにするものである。」⁶

神殿結婚などの結び固めの儀式は、家族を永遠に結びます。

神殿で儀式を受ける際に交わす聖約は、神の御前みまへに行く資格を証明するものとなります。そのような聖約によって、わたしたちは自分の限られた力や物の見方を超えて高められます。わたしたちは王国を築くために献身すると聖約します。神と聖約を交わすとき、聖約の民となります。聖約に忠実であるなら、約束されたすべての祝福はわたしたちのものとなります。

神殿は学びの家です。神殿で受ける教えの多くは象徴的であり、御霊によって理解するものです。これはつまり、高い所から教えを受けるという意味です。神殿の聖約と儀式は、キリストとキリストの贖いあがなの力強い象徴となっています。神殿では皆が同じことを教えられます。しかし、儀式と聖約の意味を深く理解するには、神殿で教えられる永遠の真理を学び、理解したいという心からの望みを持って、しばしば神殿に参入する必要があります。

神殿での礼拝は、身代わりの儀式を行うことによって、亡くなった人々のために奉仕する機会となります。家族歴史の探究はだれでも神殿の外でできますが、亡くなった先祖の昇栄に必要な神聖な儀式は、神殿の中でしかできないのです。

神殿は主の宮です。ですから、神殿を用いるための条件や、神殿で行われる儀式、そして、神殿に参入し礼拝する人々に求められる資格などは、すべて主が定められます。

主はモーセに言われました。「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。」⁷ 詩篇にはこうあります。「主の山に登るべき者はだ

れか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」⁸ 主の宮は神聖であり、汚れたものは入れません。⁹

主の聖なる宮に参入する人が推薦状を受けるにふさわしいかどうかを判断する責任を、主は、ビショップとステーク会長に与えておられます。神殿推薦状を発行してもらう前に、ビショップやステーク会長から面接を受ける際、わたしたちは彼らに対して完全に正直でなければなりません。聖壇に携えて行くさげ物は、純真な心と悔いる霊です。個人のふさわしさは、神殿の祝福を受けるために不可欠な条件です。

戒めに従い、神の御心みこころを行おうと努力することによって、自らを備えます。まだ神殿に参入していない人は、機会が訪れたときに、準備ができていてふさわしくあれるように、今から備えを始めてください。

神殿に参入するときは、そこで行われる神聖な事柄と調和しない思いを頭や心から追い払います。服装も、慎み深く、ふさわしく、上品に身に着けます。その神聖な機会にどのような服装や身だしなみをす

るかによって、主に対する、また主の聖なる宮に対する敬意を表します。神殿の中に入ると白い衣に着替えますが、これは清さと純粋さを象徴しています。こうしてわたしたちは静かで敬虔な神殿の礼拝に参加する準備ができるのです。この永遠の祝福は、それを受けるにふさわしいすべての人に開かれています。

教会の女性は、神殿の祝福を受けるために何ができるでしょうか。

まだ神殿の祝福を受けていない人に対しては、それを受けるふさわしさを身に付けるために必要なことは何でも行うようにと、すでにその祝福を受けた人に対しては、頻繁に戻って来てその喜びを再び味わい、主の永遠の計画に関する視野を広げ、理解を増すようにと、主は預言者を通じて招いておられます。

今手にしている神殿推薦状にふさわしくありましょう。家族を永遠に結び固めるために神殿に行きましょう。状況が許すかぎり頻繁に参入しましょう。亡くなった親族が昇栄に必要な儀式を受ける機会を得られるようにしましょう。神殿に定期的に参入することによって受けられる、霊的な強さと啓示を味わいましょう。忠実であり、神殿の聖約を交わし守ることによって、贖いの全き祝福を受けましょう。

神殿が聖く、神聖な場所であることを証します。神殿は霊的な力と強さの源です。神殿は啓示を受ける場所です。神殿は主の宮です。救い主、贖い主イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

注

1. 出エジプト25:8
2. 列王上5:5-18;6章参照
3. 3ニーファイ11:1参照
4. 教義と聖約88:119
5. 教義と聖約110章参照
6. *Discourses of Brigham Young*, ジョーン・A・ウィットオー選(1971年), 416
7. 出エジプト3:5
8. 詩篇24:3-4
9. 教義と聖約109:20参照

さあ、喜びましょう

中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンブソン

扶助協会に参加するということは、主の教会の女性としての栄えある受け継ぎ、そして祝福の一つなのです。



愛する姉妹の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるだけでなく、「女性のための主の組織」¹である扶助協会に属しているということは、何という祝福でしょう。扶助協会は、神が御自身の娘たちを愛しておられることの証拠です。

扶助協会の歴史を振り返り、感動的な設立当初を思い起こすときに胸が高鳴らないでしょうか。1842年3月17日に開かれた最初の扶助協会の集会で、預言者ジョセフ・スミスはこのように宣言しました。「女性たちがこのように組織されるまでは、教会は決して完全に組織されていませんでした。」²それからジョセフ・スミスは、「神権の下に、神権の規範に倣って」³姉妹たちを組織しました。最初の扶助協会に集ったわずかな数の女性たちは、様々な背景を持った献身的な姉妹たちであり、今日の扶助協会の会員と似ていま

た。年若い女性もいれば年配の女性もあり、正式な教育を受けた女性も、受けていない女性もいました。既婚の女性、母親、独身の女性もあり、裕福な女性も、この世の物に乏しい女性もいました。どの姉妹も、互いへの愛と主への愛を持ち、仕えたいという望みを抱いていました。扶助協会の姉妹たちが過去にどのようなことを行ったかを思い出すときに、わたしたちは理解力を増し、より豊かな導きを受けることができます。

最初の扶助協会の集会で、ジョセフ・スミスは姉妹たちに「貧しい人の必要に気を配り、慈愛を注ぐ対象を探し求め、必要なものを与えることによって」⁴兄弟たちを支えてほしいと語りました。さらに「神が植え付けられた思いやりの精神に従って」⁵行動するようにという勧告を与えました。

姉妹たちは、この責任を心に留め、貧しい人や乏しい人に献身的に仕える扶助協会を作り上げていきました。エマ・スミス姉妹は言いました。「わたしたちはたぐいまれなことを行おうとしています。大勢の教会員を乗せた船が早瀬で身動きできないとき、わたしたちの耳には大声で助けを求めめる声が聞こえてきます。わたしたちは、特別な機会、そして急いで助けるようにとの声を待っているのです。」⁶

教会の初期、姉妹たちは家々を巡って助けを与えました。今では家庭訪問と呼ばれていますが、当時の姉妹たちも方々を巡って皆に仕え、世話をし、必要を満たし、食べ物や衣服、住む場所を確保し、求められたときに助けました。訪問先の姉妹

も、分け与えられる物があれば、訪問した姉妹たちと分かち合いました。助けが必要な場合は、訪問した姉妹たちが助けました。⁷

ボイド・K・パッカー会長が勧めたように、扶助協会に自らをささげましょう。「扶助協会における奉仕は、姉妹一人一人を高め、聖めてくれます。……扶助協会に自らをささげ、組織し、運営し、それに参加するときに、皆さんはその影響下にあるすべての姉妹に祝福をもたらす扶助協会の業を、支持していることとなります。」⁸

エマは早瀬で身動きできない船と、助けに必要な人々について語りました。わたしたちは、病気の隣人、教え導く必要のある子供、友達の必要な若者、収入が途絶え、再び自立するために助けが必要な家族を見るとき、彼女の言葉を現代に応用することができます。どこにいても、災害や嵐、または個人的な災難に見舞われている姉妹たちのことを耳にします。ただし、行うべきことや、達成すべき目的を慌てて探そうとする必要はありません。

多くの場合、助けが必要なのは自分たちの家庭、近所の人、地域社会であるということを感じておいてください。優しい励ましの言葉、短い感謝の手紙、電話、愛ある笑顔、役に立つ行い、神がわたしたちを愛しておられることを思い出してもらうことこそが最も必要とされているという場合が多いのです。実に多くの方法で、人々を引き上げ、祝福することができます。

扶助協会は、単なる日曜日のクラスでもなければ、初等協会や若い女性で教える責任がなければ顔を出すという場所ではありません。女性のための主の組織なのです。扶助協会に参加するということは、主の教会の女性としての栄えある受け継ぎ、そして祝福の一つなのです。

扶助協会の初期の集会で、ジョセフ・ミスは姉妹たちに、イエス・キリストの福音を互いに教え合うように勧めました。「扶助協会は貧しい人を助けるだけでなく、人を救うために存在します。」⁹ ジョセフはさらにこう話しています。「わたしは今、神の名によって皆さんのために鍵を回します。これから後、この扶助協会には喜びがあ

り、知識と英知が注がれるでしょう。」¹⁰ わたしはこの言葉が大好きです。この言葉は、神が教会の女性たちのために用意しておられる祝福を喜ぶことを思い出させてくれます。

扶助協会の女性たちは常に、学び成長しようと努力してきました。わたしたちは「神の栄光は英知である」¹¹ ことを知っています。

1830年、預言者ジョセフ・スミスを通して妻のエマに与えられた啓示の中で、主は「わたしの御霊により知らされるままに、聖文を説き明かし、教会員に説き勧める」¹² べきであると言われました。この戒めはエマだけに与えられたものではありません。ジョセフは、すべての姉妹たちがこの賜物を尋ね求めるべきであると説明しました。¹³ 姉妹たちはイエス・キリストの福音を教え、言葉と行いにおいて救い主に従いました。神の善い言葉で養い合っただけです。¹⁴

クラスで教えたり、人々の前で話したりするのが怖いと言う姉妹もいます。わたし

もこれまでの経験から、怖いと感じることがあることをよく知っています。そのようなときは、エライザ・R・スノーがかつて自分のために語った言葉を思い出しましょう。人前で話すように頼まれた彼女は立ち上がりましたが、怖くなって何も言えず、とうとう座ってしまいました。エライザは優しく、そして穏やかにこう助言しました。「大丈夫よ。でも、今度話すように頼まれたら、何か話せるようにしましょうね。」¹⁵

主が教えられたように自分自身を備えるなら、何か話すことが見つかります。主は、「御霊……によって、わたしの福音を宣べ伝える」ようにとされています。そして、説く者と受ける者は「互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶの」です。¹⁶ 聖文と、承認された教会の資料を使って熱心に備え、主に助けを求めるなら、主は「聖霊の言い尽くせない賜物」¹⁷ を与えてくださいます。そしてわたしたちは、全員が教化されるために、何を話せばよいか分かるようになるのです。

あるすばらしい扶助協会の集会の議事





録で、エライザ・R・スノーはこう記しました。「その場にいたほとんどが立って話をした。主の御霊が、清めの水のように全員の心を新たにしてくれた。」¹⁸ 今日の姉妹たちも、日曜日のレッスンに出席し、家庭訪問に行き、活動に参加し、または奉仕の業に携わる度に、養われ、教化され、高められたと感じられるように願っています。

姉妹の皆さん。今ほど、女性が責任を受け入れ、強くあるよう求められていることはありません。力と信仰をもって雄々しく真理を宣言する女性が必要です。義の模範を示す女性が必要です。「熱心に善いことに携わる」¹⁹ 女性が必要です。天の御父と救い主イエス・キリストを愛し、御二方から求められることを行うという意志が、わたしたちの生活に表れているようにする必要があります。神の娘として自分の務めを果たし、神の王国を築けるように、「心の奥深くに眠っている最も優れたものをすべて」²⁰ 解放つ必要があるのです。そのためには助けも与えられます。ジョセフ・スミスはこう宣言しています。「もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんの友とならずにはいられないでしょう。」²¹

互いに重荷を負い合い、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることによって、交わした聖約を守りましょう。²²

わたしたちは大きな祝福を受けています。救い主をこの教会の頭として頂き、生ける預言者、聖見者、啓示者によって導かれています。聖文を読み、研究し、日々の生活に対する答えを見いだすことができます。聖なる神殿が世界中にあり、天の御父のみもとに帰るのに必要な儀式を受

けることができます。さらに、助け合える仲間がいます。

わたしは世界各地を訪れるときに、善良な姉妹の皆さんの「顔に刻まれた神の面影」²³ を見ます。皆さんの善い行いと驚くほどの献身について耳にします。皆さんの目にキリストの光が輝いているのが分かります。

エマが勧めたように、今日のわたしたちもたぐいまれなことを行うことができます。愛、思いやり、親切、奉仕、信仰をまとった女性による義の軍勢となることができます。この世で強力に善を推し進める力となることができるのです。そうすることで、わたしたちはパッカー会長が語ったような扶助協会を築くことができます。「扶助協会は避け所、つまり安全と保護を与えてくれる場所にたとえられます。……その中にいる皆さんは安全です。それは防護壁のように姉妹たち一人一人を守ってくれるのです。」²⁴ わたしたちには、この安全と保護を与えてくれる場所がどうしても必要です。

扶助協会の一員であることに胸が高鳴らないでしょうか。気高い扶助協会の女性たちが過去に行ったことを覚えておこならば、わたしたちは今日も、将来も導きを受けるでしょう

天の父なる神と御子イエス・キリストが生きて、わたしたちを愛しておられることを証します。わたしたちが神の預言者によって導かれていることを証します。聖約を守るならば、計り知れない祝福を受けられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

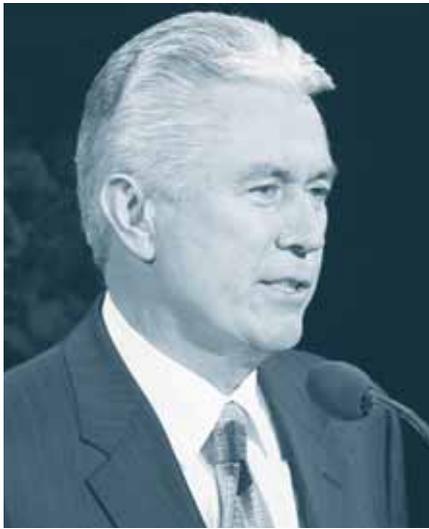
1. 『歴代大管長の教え—スパンサー・W・キンボール』217
2. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』451;ジル・マルバー・デア、その他の共著、*Women of Covenant: The Story of Relief Society* (1992年)、脚注61、445–446も参照
3. サラ・グレインジャー・キンボール、“Auto-Biography,” *Woman’s Exponent*, 1883年9月1日付、51
4. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』452
5. *History of the Church*, 第4巻、605
6. エマ・スミス, *Relief Society*, *Minute Book* Mar. 1842–Mar. 1844, 1842年3月17日付で引用、末日聖徒イエス・キリスト教会、教会記録保管課
7. *Women of Covenant: The Story of Relief Society*, 32–33参照
8. ボイド・K・パッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号、211参照
9. *History of the Church*, 第5巻、25
10. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』451
11. 教義と聖約93:36
12. 教義と聖約25:7
13. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』453–454参照;教義と聖約25:16も参照
14. モロナイ6:4参照
15. エライザ・R・スノー。エミリー・S・リチャーズ、“General Conference: Relief Society,” *Woman’s Exponent*, 1901年12月号、54で引用
16. 教義と聖約50:14、22
17. 教義と聖約121:26
18. エライザ・R・スノー, *Minute Book*, 1842年4月19日付、33
19. 教義と聖約58:27
20. ジェームズ・E・ファウスト「内なる自己を強くする」『リアホナ』2003年2月、3
21. *History of the Church*, 第4巻、605
22. モーサヤ18:8–9参照
23. アルマ5:19
24. 8. ボイド・K・パッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号、212参照

幸福、 わたしたちの受け継ぎ

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

**わたしたちの生得権、そして、この地上における偉大な旅の目的は、永遠の幸福を
探求し、得ることです。**



愛する姉妹の皆さん、世界各地に集っている教会の女性に対して、このような形で話をするのは初めてです。この経験に感謝しています。そして今日は特に、モンソン大管長とアイリング管長が出席していることに感謝しています。聖歌隊の歌には感動しました。また、トンプソン姉妹、オールレッド姉妹、バック姉妹のメッセージに皆が高められました。

今日この集會に皆さんとともに出席することが分かってからというもの、わたしは人生に大きな影響を与えてくれたたくさんの女性、すなわち、妻であるハリエツ、母、義理の母、姉、娘や義理の娘、そして多くの友人について考えました。これまでの生涯を通じて、周りにはいつもわた

しを鼓舞し、教え、励ましてくれる女性がいました。今の自分があるのはこの並外れた女性たちのおかげだと言っても過言ではありません。教会の姉妹たちに会う度に、同じく並外れた人たちを前にしていると感じます。皆さんとともにここにいられることに心から感謝しています。皆さんの才能、哀れみの心、奉仕に感謝しています。そして何より、皆さん自身、つまり皆さんが無限の価値を有する、天の御父の貴い娘であることに感謝しています。

当然のことだと思いますが、男女の違いは、しばしば、情緒の面だけでなく、肉体的、精神的にも、まったく歴然としています。この違いを分かりやすく説明する最もいい方法の一つ、それはわたしと妻の料理法を比較することではないかと思えます。

ハリエツが作る食事は天下一品です。彼女の料理のレパートリーは広範囲にわたります。二人でこれまでに訪ねた国々の料理をよく作ってくれます。料理の盛り付けには息のみをのみます。実際、あまりにも美しく盛り付けてあるので、食べるのが罪ではないかと思うほどです。味覚で楽しむだけでなく、視覚でも楽しませてくれるごちそうなのです。

しかしすべてが、見た目も味もどれほど完璧でも、ハリエツはどこかが不完全だと思って謝ります。こう言います。「ショウガをちょっと使いすぎたかな。」こう言うときもあります。「今度は、カレー粉をもう少し多

く、それからローリエをもう1枚使いましょう。そうしたらもっとおいしいと思うわ。」

わたしの料理の仕方と比べてみましょう。今日のこの話のため、ハリエツにわたしがいちばん上手な料理は何かと尋ねました。

目玉焼きだそうです。

でも、それしかできないわけではありません。わたしにはクヌスベルチェンという得意料理があります。名前を聞くと、高級レストランで出される一品のようでしょう。作り方を紹介しましょう。フランスパンを薄く切ります。次にそれを2度焼きます。

作り方は以上です。

そのようなわけで、脂っこいこともある目玉焼き、焦げていることもあるクヌスベルチェン、この二つのレパートリーの中から料理をしていると、自分は何て立派なんだという気分になります。

妻とわたしは実に対照的です。いささかオーバーな言い方かもしれませんが、これは、食事の支度だけに限ったことではないと思います。

教会のすばらしい姉妹たちの中には時折自分の能力を過小評価する人がいるようにわたしは思います。達成してきたことや、自分がほんとうは何者かということよりも、足りないこと、あるいは不完全なことばかり目を向けるのです。

恐らく皆さんは自分がだれよりもよく知っている人、つまり自分自身の中にこの習性を見いだせるでしょう。

この習性は称賛に値する特質をも浮かび上がらせてくれます。主を力の及ぶかぎり喜ばせたいという、生来の欲求です。しかし残念なことに、それが原因で挫折感や心の疲れ、悲しみにさいなまれるようになる可能性もあります。

疲れ果てているすべての姉妹へ

今日、わたしは無力感、落胆、心の疲れを感じたことのある人たちに向けて話します。つまり、すべての人に向けて話します。

聖霊がわたしの言葉を豊かにするとともに、言葉で伝え切れない意味、洞察、そして靈感を補ってくださるようにと祈ります。

様々な問題に対処し切れないこともあるということを、わたしたちは知っています。



実際、変化やチャレンジ、すべきことの多いこの世界では、ほとんど抵抗できないほどの苦しみや悲しみといった感情に押しつぶされそうになることがあります。

スイッチを入れさえすれば、わたしたちを悩ます否定的な感情を避けられると言っているわけではありません。応援演説をしているわけでもありません。流砂にのみ込まれようとしている人に、気持ちを切り替えて海岸でくつろいでいる姿を想像するよう励まそうとしているわけではありません。だれもが現実的な問題を抱えているということは承知しています。今晚、この集會に集っている人の中にも、心に深い悲しみを抱えている人がいるはずです。魂を悩ます不安と戦っている人もいるでしょう。人知れず孤独を感じるという試しを受けている人もいます。

これらは取るに足りない問題ではありません。

そこでわたしは、試しや苦難のときにも、平安、希望、そして喜びに通じる道を見出すのに役立つ二つの原則について話します。神の幸福について、また、様々な重

荷に苦しんでいても個人として神の幸福を味わえるようになる方法について話します。

神の幸福

初めに、一つの質問をさせてください。「この上ない最大の幸福とは何だと思えますか。」この質問に対するわたしの答えは、「神の幸福」です。

この答えから別の質問が導き出されます。「天の御父の幸福とは何でしょうか。」

この質問に答えるのは不可能かもしれません。なぜなら、神の道はわたしたちの道とは異なっているからです。「天が地よりも高いように、〔神の〕道は、〔わたしたちの〕道よりも高く、〔神の〕思いは、〔わたしたちの〕思いよりも高い」のです。¹

「〔わたしたちは〕すべてのことの意味を知っているわけではありません」が、神が「その子供たちを愛しておられる」ことは知っています。² なぜなら、神がこう言われたからです。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」³

天の御父は、この二つの偉大な目標、す

なわち、人の不死不滅と永遠の命を達成することがおできになります。なぜなら、御父は創造と哀れみの神だからです。創造と哀れみは、天の御父の完全な幸福に寄与する二つの目的です。創造と哀れみは、わたしたちが御父の霊の子供として規範にできる、また規範とすべき二つの事柄です。

創造の業

創造への欲求、つまり何かを作り出したという気持ちは、人間に備わっている最も強い願望の一つです。才能、学歴、経歴、能力がどうであれ、一人一人が以前には存在しなかったものを創造したいという内なる望みを持っています。

創造することはだれにでもできます。お金や地位、権力がなくても、実用的なもの、美しいものを創造できます。

創造は深い満足と達成感をもたらします。「組織されていない物質」を手に取り、何か美しいものを作り出すときに、自分を伸ばし、周りも高めることができます。10代の子供の部屋を掃除する手順について話しているのではありませんよ。

こう言う人がいるかもしれません。「わたしは創造力のあるタイプではありません。歌うといつも楽譜より半音高かったり、低かったりします。定規がないとまっすぐ線が引けません。それにせっかく自分で焼いたパンも、書類かドアでも押さえるおもりの代わりにしかなりません。」

もしそのように感じているとしたら、次のことについてもう一度考え、思い起こしてください。あなたは宇宙で最も創造的な御方の霊の娘です。わたしたちの霊を造られた御方が、限りなく創造的で永遠にわたって憐れみ深い神だということについて考えてみてください。すばらしいことではありませんか。そして、あなたの霊は、想像を絶する美、機能、能力を備えた最高傑作なのだ、ということを考えてみてください。

一体何のためにわたしたちは創造されたのでしょうか。わたしたちは満ち満ちる喜びを得るといふ明確な目的と可能性を持って創造されました。⁴ わたしたちの生得権、そして、この地上における偉大な旅



の目的は、永遠の幸福を探求し、得ることです。そのことを理解する方法の一つが、創造することなのです。母親である人は、神とともに創造の業に携わります。子供たちに肉体を提供するというだけでなく、彼らを教え養うことによっても創造するのです。現在、母親でないならば、自分が培う創造的才能は、現世か来世で後に母親となる日の備えとなります。

自分には才能がないと思う人がいるかもしれませんが。しかしそれは誤った憶測です。というのは、だれもが一人残らず、才能や賜物たまものを授かっているからです。⁵ 創造性の限界は、キャンパス、あるいは1枚の紙の限界をはるかに超えています。また、絵筆やペン、あるいはピアノの鍵盤も必要ではありません。創造とは、色彩に富んだ庭、調和の取れた家庭、家族の思い出、あふれるほほえみなど、以前には存在しなかったものを生み出すことなのです。

創造するものが完全である必要はありません。ですから、たとえ目玉焼きが脂ぎっていても、トーストが焦げていても、失敗を恐れてやる気をなくさないでください。周囲の人からの批判の声や自責の念に負けて立ち止まらないでください。

まだ自分には創造することができなと感じている人がいるとしたら、まず小さなことから始めてください。自分の行いによって人のほほえみを幾つ創造できるか試してみてください。感謝の手紙を書いてください。新しい技術を身に付けてください。もっときれいになりそうな場所を見つけて、きれいにしてください。

およそ1世紀半前のこと、プリガム・ヤング大管長は当時の聖徒たちにこう語りま

した。「聖徒たちにはなすべき偉大な業があります。」さらに続けてこう言いました。「前進し、進歩してください。皆さんの周囲にあるすべてのものを美しくしてください。土地を耕すと同時に皆さんの心も耕してください。町を建設し、住まいを美しくし、庭を、果樹園を、ぶどう園を作ってください。後で自らの労働の結果を見渡すときに、喜びをもって見渡すことができるように、また、天使たちが喜んで皆さんの美しい場所を訪問してくれるように、皆さんの住む地をこの上なく美しくしてください。キリストの御霊みたまによるあらゆる恵みで思いを満たすよう、たゆまず努力してください。」⁶

御霊を信頼し、頼れば頼るほど、創造力は増し加えられます。これこそが現世で得られるチャンスであり、来世での行く末なのです。姉妹の皆さん、御霊を信頼し、御霊に頼ってください。日々の平凡な機会をとらえ、美しいもの、役立つものを創造することで、自分を取り巻く世界だけでなく、自分の内なる世界をも、より良くすることができます。

哀れみ深くある

哀れみ深くあることは、天の御父のもう一つの偉大な業であり、神の民であるわたしたち本来の基本的な特質の一つです。わたしたちは次のように命じられています。「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい。」⁷ いつの時代にあっても、キリストの弟子はその哀れみにおいて目覚ましい働きをしてきました。救い主に従う人々は、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め」⁸ ます。

人々の生活を祝福しようと手を差し伸べるとき、わたしたちの生活も祝福されます。奉仕と犠牲は天の窓を開き、えりすぐりの祝福がわたしたちに注がれます。確かに、愛する天の御父は、御自身の最も小さい者を世話する人にほほえみかけられるのです。

人を引き上げるとき、わたしたち自身も少し引き上げられます。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように教えました。「適切な方法で同胞に仕えれば仕えるほど、人は豊かになります。」⁹

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、奉仕の持つ癒しの力を信じていました。妻の死後、ヒンクレイ大管長は御業みわざに邁進し、人々への奉仕に没頭する姿を通して教会員に偉大な模範を示しました。夫を失ったばかりの女性に大管長はこう語ったそうです。「働くことで悲しみは癒されます。人々に奉仕することです。」

含蓄のある言葉です。自分を捨てて人に奉仕するとき、自分自身の生活の意義と自分自身の幸福を見いだすことができます。

ロレンゾ・スノー大管長が同じような考えを述べています。「少しふさぎ込んでいるときは、周囲を見回して、自分より苦しい状態にある人を捜しなさい。それからその人のところに行って、苦しみの原因を見いだし、主から授けられた知恵をもってそれを取り除くように努めなさい。そうすると自分のふさいだ気持ちは晴れて、楽になるでしょう。そして主の御霊と光を感じて、すべてが輝いてくるでしょう。」¹⁰

大衆向けの心理学、無益なテレビ番組、元気になる自己啓発マニュアルなどが

あふれる今日の世界において、わたしのアドバイスは世の常識にそぐわないかもしれません。時折、苦難の解決策は、内側だけに目を向け、存分に楽しみ、先に使って後で払うこと、また、周囲の人々を犠牲にしてでも自分の欲求を満足させることだと言われることがあります。まず自分の必要を満たすのが賢明なときもありますが、最終的に、その方法では永続する幸福は得られないのです。

主の御手に使われる者

教会の女性は、年齢や家族の状況に関係なく、『ピーター・パン』の著者ジェームズ・バリーの次の言葉を、きっとだれよりもよく理解し、応用していると思います。「ほかの人の人生に太陽の光をもたらす人々は、その光を自分の内にだけとどめておくことなどできない。」¹¹ 私心のない慈愛を胸に、自分をささげる高潔な女性、そのような女性の思いやりと哀れみに満ちた目立たない行為を、これまでに幾度も目の当たりにしてきました。教会の姉妹たちが助けを必要としている人のもとに駆けつける話を耳にすると、わたしの心は感動に包まれます。

教会の中には、男性、女性を問わず、どうしたら神の王国に貢献できるのか思い悩んでいる人がいます。独身の女性、離婚した女性、あるいは夫を亡くした女性は、時として、居場所がないように感じて思い悩むことがあります。教会のすべての姉妹は、天の御父にとっても、神の王国の建設にとっても、きわめて重要な存在です。なすべき偉大な業があります。

昨年の中央扶助協会集会で、モンソン大管長はこう言いました。「皆さんは、奉仕の機会に囲まれています。……人を高め、祝福するためには、ほんの小さな奉仕で十分なことがよくあります。」¹² 周りを見渡してください。ほら、聖餐会に何人も子供を連れて来ている若い母親がいます。一緒に座って助けてあげてください。ほら、落胆していそうな若い男性が近所にいます。「あなたと一緒にいると楽しい」「あなたは実に素晴らしい人だ」と伝えてください。心からの励ましの言葉に必要



なのは、愛と思いやりにあふれた心だけです。しかし、そのような言葉が周囲の人をいつまでも感化することがあるのです。

すばらしい姉妹の皆さんは、自分の利益を求める代わりに、周囲の人々に哀れみ深い奉仕を行っています。こうして救い主の模範に従っているのです。救い主は、王でありながらも、地位を求められませんでした。また、人の目に留まるかどうかに関心を示されませんでした。人との競争で頭を悩ますこともなさいませんでした。救い主の思いは、常に、周囲の人を助けることに向いていました。救い主は、教え、癒し、言葉を交わし、人の話に耳を傾けられました。真の偉大さは社会的な成功や地位とはほとんど関係ないことを御存じでした。次の教義を教え、御自身の生活でも実践されました。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」¹³

最後に、ささげる祈りの数がわたしたちの幸福に役立つことがあります。しかし、神の代理としてわたしたちがこたえる祈りの数の方が、さらに大切なのではないのでしょうか。目を大きく見開いて、だれかの沈んだ心を見だし、孤独と絶望に気づきましょう。周囲でささげられている沈黙の祈りを感じましょう。そして、そのような祈りにこたえるために、主の御手に遣われる者となりましょう。

まとめ

愛する姉妹の皆さん、わたしの信仰は単純なものです。皆さんが忠実かつ勤勉

に神の戒めを守るとき、信仰、希望、慈愛をもって神に近づくとき、物事は皆さんの益となるようにともに働くでしょう。¹⁴ そう信じています。皆さんが神の業にいつそう献身し、美を創造し、人々に哀れみを示すとき、神は皆さんを御自身の愛の御腕の中に抱いてくださるでしょう。¹⁵ そして、生きがいと恵み、達成感に満ちた人生が、落胆と無力感、疲れ果てた心に取り替わられるでしょう。そう確信しています。

天の御父の霊の娘であるわたしたちにとって、幸福は神からの受け継ぎなのです。

皆さんは天の御父のえりすぐりの娘です。皆さんは、自分が創造したもの、自分が仕える人々を通して、善をもたらす大きな力となれます。皆さんはこの世界をより良い場所にすることができます。元気を出してください。自信と信仰を持ってください。神は皆さんを愛しておられます。わたしたちも皆さんを敬愛しています。

このことを証するとともに、皆さんに主の使徒としての祝福を残します。イエスキリストの御名によって、アーメン。

注

1. イザヤ55:9
2. 1ニーファイ11:17
3. モーセ1:39
4. 2ニーファイ2:25参照
5. 教義と聖約46:11-12参照
6. プリガム・ヤング, Journal of Discourses, 第8巻, 83, 84
7. 教義と聖約81:5
8. モーサヤ18:9
9. The Teachings of Spencer W. Kimball, 254
10. ロレンソ・スノー, Conference Report, 1899年4月, 2-3
11. J・M・バリー, A Window in Thrums (1917年), 137
12. トーマス・S・モンソン「あなたを導く3つの目標」『リアホナ』2007年11月号, 120
13. マタイ23:11
14. 教義と聖約90:24参照
15. 教義と聖約6:20参照

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報 2005年-2008年」に掲載されている指示ではなく、以下の指示に従ってください。

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、すべて『リアホナ』の最新の総大会特集号の説教から教えられます。総大会特集号は毎年5月と11月に発行されます。大会の説教はインターネットでも多くの言語で入手できます(<http://www.lds.org>)。

各レッスンは、一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。教師は、特に何を強調するべきかについて、自分の指導者に相談するとよいでしょう。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードや支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を入手できるよう配慮すべきです。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師は大会説教をわきに置き、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることもあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。
 - クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。
 - 原則と教義をあなたがどのように教えたいかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラス生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。
 - あなたが教える説教に含まれる原則と教義を探す。
 - その原則と教義の意味について考える。
 - 原則と教義について理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
 - それらの原則と教義を実生活に应用する。
 - 『教師、その大いなる召し』の31-32課を見直す。
- 「何よりも大切なことは、生徒が



御霊の影響を受け、福音をいっそうよく理解し、福音の原則を生活の中で活用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を強めることです。』(『教師ガイドブック』12)

「わたしたちの時代のための教え」に関して教科課程部までご意

見をお寄せください。あて先は以下のとおりです。

郵送—Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール—cur-development@ldschurch.org ■

月	第4日曜日のレッスン教材
2008年11月— 2009年4月	『リアホナ』2008年11月号掲載の説教*
2009年5月— 2009年10月	『リアホナ』2009年5月号掲載の説教*

*これらの説教は、<http://www.lds.org> にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注—<http://www.ldschurch.jp>からもアクセスできます。『福音ライブ러리』総大会説教の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには『福音ライブ러리』『リアホナ』の順にクリックし、2008年11月号のアイコンをクリックしてください。)

指導者の言葉

大会を生活に取り入れる



総 大会の教えをあなたと家族の生活に取り入れるにはどうしたらよいでしょうか。話し合ったり、個人で深く考えたりするきっかけとして、以下の言葉や質問を使ってはいかがでしょうか。

インターネット(<http://www.lds.org>)で大会説教を読んだり、聞いたり、見たりすることもできます。

子供向け

●「わたしたちが良い市民となり、それぞれの町で、良い隣人となれますように。教会員に対してだけでなく、ほかの信仰を持つ人々とも良い友人になりましょう。」トーマス・S・モンソン大管長（106ページを見ましょう）

●「神の子には違っている点よりも共通点の方が多いです。……神の助けがあれば、ほかの人の違っている点を、いらだちの原因ではなく、良いものとして見ることができるでしょう。主の助けによって、ほかの人の持つものが自分の欠点を補ってくれると感じ、感謝できるようなのです。」ヘンリー・B・アイリング管長（68ページを見ましょう）

●「聖文を研究し、毎日天のおん父と語る時、また、……神のいましめを守る決意をするときに、わたしたちは希望を

持つことができます。」データー・F・ウークトドルフ管長（21ページを見ましょう）

青少年向け

●ヘンリー・B・アイリング管長は互いに優しく語り合うことにより一致できると教えました。「キリストの光の中で、ほかの人について寛大な発言をするなら、平和と喜びがもたらされることをわたしは約束できます。」(68ページ参照)

●「若人の皆さん、聖餐会は携帯電話で別の場所にいる人と小声で会話したり、メールを送ったりする時間ではありません。」ダリン・H・オークス長老(17ページ参照)



●イレイン・S・ダルトンは言いました。「わたしは、徳高い若い女性や若い男性が御霊に導かれるとき、世の中を変えることができると心から信じています。しかしそのためには徳に立ち返らなければなりません。」(78ページ参照)

●青少年が投稿した、大会の感想(英語)がインターネットで読めます(<http://newera.lds.org>)。

成人向け

●ボイド・K・パッカー会長は初期の末日聖徒が経験した試練について話しました(88ページ参照)。彼らの信仰は、試練の時期にどのように彼らを強めたでしょうか。あなたの信仰はどのようにあなた自身を強めているでしょうか。(理解を深めるために、72ページのロバート・D・ヘイルズ長老の説教を参照してください。)

●D・トッド・クリストファーソン長老は、シオンの民となるために必要な3つの事柄を教えています(37ページ参照)。これらの各分野で成長するための方法を書き出してみましょう。



トーマス・S・モンソン大管長への誕生日プレゼント

十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老は大会の説教の中でこう話しました。「愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長は、この8月の誕生日に、世界中の教会員がおくれる理想のプレゼントは何ですかと質問されて、迷わずこう答えました。「つらい時を過ごしている人を探し出し、……その人のために何かしてあげてください。」」¹

子供のみなさん、モンソン大管長に誕生日プレゼントをあげたいと思いませんか。それなら、だれかのために奉仕することについて考えてみてください。あなたのおじさんは庭仕事を手伝ってくれる人を必要としているかもしれません。転校してきたばかりの男の子は友達が必要かもしれません。助けを必要としている人はたくさんいます。そして、その人たちに助けてくれるやさしい子供たちも



たくさんいるのです。あなたの奉仕について教えてください。そして、モンソン大管長の誕生月である2009年8月号の「リアホナ」と「フレンド」で、たくさんの青少年少女たちの奉仕について読みましょう。

あなたの手紙、写真、承認の署名を送ってください。

電子メールの場合：

friend@ldschurch.org または liahona@ldschurch.org

郵便の場合：

Birthday Service

Friend (または Liahona) Magazine

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

手紙と一緒に、以下の情報と許可を書いたものを必ず封筒に入れてください。

名前 (フルネーム)

年齢

国名、都道府県名

わたしは提出した手紙と写真を印刷することを認めます。

親または保護者の署名

2008年12月15日までに返信してください。3才以下の子供の手紙の提出は、ご遠慮ください。

注

1. トーマス・S・モンソン、ギャリー・アバント “Prophet’s Birthday: Milestone of 81,” *Church News*, 2008年8月23日版, 4で引用



● M・ラッセル・バラード長老とシルビア・H・オールレッド姉妹は、世界の国々に福音が広まっていることについて話しました(81, 10ページ参照)。また、トーマス・S・モンソン大管長は最初の説教の中でこう言いました。「[福音を自由に分かち合うことを許されていない]これらの地域でも伝道に対する門戸が開かれ、福音の喜びを伝えられるように祈ってください。」スベンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)が同じような勧告をしていたことを覚えているなら、その勧告に従ったときの経験について話してください。あなたの地域では教会はどのように発展してきましたでしょうか。福音がさらに多くの地域で宣べ伝えられるように一緒に祈ることについて家族で話し合ってみてください。

● どのような試練に遭おうとも、天の御父はわたしたちをお見捨てにはなりません(21, 29, 32, 41, 75, 102ページの説教を参照)。あなたが困難な状況に直面したとき、天の御父はどのように祈りにこたえてくださったのでしょうか。■

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭のタベ、その他の教える機会に活用してください。
数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語	教義または原則
L・トム・ベリー長老	ベリー長老とペリー姉妹がウォルデンポンドを訪れた, 7	平安
シルビア・H・オールレッド	オールレッド姉妹の家族の会話, 10	伝道活動
ニール・L・アンダーセン	自分が神から愛されていることを悟った宣教師, 13 事故で娘を失った男性が信仰を持つことを選ぶ, 13 ハドレー・ペイが両脚のない少年に向かって、自分の聴覚障がいについて話した, 13	愛, 信仰 信仰 証, 試練
マルコス・A・アイトカイトイス長老	アイトカイトイス長老の父親の改宗, 15	伝道活動
ディーター・F・ウークトドルフ管長	ウークトドルフ管長の母親が子供たちを見つけれられるように祈った, 21	信仰, 希望
ジョセフ・B・ワースリン長老	若きジョセフ・B・ワースリンがフットボールの試合に負けた後、 母親の助言を聞いた, 26 ワースリン家族が娘のデートの日、恥ずかしい勘違いの中にユーモア見いだした, 26 自閉症を持つ息子を育てることから祝福を受けた両親, 26 治る見込みのない病を患いながら神を信頼した娘, 26	楽観主義, 試練 ユーモア 喜び, 試練 信仰
ジェフリー・R・ホランド長老	増水した川を渡った後で父親から救出された少年, 29	仕える天使
D・トッド・クリストファーソン長老	東ヨーロッパのヤングシングルアダルトたちが大会に出席した, 37 ホームティーチャーが移民の家族にテーブルをあげた, 37	一致 情け深さ
デビッド・A・ベドナー長老	ベドナー姉妹が悲劇のときに感謝の祈りをささげた, 41	祈り
ジェイ・E・ジェンセン長老	青少年がグランドキャニオンで子供を救った, 47	愛, 奉仕
ディーター・F・ウークトドルフ管長	男性たちがグランドピアノを移動するために「自分の立っている場所で持ち上げた」, 53 石切り職人のジョン・ロウ・モイルがソルトレーク神殿で働くために 6時間歩いて通った, 53	奉仕 粘り強さ, 奉仕
トーマス・S・モンソン大管長	若い男性たちがマーティン・ハリスの墓地を訪れた, 60 ポーランドで5年働いた夫婦宣教師, 60 第二次世界大戦中、乗っていた飛行機が撃ち落とされたセロン・ボラップが 助けを祈り求めた, 60	神権, 教え 奉仕 祈り
キース・B・マクマリンビショップ	ソルトレーク・シティーを訪れた中国の高官が、断食して、 教会の福祉事業に寄付した, 75 重傷を負った少女に神権の祝福が授けられた, 75	断食, 福祉 癒し, 神権
トーマス・S・モンソン大管長	戦争捕虜のジェイ・ヘスが家族に短いメッセージを送った, 84 視力が回復する前も後も感謝の心を持ったボーグヒルド・ダール, 84	家族, 優先順位 感謝, 楽観主義
クエンティン・L・クック長老	ヘレン・マー・ホイットニーとバスシバ・スミスの開拓者の経験, 102 事故で夫を失ったエレン・イェーツがその事故にかかわった若い男性の 母親とともに悲しんだ, 102	信仰, 楽観主義 贖い, 救し
シルビア・H・オールレッド	中央アメリカの会員たちが神殿に参入するために金銭的な犠牲を払い、 5日間旅をした, 112	神殿



第178回半期総大会, 閉会する

4月の総大会の聖会で大管長に支持されてから初めての半期総大会で、トーマス・S・モンソン大管長は世界中に5つの新しい神殿が建設されることを発表した。

これほど多くの神殿建設が一度に発表されたのは、2000

年4月以来である(126ページの関連記事参照)。

アール・C・ティンギー長老とシェルドン・F・チャイルド長老は七十人第一定員会から解任され、名誉中央幹部に任命された。ジェラルド・N・ランド長老とロバート・R・ストイアー長

老は七十人第二定員会から解任された。

七十人のジェイ・E・ジェンセン長老は、アール・C・ティンギー長老の解任による空席を埋めるため、七十人会長会に支持された(128ページの指導者略歴を参照)。

8月21日に81歳の誕生日を祝ったモンソン大管長は、今総大会を管理し、3つの部会の司会をした。大管長とフランシス夫人は10月7日に60回目の結婚記念日を祝っている。

総大会の説教は、教会機関誌だけでなく、インターネット(LDS.org)でも視聴できる。アメリカ手話、英語、ポルトガル語、スペイン語については、全部会の動画再生が可能。インターネットで音声再生ができる言語は90以上あり、読むことのできる言語は30ある。■



モンソン大管長、新しい神殿を発表する

今 総大会で発表された新しい5つの神殿が建設されると、さらに多くの教会員が神殿の祝福を受けられるようになる。トーマス・S・モンソン大管長は2008年10月4日土曜午前の部会における最初の説教で、新たに建設が予定されている神殿を発表した。

新しく神殿が建設されるのは、カナダのアルバータ州カルガリー、アルゼンチン・コルドバ、

合衆国ミズーリ州グレーター・カンザスシティ、合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィア、イタリア・ローマである。神殿用地はすでに購入済みである。

大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は、この発表直後の自身の説教の中で次のように述べた。「愛する兄弟姉妹、友人の皆さん。今日は何と栄光ある日でしょう。敬愛する預言者が5つの神殿の建設を発表し、わたしたちはその

証人となりました。今日は実にすばらしい日です。」

カナダのアルバータ州カルガリー神殿は、同市北西部の集会所の隣にある教会所有の土地に建設される。同神殿はカナダで8番目となり、アルバータ州では3番目の神殿となる。カナダにあるその他の神殿は、ノバスコシア州ハリファクス、アルバータ州エドモントン、アルバータ州カードストン、サスカチ



エワン州レジナ、オンタリオ州トロント、ケベック州モントリオール、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーである(バンクーバー神殿は現在建設中)。

アルゼンチン・コルドバ神殿は、現在の伝道本部の隣にあるベルグラノの集会所の敷地に建設される。同神殿はラテンアメリカで34番目、アルゼンチンで2番目の神殿となる。アルゼンチン初の神殿は1986年に首都ブエノスアイレスに奉献

された。

合衆国内において教会が順調に発展していることは、ミズーリ州グレート・カンザシティーとペンシルベニア州フィラデルフィアに神殿の建設が発表されたことに表れている。これらの神殿は、すでに合衆国内に何十とある神殿に加えらる。グレート・カンザシティー地域の会員が使用することになる神殿は、ミズーリ州クレイ郡カンザシティー地域内

のショールクリーク住宅開発地区に建設される。フィラデルフィア州の神殿は、マンハッタンや香港^{ホンコン}などの都市部の神殿同様、商業地区に建設される。

地中海地区に住む聖徒たちは、建設計画の発表されたイタリア・ローマ神殿によって大いに益を受けるだろう。教会はローマ北東部を走る環状道路の近くに15エーカー(6ヘクタール)の土地を所有しており、神殿はその敷地内に建設される。ヨーロ

ップで12番目、地中海地区では初の神殿となる。近隣諸国の教会員は神殿に行くために必要な時間と経費の面で大いに益を受けることになる。

現在奉獻され儀式が行われている神殿は128あり、そのほか17の神殿が、建設中あるいは、建設計画が発表されている。これらを合計すると、現在世界中で儀式が行われるか、建設計画が発表されている神殿は145になる。■

リソースガイドが総大会特集号から分けられる

アロン神権と若い女性の教師のためのリソースガイドは、これまで『リアホナ』と『エンサイン』(Ensign)の総大会特集号に収められていたが、今後は別々に制作され、直接ワードや支部に配送される。

「リソースガイドは、アロン神権と若い女性の教師用引きを補強するために、各課のテーマに関する教会指導者の最新の教えを提供してくれます。」教会教科課程部のマイケル・G・マドセンはそう語る。

リソースガイドは、教師用引きの各課のレッスンを補強するために、教会指導者の最新の説教や、教会機関誌の記事の参照箇所を示している。新しいガイドには、教師のために質問や引用、教え方のヒントが加えられているため、教師はより多くの資料から選択できるようになる。このガイドは、新しい物語などで現行の教師用引きを補強するために準備されたものであり、手引きそのものにと取って代えられるものではない。

今後リソースガイドは、年に1度発行される。新しいガイドは「質問」「その他の資料」「体験」「教師へのヒント」の4つの内容で構成されている。

同ガイドは27の言語で刊行

を体験する機会を提供する。ガイドに掲載されている多くの活動は、『神への務め』と『成長するわたし』の各項目を達成するのに役立つ。

マドセン兄弟は次のように語る。「青少年が日曜日に学んだことを平日の夜の活動で実践し、福音が彼らの心に根付くようにしたいのです。」

若い男性と若い女性の指導者は、教師用引きとともにこの新しいガイドを使うよう奨励されている。ガイドには、レッスンをさらに効果的に計画し行えるように、11項目から成る教師への具体的なヒントが掲載されている。

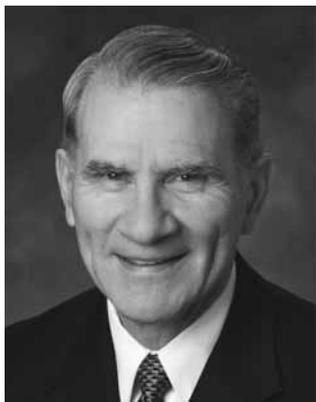
「教師がこれらのヒントに従えば、彼らの教え方はかなり改善されるでしょう。」マドセン兄弟はそう語る。

2009年用のガイドは2008年9月2日に配送センターを通じて入手可能となっている。(訳注——日本では、2008年11月中にその他の教科課程書籍とともに、各ワード・支部に自動発送される。)■



ジェイ・E・ジェンセン長老

七十人会長会



先日七十人会長会の一員に召されたジェイ・E・エドウィン・ジェンセン長老は、コロンビア・カリ伝道部の会長として奉仕していたころの経験を紹介してくれました。長老はある問題を解決するために数日費やした後で、伝道本部に戻る飛行機の中で聖典を開きました。

教義と聖約第3章5節の言葉が目を引きました。「あなたに与えられた約束も思い出さない。」

「わたしたちは人生で様々な困難に直面します。でも主は、これらの約束は試練よりも常に大きいものであることを思い出させてくださいました。」ジェンセン長老はそう語ります。

ジェンセン長老が主の約束について初めて学んだのは、両親のルエル・ホワイティング・ジェンセン兄弟とエセル・オット・ジェンセン姉妹からでした。ジェンセン長老は、1942年合衆国ユタ州メイブルトンで10人きょうだいの6番目として「福音が教えられ、実践されている」家

庭に生まれました。

1961年から1963年までスペイン・アメリカン伝道部で伝道した後、1963年11月1日にユタ州マンタイ神殿でロナ・リー・チャイルド姉妹と結婚し、6人の子供がいます。ジェンセン長老はブリガム・ヤング大学から学士号、修士号、博士号を取得しています。

セミナー教師を務めた後、セミナーとインスティテュートの教科課程ディレクター、宣教師管理部の訓練ディレクター、教会教科課程部の聖典調整ディレクターとして働きました。

ジェンセン長老はこれまで、ビショップ、プロボ宣教師訓練センター会長顧問、高等評議員、大祭司グループリーダー、若い男性会長、日曜学校教師、伝道部会長を歴任してきました。1992年6月6日に七十人第二定員会会員に召され、1995年4月1日に七十人第一定員会会員に召されました。

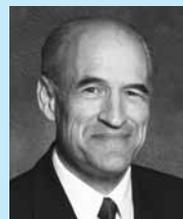
ジェンセン長老がこれまでの奉仕を通じて学んだことは、伝道部会長になりたてのところに聖文から得られた前述の経験に集約されています。「神の言葉には力があります」と長老は語ります(アルマ31:5参照)。ジェンセン長老は、モルモン書のギデオンの言葉がそうであったように、自分の話す言葉が王と王国の民の「役に立[つ]」よう願っています(モーサヤ22:4)。◆

中央補助組織会長会

日曜学校



第一顧問
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

扶助協会



第一顧問
シルビア・H・オールレッド



会長
ジュリー・B・ベック



第二顧問
バーバラ・A・トンブソン

若い男性



第一顧問
ディーン・R・バージェス



会長
チャールズ・W・ダルクヴィスト2世



第二顧問
マイケル・A・ナイダー

若い女性



第一顧問
メアリー・N・クック



会長
イレイン・S・ダルトン



第二顧問
アン・M・ティブ

初等協会



第一顧問
マーガレット・S・リファース



会長
チェリル・C・ラント



第二顧問
ピッキー・F・松森



ジョン・マクナートンの厚意により掲載

「たたえよ、主の召したまいし」ジョン・マクナートン画

「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。……彼は……偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血をもって自分の使命と業を証明したのである。」
(教義と聖約135:3)



「兄弟姉妹、天が確かに開いており、イエス・キリストの回復された教会が、今日この地上に存在し、救いの岩の上に立てられていることは何という祝福でしょうか。」第178回年次総大会の閉会にあたり、トーマス・S・モンソン大管長はそう述べた。「絶えざる啓示は、イエス・キリストの福音にとって欠かすことができません。」

